

未来への扉をひらこう。 OPEN TOMORROW



私たちが暮らす福井県は、豊かな自然に恵まれ、千年を超える歴史や文化の厚み、 家族や地域社会のつながり、優れた子育て・教育環境、充実した産業・雇用、そして 勤勉な人材力が受け継がれており、「幸福度日本一」と評価されています。

さらに、北陸新幹線の福井・敦賀開業など、高速交通ネットワークの整備が進むことにより、日本海国土軸の中心に位置する本県の地理的な優位性がさらに向上します。福井県は今、県勢を大きく飛躍させる100年に一度のチャンスを迎えています。

一方で、国内では人口減少や高齢化が進み、世界規模では地球温暖化やグローバル 化に伴う格差の拡大など、多くの困難に直面しています。こうした課題を乗り越え、 「持続可能な明るい未来」を描いていくことが必要です。

今こそ、長期的な展望に立ち、未来志向で県政を進めていくときです。

福井県のさらなる発展を目指して、2040年を目標とする「福井県長期ビジョン」を策定しました。「みんなで描こう『福井の未来地図』」をコンセプトに、5千人を超える県民のみなさんにご参加いただき、つくり上げたこのビジョンは、これから私たちが歩んでいく"道しるべ"となります。

新しい時代にあたり、最も大切なことは「チャレンジ」です。

県民のみなさんが主役です。みなさん一人ひとりの夢を実現するためのチャレンジが、ワクワクドキドキの「ふくいの未来」をつくります。

ふくいの明るい未来に向かって、ご一緒に歩んでいきましょう。

令和2年7月

福井県知事 杉本達治

福井県長期ビジョン 目次

	はじ	じめに							٠		٠	•		•		•	•	٠		•	1
	1	策	定の趣旨	と構成								•				•				•	3
	2	· //	定コンセ	, → L	。 <i>.</i> 生。	中海和	しかこ	σ IE		⇍╫┍	1 a .										4
		. 水/	ヒコノビ	. J F	~來/	上 迴信	Eから	ひり炉	: 仄	沙 川	1,0			•	•		•		•		4
_				\neg																	
	第 1	部 4	将来構 想				٠.		٠		٠	•		•	•	•	•	•	•	•	7
	1	世界	界の潮流	と環境	変化				•		٠	•		•		•	٠	٠	•	•	9
		(1)) 世界σ)潮流					٠		٠	•		٠		•	٠	٠	•	•	1 0
			潮流1	世界	人口(の増加	· [٠			•		•		•	•	٠		•	1 0
			潮流 2	新興	国の原	成長と	: 経済	のク	`□.	一バ	`ル	化	り進	展				٠	•		1 0
			潮流3	エネ	ルギ-	一需要	見の増	加と	地:	球温	暖	化									1 2
			潮流4	・ 食料	需要(の増加	ı .														1 2
			潮流 5	持続	可能/	な開発	き目標	ŧ(S	D	Gѕ)										1 4
		(2)	国内・	県内の	環境額	変化・	見通	įι													1 6
			変化1	人口	減少																1 6
			変化 2	. 長寿	命化	(「人	、生 1	0 0	年	诗代	: 1	の至	引来)							2 0
			変化3	大交	流化	(新幹	除線、	高速	道	路等	- の	交通	五網 五網	整	備)						2 2
			変化4		革新											()					2 6
			変化 5		観の記																2 8
			<i>></i> 10 -	ı ı	70 - 7	5	()0 =				-/										
	2	福:	井県の特	∓徴 ・																	3 0
	_	, ішу	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		や食の	の豊か	ヽさ														3 0
			特徴2		や地域			î LJ													3 2
			特徴3		した		_	-	計音												3 2
			特徴4		カの語		. 17		•												3 4
				安定		-	屋田	1 生 紙	Ļ												3 4
			1寸1以 〇	女足	U 1_ ½	生未	惟丌	李 造	Ĺ												0 4
	3	2 (040年	≛の福井	県の非	寽来 侈	ķ .														3 7
			· 基本理																		3 8
			204		福井	見が目	指す	姿													4 0
) 基本目																		4 6
			・ 将来イ																		4 8
			204																		5 5
			,			· · ·															6 2
		(0)		が行べる。																	6 4
			奥越地																		6 6
			學 丹南地																		68
									-		-				. '		_	-	-		
			뒍斛坬	り域・・					•		•	-	•	•		•	•	•	•	-	7 0

第2部	実行に	プラン																					7 3	3
1	基本的な	考えた	<u>.</u>																				7 !	5
0	サビロナ / ハー				_ 、、	_																	- ,	_
	新時代ス																						7 (
	(1) ふく																						7 8	
	(2) 次世																						7 9	
((3) しぁ	かせょ	(クン)	ヨンス	里虭	~)—)	\	ا ع	リカ	トノ	レ	1	7.		 _	な	ク	つ	\sim	•		8 (J
3	分野別政	対策 ·																					8	1
I	学びを	伸ばす	十 (人村	寸力))							٠											8 !	5
	政策1	夢と希	5望を打	寺ち、	ふ	くい	を変	愛す	る-	구 と	ごも	の	育	成									8 (6
	政策2	ふくし	\の産	業・右	社会	を支	ええる	る人	づり	ر ا	J	٠		•		•			•		•		9 2	2
	政策3	多様な	は価値額	観を記	認め	合う	ĹΫ	ŧ生	社会	会」	σ	実	現			•			•		•		9 8	8
	政策4	希望か	いけう	「結構	婚 ·	出産	• -	子育	て」	戊	泫援	-	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	1	0 6	ô
Ι	成長を	創る	(産業)	ர)																		1	1 (3
	政策5	農林水																						
	政策6		経済の・																					
	政策7	Societ																						
	政策8	拡大す	る世界	界市均	場を	ふく	いり	の成	長/	\												1	3 (6
π	楽し <i>み</i>	ょを広し	ドス (省	訓浩 -	/ 1)																	1	<u>4</u>	1
	政策 9		, ひ (<u>/</u>) 年に-			ちつ																		
	政策10		, 新幹線																				5 2	
		人がノ							裍														5 8	
	政策12		・スポ	-																			6 4	
π,	· 安心を	こさめる	. (+μ+	击 力)	١																	1	7 .	1
	政策13																							
	政策14																							
	政策15																							
	政策16																							
	以來10	W 70.00	Д У.)(\sigma)		0)	へつ	,													'	0 2	_
	ともに																							
	政策17	「チー	-ムふ	くい	」の)行政	文運:	堂			•	٠	•	•		•	٠	٠	•		•	2	0 2	2
	政策18	広域/	%— Þ	ナー	シッ	プの)強(匕			•				•	•	•	•	•	•	•	2	1 (J
4	SDGs	:の各=	ゴール(こ向し	ナた	主な	取約	且み	ا ځ	ΚF)											2	1 (6

第3部	地域プラン	_ · ·	 •	 •	•	 ٠	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	٠	2	2 1
1 ½	基本的な考え	方 ·		 •		 •		•	•		•								2	2 2
2 4	各地域の方向は	性・																	2 :	2 4
I	福井坂井地	域 ·					•						•						2	2 4
П	奥越地域			 •															2	3 2
Ш	丹南地域																		2	3 8
IV	嶺南地域						•		•										2 -	4 4
推進方針	計 · · · ·																		2	5 3
1 t	 ごジョンの推:	進方針							•										2	5 5
付属資料	計 · · · ·		 •																2	5 7
1 t	 ごジョンの策!	定経過		 •									•						2	5 9
2 J	 具民アンケー	١.																	2	6 6

_

はじめに

1 策定の趣旨と構成

[策定の趣旨]

わが国は本格的な人口減少・超高齢化社会に突入し、世界的には経済社会のさらなるグローバル化や地球温暖化が進行するなど、時代の大きな転換期を迎えています。その中で福井県は、2040年に人口が64.7万人に減少すると推計(国立社会保障・人口問題研究所推計)される一方、同時期までには北陸新幹線やリニア中央新幹線の全線開業など、立地条件が飛躍的に向上していると考えられます。

高速交通体系の完成を最大限に活かしながら、人口減少はもとより、長寿命化、技術革新など今後想定される社会環境の変化に対応し、県民の皆さんと将来像を共有して福井県のさらなる発展に向けて行動していくため、「福井県長期ビジョン」を策定します。

〔構成と期間〕

第1部 将来構想	福井県の目指すべき将来像を展望 (目標年次 2040年)
第2部 実行プラン	今後5年間に実行する政策を分野別に具体化 (計画期間 2020年度~2024年度)
第3部 地域プラン	県内4地域における政策の方向性等を整理 (計画期間 2020年度~2024年度)

2 策定コンセプト ~ 策定過程からの県民参加 ~

将来像の実現のためには、一人ひとりのアクションが重要です。

このため、「みんなで描こう『福井の未来地図』」を策定コンセプトに掲げ、策定の プロセスから多くの県民の方々に参加していただき、問題意識の共有を図りました。

(長期ビジョン策定コンセプト)

みんなで描こう「福井の未来地図」 ~次世代のために、今わたしたちができること~

[長期ビジョン推進懇話会の設置]

長期ビジョンの方向性や将来像、具体的な政策などについて大きな観点から検討を進めるため、県内外の有識者や各分野の代表者等からなる「長期ビジョン推進懇話会」を設置し、議論を進めてきました。



長期ビジョン推進懇話会

〔有識者によるセミナーの連続開催〕

技術革新やSDGs、医療・介護制度など、様々な課題に関する最新の知見を学び、県民と広く共有するため、各分野の第一人者を招いた公開セミナーをシリーズ開催してきました。

第1回「世界文明と福井文化の共生」 進士五十八氏 第2回「A|技術で語る福井の未来」 伊本貴士氏 第3回「創造基盤で未来をつくる」 片木孝治氏

第4回「SDGsによる新たな価値の創造」蟹江憲史氏

第5回「人生100年時代の安心ライフ」 遠藤久夫氏

第6回「文化×エンターテイメント」 パトリック・ハーラン氏、進士五十八氏、朝倉由希氏

第7回「A | 時代に活躍できる人材と育成方法」伊本貴士氏

第8回「地域の秘密が未来をつくる」 玄田有史氏、宇野重規氏、中村尚史氏



有識者によるセミナー

〔様々な意見交換会の実施〕

県民から広く意見をお聴きするため、市町別、世代別、分野別など幅広く意見交換を行いました。また、県民一人ひとりに長期ビジョンについて知っていただき、行動を起こしてもらう機運を高めるため、出前ワークショップを行ってきました。

市町別意見交換会では、すべての市町において、まちづくり関係者、自治会関係者、 企業経営者、農業者、市町議会議員や市町職員など、年代、性別、職業を問わず様々 な立場の方から、福井県の良いところや課題、望ましい将来像等について、意見をお 聴きしました。

世代別意見交換会は、学生・若者・子育て世代の3グループに分かれ、2日間をかけて行いました。1日目はカードゲーム「SDGs de 地方創生」を通して持続可能な社会づくりについて学び、2日目はワークショップ形式で、目指すべき福井の





世代別意見交換会

将来像や実現のための方策について、初めてグラフィック・レコーディング*も導入 しながら話し合いました。

※グラフィック・レコーディング:会議や議論の様子を、文字だけでなく図や絵を用いてリアルタイムに可視化する手法



(学生グループ)



(若者グループ)



(子育てグループ)

分野別意見交換会は、各団体の会合や現地訪問など様々な機会を活用して開催し、 産業、医療・福祉、教育など、各分野の現場で活動している方々と意見交換を行いま した。

また、県外在住の本県出身者や、県内で活動する県外学生、地域おこし協力隊など福井を知る県外関係者の方々からも、福井県への期待を込めて意見をいただきました。

このほか、出前ワークショップとして、学校や企業・団体 を訪問し、皆さんからご意見をお聴きするとともに、目指す 将来像等について話し合いました。



出前ワークショップ(中学校

[「FUKUI未来トーク」の開催]

都道府県で初めて「地方兼業」を行う都市人材を公募し、 ビジョンの広報戦略を担う「未来戦略アドバイザー」として 委嘱しました。

アドバイザーと企画した「FUKUI未来トーク」を開催し、学生や若者、子育て世代などのグループが、将来像の実現に向けた今後の活動について話し合い、一人ひとりの「私のアクション」を発表しました。



未来トーク (子育て世代)

〔県民アンケートの実施〕

県民の皆さんを対象として、無作為抽出による県民アンケートも実施し、2,504名から回答をいただきました。全体の82%の方が「福井県で暮らしてきてよかった」と回答し、県民が現在のくらしにおおむね満足していることが分かりました。

〔フェイスブックページの開設〕

専用フェイスブックページを開設し、懇話会や出前講座、連続セミナーを動画配信するなど、策定過程の情報発信にも努めてきました。

策定過程に参加いただいた皆さんは、延べ5,000名を超えました(県民アンケート含む)。多くの方々の参加により策定した長期ビジョンを共通の行動指針とし、県、市町、企業・団体、そして県民一人ひとりがプレイヤーとなり、実現に向けてともに行動していきます。



意見交換会等におけるワークシート①



意見交換会等におけるワークシート②

第1部将来構想

1 世界の潮流と環境変化

日本は、そして世界は今、時代の大きな転換期にあります。

国内では、人口減少、超高齢化への対策と、それらに伴う社会保障制度など様々な 経済社会システムの変革が求められています。東京一極集中の是正はその最たるもの です。

世界に目を向ければ、温室効果ガスの排出量増加が原因とみられる地球温暖化や異常気象への対応が世界共通のテーマとなっているほか、経済のグローバル化に伴って生ずる貧困・格差の解消や感染症の拡大防止、食料・水の安全保障、生態系の保全なども重要な課題です。

特に、今回、地球規模で拡大したCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)は、グローバル時代の新たなリスクを顕在化させ、また、大都市の脆弱性と社会全体に及ぼす影響の大きさを改めて認識させる契機となりました。国際社会が一致協力して感染症対策を徹底するとともに、新たな国際分業体制の確立や、リスクに強い「分散型国家」への転換が求められます。

また、国内外を問わず、AI、ロボット等の技術革新は私たちの生活の便利さや経済発展に寄与すると期待される一方、人間の仕事や働き方、移動や生活、健康、さらには価値観や倫理に至る様々な分野において大きな影響を与えると考えられます。

地域、人類、そして地球全体の「持続可能性」が鋭く問われています。

2015年の国連サミットでは、2030年を目標年次とする「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。発展途上国だけでなく先進国も含めた世界共通の目標であり、経済効率性のみを重視してきた従来型の価値観からの転換が求められています。

一方、このビジョンが描こうとする2040年頃には、北陸新幹線やリニア中央新 幹線が全線開業し、福井県の立地条件が飛躍的に向上していると考えられます。

また、国内市場が縮小に向かう日本、そして福井県にとって、新興国をはじめとする海外市場の成長や食料需要の増加は、ビジネス拡大のチャンスにもなります。

時代の転換期にあり、先が見通しにくい時代であるからこそ、そしてまた、移動や通信のネットワークが発達し、地方が世界と直結する時代を迎えているからこそ、地域の価値や誇りとなる「福井らしさ」を確立し、時代の変化に柔軟に対応しながら、幸福度日本一の「ふるさと福井」をさらに良い姿で次世代に引き継いでいかなければなりません。

そのために必要な国内外の潮流や変化を展望します。

(1)世界の潮流

潮流 1 世界人口の増加

日本の人口は減少局面に入っていますが、インドをはじめとする新興国の人口拡大によって世界人口は今後も増加を続け、国連では、現在の約77億人から、2050年には97億人、2100年には109億人に増加し、そこでピークに達すると予測しています。

新興国の人口増加により、各国の経済発展が期待される一方、国際情勢の変化・不安定化や、経済活動の活発化に伴うエネルギー需要の増加と温室効果ガスの排出拡大、食料需給の逼迫が予測され、私たちのくらしへの影響が懸念されます。

潮流 2 新興国の成長と経済のグローバル化の進展

2018年12月、日本も参加するTPP11^{**}が発効しました。世界的には一部に保護主義的な動きもありますが、大きな方向としては、貿易・投資など多国間の経済連携はさらに拡大するとともに、アジア、アフリカ等の新興国の経済発展や技術革新等により、今後も世界経済は成長を続けると見られています。

相対的な地位の低下が見込まれる日本は、RCEP*をはじめとする経済連携や、インバウンドのさらなる推進による海外の活力取込みを目指しています。

福井県としても、観光面を含め、海外市場の積極的な開拓・獲得が重要です。

※TPP11…アジア太平洋地域11か国が参加する経済連携協定

※RCEP …ASEAN10か国と日、中、韓、印、豪、NZの計16か国が締結を目指す経済連携

また、グローバル化の進展に伴い、感染症の地球規模の蔓延という新たなリスクが 顕在化しています。

人類はこれまでも様々な感染症と戦ってきましたが、今後も発生が予想される未知の感染症のリスクに備え、検査・医療体制のさらなる充実を図るとともに、国際的なサプライチェーンの見直しや経営の多角化、さらには、テレワークやオンライン授業など、社会変革への取組みも必要です。

世界人口の推移

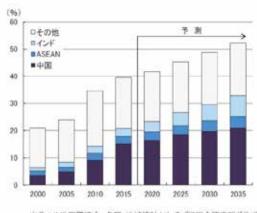
- ○世界人口は、現在の77億人から2050年の97億人へと、今後30年で20億人の増加
- ○増加の過半は、インド、ナイジェリア、パキスタン、コンゴ民主共和国、エチオピア、タンザニア連合共和国、インドネシア、ウガンダ、エジプト(予測される人口増が多い順)といったアジア・アフリカ諸国で発生
- ○インドは、2027年頃、中国を抜いて世界で最も人口が多い国になると予想



アジア、アフリカなど新興国・途上国の経済成長

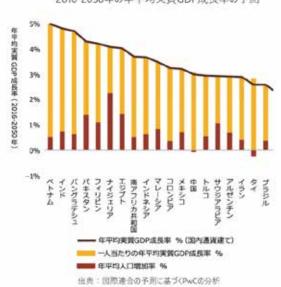
- ○2030年代前半には新興国が世界の経済規模の50%を超えると予想
- ○2050年にかけて、ベトナムを始めとするアジア諸国は成長継続。ナイジェリアを始めとするアフリカ諸国も伸長

世界に占める新興国・途上国の名目GDPシェアの予測



出典:IMF、国際連合、各国・地域統計より、みずは総合研究所が作成

2016-2050年の年平均実質GDP成長率の予測



1

潮流3 エネルギー需要の増加と地球温暖化

世界のエネルギー消費量は、各国の経済発展や石油利用の拡大等によって増加し、過去50年間で約3倍に拡大したとされています。これに伴って温室効果ガスの排出も増え続けており、2018年の世界の排出量は過去最高(553億トン)となりました。国連環境計画の報告書によると、このままでは今世紀末には気温が3.4~3.9℃上昇し、異常気象の増加、生態系の変化など極めて大きな影響が生じるおそれがあるとしています。パリ協定(2015年)に基づき、日本は今世紀後半のできる限り早期に二酸化炭素排出ゼロを実現する長期戦略を掲げるなど、世界各国が対策を進めています。近年、地球温暖化が原因と考えられる豪雨、大型台風や巨大ハリケーン、猛暑や干ばつなどの異常気象が世界各地で頻発しており、国際社会で一致した対策強化が不可欠です。

福井県としても、原子力発電の安全確保とともに、県民の生命や財産を守る県土の強靭化を進める必要があります。さらに、CO2フリーエネルギーの先進県として、二酸化炭素の排出抑制に向けて、再生可能エネルギーの導入等促進を積極的に進めていくことが必要です。

潮流4 食料需要の増加

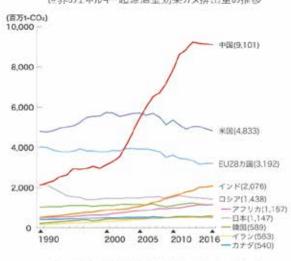
世界の食料需給は、世界人口の増加や新興国の経済発展による食料需要増加、異常気象の頻発、生態系の変化、水資源の制約など様々な要因によって将来逼迫するおそれが指摘されています。日本の食料自給率は現在、37%(熱供給量ベース)と長期的に低下傾向にあり、国内生産と輸入、備蓄を適切に組み合わせた食料の安定確保が課題です。

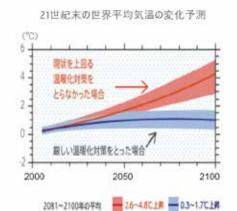
福井県としても、将来にわたる食料の安定確保、食の安全確保に向け、食料自給率の維持・向上は重要であり、農地や森林、水産資源の保全に力を入れるとともに、米・園芸などの農業生産の多角化や養殖の増大、輸出拡大等による農林水産業の振興が必要です。

温室効果ガスの増加と平均気温の上昇

- ○エネルギー起源温室効果ガスの排出量は、先進国で減少。中国、インド、アフリカにおいて大幅増加
- ○今世紀末の世界平均気温は、対策が不十分な場合、現在よりも2.6°C~4.8°C上昇する可能性







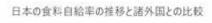
出身:CO2 EMISSIOS FROM FUEL COMBUSTION Highlights(IEA) ※エネルギー起源温室効果ガス排出量の多い国・地域のトップ1 0 を抽出 派カッコ内の数字は、2016年排出量(四万トン) 出典: IPCC第5次評価報告書より作成

日本の食料自給率

66

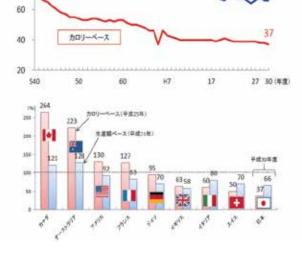
- ○我が国の食料自給率は長期的に継続して下落。現在は先進国の中で最低の水準
- ○本県の食料自給率は、生産額ベースで、20年前の60%台から50%台に低下

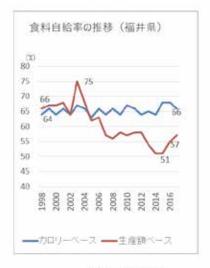
生産器ベース



100 86

80





出典;農林水産省統計

潮流5 持続可能な開発目標(SDGs)

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない、 多様性と包摂性のある持続可能な社会」の実現を目指し、国際社会が協調して取り組む世界共通の目標です。

2030年を年限とする17のゴール(意欲目標)のもとに、169のターゲット (達成目標)、232の指標が定められており、日本においては、「あらゆる人々の活躍の推進」、「健康・長寿の達成」など8つの優先課題を掲げた実施指針を策定し、取組みを進めています。

SDGsの前身は、開発途上国を対象とする「MDGs」(ミレニアム開発目標)でした。2000年から2015年にかけて国連を中心に進められましたが、目標のほとんどは達成されませんでした。この反省を活かしながら策定されたのがSDGsであり、先進国を含むすべての国が行動する「普遍性」が大きな特徴です。

また、SDGsの17のゴール、あるいは各ターゲットや指標は、実際の社会の中にあって相互に関連しています。社会、経済、環境の課題に総合的に取り組む、即ち部分最適ではなく、全体最適を志向することも特徴的であり、経済効率性のみを重視してきた従来型の価値観からの転換が強く求められています。

持続可能な開発目標(SDGs)

■ 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。<u>「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包</u> <u>提性のある社会</u>の実現のため、2030年を年限とする<u>17の国際目標。</u>(その下に、169のターゲット 232の指標が決められている。)



前身:ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- ▶ 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、 1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
- ▶ 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。 (①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)
 - MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。 ○ 極度の貧困半減(目標①)やHIV・マラリア対策(同⑥)等を達成
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減(同④、⑤)は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ。

環境 (リオ+20)

人権

平和

(外務省資料)

SDGsの17のゴール(意欲目標)

1 xas		
Ħx Ŧ ŶŧĦ	1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
2 ******	2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、 持続可能な農業を促進する
3 Later -	3 すべての人に 健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、 福祉を促進する
4 408-0820	4 質の高い教育を みんなに	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯 学習の機会を促進する
5 % % % % % % % % % % % % % % % % % % %	5 ジェンダー平等を 実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力 強化を行う
6 ******	6 安全な水とトイレを 世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を 確保する
7 East-water	7 エネルギーをみんな にそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的 エネルギーへのアクセスを確保する
8 PAREL	8 働きがいも 経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ 生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセン ト・ワーク)を促進する
9 8525527	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	強靭(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能 な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
10 (\$1000)	10 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する
11 555555	11 住み続けられる まちづくりを	包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市 及び人間居住を実現する
12 200	12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
13 111111	13 気候変動に 具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
14 #84-01	14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能 な形で利用する
15 #ndis#4	15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、 砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻 止する
16 PAGEAL	16 平和と公正を すべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
17 (1)	17 パートナーシップで 目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

(2) 国内・県内の環境変化・見通し

変化 1 人口減少

日本の総人口は、少子化の進行等によって2008年(約1億2,800万人)をピークに減少局面に入っており、国立社会保障・人口問題研究所は、2040年には約1億1,090万人(13%減)となると推計しています。少子化の要因は様々ですが、出生率の低い東京圏への若年層の流出が拍車をかけていることは明らかです。

福井県は、2000年(82.9万人)をピークに減少を続けており、2040年には64.7万人程度に減少すると推計されています。

一方、65歳以上の人口とその割合は上昇しており、2040年には団塊ジュニア世代が65歳を迎えることから、福井県においても65歳以上人口は24.1万人(37.2%)とピークを迎えると見込まれています。

人口の減少や構成変化は、産業活動や消費の縮小をもたらしかねないほか、社会保障費が増大するなど、地域経済・財政への影響が懸念されています。また、若年層の減少は、様々な担い手の不足や地域コミュニティの衰退にもつながりかねません。

さらに、都市部への人口集中と過密が、感染症のリスクを拡大させることが明らかになったことから、国においては国土政策を早急に見直し、大学や企業の地方への移転を進め、大都市圏から地方へ人口を移動させることが急務となっています。

結婚・子育て応援等の自然減対策、学生の県内就職、UIターン促進等の社会減対策を強化・継続するとともに、AI、自動走行等の未来技術の活用など、人口減少下でも幸せに暮らし、地域や文化を継承するための適応戦略を進める必要があります。

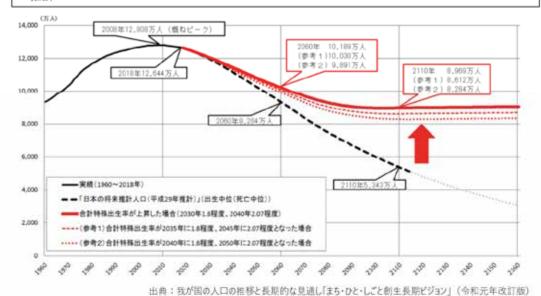
また、児童虐待の根絶や、経済的格差の拡大・再生産の抑止など、子どもたちが健 やかに成長できる環境をつくるとともに、年齢、性別・性差、国籍、障がいの有無等 によらず、県民一人ひとりが社会に様々な形で参加し、自分らしく輝ける共生社会を つくっていくことも重要です。



※国立社会保障・人口減少問題研究所による推計 (「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」)

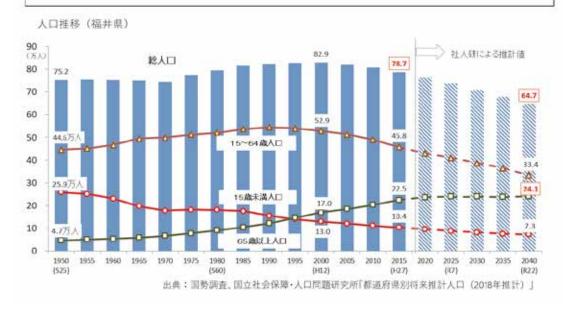
総人口の将来見通し(全国)

- ○我が国の人口は2008年の12,808万人をピークに、2040年には11,090万人、2060年には約9,300万人まで減少する見通し
- ○仮に合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は 約1億200万人となり、長期的(2100年ごろ)には9,000万人程度でおおむね安定的に推移するものと 推計



総人口の将来見通し(福井県)

- ○福井県の人口は、2000年の82.9万人がピーク。近年の人口減少対策により、将来人口予測は改善が 図られたが、2040年には64.7万人(▲22%)の予測(当初予測は、63.3万人)
- ○65歳以上人口は2040年頃にピーク(24.1万人、高齢化率37.2%)を迎える 15歳未満人口、15~64歳人口は一貫して減少



〔人口減少・少子高齢化と持続可能な集落づくり〕

人口減少・少子高齢化は、集落の今後のあり方に大きな影響を与えます。

県の調査によると、高齢化集落(65歳以上が人口の半数以上を占める集落)は、10年前(2009年)の104集落(全集落の3.6%)から238集落(同8.2%、令和元年)に倍増するとともに、将来衰退すると考えている集落が6割近くに上ることが分かりました。今回行った県民アンケートにおいても、将来心配なことを尋ねる設問では、「人口が減少し、多くの集落がなくなったり、なくなる恐れがある」が最多(63%、複数回答)となりました。(付属資料参照)

人口減少・少子高齢化は、市町や地域によって進み方や様相が異なり、一般に農山漁村部では都市部に先行して進む傾向にあります。一方、福井市の中心市街地においても担い手不足により自治会を解散する事例が初めて生じるなど、その影響は都市部も例外ではないことが明らかになってきています。農村部・都市部を問わず、空き地・空き家や耕作放棄地等の増加も課題です。

集落や地域コミュニティは、日常の支え合いや様々な地域活動、あるいは災害時の避難・生活支援など、県民のくらしに極めて重要な役割を果たしています。各集落において危機意識を共有し、将来のあり方を考えるとともに、周辺集落との協働やリーダー育成、外部人材や未来技術の活用など、持続可能な集落づくりに向けて検討・行動していくことが重要です。

〔自治体経営の効率化など持続可能性確保〕

総務省の有識者研究会「自治体戦略2040構想研究会」は、その報告書(2018年7月)において、2040年頃の自治体経営について、若年労働力の大幅な減少を背景に、『従来の半分の職員でも自治体が本来担うべき機能を発揮できる仕組みが必要』と提言しました。

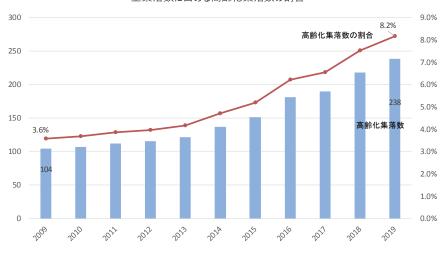
実際に、近年の出生数が団塊ジュニア世代の半分以下にとどまり、将来の担い手が大幅に減ることは明らかであり、税収の縮小等も懸念されます。少ない労働力を民間と分かち合いながら、これまで以上に、行政業務の選択と集中や未来技術の活用等による効率化など業務のあり方を変革していくとともに、新たな公・共・私の共同体制を構築するなど、県と市町が協働し、持続可能な形で住民サービスを提供し続けることのできる体制を整えていくことが必要です。

出典:福井県調べ

高齢化集落数·割合

○高齢化集落数は、2009年の104集落から、2019年には238集落となり、ここ10年で倍増

高齢化集落数および 全集落数に占める高齢化集落数の割合



変化2 長寿命化(「人生100年時代」の到来)

医療の発達等により、日本人の平均寿命は上昇し続けています。2040年には女性は89.63歳、男性は83.27歳になると予想され、海外の研究では、日本で2007年に生まれた子供の半数は107歳より長く生きる、いわゆる「人生100年時代」が今後到来するとされています。

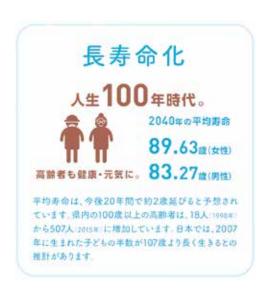
福井県は、男女ともに平均寿命、健康寿命が全国上位の健康長寿県であり、100歳以上の県民も18人(1990年)から507人(2015年)に急増しています。

企業の定年を70歳以上に引き上げる動きがあるように、長寿命化は、働き方や暮らし方に大きく影響します。健康・体力面から見ても、現在の75歳は60年前の65歳に相当すると試算される(平均余命等価年齢*)ことなどから、年齢で高齢者を一律に定義し、支える側・支えられる側に区分する従来型の高齢者観から脱却していく必要があります。

※平均余命等価年齢:ある年のある年齢の平均余命を基準とし、別の年にそれと等しい平均余命をもつ年齢のこと

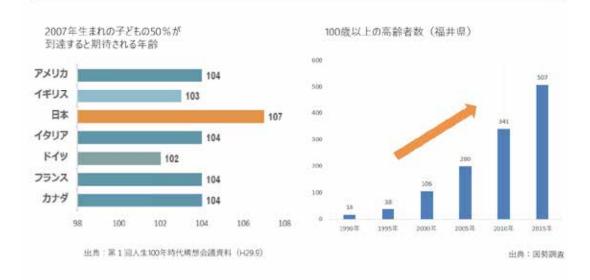
一方、年齢とともに医療・介護の必要性は一般的に高まり、認知症の発症リスクも 上昇します。家庭での介護負担の増大や、増加する一人暮らし高齢者への対応が課題 となります。また社会全体としても、社会福祉にかかる費用の増加や、介護士など医 療・福祉分野を支える人材の不足が懸念されます。すべての人が生涯にわたって安心 して暮らせる環境と、持続可能な社会保障制度の確立が求められます。

長寿命化に備え、技術革新を活かして人口減少下でも医療・介護・福祉サービスを 安心して利用できる環境を整えることはもとより、生涯健康を志向し、年齢を重ねて も元気に生活できる社会、また、常に好奇心を持ち続け、自身の能力や知識を磨きな がら柔軟に成長していく社会をつくっていくことが重要です。



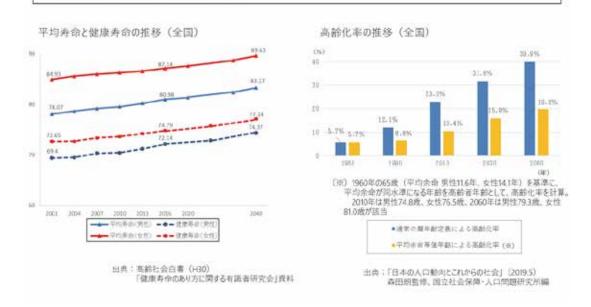
長寿命化の進展

- ○海外の研究では、「日本では、2007年に生まれた子どもの半数が107歳より長く生きる」と推計
- 1990年に18人だった本県の100歳以上の高齢者は、2015年には507人(約28倍)と急増



平均寿命・健康寿命と高齢化率

- ○2001年から2040年にかけ、平均寿命・健康寿命とも5歳程度延伸
- ○健康状態(平均余命等価年齢)を基準にすると、現在の75歳は1960年の65歳に相当。高齢者年齢を 定義し直せば、高齢化率は半分程度に



1

変化3 大交流化(新幹線、高速道路等の交通網整備)

新幹線、高速道路といった高速交通網の整備進展は、福井県の大きな特長です。

北陸新幹線は、2023年春に迫った福井・敦賀開業から切れ目なく敦賀・新大阪間の工事に着手し、2031年春(北海道新幹線札幌開業)頃までの全線開業を目指しており、中部縦貫自動車道(大野油坂道路)も福井・敦賀開業と同時期の開通を求めています。リニア中央新幹線も、名古屋開業(2027年予定)を経て、2040年には大阪までつながっていることが期待されます。

こうした整備進展により、福井県は首都圏と直結するとともに、中京、関西との時間距離も短縮され、三大都市圏とのアクセスが極めて有利な地域になります。また、北陸新幹線の開通は、嶺南・嶺北の一体化や北陸圏の連携強化の基盤となるだけでなく、リニアとあわせた大環状ルートの形成により、甲信越地域や東北、中国、九州にまで交流圏域を広げます。国際物流ターミナルの拡張整備が進む敦賀港や、福井港、本県の空の玄関口である小松空港も加えれば、陸・海・空の立体的な交通・物流網が整うこととなります。

福井県は、まさに国内外との大交流を推し進める100年に一度のチャンスを迎えています。この機を、観光誘客や市場開拓・販路拡大、都市人材の誘致など地域・産業の活性化に最大限に活かしていくことが必要です。特に、2021年には東京オリンピック・パラリンピック、2025年には大阪・関西万博が開催され、訪日外国人のさらなる増加が見込まれています。福井県としても、三大都市圏との近接性はもとより、日本海側の中心に位置し、アジアに開けた本県の立地条件も活かしながら、隣接府県とも力を合わせ、インバウンドの拡大など海外市場を積極的に獲得していくことが重要です。

また、福井・敦賀開業時に4つ、全線開業時に1つ、計5つの新幹線駅が県内に設置されることも大きな特長であり、市町とともにまちづくりを加速していく好機です。



北陸新幹線の県内延伸

- ○北陸新幹線とリニア中央新幹線の全線開業により、東海道新幹線とともに訪日客を呼び込む大環状 広域観光ルートを形成
- ○北陸の中で福井県は、三大都市圏へのアクセスが最も有利に。また、長野県~関西の人の流れは名古 屋経由から北陸新幹線経由へ転換する可能性



高規格道路の整備

○北陸新幹線が全線開業し、中部縦貫自動車道・若狭さとうみハイウェイとともに、東西南北に開く 新たな玄関口が完成



[巨大地震と国土の複軸化]

2011年3月に発生した東日本大震災(M9.0)は、死者・行方不明者合わせて 1万8千人を超える巨大災害でした。発生から9年が経った今なお、多数の方が避難 生活を続けています。

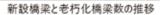
政府の中央防災会議は、今後30年以内に、首都直下地震が70%、南海トラフ地震が70~80%の確率で発生すると推定しています。東京一極集中が加速する中、こうした巨大地震がもたらす人的・経済的損失は極めて甚大であり、土木学会は「国難レベルの災害」と指摘しています。

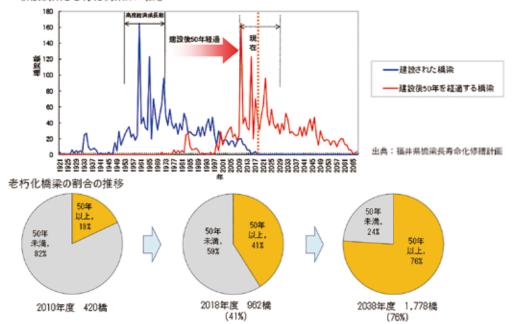
全国的に、高度経済成長期に集中的に整備された橋梁などインフラが老朽化してきており、こうしたインフラの修繕等を計画的に進めるなど、国を挙げて事前対策、国 土強靭化を全力で推進することが必要です。

その意味からも、東海道新幹線の代替機能を発揮する北陸新幹線を1日も早く全線開業するとともに、敦賀港の高機能化を進め、「日本海国土軸」の形成と、東京圏や 太平洋側に偏った国土構造の転換が必要不可欠です。

インフラの老朽化

- ○高度経済成長期に集中的に整備されたインフラが老朽化
- ○2040年頃には、約8割の橋梁が、建設後50年を超える





変化4 技術革新(-Society5.0- 未来技術の実用化拡大)

インターネットやスマートフォンは、私たちのくらしや仕事に大きな変化をもたらしました。こうした「破壊的テクノロジー」とも呼ばれる技術革新は、今後さらに進展していくと考えられています。

特に、AI、ロボット、5G・6G、自動走行、量子コンピューティングなどは、研究や実用化が進みつつあり、今後20~30年の間に、農林水産業を含む産業、交通や移動、医療・介護、教育、エネルギー、防災、そして生活全般にわたり、さらなる大きな変化をもたらすと考えられます。

日本は、2016年に「Society(ソサエティ)5.0[※]」を打ち出し、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会の実現を目指しています。

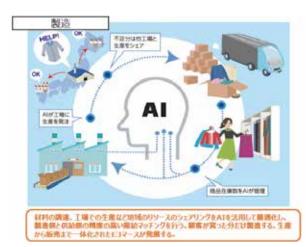
※Society5.0:仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を指すもの

福井県においても、企業におけるAI・IoTの活用促進、自動運転技術の実用化、 農林水産業への新技術導入(スマート農林水産業)等を進めています。

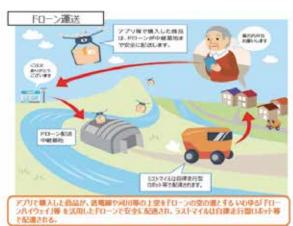
今後、こうした動きをさらに拡大し、くらしの利便性向上や産業活性化はもとより、 人手不足など地域の課題解決に役立てることが必要です。A I 等の未来技術を地域の 産業やくらしに実装していくとともに、最新技術を理解し、開発・活用できる人材を 育てていくことが重要です。

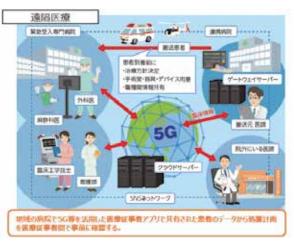


未来技術で実現する将来像(イメージ)













(内閣府「未来技術×地方創生検討会」資料より)

変化5 価値観の進化(寛容性と多様性)

近年、日本社会は不寛容になったとの声が聞かれます。よく目にするブログ記事等の "炎上" はその一例です。インターネット、とりわけSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の発達が一因と考えられています。

一方、「つくし世代^{**}」と言われるような若者世代に見られる共感、共有(シェア)を大切にする意識、あるいは長時間労働を是とせずワークライフバランスを重視する動き、様々な障がい、国籍の違い、性差や性の多様性等を認めようとする気運など、時代とともに私たちの意識や価値観は変化しています。

※つくし世代:相手のことを思いやり、相手の幸せのために"尽くす"人が多く、共感力が高いと言われる若者世代。様々な 定義があるが、一般的には1992年(平成4年)以降に小学校に入学し、2020年現在で34歳以下の若者

こうした私たちの意識や価値観は、これまで見てきた4つの大きな環境変化(人口減少、長寿命化、大交流化、技術革新)によって、今後さらに変容していくと考えられます。例えばA | ・ロボット等の普及は、場所や国境、人種(言語)、バーチャルとリアル、さらには人間と機械との境界さえも希薄化していく可能性があります。

世界共通の目標「SDGs」は、多様性を強く希求します。

福井県も、豊かな自然や歴史に裏打ちされた風土と、そこで育った質実剛健な県民性など、「福井らしさ」を大切にしながら、様々な多様性を認め合う地域社会へと進化していくことが必要です。福井県がこれから迎える大交流時代は、その好機です。外に大きく開いて国内外の人々と交流することによって新しい文化を創造し、地域としての独自性を確立していくことが重要です。

2040年にかけての主なリスク要因と対応の方向性

ここまで見てきた国内外の潮流や環境変化の中には、高速交通網整備をはじめ本県にとって大きなチャンスとなる変化もある一方、リスク要因となるものもあります。 それらを可能な限り見通し、先んじて対応していくことが重要です。

主なリスク要因と対応の方向性をまとめます。

<世界のリスク>

○新興国の成長、経済のグローバル化の進展

- ・国際政治の不安定化、通商問題、貧困・格差拡大、 感染症の拡大
- ・新興国の経済発展と日本の相対的地位低下の懸念

〇エネルギー需要の増加、地球温暖化

- ・世界のエネルギー消費量の拡大
- ・温室効果ガス排出増、気温上昇、生態系への影響
- ・異常気象の頻発(豪雨、大型台風、干ばつ等)

〇食料・水資源の需要の増加と安全保障

- ・世界の食料需要の拡大
- ・地球温暖化に伴う生産可能な作物の変化
- ・食の安全性への懸念

<対応>

- ✓農産物や県産品の輸出拡大
- ✓インバウンド誘客の拡大
- ✓国際供給網の見直し
- ✓ 地域産業の保護

など

- ✓温室効果ガスの排出削減
- ✓再エネ・新エネの導入拡大
- ✓エネルギー需給の最適化
- ✔ 国土強靭化

など

- ✓食料の安定確保、地産地消
- ✓農地・森林・水産資源の保全
- ✓ 一次産業の多角化・スマート化、 担い手育成 など

<国内・県内のリスク>

〇人口減少・高齢化の進行

- ・経済規模の縮小、生産と消費縮小の悪循環
- ・産業構造・労働環境の変化、格差の拡大
- ・医療・介護需要の増加、社会保障費増大

〇集落コミュニティの衰退

- ・高齢化集落の増加、担い手の不足
- ・空き家の増加、耕地・山地の管理困難化
- ・一人暮らし高齢者の増加

〇自治体経営の困難化

- ・税収縮小と財政力の低下、公共工事の減少
- ・職員数の縮減、公共サービスの低下
- ・インフラの老朽化、維持コストの増大

<対応>

- ✓国土政策の転換、人口減対策の 強化
- ✓域内資源循環システムの構築
- ✔地域包括ケアの充実 など
- ✓集落生活圏の形成、周辺集落との協働や未来技術活用
- ✓新たな共助(有償ボランティア 等)の促進 など
- ✔ 行政業務の選択と集中
- ✔新たな公共私の共同体制構築
- ✓インフラの長寿命化 など

2 福井県の特徴

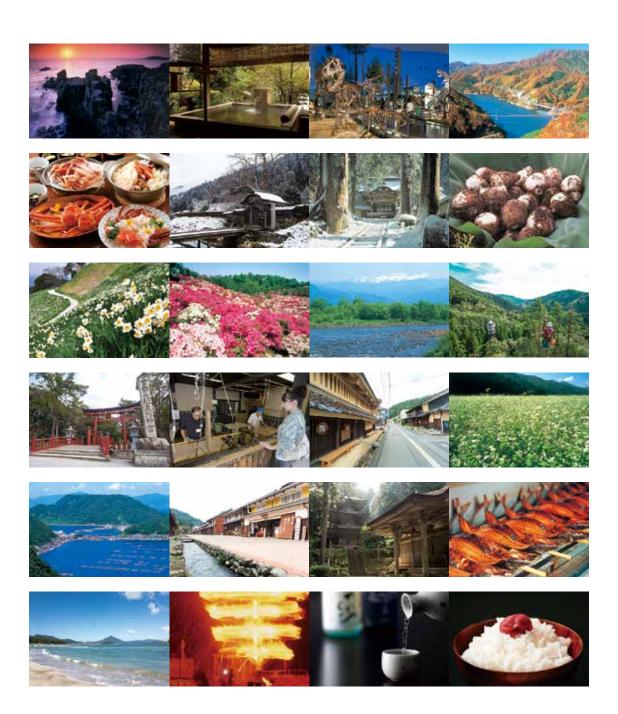
将来像を描くにあたり、県民の皆さんからいただいた意見をもとに、福井県の良さ や課題を明らかにします。

特徴1 自然や食の豊かさ

本県は、越前海岸や若狭湾から奥越の山々まで、海と山が近く、また田園の広がる平野や清流をたたえる河川・湖沼も有するなど、「越山若水」と称される豊かな自然・景観に恵まれた地域です。また、食材も豊富であり、本県発祥のコシヒカリはもとより、新たに開発した「いちほまれ」や、地理的表示保護制度(GI)登録もされた「越前がに」をはじめとする里・海・山の幸、美味しい水を活かした地酒やおろしそば、梅干、半夏生(はんげしょう)鯖、へしこといった独自の食文化など、枚挙にいとまがありません。県民からは、こうした自然や食の豊かさを評価する意見が数多く寄せられました。

一方、県民自身がこれらの良さを当たり前のものと考え、価値に十分気付いていない、また、控えめな県民性のためか発信力が弱いという意見もありました。また、地域の人口減少が進むと、農林水産業や農山漁村の景観、食文化を含む地域の伝統文化などが損なわれるおそれもあります。

今後、自然・景観から生活文化までを含む「暮らしのランドスケープ(風景)」とも言える福井らしい風土を保全・継承するとともに、広く発信して国内外から多くの 人を呼び込み、県民の誇りや自信につなげていくことが必要です。



特徴2 家族や地域のつながり

本県は、全国に比べて三世代同居・近居率が高く、住民同士のコミュニケーションも活発です。地域内では、子どもや高齢者の見守り、集落活動や行事などに世代を超えて協力するなど、家族・地域のつながりやコミュニティ機能がしっかり残されていることを評価する意見が多くありました。

また、平成16年7月福井豪雨(2004年)など災害時はもとより、普段の生活の中においても、県民の助け合い・支え合いの精神が至るところで発揮されています。

一方、そうしたつながりの強さが、かえって地域内での生きづらさや地域外からの入りにくさの一因になっているとの意見もありました。また、本県も全国と同様、三世代同居率は徐々に低下し、核家族化や単身世帯化が進んでおり、集落の高齢化・過疎化を懸念する声も多く聞かれました。

今後、新技術を活かすとともに、有償ボランティアも含めて域外の人たちと積極的に交流してその活力を取り入れ、つながりの良さを継承しながら、住民が減っても持続可能な地域コミュニティを実現していくことが重要です。

特徴3 充実した子育て・教育環境

県民からは、子育てのしやすさや教育が充実していることを評価する声が多く聞かれました。子育ての面では、同居・近居する祖父母から育児への協力を得やすいこと、 待機児童が少ないこと、多子世帯等への経済支援が充実していることなどが挙げられ、 合計特殊出生率は全国上位を維持しています。教育面では、子どもたちの優れた学力・体力を支える教員の熱心さが評価されています。

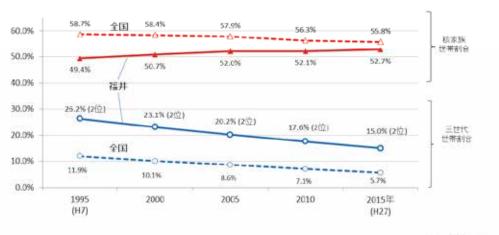
一方、共働きが多い中で育児に加え家事・介護等も一人で担いがちな女性の負担の 重さや、結婚・出産・子育てを当たり前に求められるなど多様な生き方・ライフスタ イルが認められにくい風潮を指摘する声もありました。

多様な生き方や価値観を互いに認め合いながら、家族が支え合い、希望する出産・ 子育てが叶う社会をつくるとともに、子どもたちの学力だけでなく、スポーツ・文化 など様々な個性を引き出す教育を進めていくことが必要です。

三世代世帯割合

- ○本県の三世代世帯割合は、全国2位の水準にあるものの一貫して低下
- ○一方、核家族世帯の割合は徐々に上昇

三世代世帯割合の推移、核家族世帯の割合の推移

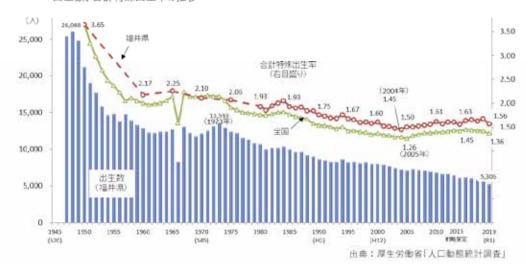


出典:国勢調査

合計特殊出生率と出生数の推移

- ○本県の合計特殊出生率は全国を上回る水準で推移し、2004年を底に上昇傾向
- ○出生数は第2次ベビーブームの1973年以降、減少傾向

出生数、合計特殊出生率の推移



特徴4 人材力の高さ

福井県民は、県民性が穏やかであり、進学率や就業率の高さに象徴されるように勤勉・まじめで教育水準も高いことが特徴です。本県からはこれまで、政治・経済・学術・文化など様々な分野に優れた人材が生まれ、国内外で活躍してきました。

一方、県民はまじめな反面、安定志向が強い、あるいは優れた人材は県外に進学し、 戻ってこないといった意見もありました。

これからの人口減少社会、そして変化の激しい時代にあって、ふるさとを担う人材はとても大切です。県民が変化に対応して柔軟に知識・技能を高め、様々なことに挑戦できる環境をつくるとともに、子どもたちのふるさと教育を進めていくことが重要です。

特徴5 安定した産業・雇用基盤

本県は、眼鏡や繊維に代表されるように製造業の盛んなものづくりの県です。オンリーワンの技術を持ち、世界一や日本一のシェアを誇る企業が数多くあります。また、丹南地域を中心に、1500年の伝統がある和紙や漆器をはじめとした伝統工芸が受け継がれており、ブランド化や産地観光など新たな動きも生まれています。お米をはじめ農林水産業も地域に根差しています。こうした産業の集積により、県民の就業率や正規就業割合が全国上位にあるなど雇用環境も良好です。産業や雇用の安定は、くらしの質の高さの確かな土台になっていると考えられます。

一方、若者が大都市圏に流出する中、若者や女性に魅力ある仕事が足りない、また 都市部に比べて賃金など雇用条件が低いといった意見も県民から寄せられました。

今後、技術革新を活かして生産性を高めるとともに、新幹線開業を活かした観光・ 交流をはじめ、健康・医療、宇宙・航空、食、エネルギーなど様々な分野で価値を生 み出す魅力ある産業・企業を増やし、持続可能な循環型の経済・産業基盤をつくって いくことが必要です。

進学率と有業率の推移

- ○高校生の大学等進学率は、全国平均を上回っている
- ○有業率は男女ともに全国平均を上回り、特に女性は全国1、2位の水準にある



出典:学校基本調査



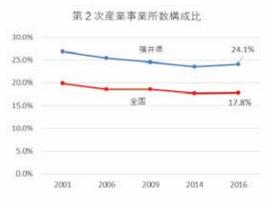
福井県の全国順位

	1997	2002	2007	2012	2017
男性	18位	410	12位	4位	510
女性	162	162	1位	165	2位

出典:産業構造基本調査報告(総務省)

第2次産業比率と完全失業率の推移

- ○製造業等の第2次産業事業所の構成比は、全国2位の水準にある
- ○完全失業率の低さも、全国トップクラスの水準にある



福井県の全国順位

	2001	2006	2009	2014	2016
福井県	202	2位-	2位	2位	202

出典:経済センサス等(総務省、経済産業省)



福井県の全国順位

	2014	2015	2016	2017	2018
福井県	102	10	2(0	3位	3位

出典: 労働量調査(総務省統計局)

[都道府県ランキングによる評価]

福井県は、「全47都道府県幸福度ランキング」(一般財団法人日本総合研究所)において、2014年、16年、18年と3回連続で日本一の評価を得ています。過去3回いずれも2位の東京都を抑えての総合1位です。このランキングは、全70の客観指標からなる総合評価であり、福井県は半数近い33指標でベストテン入りするなど、総合力の高さが窺える結果となっています。

福井県が特に高く評価されている分野は、「仕事」、「教育」、「生活」の3分野です。ここまで概観してきた産業・雇用基盤や教育・子育て環境、家族や地域コミュニティのつながりなどが背景・要因となって、高い評価につながっていると考えられます。

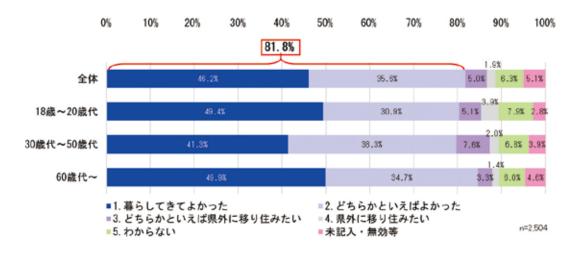
このほか、「日本でいちばん幸せな県民」(法政大学、2011年)、「子どもの幸福度」(慶應義塾大学、2014年)においても本県は全国1位となっています。

県民アンケートにおいても、全体の82%の方が現在のくらしに概ね満足しており、 主観の面でも幸福度の高さが裏付けられる結果となりました。

都道府県幸福度ランキング 順位推移

	2012 年版	2014 年版	2016 年版	2018 年版
1位	長野県	福井県	福井県	福井県
2位	東京都	東京都	東京都	東京都
3位	福井県	長野県	富山県	長野県
4位	富山県	鳥取県	長野県	石川県
5 位	滋賀県	富山県	石川県	富山県

福井県で暮らしてよかったと思う県民の割合(県民アンケート結果より)



3 2040年の福井県の将来像

ここまで見たように、わが国は、地球規模の環境変化に加え、アジア・アフリカ各国と対照的な人口急減社会という困難な時代を迎えています。戦後、「東洋の奇跡」と謳われた急速な経済発展を実現したわが国が、今一度、国民の英知を結集して、この困難を克服し、持続可能な未来を描くことができるか、世界各国が注目しています。

その中で福井県は、豊かな自然に恵まれ、悠久の歴史・文化が積み重なり、家族や地域社会のつながりが残され、子育て・教育や産業・雇用の充実した基盤、そして勤勉な人材力が受け継がれる、"日本のふるさと"とも言える地域です。こうした福井の良さを最大限に発揮して、喫緊の、そして将来に向けた大きな課題である人口減少をはじめとした地域の課題を乗り越え、次の時代に新しい価値を創造していくことは、他県の、ひいては世界のモデルとなります。

2040年という未来を見据えたとき、世界が目指す「福井モデル」の確立こそが、 高いポテンシャル(潜在力)を有する福井県が果たすべき役割だと考えます。

福井県は、日本海側の中央に位置し、成長するアジアに面しています。福井の可能性を最大限に高める大きな基盤が、北陸新幹線や道路、港湾などの高速交通・物流ネットワークです。わが国全体の持続的な成長のためにも、巨大地震等の災害リスクの高い太平洋側中心の国土構造を速やかに転換し、「日本海国土軸」の形成による「新次元の分散型国土」の創出が不可欠です。こうした交通・物流網の整備は本県における最重要プロジェクトであり、一日も早い完成を目指します。さらに、このインフラを基軸に、まちづくりや観光地の磨き上げ等に重点投資するとともに、新たな産業を創造し、国内外から多くの人を呼び込む力を一段と引き上げていくことが必要です。

今回のCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)の拡大は、過度のグローバル化や都市への人口集中がもたらすリスクを顕在化させました。一方、テレワークやオンラインビジネスなど、「働く場所を選ばない」生活スタイルの可能性が大きく拡がり、微住やワーケーションなどの新たな滞在・交流の形を含め、自然に恵まれた地方のくらしへの関心が高まっています。中でも、三大都市圏からほど良い距離に位置し、独自性を保ちながらも利便性が高く、「幸福度日本一」の良質な社会環境を誇る本県の良さを改めて認識する機会にもなりました。

福井の良さに磨きをかけて次世代に継承し、それらを土台にしながら、立地条件の飛躍的な向上を活かし、人々を強く惹きつける価値を創造する。誰もが安心して、豊かなくらしを楽しみ、そのイキイキとした県民の姿やまちの魅力が、たくさんの人を呼び込み、地域が賑わい、それがまた県民の誇りにつながる。そうした好循環が生まれる「福井モデル」を県民の皆さんの力を結集して確立していきたいと考えます。

こうした考えのもと、2040年に向けた県民の行動指針となる「基本理念」と福井県が「目指す姿」、「基本目標」および「将来イメージ」を描きます。

(1) 基本理念

[基本理念]

「安心のふくい」を未来につなぎ、 もっと挑戦! もっとおもしろく!

長い歴史の中で先人たちが培ってきた「安心と信頼」のふくいを、 みんなで守り、次世代に引き継ぎます。

さらに、その安定した社会基盤をもとに、誰もが夢や希望をもって 自分らしくチャレンジでき、相互に応援し合う、もっとワクワク・ ドキドキする「おもしろい!」ふくいを目指します。

〔基本理念の考え方〕

①故郷に自信と誇りを持つことからスタート

くらしの積み重ねの中で受け継いできた人々の営み、自然風土や歴史性、人の良さや温かさ、家族や地域社会のつながり、ものづくりや農林水産業等の安定した産業力など、すべてが「ふくいらしさ」であり、福井県の文化力です。

人口減少をはじめとする様々な課題に正面から向き合い、福井の「安心と信頼の 社会基盤」を守りながら、一方で県民一人ひとりが外に大きく開き、国内外の人々 との交流を通じてふるさとへの愛着や誇りを深め、自信をもって福井を語れる姿こ そ、目指すべき県民像であり、地域の誇りの確立につながると考えます。

②土台があるからチャレンジできる。

「安心と信頼」という土台があるからこそ、新たなチャレンジが可能です。この 優位性を活かして、互いの多様性を認め、挑戦を応援し合う活力ある福井を目指す べきと考えます。

「人生100年時代」に、すべての世代がチャレンジでき、誰もが自分らしい生き方を実現できる寛容性の高い共生社会が、新しい福井の姿と考えます。

③福井をもっとおもしろく!

大交流化やアジアが牽引する世界経済の成長、そして技術革新を活かし、さらに可能性を拡げるためには、地域の魅力を掘り起こすとともに、人材育成、産業や文化・芸術、まちづくりなど、様々な分野において創造性をもって福井らしい価値をさらに高めることが必要です。

時代の変化をチャンスと捉え、「福井をもっとおもしろく」を目標に、新たな価値観や多様な魅力・個性が加わった、ワクワク・ドキドキする未来を目指します。

④「次世代ファースト」を合言葉に

人口減少・高齢化、グローバル化や気候変動など様々な環境変化の中、福井の良さを次代に継承していくことは大きな挑戦です。

将来像の展望と実現にあたっては、持続可能な社会を目指すSDGsの理念に沿いながら、「すべては次世代のために」を合言葉に、将来世代の幸せを願い、「チームふくい」一丸となって行動していきたいと考えます。

(2) 2040年に福井県が目指す姿

意見交換会等を通じて県民の皆さんからいただいた「福井県の望ましい姿」に関するご意見を集約すると、次のとおりです。

○福井の良さが活かされ、文化力がさらに向上した地域

- ・文化は豊かな社会づくりの基盤。多様な文化を掘り起こして発信するなど、文 化の力を未来づくりに生かすことが重要
- ・県外の文明と持ち前の温かさをあわせ、「温故知新」を体現する日本のモデル となるべき
- ・福井ならではの良さを活かしながらも、経済、社会、環境が持続可能な地域を 目指すべき
- ・県外の人や外国人が福井の食や温泉に魅力を感じて、人が集まり訪れる社会を 目指すべき

○多様性が尊重され、挑戦が後押しされる地域

- ・様々な生き方を試みてよい、いろんな人がいてよいという意識が醸成された社 会を目指すべき
- ・多様な質の幸せに寄り添える県になってほしい。特に「女性の幸せ」は新しい 時代を切り拓く旗印・道筋となる
- ・自分が何をしたいのか、何ができるのか考える人を増やし、チャレンジしていく社会を構築すべき
- ・人口減少は止められない現実。一人ひとりが活躍し、つながり合える社会を目 指すべき

○創造的で魅力ある産業が生まれる地域

- ・若者が戻ってくる魅力的な企業づくり、技術革新と福井の人間性の良さを掛け 合わせた新たな産業育成が重要
- 新しいものや価値を生み出す創造力やデザイン力を高めていくべき
- \cdot A \mid や \mid T などのベンチャー企業やユニコーン * が生まれやすい環境を作るべき
- ・掘り起こせば光る企業や産地に磨きをかけて成長させ、世界のモノづくりの聖 地となるべき

※ユニコーン:評価額が10億ドル以上で、未上場のベンチャー企業のこと

[2040年に福井県が目指す姿]



🐠 SDGs (誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会) の 理念に沿いながら、3つの姿を目指します。

自信と誇りの ふくい

「ふくいらしさ」を大切に。 県民が誇りをもって暮らす ことにより、さらに多くの 人を呼び込む"ふくい"

「ふくいらしさ」を伸ばし、 外に開いて人を呼び込む。

誰もが主役の ふくい

すべての人が輝き、 互いに支え合い、幸せを実感 しながら、将来にわたり 安心して暮らせる"ふくい"

多様な個性を大事にし、 みんなが自分らしく輝く。

飛躍する ふくい

交诵体系の准展や 技術革新を活かして、 産業の新たな可能性を拓く。 創造的で活力ある"ふくい"

変化をチャンスに、 しごととくらしを創造。

[「目指す姿」の考え方]

先を見通しがたい、困難な時代に、SDGSの理念に沿った持続可能な社会を実現 するためには、今ある良さを次世代に継承することはもとより、新たな価値を創造し、 絶えず成長する経済社会であることが必要です。

福井県は、長い時間をかけて県民皆で培ってきた「安心と信頼の社会基盤」を有し、 今また、東西南北へと大きく広がる高速交通インフラの整備を進めています。これら を最大限に活かし、"くらしの安心"と"社会の活力"、そして"県民の誇り"が相乗 的に高まり、好循環を創出する「福井モデル」を確立していきます。

[2040年に福井県が目指す姿①]

自信と誇りのふくい

「ふくいらしさ」を大切に。 県民が誇りをもって暮らすことにより、 さらに多くの人を呼び込む"ふくい"

「ふくいらしさ」を伸ばし、外に開いて人を呼び込む。

〔方向性〕

くらしの積み重ねの中で受け継いできた人々の営み、支え合いなどの精神性、自然風土や歴史性、地域社会のつながり、農林水産業をはじめとする産業力など、すべてが「ふくいらしさ」であり「文化力」。こうした資産を守り、価値を高め、「選ばれるふくい」を築きます。

"内と外"の力で「ふくいらしさ」を次世代に

ふるさと教育と域外との交流により、"内と外"の両面から「ふくいらしさ」を 県民自ら再発見し、国境を越えた文明化が進む中、福井の文化力を次世代に継承し ます。

「暮らしのランドスケープ」の継承・活用

工芸、祭り、年中行事などの生活文化や食文化、まちなみ、農山漁村・農林水産業、里山里海湖などの景観・環境を、磨きながら20年先へとつなぎ、新たな観光・交流資源を創出します。

「新時代の文化力」を伸長し、人を呼び込む

人口減少の中、県民の主体的な行動と未来技術、関係人口の知見を融合し、福井を形づくる「新時代の文化力」を伸長します。そして外に開いて魅力を高め、発信し、移住・定住につながる好循環を創出します。

[2040年に福井県が目指す姿②]

誰もが主役のふくい

すべての人が輝き、互いに支え合い、 幸せを実感しながら、 将来にわたり安心して暮らせる"ふくい"

多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く。

〔方向性〕

人口減少により一人ひとりに期待される役割が広がる中、年齢や性別、 障がいの有無等に関わらず、多様性を認め合い、人生100年時代に誰もが 様々なことに挑戦できる「全員参加型」の共生社会を築きます。

ふくい発「健康文化」を創出

生涯生きがいを持って社会を支える新たな高齢者観を提唱し、人生 100 年時代を 生きる力を自ら培う「健康文化」を創出します。また、介護が必要となっても、障 がいがあっても、県民が支え合い、誰もが安心して暮らせる社会を築きます。

「生涯学び」のふくいを推進

技術革新、価値観の変化に対応し、常に新たな知見を学び、自己の知識や技能(セルフブランド)を磨き続ける「生涯学び」の福井を推進します。

「多役多業」の活躍人材輩出

複数の仕事や地域貢献活動に積極的に取り組む複線型の人生設計を描き「多役多業」で活躍する人材を輩出します。

全員参加型の共生社会を形成

外国人をはじめ多様な人材と交流・協働し、異なる価値観や互いのチャレンジを 認め合う寛容性の高い「共生社会」をつくります。

[2040年に福井県が目指す姿③]

飛躍するふくい

交通体系の進展や技術革新を活かして、 産業の新たな可能性を拓く。 創造的で活力ある"ふくい"

変化をチャンスに、しごととくらしを創造。

〔方向性〕

交流拡大や新技術により、経済・社会の仕組みが大きく変わる可能性。 こうしたチャンスを最大限に活かし、新時代の産業基盤を確固たるものに するとともに、くらしの質を高め、活力に満ちた地域をつくります。

「日本海国土軸」の形成

高速交通網早期完成により「日本海国土軸」を形成し、大交流時代において福井の優れた文化や生活スタイルを世界へ発信、交流します。

「エンタメふくい」の創造

観光・まちづくり・本物体験など観光・交流資源を磨き上げて「エンタメふくい」 を創造します。さらにくらし体験と心の交流を重視した"ポスト観光"の「交流産業化」を推進します。

価値づくり産業への進化

ものづくり、サービス、農林水産業などあらゆる産業において、温暖化、食料、エネルギーなど国際社会の課題や成長市場を先取りし、新たな価値を創り出す企業が次々に生まれ成長する、新時代の産業集積地を形成します。

「未来技術の人材育成」先進県の実現

A I・ロボット等の未来技術を開発する技術者やそれらの技術を創造的に活用できる人材を育成・輩出し、ベンチャー企業が集積する「未来技術の人材育成」先進地を形成します。

[基本理念と2040年の目指す姿]



(3) 基本目標

〔基本目標〕

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

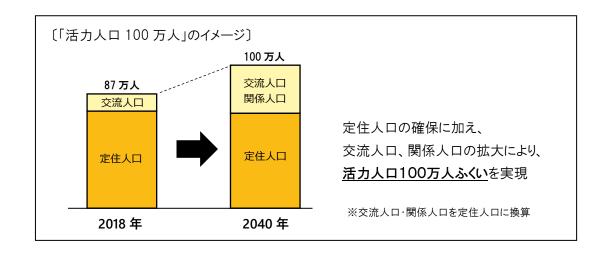
高速交通・物流網の早期完成により、日本海国土軸の中心に位置する本県が「国土の新拠点」に。千年を超える歴史と文化に一段と磨きをかけ、国内外から多くの人が往来。日本一の人材力・技術力を活かした新たな産業が集積し、「幸福度日本一」の質の高いくらしを実現する、新時代の活力と楽しさあふれるふくいを築きます。

※活力人口100万人:定住人口の確保に加え、交流人口・関係人口を拡大し、内と外が活発に交わる ことにより福井の活力を一段と向上

〔基本目標の考え方〕

様々な調査において、「幸福度日本一」と評価される総合力の高さは、他県に真似のできない本県最大の強みです。今後、北陸新幹線をはじめとする高速交通・物流ネットワークの飛躍的な向上により、本県の持つポテンシャル(潜在力)が最大化され、誰もが安心して豊かな生活を楽しみ、その魅力がさらに多くの人を惹きつける全国モデルの「くらしの先進地」になり得ると考えます。

住む人のしあわせを第一に、定住人口の確保を図るとともに、交流人口・関係人口を大きく拡大することにより、活力と楽しみにあふれる「活力人口100万人ふくい」を実現します。



〔人口の見通し〕

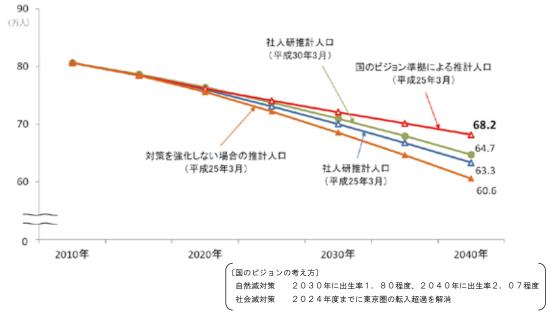
(定住人口)

国立社会保障・人口減少問題研究所の推計(平成25年3月推計)によると、2040年の本県人口は63.3万人まで減少する見込みでしたが、同研究所の最新推計(平成30年3月推計)によると64.7万人となり、5年前の推計に比べ、1.4万人改善しました。

人口問題の解決には長い期間を要することを念頭に、第2期「ふくい創生・人口減少対策戦略」(計画期間2020年度~2024年度)を策定し、引き続き人口減少対策を強化・継続します。あわせて、人口減少・超高齢化社会においても、幸せなくらしを維持するための適応戦略を進めていきます。

第2期戦略においても、前戦略の人口見通しの考え方を維持し、**中長期的に「社会増」、「出生率2.07」を目指します。**達成した場合には、2040年の推計人口は68万人と見込まれます。

福井県の総人口の将来見通し



(交流人口・関係人口)

県外からビジネスや観光で本県を訪れる交流人口を定住人口に換算した場合、現在は約10万人相当となります。今後、新幹線など高速交通ネットワークの整備効果や観光資源の磨き上げなどにより、交流人口の拡大を図るとともに、福井との多様な関わり方をもつ関係人口を拡大することにより、20年後には30万人相当以上の活力を生み出すことができると考えます。

100年に一度のチャンスを活かし、外に開いて国内外から多くの人を呼び込み、県民との新たな交流を拡げることにより、「しあわせ先進地」ふくいの活力を大きく高めていきます。

(4) 将来イメージ 「2040年のふくい」

2040年に福井県がどのような社会になっているか、県民共通の将来イメージを持つことが、実現に向けての推進力を高めることになると考えます。

ここでは、福井県の強みを伸ばすことにより実現する「ふくいの未来」を構想し、 県民の皆さんと共有します。

2040年には、北陸新幹線や道路、港湾などの高速交通・物流ネットワークが完成し、新時代の本県の交流、くらし、産業を支える基盤となっています。

この基盤を最大限に活かすとともに、千年を超える歴史・文化に磨きをかけることにより、国内外との交流が大きく拡がります。また、福井が誇るものづくり技術にデザイン力が結び付き、新たな価値を創り出す先進企業が次々に生まれ成長します。そして、豊かな自然環境の中、あらゆる世代が安心して生活し活躍できる「ふくいならではの質の高いくらし」が実現しているものと考えます。

こうした「2040年のふくい」について、「基盤」、「交流」、「くらし」、「産業」 の各分野における具体的な将来イメージを6つ示します。

[ふくいの将来イメージ] 古き良きを新しいよろこびに ともに楽しむ千年文化 交流 誰もがいつまでも居心地よく 自然といっしょに未来を育てる 全世代の快適人生 夢がかなう農林水産業 2040年の くらし 産 ふくい 業 上質なくらしの先駆け ものづくり × デザイン 感動につなぐ WAKASA リフレッシュエリア 価値づくり産業 基盤 日本地図を書きかえる

国土強化の 新ネットワーク

[基盤]

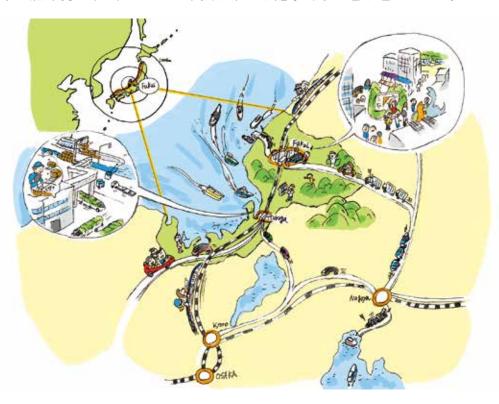
[2040年のふくい①]

日本地図を書きかえる

国土強化の新ネットワーク

「世界最先端のスマート港湾」敦賀港をはじめ、北陸新幹線や中部縦貫 自動車道の完成により、日本海側の重要拠点として、アジアや三大都市圏 との人流・物流が飛躍的に拡大

- 敦賀港が世界最高水準のスマート港湾に進化し、関西・中京からアジアへの物流を最速化。環日本海諸国への外貿航路や国内各地への内貿航路が拡大し、日本の一大物流拠点となっている。
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業により**坂井エリアが関東・東北・信越からの交流拠点**となり、多くの観光客があわら温泉に泊まりながら、東尋坊や丸岡城、一乗谷朝倉氏遺跡など県内各地の観光スポットに足を延ばして賑わっている。
- ・中部縦貫自動車道の全線開通により、中京と福井を結ぶ物流軸が完成し、奥越の産業 団地が中京への供給拠点となっている。また、冠山峠道路とあわせ、奥越・丹南が名 古屋から高山・白川郷等を結ぶ「昇龍道」広域観光の拠点となり、本物の自然体験や 伝統工芸体験を多くの人が楽しんでいる。
- ・北陸新幹線全線開業により**嶺南が関西至近の生活圏となり、**関西からの移住者が増え、 豊かな自然環境の中で、スポーツや食を楽しむ健康的な生活を送っている。



〔交流〕

[2040年のふくい②]

古き良きを新しいよろこびに ともに楽しむ千年文化

1500年の歴史を誇る伝統工芸をはじめ悠久の歴史に育まれたくらしや文化、自然風土など、福井の「千年文化」が継承され、オンリーワンの魅力に、国内外から多くの人々が惹きつけられ往来する一大交流地

- 1500年の歴史を持つ伝統工芸や職人の技、地元の人々が大切に守ってきた祭りなどの価値が大きく高まり、日本を代表する文化として国際的にも評価され、多くの観光客で賑わっている。
- 世界ナンバーワンの恐竜や年縞の研究拠点に、国内外から研究者が集まり、さらに研究成果が充実。その成果を学ぶ子どもたちが大勢訪れ、福井ファンが全国に拡大している。
- 三方五湖や東尋坊など国内屈指の景観を楽しみながら、**福井のプレミアム食材を用いた料理を味わえる高品質な宿泊施設**に世界中からインバウンド客が訪れ、長期滞在している。
- 「福井がおもしろい」を合言葉に集まった**若者が企画するアートや音楽イベント**に 多くの県民や観光客も参加し、一体となって盛り上がり交流を深めている。



[くらし]

[2040年のふくい3]

誰もがいつまでも居心地よく

全世代の快適人生

福井に残る家族・地域のつながりや、支え合いの精神を大切にしながら、 子どもからお年寄りまですべての世代が安心して暮らし、生涯活躍できる 全国モデルのしあわせ地域

- 日本一子育てしやすい県として評価され、全国から子育て世代が移住。豊かな自然環境や充実した教育環境のもと、家族が助け合い仲良く暮らしている。
- ・学力・体力トップクラスから、**個性を引き出し学びを楽しむ教育へと進化**し、子ども たちが夢と希望を持ち伸び伸びと育っている。
- ・仕事や地域活動などあらゆる分野でシニアが活躍。**健康長寿日本一のシニア**が、年齢に関係なく社会の支え手として人生 100 年時代を元気に過ごしている。
- ・自動運転車で安全便利に移動ができ、宅配・見守りサービスも充実。ICT 活用の医療・ 福祉も完備され、**介護が必要となっても高齢者が住み慣れた地域で温かく見守られ安** 心して暮らしている。
- 外国人や障がい者などが、分け隔てなく地域や職場で活躍。様々な考えを認め合う寛容な地域として全国から認められ、多様なつながりが生まれている。
- ・自助・共助の精神が根付き、様々な人が地域防災の担い手として活動。**治安が良く、** 住民同士が支え合いながら安全安心なくらしを実現している。



[くらし]

[2040年のふくい④]

上質なくらしの先駆け

WAKASA リフレッシュエリア

豊かな歴史と自然環境、洗練された美しい町並みに惹かれ、国内外から 多くの人が移り住み、未来技術を活用した新しい働き方と質の高い生活 を両立する「くらしの先進地」を全県に

- 生活圏となった関西からの移住者が増え、関西に通勤 通学しながら嶺南に暮らし、 サイクリングやマリンスポーツ、寺社仏閣巡りなど健康的で文化的な生活を満喫して いる。
- 美しい自然や悠久の歴史を体感しながら、古民家オフィスでテレワークするなど、 地方暮らしのモデルとして憧れる新しい働き方が実現している。
- **嶺北に住む人も嶺南の古民家シェアハウス等に滞在**し、豊かな自然や食を日常的に 楽しむなど、県民同士の新たな結び付きが生まれている。
- CO2 フリーエネルギーの先進県として、エネルギー循環型ハウスや自動運転車、遠隔 医療など**最新技術が集積するスマートタウン**が県内各地につくられ、多くの若者や 移住者が快適に暮らしている。



〔産業〕

[2040年のふくい⑤]

自然といっしょに未来を育てる

夢がかなう農林水産業

福井の生活や文化、農山漁村の風景を形づくってきた農林水産業が、 最新技術の活用やプレミアムブランドの創出により「稼ぐ力」を一段と 高め、若者が憧れる新たな成長産業に飛躍

- ・プレミアムブランド化された農産物や畜産物、地魚などが、首都圏や海外へ高値で取引され、**農林水産業の産出額が大幅に増加**している。
- 里山里海湖の豊かな環境に農家レストラン、漁家民宿、体験施設などが集まる「食と農の里」が各地に生まれ、**地域内外の人が交流するにぎわいのある農山漁村**となっている。
- ・県立大学を中心に新たな農林水産業ビジネスが生まれ、さらに園芸・林業・水産カレッジで実践力を身に着けた若者がその担い手となって活躍。**儲かる産業に進化**し、就労者が増えている。
- ・農業機械の自動運転や大規模園芸化、IoTを使った魚の増養殖など高効率化が進展。 新3K(かっこいい・稼げる・感動)産業に憧れる若者が集まり、女性や高齢者もい きいきと活躍している。



〔産業〕

[2040年のふくい⑥]

ものづくり×デザイン

感動につなぐ価値づくり産業

福井の産業集積とそれを支える高い人材力に、技術革新とデザインが 結び付き、新たな価値を創り出す先端企業が次々に生まれ成長する 「地域循環型」の新産業集積地

- ・成功した経営者が起業家を育成し、その起業家がさらに次の起業家を育成する人 材の循環が拡大し、新たな成長企業が続々と生まれている。
- ・航空・宇宙産業の拠点として関連企業が集積し、さらに**AI、ロボット、次世代エネルギーなどの最先端の技術を持つ企業が立地**。地元はもとより全国の優秀な人材の受け皿となり、世界を牽引する新産業成長エリアになっている。
- ・ものづくりの確かな技術を基に、デザイナーやクリエイターが協働して新たな価値を付加。ブランド化された高品質な製品・サービスが相乗的に生み出され、心を動かす「FUKU」デザイン」の評価が確立している。
- I T企業の現役技術者やOBが教えるこども向けのプログラミング教室が各地で日常的に開催され、次世代の技術者が次々に輩出されている。



(5) 2040年に向けた長期プロジェクト

福井県は、日本海国土軸の中心に位置し、関西・中京との結節点であるという地理的優位性を有しています。また、伝統工芸など千年を超える歴史と文化、地域の絆の強さや助け合いの精神、日本一の人材力と技術力を有しており、これらは福井県が誇る大きな強みといえます。

2040年に向けて、このような福井県の強みを最大化し、基本目標である「しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい」と6つの将来イメージを実現するため、20年間の長期プロジェクトとして、「県境フロンティア」、「千年文化の継承発展」、「くらしの新デザイン」、「価値づくり産業創造」の4つのプロジェクトを推進します。

【長期プロジェクト】

ふくいの強みを最大化する4つの長期プロジェクト

福井県の強み

- ① 日本海国土軸の中心地 「日本海国土軸」の中心に位 置し、関西・中京との結節点 にある地理的優位
- ② 千年を超える歴史と文化 1500年の歴史を誇る伝統工芸 をはじめ、悠久の歴史と文化 の圧倒的な厚み
- ③ 地域のつながりと支え合い 集落等の共同生活の中で育ま れた地域の絆の強さや助け合いの精神
- ④ 日本一の人材力と技術力 教育水準が高く、勤勉でまじ めな県民性と優れた技術を持 つ産業集積

「幸福度日本一」の地域力

様々な調査において「幸福度 日本一」の評価を受ける総合 力の高さ

1 県境フロンティアプロジェクト

東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備を加速し、新時代の交流・くらし・産業の基盤をつくる

2 千年文化の継承発展プロジェクト

千年を超える歴史・文化やオンリーワン の魅力に磨きをかけ、「交流」と「楽し さ」を大きく拡げる

3 くらしの新デザインプロジェクト

地域の絆と支え合いの精神を大切に、新たなつながりと最新技術を活かし、「日本一質の高いくらし」を実現する

4 価値づくり産業創造プロジェクト

地域産業の厚みと優れた人材力を基に、 技術革新とデザインを結び付け、新たな 価値を生み出す産業をつくる

4つの長期プロジェクトにより実現する2040年のふくい

世

先進

モデ

ル

活

力

人

100万人ふくい

1 県境フロンティアプロジェクト

東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備を加速し、 新時代の交流・くらし・産業の基盤をつくる

○アジアへ最速「敦賀港」

- ・敦賀港を先端技術の導入による世界最高水準の高効率・高利便性を誇る 「世界最先端スマート港湾」へ進化
- ・環日本海諸国との外貿や国内各地への内貿航路の充実・拡大
- ・南海トラフ等の大災害時には日本の拠点港湾として機能発揮

○新幹線で東京・大阪に直結

- ・福井・敦賀開業および新大阪までの「早期全線開業」の実現
- ·新幹線5駅を中心としたまちづくりとMaaSなど2次交通の整備

○中京・関西につながる大動脈

- ·中部縦貫自動車道の「早期県内開通」
- ·舞鶴若狭自動車道の「早期4車線化」
- ・高規格道路へのアクセス道路や産業団地、道の駅等の整備

○誰もが等しく超高速通信

・福井県情報スーパーハイウェイ(FISH)やケーブルテレビ等の光ファイバー網の整備などにより、誰もが超高速通信ネットワークを利用できる「超スマート社会」を実現

<県境フロンティア>

県境エリアを、新たな交流やビジネスが生まれるフロンティア(新天地)に転換。 相乗的に中心エリアも発展し、県勢が飛躍的に拡大

「南の玄関口」 「北の玄関口」 「東の玄関口」 「西の玄関口」 新幹線福井·敦賀開 中部縦貫道·冠山峠 敦賀港の最先端ス 新幹線全線開業に マート港化で関西・ 業により坂井エリア 道路開通により奥 より嶺南が関西至 が関東・東北・信越 越・丹南エリアが中 中京からの物流を 近のリフレッシュ からの交流ハブに 京から日本海への 最速で世界へ エリアへ 人流・物流拠点へ

2 千年文化の継承発展プロジェクト

千年を超える歴史・文化やオンリーワンの魅力に磨きをかけ、 「交流」と「楽しさ」を大きく拡げる

○オンリーワンを伸ばす

- ·「世界一の恐竜研究」を追求・推進し、その成果をもとに、県内に多彩な恐竜 体感の場を創出
- ・福井城址や北の庄城址などを活かした**「歴史のシンボル」**を県都に設置
- ・東尋坊や三方五湖など唯一無二の自然環境を核にインバウンドに人気の新たな 「リゾートエリア」を形成
- ・年縞博物館を世界的な「年縞研究拠点」へ進化
- ・敦賀を拠点に、欧亜国際列車や「命のビザ」など世界を体感する**「人道の港」**を 整備

○「千年文化」の磨き上げ

- ・継体天皇ゆかりの越前漆器や川上御前の伝説が残る越前和紙など1500年前から現代まで続く伝統工芸をはじめ、お水送りなどの伝統行事や、氣比神宮、羽賀寺等の寺社仏閣など、悠久の歴史を誇る「千年文化」を活かした交流促進
- ・歴史文化施設の充実や、福井ゆかりの先人を主人公とする大河ドラマ誘致により、古代から中世・戦国・幕末近世まで、あらゆる時代を学び楽しむ 「歴史体感エリア」のスケールアップ
- ・宿場町など歴史的まちなみや伝統産地に、「福井がおもしろい」を合言葉に若者・よそ者が集まる「チャレンジ No.1 ふくい」



県立恐竜博物館



越前和紙

3 くらしの新デザインプロジェクト

地域の絆と支え合いの精神を大切に、新たなつながりと 最新技術を活かし、「日本一質の高いくらし」を実現する

○スマートエリアの形成

- ・太陽光発電・蓄電池等を搭載したスマートハウスや自動運転車、遠隔医療など、 最新技術が集積する「未来型スマートエリア」を各地に形成
- ・2050年の二酸化炭素排出実質ゼロ**「ゼロカーボン」**を目指し、風力や水素などOO2フリーエネルギー導入を推進
- ・豊かな歴史文化と自然環境の中、文化的・健康的に暮らす「WAKASAリフレッシュエリア」の形成

○くらし安心「住みやすさ改革」

- ·「日本一の出会い・子育で」応援から「次世代包括ケアシステム」まで。つながりを活かし生涯安心して暮らせる全国モデルのしあわせ地域づくり
- ・有償ボランティアや、 I C T 等の活用により、高齢者の移動手段等を確保する 「つながる次世代コミュニティ」創出
- ・日本一安全・安心な「**防災・治安先進県**」ふくいの推進
- ·「SDGs」の理念に基づき、持続可能な安心社会を形成



水素ステーション



古民家を改装した宿泊施設

4 価値づくり産業創造プロジェクト

地域産業の厚みと優れた人材力を基に、技術革新とデザインを 結び付け、新たな価値を生み出す産業をつくる

○農林水産業を成長産業へ

- ・食の「プレミアムブランド化」により、国内外へ販路を拡大
- ・農林水産業のスマート化や観光農園、増養殖や県産材利用の拡大等により、 新時代の「**稼げる農林水産業」**を実現
- ・県立大学新学科や園芸カレッジ等の人材育成システムと結び付け、「**食と農の** プラットフォーム」(総合基盤)を形成

○ものづくりから価値づくりへ

- ・成功した経営者が次世代に投資し、将来を担う起業家を育成。新たな価値を 創造する「福井型エコシステム」の確立
- ・後継者の全国公募や後継ぎベンチャー支援など、福井らしさを活かした 「**事業創継」**の推進
- ·「デザインの力」を最大活用し、地域産業をブランド化

○先進技術ふくいの拠点形成

- ・最新技術を有する企業の誘致、地域産業への技術革新導入により、「**先端技術** 企業の一大集積地」へ
- ・超小型人工衛星の製造や航空機素材の開発など、「**航空・宇宙産業の拠点化」**を 推進
- · 次世代電池や水素など「未来エネルギー技術」活用推進

○未来のAⅠ技術者育成

- ・「A | 人材育成システム」により、未来技術を開発・活用できる次世代人材を 数多く育成・輩出
- ・最新技術を学ぶ「**AIカレッジ」**の開講等により、県内企業で活躍する高度専門人材を育成



ふくい園芸カレッジ研修

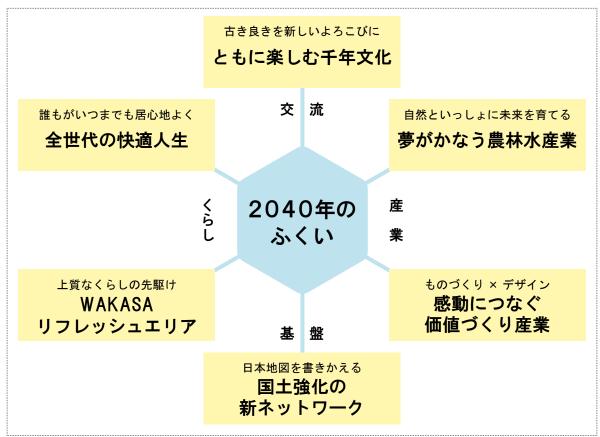


企業の試作品開発等に使える「デザインラボ」

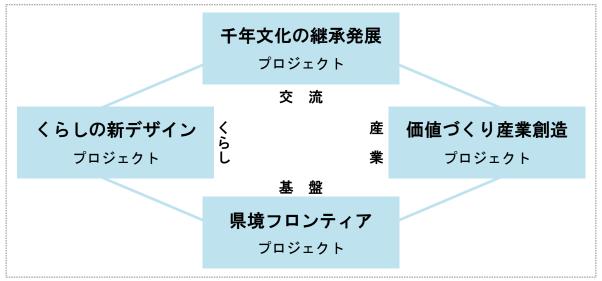
[基本目標]

しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

[ふくいの将来イメージ]



[2040年に向けた長期プロジェクト]

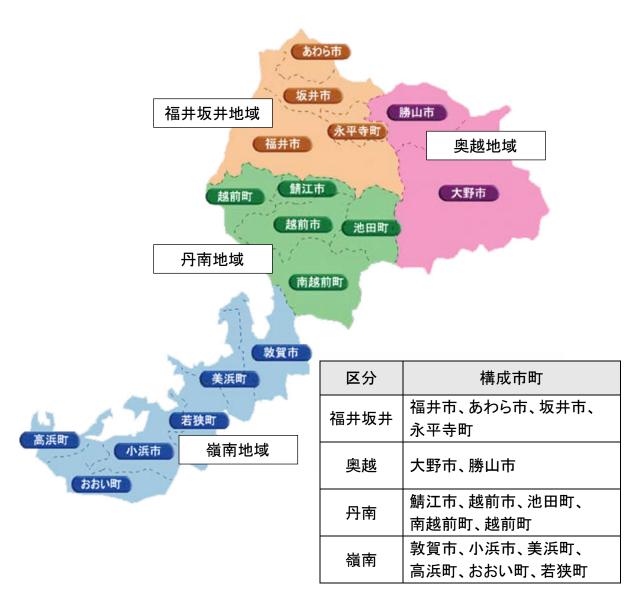


(6) 地域別の将来像

福井県は日本海沿岸から内陸・山間部まで自然環境の変化に富んでおり、また、歴史・文化的背景や、産業、人口・都市機能など、様々な分野で地域ごとに特色が異なります。県全体だけでなく、地域の特色を踏まえた2040年の将来イメージを共有し、市町とともに実現を目指します。

[地域区分の考え方]

自然的・社会的条件から一体性を有し、これまでも広域的な視点から行政が進められてきた「福井坂井」、「奥越」、「丹南」、「嶺南」の4つの地域に区分し、将来像を示します。



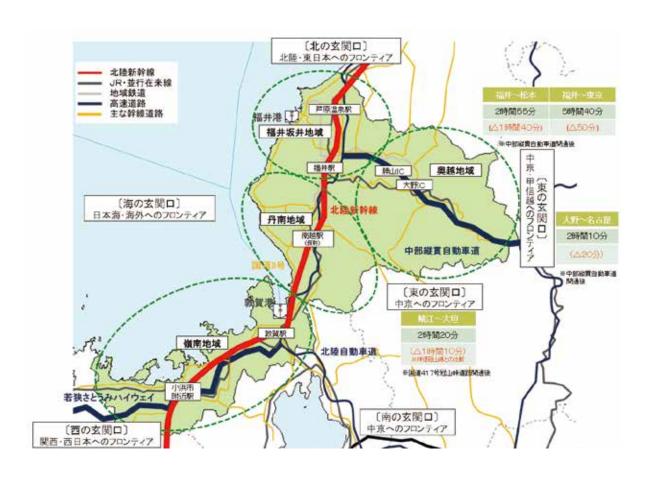
[2040年の高速交通インフラ]

2040年ごろには、北陸新幹線、リニア中央新幹線ともに大阪まで全線開業していると考えられます。また、中部縦貫自動車道の大野油坂道路も完成し、東海北陸自動車道に接続しています。舞鶴若狭自動車道(若狭さとうみハイウェイ)の4車線化も進み、冠山峠道路も開通するなど、福井県が東西南北に開くゲートウェイが完成しています。

これにより、奥越地域は中京方面への東の玄関口に変わるとともに、福井から中京までつながる「東西交流軸」の拠点となります。丹南地域は岐阜県と通じて中京圏と直接つながり、そして嶺南地域は関西との近接性が一層高まることになります。

さらに、福井の空の玄関口である小松空港に加え、敦賀港の鞠山南国際物流ターミナルの整備やスマート港湾化等も進み、陸・海・空の各方面で本県の立地条件が高まります。

本県は古来、奈良・京都の都に近い、「こしのみちくち(越前)」であり、日本海側の中央に位置する東アジアの玄関口でした。高速交通網が完成する今、改めてその優位性を最大限に発揮し、県勢を大きく飛躍させていくことが重要です。



福井坂井地域

〔特長と変化〕

・あわら温泉をはじめ、東尋坊や永平寺、一 乗谷朝倉氏遺跡など集客力の高い観光地 が多く、観光客入込数の約4割を占めてい ます。



- ・テクノポート福井のような大型産業団地や、大学・研究機関、産業支援機関が多く立地し、産業活動が活発であり、県内の製造品出荷額の45%を占めます。また、県都福井市を中心に都市機能や商業機能も集積し、県内の商品販売額の7割を占めています。
- ・福井平野や坂井北部丘陵地は、水田農業や園芸生産の盛んな地域です。九頭竜川 パイプラインのような基盤施設のほか、県立大学や試験場などの人材育成・研究 開発施設も立地しており、スマート農業など新しい取組みも進んでいます。
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業時に、福井駅・芦原温泉駅の2つの新幹線駅が開業するとともに、リニア開業時には福井一東京が2時間あまりで結ばれます。中部縦 貫自動車道の県内全線開通により、北陸自動車道、福井港丸岡インター連絡道路 など高規格道路の結節点になります。

[福井坂井地域の将来イメージ (2040年)]

- ・歴史を活かした県都のまちづくりが進捗。永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡や三国 湊、丸岡城などの歴史遺産、東尋坊、あわら温泉など、福井を代表する観光 資源が集積する**歴史と自然が調和したにぎわいエリア**
- ・繊維や化学、機械などの企業、産業支援機関、大学などがオープンイノベーションの推進により、**革新的な技術や製品を生む未来産業創造エリア**
- ・県立大学や園芸カレッジ等による人材育成と、スマート農業、園芸導入による 複合経営、食のブランド化により**新たな価値を生み出す食と農のプラット** フォーム*エリア

※プラットフォーム:総合基盤

・自動運転やMaaS、オンデマンド交通[※]など、県民や観光客にとって<u>新たな</u> 移動手段が実現する先端交通エリア

※オンデマンド交通:利用者の予約に応じて運行される交通システム



歴史と自然が調和したにぎわいエリア



食と農のプラットフォームエリア

奥越地域

〔特長と変化〕

・白山国立公園や奥越高原県立自然公園に指 定されている緑豊かな地域であり、スキー 場を含め自然を活かしたアウトドア施設 が多く立地しています。また、年間90万



人を超える観光客が訪れる恐竜博物館のほか、平泉寺白山神社や「天空の城」越 前大野城など、歴史・文化遺産も高い評価を得ています。

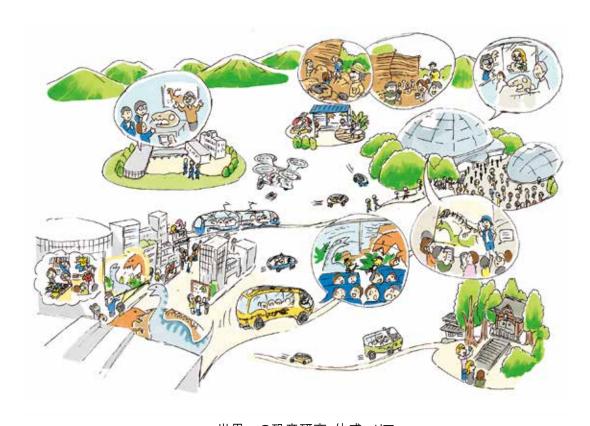
- ・地域の85%が森林であることから森林面積は県内で最も広く、林業が盛んであり、間伐材等を活用する木質バイオマス発電所も稼働しています。また、サトイモや勝山水菜など、山・里の恵みも豊富です。
- ・中部縦貫自動車道の県内全線開通により、大野一名古屋間は約2時間となり、北陸と中京・東海の経済・観光圏が一体化します。奥越地域は、本県の東の玄関口となるとともに、福井から中京までつながる「東西交流軸」の拠点となります。

[奥越地域の将来イメージ (2040年)]

- ・日本一の星空にも選ばれた六呂師高原や刈込池の雄大な自然と野外活動、 天然記念物に指定された恐竜化石や発掘現場など、**ほんものの大自然を** 体感するエリア
- ・福井と中京を結ぶ「東西交流軸」の拠点として、産業団地や道の駅を中心に 新たに人や企業が集まり交流する新産業集積エリア
- ・中世宗教都市の歴史を感じる白山平泉寺、越前大野城やその城下町など、 奥越前の歴史遺産ブランドエリア
- ・農地・森林を保全し、その豊かな農山村の資源を活かした農林水産業の振興と6次産業化による、**にぎわいと活力の里地里山ビジネスエリア**



大自然と歴史遺産のブランドエリア

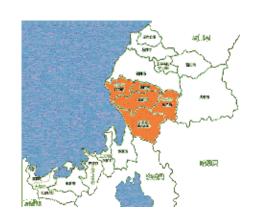


世界一の恐竜研究・体感エリア

丹南地域

〔特長と変化〕

・世界有数の産地である眼鏡産業や機械・電子機器など、製造品出荷額が県全体の4割を占める「ものづくり」のとても盛んな地域です。近年は、IT企業のサテライトオフィス*等も開設されています。



※サテライトオフィス:都市企業の地方拠点

- ・越前和紙や越前焼など5つの国指定伝統的工芸品の産地が集積する国内でも特徴 的なエリアです。近年は、越前古窯博物館のオープンなど拠点整備も進むととも に、体験型の産業観光も盛んです。
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業時に設置される南越(仮称)駅は、丹南地域の中心部 に位置するとともに、北陸自動車道や国道8号にも近接しており、地域の新たな 拠点となります。
- ・冠山峠道路(国道417号)の開通により、岐阜県西濃地域を経由した往来が可能になり、中京圏との交流が年間を通じて拡大します。

[丹南地域の将来イメージ (2040年)]

- ・越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前箪笥の5つの伝統工芸や 眼鏡・繊維など長い歴史を有する地場産業と電子・化学等ハイテク産業が 集積し、**伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア**
- ・高い技術を有する地場産業や先端技術産業、豊かな自然を活かした農林水産業などに魅力を感じて集まった移住者、女性、外国人など**様々な人たちが** 共生しチャレンジするエリア
- ・越前海岸における越前水仙などの景観、生き物に配慮した環境保全型農業の水田地帯、北国街道の今庄宿や鉄道遺産など、**行き交う歴史や自然が魅力の 街道新交流エリア**
- ・伝統的民家や農家民宿などに滞在し、伝統工芸・クラフト体験や農業体験など地域の営みを楽しむ**新たな「しごととくらし」の観光エリア**



伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア



行き交う歴史や自然が魅力の街道新交流エリア

嶺南地域

〔特長と変化〕

・リアス式海岸に形成された三方五湖や蘇洞門など若狭湾の自然景観、越前一之宮・氣 比神宮や本堂が国宝指定の明通寺などの 由緒ある古刹・仏像、日本遺産にも指定された鯖街道や北前船などの歴史遺産、地質

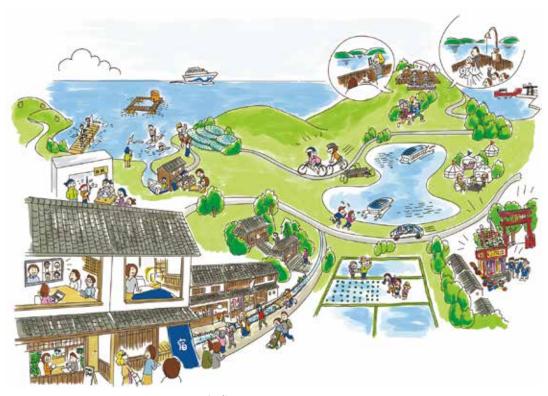


年代測定の世界標準である年縞、ふぐ・へしこ・梅といった海里の幸など、観光 資源が豊富であり、県全体の観光入込客数の27%を占めています。

- ・国内最多の原子力発電所が立地し、半世紀にわたって関西地域への電力供給に大きく貢献しています。また、様々な原子炉が集積する特徴を活かし、原子力・エネルギーの研究開発や人材育成の拠点を目指した取組みを進めています。
- ・北陸新幹線全線開業により小浜一京都間が19分で結ばれるなど、立地条件が劇的に変化するとともに、舞鶴若狭自動車道の4車線化や敦賀港の物流機能強化などの整備も進み、関西と嶺南が一つの生活・経済圏になります。

[嶺南地域の将来イメージ (2040年)]

- ・京都・大阪との近接性、自然や歴史・文化・食の魅力、安心の子育で環境を活かし、嶺南から関西に通勤し、創造的に働きながら文化的・健康的に過ごせる**くらしの先進地「WAKASAリフレッシュエリア」**
- ・スマートエリアの整備、デコミッショニング(廃炉)ビジネスの育成、新たな 試験研究炉を核とした研究・人材育成の拠点化や産業創出により、**人や企業が 集まる嶺南Eコーストエリア**
- ・新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、 漁家民宿など**嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア**
- ・人々の手で守り継承されてきた伝統芸能・祭り、寺社仏閣、食文化などを 学び、交流する**伝統文化を学び体感するエリア**



くらしの先進地 WAKASA リフレッシュエリア



人や企業が集まる嶺南Eコーストエリア

第2部 実行プラン

1 基本的な考え方

第1部将来構想では、2040年頃に福井県として目指す将来像を描きました。 第2部実行プランでは、この将来像を実現するため、最初の5年間(2020~2024 年度)で実行する主な政策・施策を示します。

これらの政策・施策を進めるにあたっては、福井の「文化」と「デザイン」の力を 活かし、政策の質を向上させます。

〔「文化」と「デザイン」の力〕

福井県では、置県100年(昭和56年(1981年))を機に、「文化のふるさとづくり」を提唱しました。成熟化社会に向かう中、先人によって築き上げられた福井の伝統と文化を活かした、さらにより人間らしい生活のできるふるさとづくりを志向してきました。

ここで言う「文化」は、『学術、芸術等の分野のみではなく、衣食住など身のまわりの文化、生活空間、産業等、県民生活全般』(第4次福井県長期構想(昭和58年)より)に関わる、県民のくらしに深く根差したもの(生活文化)です。

福井には、地理的、歴史的、産業的、あるいは宗教的な背景等により、他県にない、 さらには他県に勝る文化力(福井らしさ)が培われており、それらが現在の幸福度の 土台でもあると考えられます。

地域間競争が一層厳しさを増し、個性が問われる時代、また、SDGsに象徴されるように経済成長のみを追い求める価値観からの転換が求められる時代に、福井の文化力を再評価し、行政が様々な事業・プロジェクトに文化性を加味することはもとより、県民自らも主体的に、「文化力を活かす県づくり」を進めていくことが重要です。

その際、もう一つ重要なことが、「デザイン思考」です。デザイン思考とは、色や形など表面的なデザインのことではなく、問題の本質がどこにあるのかを考え、自由な発想で解決のアイデアを示して、その解決策を分かりやすく設計し表現する手法です。福井県では、かつて「デザイン立県」を掲げ、『デザインがかけはしとなり、生活と産業が一体化して発展するふくいの創造』(ふくい21世紀ビジョン、平成9年(1997年))を目指してきました。この考え方を改めて見直し、再び前に進めていくことが必要です。

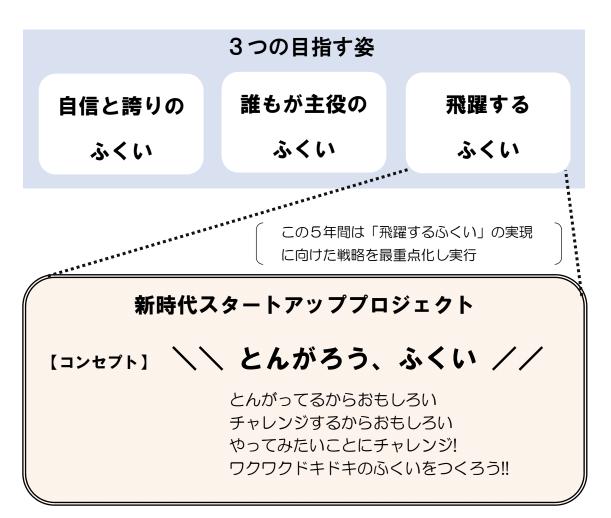
デザイン思考は、課題の本質を見極め、新たな価値を創造していくために不可欠です。とりわけ、有形・無形の福井の「文化」をくらしや産業等に活かすには、デザインの力が重要です。

行政においても、デザインの活用領域を様々な政策分野に広げ、政策目的を課題解 決型から価値創造型へと転換(政策のデザイン化)していくことはもとより、県内全 体でこの考え方を活かす「デザイン思考の地域づくり」を進めていきます。

新幹線県内開業等を迎えるこの5年間は、3つの目指す姿のうち、特に『飛躍する ふくい』の実現に向けた戦略を「新時代スタートアッププロジェクト」として位置付け、「ふくいエンタメ計画」、「次世代チャレンジ宣言」、「しあわせアクション運動」の3つのプロジェクトを最重点化し実行します。

このプロジェクトは、新幹線開業等を機に外に開いて人を呼び込み、「県民参加」と「市町協働」によって実行する、"行政だけが担うプロジェクト"ではなく、"一人ひとりが参加し育てるプロジェクト"として推進します。

プロジェクトのコンセプトは「とんがろう、ふくい」です。従来の枠にとらわれない発想やチャレンジを応援し、ワクワクドキドキの「もっとおもしろい福井」を創造します。



※「とんがろう、ふくい」には、一人ひとりが個性を発揮し、変化や失敗を恐れず、 お互いのチャレンジを応援し合う福井を目指そうという想いを込めました。

2

新時代スタートアッププロジェクト

「飛躍するふくい」の実現に向けた2020~2024年度の最重点化プロジェクト

【コンセプト】 \\ とんがろう、ふくい //

とんがってるからおもしろい チャレンジするからおもしろい やってみたいことにチャレンジ! ワクワクドキドキのふくいをつくろう!!

ふくいエンタメ計画

~ふくいの魅力を とがらせよう~

「ふくいをもっとおもしろく」を 合言葉に。

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会を創出



[目標]

ビジット2000

※観光客入込数 2,000 万人 (2024年)

次世代チャレンジ宣言

〜チャレンジで 未来をつくろう〜

「果敢なチャレンジ」で ふくいの未来を創造。

「次世代ファースト」 の観点から、創業支援、 働き方改革等により若者 に魅力ある仕事を創り、 尖った企業・人材を輩出



[目標]

スタート3000

※創業・事業承継等の件数 3,000 件 (2020~2024 年度計)

しあわせアクション運動

~一人ひとりが プレイヤーになろう~

「一人ひとりの小さなアクション」がふくいを変える。

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る「県民総参加」の社会を 形成



[目標]

アクション1000

※県民の主体的な活動応援 1,000 件 (2020~2024 年度計)

新幹線開業等を機に、外に開いて人を呼び込み、「県民参加」と「市町協働」によって、 "行政だけが担うプロジェクト"ではなく"一人ひとりが参加し育てるプロジェクト"に

(1) ふくいエンタメ計画

~ふくいの魅力をとがらせよう~

「ふくいをもっとおもしろく」を合言葉に。

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、 県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなでつくります。

目標 ビジット2000

※観光客入込数 2.000 万人(2024年)

〇観光・まちづくりに重点投資

ハード・ソフト両面から観光地やまちの魅力を磨き上げ、国内外から多くの人を 呼び込みます。

- ・4 つの新幹線駅を中心とした魅力あるまちづくりと**MaaS**など 交通ネットワークの充実
- · **恐竜博物館のフルモデルチェンジ**をはじめ、東尋坊、丹南伝統 工芸産地、三方五湖、若狭湾など、観光地や宿泊を磨き上げ て**リゾートエリア**を形成
- ・越前がに、いちほまれに続く**「食のプレミアムブランド」**確立と **日本一のそばどころふくい**の発信



観光地の磨き上に(三方五湖)

- ・恐竜や戦国、食等を活用した観光列車の運行
- ・地域に短期滞在し、生活するように福井を楽しむ「微住」の促進
- ・福井を舞台とした**大河ドラマや朝ドラ、映画等の誘致**の促進
- ・観光客の宿泊につなげる「イルミネーションエリア」の創出

〇国体レガシーを活かし「アスリートの聖地」へ

平成30年福井国体・障スポの成果・レガシーを活かし、スポーツが持つ力でたくさんの人を惹きつけます。

- ・地域スポーツコミッションによる**大規模スポーツ大会**の誘致
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業に向けたフルマラソンの開催検討
- ・地元の機運盛り上げによる**トップスポーツチーム**の育成
- ・サイクルツーリズムなど自然を活かしたイベント、体験プログラムの開発



大規模スポーツ大会誘致 (アスリートナイトゲームズ)

〇まちとくらしに音楽・アート

1500年の歴史を持つ越前和紙や漆器など伝統文化から、音楽やアートなど現代文化まで、福井に根差す「文化」を活かし、まちなかや集落ににぎわいを創出します。

- ・音楽・芸術など多彩な「フェス」の通年、県内各地での開催
- ・出張美術館など県民がいつでも文化芸術を楽しめる場づくり
- ・伝統工芸・クラフト体験に触れながら産地に滞在する**クラフト** ツーリズムの拡大



まちなかでの「フェス」開催 (ONE PARK FESTIVAL2019)

(2)次世代チャレンジ宣言 ~チャレンジで未来をつくろう~

「果敢なチャレンジ」でふくいの未来を創造。

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革等により 若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

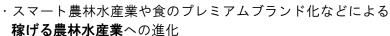
目標 スタート3000

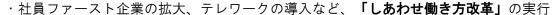
※創業・事業承継等の件数 3,000 件(2020~2024 年度計)

〇新分野チャレンジ「創業するならふくい」

先端技術や新分野への挑戦、国内外でのシェアトップ、新しい働き方など、 若者に魅力ある"尖った"企業・産業を育成・応援します。

- ・先輩経営者による助言や投資などによる**ベンチャー企業**の 応援強化、将来的な株式上場などモデルとなる福井を代表 する企業の創出
- ・後継人材の全国公募や後継者の新分野展開(後継ぎ ベンチャー)応援等による**「事業創継」**促進
- ・お金・人・技術等の経営資源が県内で循環する**「福井型** エコシステム」の構築







県内企業の上場例

〇次世代を担う人材の輩出

起業家、A I · I T技術者、デザイナー、一次産業経営者、様々な分野の研究者など、次代を担う"尖った"人材を育成・応援します。

- ・農や水産増養殖を学ぶ学科、古生物関係学部など、県内大学における学部・学科の新設・拡充
- ・FAA ふくいアカデミックアライアンスによる大学連携 強化、都市圏大学と連携した国内留学や企業・地域と協働し たPBLの導入等による「ふくい創生人材」の育成



FAAの設立

〇日本一の出会い・子育て応援

将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」 をつくります。

- ・新たな**婚活サポート拠点開設**やマッチングシステム導入等による若者の出会い応援
- ・男性の育休や不妊治療休暇の取得促進など、仕事と妊娠・出産・子育ての両立応援
- ·保育料無償化の第2子以降への拡充や、3人目以降への新たな支援など、子育て応援をさらに強化

(3)しあわせアクション運動

~一人ひとりがプレイヤーになろう~

「一人ひとりの小さなアクション」がふくいを変える。

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る「県民総参加」 の社会をつくります。

目標 アクション1000

※県民の主体的な活動応援 1.000 件(2020~2024 年度計)

〇県民の"夢実現"を徹底応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の"アクション"を応援します。

- ・若者ミライ会議や若者ステーション開設等による**若者の** チャレンジ応援
- ・自らの夢を発信し、共感を得て実現を目指す「**夢実現** クラウドファンディング」の推進
- ・健康長寿なシニアによるボランティア活動、短時間就労、創業、 文化・スポーツ活動など、それぞれの100年人生充実を応援
- ·「有償ボランティア」による県民の地域・社会貢献促進



若者のチャレンジ応援 (プランコンテスト)

〇課題解決へ県民アクション

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を広げます。

- ・新幹線開業効果を高める県民主体のプロジェクトの実現応援
- ・住民発の地域課題を | Tで解決する「シビックテック」推進
- ・市民自らまちの将来を考え、行動につなげる**「将来構想ワーク ショップ」**の開催
- ·「ソーシャルベンチャー」(社会起業家)育成による自走可能な まちづくり活動の拡大



市民発のまちづくり活動 (「できるフェス」)

<u>〇ローカルチャレンジ「移住するならふくい」</u>

国内外との交流を拡大し、外部の人材による福井応援を促進します。

- ・「河和田アートキャンプ」のような**学生の長期滞在**による 地域課題解決・活性化事例の他地域展開
- ·大都市圏からの**「ふるさと兼業」**人材の誘致
- ·子育て世帯を呼び込む移住支援を強化
- ・県内サテライトオフィス等での「テレワーク」や「ワーケー ション」[※]等の推進

※ワーケーション:仕事(work)と休暇(vacation)を組み合わせた造語で、 休暇中に旅先で仕事をする新しい働き方



学生の長期滞在 (河和田アートキャンプ)

3 分野別政策

2040年頃の将来像を実現するため「学びを伸ばす(人材力)」、「成長を創る(産業力)」、「楽しみを広げる(創造力)」、「安心を高める(地域力)」、「ともに進める(総合力)」の5分野に分け、5年間(2020~2024年度)に実行する主な政策・施策を示します。

[目指す姿と5つの分野]

<目指す姿>



SDGs (誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会)の理念に沿いながら、3つの姿を目指す。

<u>自信と誇りの</u> ふくい

「ふくいらしさ」を大切に。 県民が誇りをもって暮らす ことにより、さらに多くの 人を呼び込む"ふくい"

「ふくいらしさ」を伸ばし、 外に開いて人を呼び込む。

誰もが主役の ふくい

すべての人が輝き、 互いに支え合い、幸せを実感 しながら、将来にわたり 安心して暮らせる"ふくい"

多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く。

飛躍する

ふくい

交通体系の進展や 技術革新を活かして、 産業の新たな可能性を拓く。 創造的で活力ある"ふくい"

変化をチャンスに、しごととくらしを創造。

<5つの分野>

- ○将来像の実現を目指して、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行
- ○福井の<u>「文化」と「デザイン」</u>の力を活かし、政策の質を向上

学びを	成長を	楽しみを	安心を	ともに
伸ばす	創る	広げる	高める	進める
(人材力)	(産業力)	^(創造力)	^(地域カ)	^(総合カ)
ふくいは人が宝。	力強い産業基盤	多彩な魅力で	人生 100 年時代の	協働による
地域を支え、	の確立。	交流拡大。	「健康文化」創造。	県民主役の県政。
未来を創造する	チャレンジできる	交通新時代の	くらしを守る	外に開き
人材の育成	地域経済の構築	活力の創出	安全・安心	連携強化

5分野の方向性は次のとおりです。この5分野に18の政策の柱を立て、それぞれの政策を構成する施策・取組みを示すとともに、政策ごとにこの5年間で特に重視し実行する「重点施策」を掲げます。

[5分野の方向性]

分野	方向性
学びを伸ばす (人材力) ふくいは人が宝。 地域を支え、未来を創造する 人材の育成	福井の人材力を最大の武器に。心豊かで個性にあふれ、ふるさとを愛する、福井の次代を担う人材を育成します。また、誰もが様々なことにチャレンジでき、自分らしさを発揮できる、多様性が魅力の社会を目指します。
成長を創る (産業力) 力強い産業基盤の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	新たなことに挑戦し、可能性が拡がる地域 経済に。新産業育成や新事業創出などに積極 的に挑戦し、若者が魅力を感じる、活気と好 循環の地域経済を目指します。
楽しみを広げる (創造力) 多彩な魅力で交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人が人を呼び込み、交流拡大を地域の力に。 深みのある歴史・文化や自然を活かし、多様 な魅力・楽しみを創り出し、すべての世代が 誇りを持ち、ワクワク・ドキドキする、個性 と活力にあふれるまちを目指します。
安心を高める (地域力) 人生 100 年時代をリードする 「健康文化」の創造。 くらしを守る安全・安心	人生 100 年時代を健康・安心に。新たな高齢者観を構築し、子どもからシニアまで生涯健康であることを志向する「健康文化」を育みます。また、医療・福祉・防災等を充実させ、安心して暮らせる地域を目指します。
ともに進める (総合力) 協働による県民主役の県政。 外に開き連携強化	徹底現場主義による県民主役の県政実現。 県民・企業・団体・市町など「チームふくい」 が一丸となり行動するとともに、県境を越え る広域連携を強化し、将来像の実現を目指し ます。

[各分野の政策・重点施策]

	東・里点肔策」	
分野	政策	重点施策
	1 夢と希望を持ち、 ふくいを愛する子どもの育成	個性を引き出し、学びを楽しむ教育 プロジェクト
学びを伸ばす	2 ふくいの産業・社会を支える 人づくり	「ふくい創生人材」育成プロジェクト
(人材力)	3 多様な価値観を認め合う 「共生社会」の実現	みんなが主役「ワンチームふくい」 プロジェクト
	4 希望が叶う 「結婚・出産・子育て」応援	子だくさんふくいプロジェクト
	5 農林水産業の力で ふくいをブランドアップ	稼げる農林水産業創出プロジェクト
成長を創る	6 地域経済のイノベーション	お金・人・技術の地域内循環・拡大 プロジェクト
(産業力)	7 Society5.0 時代の新産業創出	ものづくり産業の新市場挑戦 プロジェクト
	8 拡大する世界市場を ふくいの成長へ	世界市場チャレンジプロジェクト
	9 100年に一度のまちづくり	新幹線ゲートウェイ開発プロジェクト
楽しみを 広げる	10 北陸新幹線開業効果を最大化	観光リゾートエリア形成プロジェクト
(創造力)	11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略	関係人口拡大プロジェクト
	12 文化・スポーツがふくいの活力	文化・スポーツによる「エンタメ福井」実現 プロジェクト
	13 人生 100 年時代の 健康ライフスタイル	ふくい発「健康文化」創造プロジェクト
安心を高める	14 いつでもどこでも 安心の医療・介護・福祉	次世代包括ケアシステム推進 プロジェクト
(地域力)	15 ふるさとの暮らしと風景の維持	持続可能な次世代コミュニティ創出 プロジェクト
	16 防災・治安先進県ふくいの実現	安心の防災基盤強化プロジェクト
ともに進める	17 「チームふくい」の行政運営	市町協働による行政サービス向上 プロジェクト
(総合力)	18 広域パートナーシップの強化	地方連携による基盤整備・交流拡大 プロジェクト

2020年~2024年の会ままは\とんがろう、ふくい// チャレンジで 一人ひとりが ふくいの魅力を 未来を作ろう プレイヤーになろう とがらせよう ~ふくいエンタメ計画~ ~次世代チャレンジ宣言~ ~しあわせアクション運動~ 観光や文化、スポーツなどの おもしろい仕事を 一人ひとりのできることを考えて、 とがった魅力でたくさんの みんなで増やそう! 持ち寄ろう! 人を呼び込もう! みんながしあわせな、 みんなの「小さなアクション」を みんなが楽しめるまちを作ろう! 新しい働き方を実現しよう! 積み重ねて、ふくいを変えよう!

FUKUI

3

l 学びを伸ばす(人材力)

~ふくいは人が宝。地域を支え、未来を創造する人材の育成~

人口減少・高齢化や長寿命化、 A | 等の技術革新など、社会情勢が大きく変化する中、福井の未来を拓くには、地域を支え変化に挑戦する人づくりが最も重要です。 そのため、福井の高い教育力を土台に、一人ひとりが生涯にわたって、自ら学び、 新たな可能性に挑戦する、創造性豊かな人材を育成します。

また、多様な個性や価値観を認め合い、女性や若者、高齢者、障がい者、外国人など、一人ひとりが自分らしさを発揮できる「全員参加型」の共生社会の実現を目指します。

[実行する政策]

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成

- 【施策1-1】個性や主体性を育む探究的な学びの推進
- 【施策1-2】一人ひとりの多様性を認め合う教育の充実
- 【施策1-3】ふるさとへの誇りと愛着を育む教育の推進
- 【施策1-4】新たな時代を見据えた教育環境の整備
- 【施策1-5】私立学校の振興

政策2 ふくいの産業・社会を支える人づくり

- 【施策2-1】若者に魅力的な大学づくり
- 【施策2-2】産学官連携による地域人材の輩出
- 【施策2-3】多様な人生設計を支える学びの充実

政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現

- 【施策3-1】男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現
- 【施策3-2】若者・シニアのチャレンジ応援
- 【施策3-3】社会貢献活動の参加拡大
- 【施策3-4】多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」の推進
- 【施策3-5】認知症の人やがん患者が自分らしい生活を送れる社会の実現

政策4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援

- 【施策4-1】若者の出会いと結婚応援
- 【施策4-2】安心して出産・子育てできる環境の整備
- 【施策4-3】待機児童ゼロの実現
- 【施策4-4】社会全体で子育てを応援する仕組みづくり

学力・体力全国トップクラスの高い基礎力をもとに、子ども自身の個性を「引き出す教育」、好奇心や探究心を持って学びを「楽しむ教育」を推進し、自らの可能性に挑戦し、一人ひとりの個性が輝く福井の子どもを育成します。

























【重点施策】

個性を引き出し、学びを楽しむ教育プロジェクト

ICT等の技術革新の急速な進展や、児童生徒数の減少による小規模校の増加に伴い、一人ひとりの能力や特性に応じた学習に移行していくことを見据えて、主体的・協働的な学びや、適性や興味関心に応じたスポーツ・文化芸術活動を通じ、個性を発揮し、福井の未来を担う子どもを育成します。

〇子どもの個性を引き出すきめ細かな教育の推進

- ・学級編制基準の見直しによる少人数学級や習熟度別指導の充実、小学校への英語教科担任制の導入、タブレット等の I C T 機器を活用した授業改善や学習支援を推進
- ・普通科系高校における国内外の高校生とともに探究する授業など魅力ある学校づくりの推進、職業系高校における最先端技術(A I・IoT等)を学ぶカリキュラムの充実や地域企業等との連携強化
- ・特別支援学校における農業体験実習の拡大および新たな就職先の開拓
- ・子どもと向き合う時間を確保するため、学校における働き方改革を推進

など

〇ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成

- ・ふるさと学習の成果や地域の伝統文化を発表し、交流する「福井ふるさと教育フェスタ」 の開催、小・中学校の校外学習や放課後子どもクラブにおけるエネルギー環境教育・座禅 など嶺南・嶺北を交流する体験活動の充実
- ・様々な企業等から講師を招いたキャリア講座を開催し、全校に配信

など

〇適性や興味関心に応じたスポーツ・文化芸術活動の充実

- ・国体での継続的な上位入賞に向けた「スポジョブふくい」による有望選手の確保やお家芸 競技の育成を推進するとともに、市町教育委員会等と運動部活動のあり方を検討
- ・吹奏楽推進校の拡大など文化部活動の充実、授業や部活動への演奏家・芸術家等の派遣 など



タブレットを使用した学習



吹奏楽推進校での講習会

【施策1-1】個性や主体性を育む探究的な学びの推進

子どもの意欲や能力を最大限に引き出す教育や、幼児教育と小学校教育とのスムーズな接続、豊かな感性やチャレンジする力を育む文化芸術・スポーツ活動などを充実し、一人ひとりが個性を発揮し挑戦する人材を育成します。

No.	主な取組み	SDGs
1	確かな学力の育成 タブレット等を活用した一人ひとりの能力・特性に応じた学習の推進や、 学級編制基準の見直しによる少人数学級(小学校)や習熟度別指導など(中 学校)を充実します。 また、探究的な学習を通じ、学んだ知識・技能を活用する力を育成します。	(係教育) 4 ####################################
2	魅力ある県立学校づくりの推進 授業時数の見直しによる補習や地域連携活動など学校独自の取組みの推進、普通科系高校における国内外の高校生とともに探究する授業や教科横断型授業の導入など、県立高校の活性化・特色化を図ります。	(@教育) 4 ************************************
3	幼児教育の推進 幼児教育支援センターによる幼児教育の質の向上や、幼児教育と小学校教育との接続の推進、新たな家庭教育支援講座の開催等による子育て支援の充実など、幼児教育を推進します。	(④教育) 4 **AALE
4	文化芸術活動の充実 大型楽器の購入や合同練習会への講師派遣など吹奏楽推進校の取組みの拡 大や、授業や部活動への演奏家・芸術家等の派遣による鑑賞や実技指導の機 会提供などを行います。 また、文化施設を活用して文化芸術に触れる機会を充実します。	(④教育) 4 ####################################
(5)	トップアスリートの養成 小・中学生の競技特性に沿った体験会による有望選手発掘や、「スポジョブふくい」やオリンピックに挑戦する選手の雇用支援によるU ターン促進、地域に根差したお家芸競技の育成など、国体や全国大会などに向けた選手や指導者を育成します。	(②教育) 4 ************************************

【施策1-2】一人ひとりの多様性を認め合う教育の充実

誰もが主役の共生社会を目指し、子どものころから一人ひとりの多様な存在や価値観を認め合い、協働して課題を解決する人材を育成します。

No.	主な取組み	SDGs
1	お互いを尊重し豊かな心を育む教育の推進 親子で学ぶ道徳講座など道徳の授業を充実するとともに、性的マイノリティ (LGBT) や外国人など様々な課題に対応した人権教育を推進します。 また、図書館司書等による推奨図書の選定など学校や県立図書館などにおける読書活動を推進します。	(④教育) 4 ************************************
2	たくましく健やかな体を育む教育の推進 ICT機器を活用した授業改善など学校体育の充実や健康教育・食育を推進 します。 また、市町教育委員会や中・高体連と連携して運動部活動のあり方を検討す るなど、持続可能な運動部活動の運営体制を整備します。	(()教育) 4 **ANE
3	グローバル化に対応した教育の推進 給付型奨学金の充実等による海外留学の促進やグローバルキャンプの実施など海外の生徒等との交流を充実します。 また、小学校における英語教科担任制の導入や中学・高校を通じた外部検定試験の活用等により、4技能(聞く・読む・話す・書く)を育成します。	(④教育)
4	特別支援教育の推進 特別支援教育センターによる巡回相談など障がいのある幼児児童生徒への 指導・支援を充実するとともに、特別支援学校におけるタブレット等を活用し た学習支援やキャリア形成支援を行います。 また、看護職員の配置など医療的ケアの実施体制を強化します。	(①教育) 4 **ALE**********************************
(5)	いじめ・不登校対策の充実 SNS等を活用した相談窓口の開設やスクールロイヤーによる法律相談体制の構築など、いじめの未然防止・早期発見に向けた取組みや、不登校対策、高校中途退学防止対策、教育相談体制を充実します。	(①教育) 4 **ALE
6	外国人児童生徒等に対する教育環境の整備 外国人児童生徒等の学校生活への円滑な適応を図るため、支援員の配置や多 言語翻訳機導入への支援等を行うほか、全日制県立高校において特別入試枠を 設置するなど、外国人生徒等の高校進学を促進します。	(④教育)
7	家庭環境や地域に左右されない教育環境の確保 A 教材やオンラインによる遠隔授業・研修システムなどを活用した教育を 充実するほか、「福井県きぼう応援奨学金」制度の実施など経済的に困難な子 どもの修学支援を充実します。	(④教育) 4 MARIE MARIE 1175 MARIE MARI

【施策1-3】ふるさとへの誇りと愛着を育む教育の推進

地域の人々とふれあいながら、郷土について学び発信する教育や地域課題を発見・解決する教育等を推進し、ふるさとや自然を愛し、社会や地域に貢献する人材を育成します。

No.	主な取組み	SDGs
1	ふるさと教育の推進 小・中学校の校外学習や放課後子どもクラブにおいて嶺南・嶺北を交流する体験活動を充実するほか、小・中学生がふるさと学習の成果や地域の伝統文化を発表し、交流する教育フェスタの開催など、地域への理解を深め、社会に貢献する志を育むふるさと教育を充実します。	(④教育)
2	社会や地域を担う人材の育成 県立高校において、様々な企業等から講師を招いたキャリア講座を開催するなどキャリア教育を推進します。 また、企業の技術者を招きA I・IoT等の最先端技術を学ぶなど職業系高校における産業教育のほか、主権者教育等を推進します。	(①教育)
3	文化財の保存・継承 文化財パトロール制度の拡充など適正な維持管理を推進するとともに、 小・中学校における出前授業や公民館等における講座開催などにより、ふる さとへの愛着や文化財保護意識の醸成、維持管理の担い手育成を推進します。	(④教育)
4	生涯学習の推進 子どもたちが大人になっても引き続き郷土について愛着を持ち続けていけるよう、生涯学習センターにおいて多様な学習機会を提供するとともに、社会教育の振興や、県立図書館等の機能を充実します。	(④教育) 4 ************************************

【施策1-4】新たな時代を見据えた教育環境の整備

学校における働き方改革や教職員の資質・能力の向上、地域・家庭・学校の連携・協働を進めるとともに、学校の安全・安心対策を充実します。

加利	を進めるとともに、子牧の女王・女心対象を北美しより。	
No.	主な取組み	SDGs
1)	学校における働き方改革の推進 「福井県学校業務改善方針」に基づき、市町教育委員会等と連携し学校運営体制の整備や教員の意識改革を進めるとともに、中学校の部活動を教員数のおおむね2分の1として指導の負担を軽減するなど働き方改革を推進し、教員が子どもと向き合う時間を確保します。	(8)成長・雇用)
2	教職員の資質・能力の向上 教職の魅力発信や教員採用試験の見直しなどにより優れた教職員を確保するとともに、教員研修を充実します。 また、学びを楽しむ授業や、子どもの好奇心を刺激するクラブ活動を実践する教員の活動を支援します。	(④教育) 4 ************************************
3	地域との連携・協働の推進 放課後子ども教室や放課後児童クラブの設置および両事業の連携による放 課後の安全・安心な居場所づくりを進めます。 また、学習支援や登下校の安全確保など保護者や地域住民によるボランティア活動等を推進し、子どもの学びや育ちを支える取組みを充実します。	(金教育) 4 ###### #############################
4	家庭教育支援の充実 家庭教育アドバイザーによる出前講座など保護者に対する学習機会を提供するとともに、子育て経験者や教員 OB等による訪問型の支援など家庭教育相談体制を充実します。	(④教育)
(5)	安全・安心な学校づくり 「県立学校施設の長寿命化計画」を踏まえ、施設の安全確保や機能向上等 を推進します。 また、魅力を高め、選ばれる県立学校にするため新たな校舎のあり方を検 討するとともに、防犯・交通安全教育や防災教育を推進します。	(②教育) 4 **ALE

【施策1-5】私立学校の振興

私立学校の特色ある教育を支援し、福井の将来を担う人材を育成します。

No.	主な取組み	SDGs		
1	私立高校や専門学校などの特色ある教育の充実 学力・スポーツ・文化など様々な分野の活動を支援するなど私立学校の魅力ある学校づくりを支援するほか、職業系学科・コースの充実や地元企業でのインターンシップなど地元定着を推進する取組みを支援します。	(金教育)		
2	私立高校の授業料無償化 私立高等学校の授業料について、国の就学支援金制度の拡充にあわせ、福井県独自に授業料無償化を拡充し、公私間の保護者負担の格差を解消します。	(④教育) 4 **ALC		

3

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成

[政策目標]

- ○一人ひとりが個性を発揮し、自らの可能性に挑戦する人材が育成されていること
- ○多様な人々と協働し新たな価値を創出する人材が育成されていること
- ○ふるさとや自然を愛し、社会や地域に貢献する人材が育成されていること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査) (高校生学習状況調査)	小学校 88.4% 中学校 74.2% 高校 73.5% (2019)	小学校 90.0% 中学校 75.0% 高校 75.0% (2024)	(④教育) 4 ####################################
課題の解決に向け、自分で 考え、自分から取り組む児 童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 80.5% 中学校 78.2% (2019)	小学校 85.0% 中学校 80.0% (2024)	(④教育)
学校に行くのは楽しいと思 う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 88.4% 中学校 84.9% (2019)	小学校 90.0% 中学校 85.0% (2024)	(④教育) 4 FEEL STREET
地域や社会をよくするため に何をすべきかを考えるこ とがある児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 58.7% 中学校 44.7% (2019)	小学校 60.0% 中学校 45.0% (2024)	(④教育) 4 **AE
競技スポーツの全国大会で の上位入賞数(1~3 位) (福井県調べ)	290 件 (2018)	100 件/年を維持 (2020~2024)	(①教育) 4 ####################################

[関連する主な計画等]

教育に関する大綱、福井県教育振興基本計画、福井県スポーツ推進計画 福井県文化財保存活用大綱、第3次福井県子どもの読書活動推進計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○地域の伝統行事やボランティア活動に積極的に参加
- ○スポーツや文化芸術など様々な活動を子どもと一緒に体験
- ○子ども達を対象とした学習支援や登下校の安全確保に協力
- ○子どもに読み聞かせを行うなど、家庭での読書に親しむ機会をつくる
- ○家庭での食事を通し、子どもと一緒に食への関心を高める

産学官連携による福井の産業や自然を活かした教育・研究を推進し、若者に魅力的な学びの場を創出するとともに、人生 100 年時代のリカレント教育を充実し、生涯活躍・成長を続ける人材を育成します。

















【重点施策】

「ふくい創生人材」育成プロジェクト

人口減少社会が到来する中、魅力的な大学づくりによる県内高校生の県内進学促進や、産業界・市町との協働による学生と県内企業・地域との結び付き強化を図り、福井の未来を創生する人材を育成・輩出します。

〇魅力的な大学づくりによる県内進学促進

- ・高校生の県内大学進学割合を現在の3分の1から2分の1に高めるため、県内の大学と 高校等との連携を強化
- ・県内大学に、農や水産増養殖を学ぶ学科や古生物関係の学部など福井の特色を活かした 新学部・学科を創設し、各大学の強みを磨き上げ
- ・県立大学に、福井県の産業・歴史・健康等に関する基礎的研究や政策的課題等について、 調査・研究・提言を行うシンクタンク機能を整備
- ・都市部の大学と協定を締結し、学生が相互に行き来する国内留学制度を導入 など

○県内企業や地域と協働したPBL (Project-Based Learning) *・共同研究の強化

- ・コーディネーターを配置し、若者ならではの斬新な発想や行動力を活かした商品開発、 店舗改装などを通じ、中小企業等と学生をマッチング
- ・現場の社員と連携し、現実の企業課題を題材とするなど実践力を養う学習を促進 など ※PBL(Project-Based Learning): 学生が地域や企業に関わる課題解決型学習

〇「FAA ふくいアカデミックアライアンス」による県内大学の連携強化

- ・複数の大学教員が分担するオムニバス講義の開講など、大学連携センターの講義内容を 見直し、発展的に継続
- ・地元定着につながるリカレントプログラムを実施し、U | ターン希望の社会人と県内 大学との橋渡しや、プロジェクト受講者に対する地元企業への就職仲介、移住支援 など



Fスクエア (実践恐竜学) の講義風景



学生によるPBLの成果発表

【施策2-1】若者に魅力的な大学づくり

FAA ふくいアカデミックアライアンスと連携し、福井の特色を活かした新学部・学科を創設するなど、県内外から学生を呼び込む学びの場を創出します。

No.	主な取組み	SDGs
1	新学部・学科の創設 地場産業の振興・地域の持続性を担える実力を備え、地域の課題解決に貢献できる人材を育成するため、広く農を学ぶ「創造農学科」、水産増養殖を中心に学ぶ学科等を新設します。	(金教育) 4 #ALLE
2	世界的な学術研究拠点の創出 恐竜学研究所の学術成果や大学院の教育研究実績を活かし、国内外の研究 機関等との共同研究を推進するとともに、恐竜などの古生物を中心に、年稿 に関する古気候学等も取り入れた古生物関係の学部の開設を検討します。	(④教育) 4 ###### #AAL
3	県立大学にシンクタンク機能を整備 県立大学に、福井県の産業・歴史・健康等に関する基礎的研究や政策的課 題等について、調査・研究・提言を行うシンクタンク機能を整備します。	(④教育)
4	若者に魅力ある学びの場の創出 海外での長期インターンシップ制度創設や、大学連携センターにおける各大学の専攻分野を組み合わせた講義の開講、オンライン授業の充実、都市部の大学と学生が相互に行き来する制度の導入等により、若者のニーズや地域・社会の要請に応え、学びの質を向上します。	(④教育)
5	留学生の受入れ・定着の促進 授業料の減免や住環境の整備に対する支援を行うとともに、国内外において県内大学の魅力をPRするなど、留学生の受入れを拡大します。また、留学生と県内企業とのマッチングを強化し、卒業後の県内定着を促進します。	(④教育) 4 ####################################

【施策2-2】産学官連携による地域人材の輩出

県内の大学や企業、自治体などとの連携により、地域に根差した教育・研究を推進し、福井を支える人材育成を強化します。

No.	主な取組み	SDGs
1	県内大学等の連携強化 FAA ふくいアカデミックアライアンスを中核に県内大学等が協働し、地域の大学としての魅力向上や機能強化を図るとともに、県内高校等との連携を強化し高校生の県内大学進学割合を現在の3分の1から2分の1に高めることを目指します。	(④教育)
2	現場の学びを通じた実践力の強化 産業界・市町と協働したPBL※・共同研究の実施により企業現場での学生の実習機会の拡大や地域の課題解決への参画を強化し、本県の次世代を担う人材を育成します。 ※PBL(Project-Based Learning): 学生が地域や企業に関わる課題解決型学習	(④教育)
3	大学連携センター「Fスクエア」の充実 福井の特色を学ぶ共通講義や「ふくい地域創生士」制度、キャリアナビセンターの就職相談機能など、Fスクエアを発展的に継続するとともに、教養教育の共同化に向けた検討を行います。	(@教育)
4	地域産業を担う人材の育成 「越前若狭 田んぼ道場」や「園芸・林業・水産カレッジ」、「伝統工芸職人 塾」など、各産業分野における人材育成を充実し、未来の地域産業を支える 人材を輩出します。	(①教育)
(5)	共同研究の充実 「ふくいオープンイノベーション推進機構(FOIP)」が持つ大学、企業等とのネットワークを活かした共同研究の実施や新分野展開への支援により、技術革新へ対応する産業人材を育成します。	(④教育) 4 ************************************

【施策2-3】多様な人生設計を支える学びの充実

長寿命化やA I・Io T等の技術革新などに対応する複線型・キャリア向上型の多様な生き方・働き方が可能となるよう、リカレント教育などを充実します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	「リカレント教育総合支援センター」の設置 中小企業産業大学校に「リカレント教育総合支援センター」を開設し、企 業内のキャリア形成や長期的視点に立った人材育成を支援するコンサルタン トを配置するなど、個人・企業の学び直しを総合的に支援します。	(金教育)
2	リカレント教育の充実 大学連携センターや県内大学において新たな講座を開設するなど、社会人を対象としたリカレント教育を充実します。 また、地域企業の人材ニーズに応じたプログラムを設計するなど地元定着につながるリカレント教育を実施し、U ターン希望の社会人と県内大学との橋渡しや地元企業への就職支援を行います。	(④教育) 4 **ALC
3	生涯学習の推進 県民が生涯を通じて活躍し、より豊かな人生を送るため、生涯学習センターや青少年教育施設等において、生きがいを見つけたり地域の魅力を発見するなど、ニーズにあわせた学びや交流の場を提供します。	(④教育)

[政策目標]

- 〇高校生の県内大学進学率が向上するとともに、大学生等の県内企業就職が 増加していること
- ○大学等における地域や社会のニーズに応える教育が充実し、福井の産業・ 社会を支える人材が輩出されていること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
県内高校卒業生の 県内大学進学率 (福井県調べ)	35.8% (2018 年度卒)	40% (2024 年度卒)	(⑪まちづくり)
県内大学等卒業者の 県内就職内定率 (福井県調べ)	60.6% (2018 年度卒)	65% (2024 年度卒)	(⑪まちづくり) 11
PBL・学生が参加 する共同研究数 (福井県調べ)	40 件 (2018)	100 件 (2024)	(④教育)
県内大学の学部・学科・コ ースの見直し (福井県調べ)	<u> </u>	7件 (2020~2024計)	(④教育)
Fスクエアにおける 社会人受講者数 (福井県調べ)	<u> </u>	150 人 (2024)	(①教育)
キャリアアップに係る支援 制度を新たに設けた企業数 (福井県調べ)	<u> </u>	150 社 (2020~2024 計)	(②教育)

〔関連する主な計画等〕

福井県立大学第3期中期計画、ふくい創生・人口減少対策戦略、福井経済新戦略新ふくいの農業基本計画、ふくいの水産業基本計画、ふくいの森林・林業基本計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○家庭において福井で働くことの魅力や楽しさを子どもに話す
- ○地域の高校生や大学生に地元の大学や企業の魅力を伝える
- ○職場において、学生が参加するPBL・共同研究の場を提供
- ○実務で培った知識・技能・経験を基に、学生の実践的な教育に協力
- ○リカレント教育プログラムに積極的に参加

政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現

女性、若者、高齢者など、性別や年齢に関わらず、誰もが様々なことに挑戦できる 共生社会を実現します。また、障がい者、外国人など、障がいの有無や国籍等に関わ らず多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」を推進します。















【重点施策】

みんなが主役「ワンチームふくい」プロジェクト

女性や若者、高齢者、障がい者、外国人など、それぞれの個性や価値観が尊重され ながら、「チームふくい」の一員として様々なことに挑戦し活躍できる、誰もが主役 の共生社会を実現します。

○性別、年齢に関わらず誰もが挑戦できる社会の実現

- ・固定的な性別役割分担意識をなくし、生活スタイルを転換する「共働き方改革」により、 女性の負担軽減と多様な活躍が可能な「男女共生社会」を実現
- ・家族みんなで家事・育児を楽しむ「共家事(トモカジ)」の促進や短時間勤務やテレワーク など女性が働きやすく暮らしやすい職場・生活環境の整備
- 「ふくい若者ミライ会議」の開催や地域の交流・活動拠点「ふくい若者ステーション」の 設置によるネットワークの拡大など、若者の新たなチャレンジを応援
- ・多様な働き方の普及や地域での有償ボランティアへの参加など、シニアの社会貢献と 自己実現を促進 など

○障がい者、外国人など多様な人材が活躍する社会の実現

- ・日常生活の中で、共生社会を身近に実感できるよう、障がい者へのサポート内容を表明 する商業・医療施設の拡大やカーポートパーキング(屋根付き駐車場)の設置を促進
- ・企業における短期の就労体験の実施などにより、障がい者の就労を支援
- ・外国人労働者の就業・生活環境の向上を目指す企業への支援を行うとともに、建設分野に おける生活支援や介護分野における現地での人材育成等を支援する仕組みを構築
- ・支援員の配置や多言語翻訳機導入への支援、全日制県立高校特別入試枠設置など、外国人 児童生徒等の教育環境整備のほか、外国人留学生に対する授業料減免や住環境支援を実施 など



共家事イベント



外国人児童への個別指導

政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現

【施策3-1】男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現

家族みんなで家事・育児を楽しむ「共家事(トモカジ)」や女性が働きやすい職場・ 生活環境づくりなど、「共働き方改革」により生活スタイルを転換し、男女が性別に 関わりなく多様な活躍ができる真の「男女共生社会」を実現します。

No.	主な取組み	SDGs
1	「共家事(トモカジ)」の促進 夫婦や家族で一緒に買い物や料理を楽しむ「共家事(トモカジ)」運動や男性の育児休暇取得の促進、家事の省力化など、女性の負担を軽減し、家族みんなで家事・育児を楽しむスタイルへの転換を推進します。	(55±254-)
2	働く女性の活躍支援 中小企業を対象に専門家によるコンサルティングを実施するほか、「ふくい女性活躍推進企業」への登録促進や先進企業の表彰、働き方改革やテレワーク導入への支援など、女性が働きやすい職場環境を整備します。	(⑤ジェンダー) 5 ⑤
3	女性のキャリアアップ支援 お茶の水女子大学と連携した女性リーダー育成研修や創業支援、「ふくい女性活躍支援センター」によるキャリア相談、講座・セミナーの開催など、意欲ある女性のキャリア向上を応援します。	(5ジェンダー) 5 (5) (5) (5) (5) (6) (7)
4	女性が福井で多様な夢を実現できる環境づくり 地域おこしや社会貢献、起業など、本県の女性の多様な夢を県民と共有し、 県全体で応援する機運を醸成します。 また、お茶の水女子大学と連携し、女性の夢の実現や幸福実感に向けた新 たな政策を提案します。	(⑤ジェンダー) 5 (⑤)

【施策3-2】若者・シニアのチャレンジ応援

自由な発想や活動の多様性が広がるよう、若者の活動を「ちょい足し」応援します。また、就労や社会貢献など、シニアの経験や知識・技能を活かす活躍の場を拡大し、人生 100 年時代の生涯活躍を応援します。

No.	主な取組み	SDGs
1	若者の交流拡大 地域で活躍する若者が一堂に会し、交流を図るとともに福井の未来に向けた意見交換を行う「ふくい若者ミライ会議」を開催するなど、若者同士のネットワーク拡大と福井の活性化につながる活動を促進します。	(①パートナーシップ) 17

2	若者拠点の設置 県内各地域の共同オフィス等に「ふくい若者ステーション」を設置し、交流・活動拠点を「見える化」することにより、にぎわいを創出するとともに、地域における若者活動への参加拡大を図ります。	(m/->yy7) 17
3	若者の主体的な活動を応援 福井の活性化につながる若者の新たな「ワクワクチャレンジ」を応援する ほか、若者自ら未来を考え、行動につなげる「将来構想ワークショップ」の 開催や「ソーシャルベンチャー(社会起業家)」の育成など、県民の主体的な アクションを応援します。	(⑪パートナーシップ) 17
4	ふるさと納税を活用したチャレンジ応援 クラウドファンディングにより寄付を全国から募るなど、起業や商品開発、イベント開催等の地域活性化につながる県民のチャレンジを、ふるさと納税を活用し応援します。	(⑪バートナーシップ) 17 (・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(5)	社会参加を通じた「生涯活躍」の推進 経験や知識・技能を活かした地域貢献や新たな社会参加を促すとともに、 有償ボランティアとして生活支援などの活動に参加できる仕組みを整え、元 気な高齢者の活躍の場を拡大します。	(⑩不平等) 10 (・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6	シニア人材活躍支援センターによる就業促進 シニア人材活躍支援センターに配置したキャリアアドバイザーと求人開拓 員による就業意欲の喚起と企業の求人開拓など、高齢者のニーズを踏まえた 多様な就業機会の確保を進めます。	(⑧成長・雇用)

【施策3-3】社会貢献活動の参加拡大

すべての世代の県民、企業、団体等が、もっと気軽に、楽しみながら、社会貢献活動ができるよう、参加しやすい環境づくりと活動の意欲向上を推進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	社会貢献活動に参加しやすい環境づくり 社会貢献支援ネットによるボランティア団体と参加希望者とのマッチング 支援やふくい県民活動・ボランティアセンターにおけるNPO法人の運営支 援などにより、県民のボランティア参加を拡大します。	(Bバートナーシップ) 17 (Managara (B) (Managara)
2	社会貢献活動の活性化や有償性導入による参加者層の拡大 新たな地域貢献活動に取り組むNPO等を「ちょい足し」応援するととも に、有償性を取り入れたボランティア活動を支援することにより、やりがい や持続性の向上を図り、若者など参加者層を拡大します。	(B/A-h7->yy7) 17 (British 27)
3	災害ボランティア活動の推進 訓練の実施や研修会の開催などにより、平常時から備えるとともに、災害 時には、活動拠点の設置・運営やボランティアバスを運行するなど、県民や 市町等と協働し災害ボランティア活動を推進します。	(BK-1+-2yz) 17 ************************************

【施策3-4】多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」の推進

県民の多様性への理解を促進するとともに、障がい者や外国人等が、住みやすく働きやすい環境を整備します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	県民の共生社会への意識の醸成 商業施設や医療機関等の設置者が、障がい者への配慮事項やサポート内容 を表明する取組み(出入口へのマーク表示)の普及や、障がい者や高齢者等 が雨天時等も利用しやすいカーポートパーキング(屋根付き駐車場)の整備 促進など、日常生活の中で共生社会を身近に実感できる取組みを推進します。	(億不平等)
2	障がい者の就労支援 企業での短期の就業支援、セルプフェアや優先発注等の販路拡大や、農業など 新しい分野への進出支援を行い、障がい者が適性に応じて働くことができる環境 を構築します。また、特別支援学校において、校内外での農業体験実習の拡大等 により生徒の職業スキル向上を図るとともに就職先を開拓し、就業を促進します。	(③成長・雇用)
3	障がい者スポーツ・アートの推進 障がいのある人とない人がともにスポーツに親しむ機会の創出や障がい者 スポーツ選手の育成などユニバーサルスポーツを推進するとともに、展覧会 の開催など障がい者による文化芸術活動を応援します。	(07平等)
4	外国人が安心して快適に暮らし、働くことができる環境の構築 外国人との共生社会の実現に向けた多文化共生プランを策定し、企業の就業・生活環境の整備に対する支援や、外国人コミュニティリーダーによる地域住民との橋渡し、生活に必要な情報や日本語学習機会の提供など、外国人も自助・共助を担う、安心して暮らせる環境づくりを進めます。	(⑩不平等)
(5)	外国人材の活躍促進 外国人雇用に関する相談窓口の機能強化や海外向けに本県の魅力のPR等を行うとともに、建設分野における生活支援や介護分野における現地での人材育成等を支援する仕組みを構築します。	8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
6	外国人児童生徒等に対する教育環境の整備 支援員の配置や多言語翻訳機導入への支援、全日制県立高校における特別 入試枠の設置、教員採用試験におけるポルトガル語等の検定資格に対する加 点制度の導入など、外国人児童生徒等の教育環境整備を推進します。	(③教育)
7	留学生の受入れ・定着の促進(再掲) 授業料の減免や住環境の整備に対する支援を行うとともに、国内外において県内大学の魅力をPRするなど、留学生の受入れを拡大します。また、留学生と県内企業とのマッチングを強化し、卒業後の県内定着を促進します。	(②教育)
8	人権意識の啓発 一人ひとりが互いの尊厳を認識し、尊重し合う社会をつくるため、性的マイノリティ(LGBT)や部落差別問題など様々な人権問題について、福井県人権センターを中心に教育・啓発などの取組みを推進します。	(0不平等)
9	人と動物が幸せに暮らす社会の実現 いきものの「命」を大切にする「動物愛護のこころ」を醸成し、人と動物 がともに幸せに暮らす社会を実現するため、動物とのふれあいや保護動物の 譲渡活動を実施します。	(⑪まちづくり)

【施策3-5】認知症の人やがん患者が自分らしい生活を送れる社会の実現

認知症やがん等の病気に関する正しい知識や理解を醸成し、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会の整備を進めます。

No.	主な取組み	SDGs
1	認知症フレンドリー社会の実現 認知症の人やその家族・専門家等で構成する「認知症フレンドリー100 人会議」を設け、認知症に対する必要な取組みについて検討を進めます。 また、認知症の人同士が支え合うピアサポート活動を拡大するとともに、 若年性認知症相談窓口と企業等の連携を強化し、就労継続を支援します。	(億木平等)
2	認知症サポーターの養成促進 学生など若年層や企業を対象とした認知症サポーター養成を強化するとともに、認知症サポーターを中心として、見守り・声かけ活動や外出支援など、本人や家族のニーズに合った支援を行う体制(チームオレンジ)を整備します。	(⑩不平等)
3	がんに関する正しい知識の普及 学校等でのがん教育を推進するため、教材の作成、外部講師のリスト化を 行うともに、県民を対象としたがん患者との交流の場を創出します。	(④教育)
4	がん患者の社会活躍を応援 治療と仕事の両立支援のため、がん患者の病状や勤務中の配慮事項を職場 へ伝える仕組みを整備します。 また、生殖機能温存に対する治療費助成など、AYA世代(思春期・若年 成人)のがん患者を支援します。	(億不平等) 10 公司 (10

〔政策目標〕

- 〇就業やボランティアなど、年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず 一人ひとりの適性や希望に沿った活動が活発になっていること
- ○多様な存在や価値観を認め合い、誰もがチャレンジできる社会が築かれて いること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
有業者における男女の家 事・育児時間の差 (社会生活基本調査)	2 時間 24 分 (2016)	2 時間 (2021)	(5) 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
企業における女性管理職の 割合 (福井県勤労者就業環境基礎調査)	15.4% (2018)	20.0% (2024)	(5) (5) (5) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7
地域活性化に取り組む若者 グループ数 (福井県調べ)	102 グル-プ (2018)	160 グル-プ (2024)	(®パートナーシップ) 17 ((®パートナーシップ) (************************************
働く意欲のある高齢者の有 業率 (就業構造基本調査)	全国3位(27.8%) (2017)	全国 1 位 (2022)	(B)成長・雇用) 8 ながれば
ボランティア行動者率(社会生活基本調査)	32.2% (2016)	34.0% (2021)	(⑪パートナーシップ) 17
障がい者雇用率 (障害者雇用状況)	2.35% (2019)	2.50% (2024)	(億不平等) 10 公(在)
カーポートパーキングの 整備箇所数 (福井県調べ)	-	100 箇所 (2024)	10 (億不平等)
外国人コミュニティリーダ 一の設置人数 (福井県調べ)	_	60 人 (2024)	(00不平等)
企業・職域型の認知症サポーター養成数 (福井県調べ)	_	34,000 人 (2024)	(⑩不平等)

〔関連する主な計画等〕

- 第3次福井県男女共同参画計画、福井県県民社会貢献活動推進計画(改定版)
- 第6次福井県障がい者福祉計画、福井県人権施策基本方針
- 第7期福井県老人福祉計画および介護保険事業支援計画
- 第3次福井県がん対策推進計画、福井経済新戦略

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○会社において女性の採用・育成・登用を進めるとともに、柔軟な働き方を可能と するなど社員のワークライフバランスを推進
- ○パートナーや子どもといっしょに楽しみながら家事・育児を行う
- ○地域を活性化する若者の新たなチャレンジを温かく見守り応援
- ○時間を見つけ、ボランティアや地域貢献活動に積極的に参加
- ○高齢者や障がい者、外国人など様々な人材が活躍できるよう職場環境を整備
- ○地域に溶け込めるよう相談に乗るなど外国人と積極的に交流
- ○認知症の人と地域でともに暮らしていくため、見守りや声かけ活動など自分にで きることを見つけ実践

希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援 政策4

「次世代ファースト」の考え方のもと、将来を担う子どもたちを産み育てる若い世 代を社会全体で支える仕組みを拡充し、結婚・出産・子育ての希望が叶う「日本一の 出会い・子育て応援社会」をつくります。



















【重点施策】

子だくさんふくいプロジェクト

「子育て先進県ふくい」のさらに一歩先を行く「子だくさんふくいプロジェクト」 として、多子世帯への保育料無償化の拡充や、これまで支援のなかった在宅育児への 新たな応援をスタートさせることにより、様々な子育て世帯へのよりきめ細やかな応 援を市町とともに強化し、日本一の子育て環境をレベルアップします。

〇2人目からの経済的支援

- ・3歳未満児の第2子保育料について、経済的状況に応じ段階的な無償化を実施
- ・第3子以降を対象に実施している病児保育や一時預かり利用料等の無償化について、 支援対象を第2子まで拡大
- ・3人目からの出産・育児への新たな支援など第3子以降への応援を強化 など

〇低年齢児の在宅育児を応援

・第2子以降の3歳未満の児童を家庭で子育てする世帯の経済的状況に応じた手当を支給 など

〇保育の受け皿の強化

・潜在保育士の就職支援や高校生の保育就労体験など、保育人材センターにおいて保育人材 の確保を促進



認定こども園での保育活動



保育人材センターでの相談

【施策4-1】若者の出会いと結婚応援

結婚を望む県民の希望を叶えるため、若い世代が求める「自然な出会い」の環境づくりを行うなど、日本一の結婚応援を次のステージに引き上げます。

No.	主な取組み	SDGs
1)	オールふくい体制による新たな出会い応援 「ふくい結婚応援協議会(仮称)」を新たに設け、県、市町、企業が連携し、 オールふくいで県民の結婚を応援する体制を整備します。 また、京都事務所(新設)等を活用し、関西圏からも参加者を募る広域的 な婚活イベントを開催するなど、出会いの機会の拡大を図ります。	(3健康・福祉)
2	若い世代のニーズに合った婚活サポートの充実 「ふくい婚活サポートセンター(仮称)」を開設するとともに、A を活用 し、独身者が自ら検索してお見合い相手を探せるマッチングシステムを整備 するなど、若い世代のニーズに合った新たな婚活サービスを提供します。	(③健康·福祉) 3
3	自然な出会いの環境づくり 従業員の出会いと結婚を応援する「ふくい結婚応援企業」や従業員をサポートする「職場の縁結びさん」を設置するとともに、「企業間交流婚シェルジュ」が企業間交流会の開催をサポートします。 また、働く若い世代の人脈拡大・交流を目的にしたイベント等の開催サポートや、若者の趣味やスポーツ等の余暇活動への応援など、自然な出会いを創出します。	(③健康・福祉) 3
4	人の手によるあたたかな出会いのサポート 「地域の縁結びさん」や結婚相談員によるきめ細やかな結婚相談を行い、 地域のつながりを活かした縁結びを推進します。	(③健康·福祉) 3 ************************************
\$	結婚観・家族観の醸成 県内大学等において、結婚や子育てを含めた自分の将来について、具体的に考えるためのセミナーを開催するなど、ライフプラン教育を実施し、若い世代における結婚観・家族観を醸成します。	(④教育) 4 **Atte

【施策4-2】安心して出産・子育てできる環境の整備

初めての妊娠や育児に対する不安の解消、産後の心身のケアなど、妊娠・出産前後からの切れ目ない支援体制を強化し、共働き日本一の福井において、誰もが安心して出産・子育てできる環境を整備します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	仕事と妊娠・出産の両立支援の推進 男性の育児休業や育児短時間勤務、不妊治療のための休暇制度等の取得を 支援するなど、働きながら安心して妊娠・出産できる職場環境づくりに取り 組む県内企業を拡大します。	(⑤ジェンダー) 5 (⑥ジェンダー)
2	不妊検査・治療への支援 夫婦そろって受ける不妊検査により早い段階での適切な治療を促すとともに、治療に要する費用を支援するなど、子どもを持ちたいという希望の実現を応援します。	(3健康・福祉)
3	妊娠期から子育で期までの切れ目ない支援体制の強化 すべての市町に設置する子育で世代包括支援センターを拠点として、妊娠 期から子育で期にわたり、妊娠・出産・子育でに関する相談に応じるととも に、養育に困難を抱える家庭に対する支援を強化します。	(③健康·福祉) 3
4	2人目からの経済的支援 3歳未満児の第2子保育料について、経済的状況に応じ段階的な無償化を 実施するとともに、第3子以降を対象に実施している病児保育や一時預かり 利用料等の無償化について、支援対象を第2子まで拡大し、子育て家庭に対 する経済的支援を強化します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
5	3人目からの支援の強化 3人目からの出産・育児への新たな支援など、第3子以降を出産しやすい 環境をつくります。	③健康・福祉) 3 ************************************
6	在宅育児への応援 第2子以降の3歳未満の児童を家庭で子育てする世帯の経済的状況に応じ 手当を支給し、家庭での子育てを望む世帯が安心して育児できる環境を整備 します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
7	子ども医療費助成による経済的負担の軽減 子ども医療費について、市町とともに所得制限を設けず助成し、子育て世 帯の経済的負担を軽減します。	(③健康·福祉) 3

【施策4-3】待機児童ゼロの実現

必要な人が必要な時に保育所等を利用できる受け皿整備を進め、待機児童ゼロを実現します。

No.	主な取組み	SDGs
1	子育て・保育の受け皿整備 保育所や認定こども園等において、保育ニーズに柔軟に対応できる受入れ 体制を充実するとともに、小学生の居場所づくりとして放課後児童クラブの 施設整備を行う市町を支援します。	(④教育) 4 ####################################
2	保育人材の確保 保育人材センターにおいて、潜在保育士への就職支援や保育士の就業相談、 高校生の保育就労体験を実施するなど、保育人材の確保を進めます。	(①教育) 4 **ALC *********************************
3	保育の仕事の魅力向上 保育士の給与改善やキャリアアップに対する支援と、保育補助者の配置等 による業務負担の軽減を一体的に進め、保育士の働く環境を改善します。	(3)成長・雇用)

【施策4-4】社会全体で子育てを応援する仕組みづくり

核家族・共働き家庭や移住者世帯が増加するなか、男性の育児・家事参加をさらに進めるとともに、地域の高齢者・学生等の子育て参加や企業による子育て世帯の応援など、子どもの健全な成長を社会全体で支える仕組みづくりを進めます。

No.	主な取組み	SDGs
1	育児での男性活躍社会 母親のワンオペ育児をなくし、夫婦が等しく子育てを担い、楽しめるよう、「父親の家事・育児応援スクール」の開催など、男性の家事・育児参加を促進します。	(⑤ジェンダー) 5 (⑤ジェンダー)
2	企業による子育て世帯の支援 社員のイクメン宣言の推進や男性の育児休暇の取得など、子育てをしやすい職場づくりを進める企業を支援するとともに、協賛企業等による子ども連れ家族対象の優待サービスを拡充します。	(⑤ジェンダー) 5 (⑥ジェンダー)
3	子育でにやさしい地域づくり 学習支援、子ども食堂など、地域の高齢者やシニア世代、学生等が子育でに参加するきっかけや仕組みをつくり、地域社会全体で子どもを支える社会を実現します。	(①教育) 4 ####################################
4	困難な環境にある子どもへの支援 児童虐待に適切に対応するため、児童相談所の体制を強化するとともに、 里親等による家庭養育を推進します。また、養育に困難を抱える家庭を早期 に発見するとともに、保護者への適切な指導・支援を行います。	(①教育) 4 ************************************
5	ひとり親家庭等が自立して暮らすことができる環境づくり ひとり親家庭等における貧困の実態を把握するとともに、子どもの学力向 上や生活向上を目指す学習支援、地域の居場所づくりを支援します。	(①教育) 4 **A12**********************************
6	児童の健全育成 子ども達の豊かな心と健やかな体、科学等の多様な学びの関心を育てるため、こども家族館や児童科学館等の充実を図ります。	(④教育) 4 #ASC##

〔政策目標〕

- 〇将来を担う子どもたちを産み育てる若い世代を社会全体で支える仕組みが 拡充されていること
- ○「日本一の出会い・子育て応援社会」および希望出生率の実現に向け、 合計特殊出生率が上昇していること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
合計特殊出生率 (人口動態統計調査)	1.67 (2018)	1.80 (※) (2030)	(3健康・福祉)
県・市町の結婚応援事業を きっかけとする婚姻数 (福井県調査)	163 件 (2018)	200 件 (2024)	(③健康·福祉) 3 ************************************
保育所等の待機児童 (保育所等関連状況取りま とめ)	10 人 (2019.4.1 現在)	待機児童ゼロ (2020~)	(④教育) 4 *AAE
保育人材センターによる保 育士就職者数 (福井県調べ)	_	150 人 (2020~2024 計)	(①教育) 4 MALE
地域の子育てを応援する高 齢者やシニア世代の養成数 (福井県調べ)	_	2,000 人 (2020~2024 計)	(④教育)
ひとり親家庭等の児童向け 学習支援箇所数 (福井県調べ)	39 箇所 (2018)	60 箇所 (2024)	(④教育) 4 **ALE

^(※) 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標値および目標年度に準拠

[関連する主な計画等]

ふくい創生・人口減少対策戦略、福井県子ども・子育て支援計画 福井県社会的養育推進計画、第4次福井県ひとり親家庭自立支援計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○独身従業員の出会いの機会につながるよう、企業間の交流会等を積極的に開催
- ○高齢者が地域において、若い世代の子育て支援に参加
- ○子育て中や不妊治療を受けている人の柔軟な働き方を応援
- ○家族の中での家事分担を見直し、男性も積極的に家事・育児に参加
- ○児童虐待かなと感じたら、児童相談所全国共通3桁ダイヤル189(いちはやく) に電話

3

Ⅱ 成長を創る(産業力)

~力強い産業基盤の確立。チャレンジできる地域経済の構築~

本県の質の高いくらしを将来世代に引き継ぐためには、技術革新や産業構造の変化、グローバル化などに対応する力強い経済基盤を確立させる必要があります。

そのため、農林水産業やものづくりなど福井の地場産業を、新技術やデザインの力を活用しながら革新し、若者が魅力を感じる持続可能な産業へと発展させます。また、航空・宇宙、ヘルスケアなど成長産業や拡大する世界市場への進出、新技術の活用による付加価値創造、新規創業など、県内企業の様々な挑戦を応援し、活気と好循環の地域経済へと飛躍させます。

[実行する政策]

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ

- 【施策5-1】夢のある次世代の農業を推進
- 【施策5-2】「ふくいの食」のトップブランド化
- 【施策5-3】農山漁村の魅力創出・交流人口の拡大
- 【施策5-4】県産材の需要・供給の拡大と林業の活性化
- 【施策5-5】ふくいの水産業のステップアップ
- 【施策5-6】農山漁村地域の基盤づくり

政策6 地域経済のイノベーション

- 【施策 6 1】「福井型エコシステム」の構築
- 【施策6-2】デザインの力で魅力あるものづくり産地を創出
- 【施策6-3】くらしに根差した小さな企業の応援
- 【施策6-4】地域企業の生産性向上・人材確保
- 【施策6-5】働く人のための「しあわせ働き方改革」を実行

政策7 Society5.0 時代の新産業創出

- 【施策7-1】成長産業へのチャレンジ応援
- 【施策7-2】AⅠ·ⅠoTなど技術革新を活かした新サービスの創出
- 【施策7-3】多様な企業誘致の推進
- 【施策7-4】嶺南Eコーストの実現

政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ

- 【施策8-1】海外ネットワークの新展開
- 【施策8-2】福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化
- 【施策8-3】国際交流の推進

農林水産業の力でふくいをブランドアップ 政策5

福井の生活・文化を形づくってきた農林水産業を大切に守り、次世代に引き継いで いくとともに、その魅力を福井の発信に最大限活用します。さらに、新技術の活用な どにより、ふくいの農林水産業を力強い成長産業にレベルアップします。



















【重点施策】

稼げる農林水産業創出プロジェクト

熟達者の技と先端技術の融合により、超省力・高品質生産を実現する稼げる農林水 産業を目指すとともに、他産業との連携によるプラットフォーム(総合基盤)形成に より、人を呼び込み、地域の活力創出に貢献する産業への発展を目指し、大規模な法 人から小規模な農林漁家、農山漁村に暮らす女性や高齢者まで、すべての人々が活躍 できる新時代を築きます。

〇活力ある「新ふくいの農林水産業」の実現

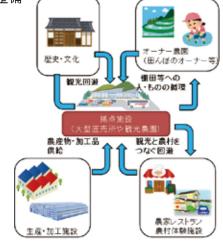
- ・最新のスマート技術の活用により、若者に魅力のある稼げる農林水産業を確立 自動走行トラクタ、GPS 田植機、自動環境制御の園芸ハウス、 航空レーザによる森林計測、養殖の ICT 自動給餌装置、定置網の魚群探知機 など
- ・農・林・水産業のカレッジや「越前若狭 田んぼ道場」、県立大学新学科との連携により、 即戦力となる若者や地域を支える人を育成
- ·「いちほまれ」、「越前がに」に加え、新しいプレミアムブランド(ふくいそば、若狭ぐじ、 越のルビー等)の確立により、「ふくいの食」の魅力を国内外に発信 など

○食文化・産業(加工・観光等)と結び付けるプラットフォームの形成

- ・女性や高齢者の知恵を活かした魅力的な商品づくり
- ・農林漁家の創意工夫による「知る・つくる・買う・癒す」の体験メニューを充実
- ・観光農園や直売所、地魚料理を楽しむレストラン等を整備
- ・観光名所や体験メニュー等のコンテンツをつなげ、 「ふるさと農の駅」(直売所)を中心に、地域内外 の人との交流を促進するにぎわいのある農山漁村 を創出 など



ふくい園芸カレッジ研修



「ふるさと農の駅」を中心とした周遊イメージ

【施策5-1】夢のある次世代の農業を推進

新技術を活用したスマート農業を普及するとともに、水田経営における大規模法人の育成、水田園芸や施設園芸の大規模化を推進することにより生産力を高め、農家所得の最大化を図ります。

No.	主な取組み	SDGs
1	水田経営の大規模法人の育成 自動走行農機やドローン等を活用したスマート農業を普及するとともに、 集落営農組織等の合併や広域化による大規模法人の育成を推進します。 あわせて、スマート農業の効果を最大限発揮する基盤整備(大区画化、タ ーン農道等)を推進します。	(⑧成長・雇用)
2	大規模水田園芸の推進 排水桝の設置や大規模化に必要な機械の導入支援など、農地の集約化と生 産基盤の整備にあわせ、大規模水田園芸に取り組む農家の定着を図ります。	(③成長・雇用)
3	大規模施設園芸の全県展開 気化熱を利用した冷房技術による夏越し栽培や収益性の高い新たな品目を 導入することにより、大規模施設園芸を全県に展開し、園芸生産額を拡大し ます。	(③成長·雇用) 8
4	儲かる畜産経営の展開 自動給餌機やエサ寄せロボットなどによる省力化や増頭による規模拡大、 6次産業化(加工・直売等)など収益向上を図ります。 また、飼養衛生管理基準の遵守により家畜伝染病の防止対策を強化し、後 継者に引き継ぐ畜産経営を実現します。	(⑧成長・雇用)
5	植物工場の拡大 安価な電力の活用等により、植物工場の県内への誘致を推進し、レタス等 の生産量を拡大します。	(③成長・雇用)
6	次世代の農業を担う人材育成 「越前若狭 田んぼ道場」において、水稲・麦などの栽培研修や圃場での機械操作実習を通して人材を育成します。 また、「園芸カレッジ」では、知識習得の研修とあわせ、生産から販売まで行う経営研修を行い、即戦力となって活躍できる人材を育成します。	(①教育) 4 ************************************
7	生産・販売の拡大を目指した試験研究の推進 ミディトマトに加え、ブドウ、イチゴ、水稲など、市場性の高い本県オリジナルの品種の開発や有機・無農薬栽培技術の確立、園芸施設の自動環境制御技術を開発します。	(94//~>3>)

【施策5-2】「ふくいの食」のトップブランド化

米やそば、地酒、トマト、かに、地魚など、美味しい「ふくいの食」の認知度を高め、県外からの誘客にもつながる食のトップブランド化を進めます。

No.	主な取組み	SDGs
1	いちほまれを全国トップのブランドに確立 いちほまれの安定した高品質、高収量を確保する生産技術を確立するととも に、県とJAでつくる「いちほまれ販路開拓チーム」の営業強化により、バイヤーや消費者の認知度を高め、高い評価に見合う価格帯で販売します。	(⑧成長・雇用)
2	「ふくいそば」のブランド確立 PR動画や首都圏でのイベント出店により、「ふくいそば」のおいしさを全国 に発信するほか、本県で開催している「全日本素人そば打ち名人大会」を継続 的に実施することにより、日本一のそばどころふくいのイメージを定着させ、 県産そばの消費・生産の拡大を図ります。	(8)成長・雇用)
3	地魚の戦略的販売 「越前がに極」に相当するプレミアムブランドを「若狭ぐじ」や「越前がれい」にも創出し、本県水産物の認知度向上と販路拡大を進めます。	(③成長·雇用)
4	ふくいオリジナル地酒の商品化 本県が開発した酒米「さかほまれ」を使用し、「米、酵母、水」すべてが福井 県産のオリジナル地酒を商品化します。 また、イベントや飲食店・小売店向けの試飲会を通して、販売を促進し、米 どころ、酒どころとして本県をPRします。	(⑧成長・雇用)
(5)	ふくいの畜産ブランドの確立 各種イベントを通じて、三ツ星若狭牛や福地鶏などの本県畜産ブランドを県 内外にPRし、認知度向上と消費拡大を図ります。	(8)成長・雇用)
6	美味しい「ふくいの食」の認知度向上で販売拡大 都市圏からのバイヤー招へいや産地視察とあわせ、都市圏のアンテナショップや飲食店での福井フェアの開催、都市圏での食の展示会への出展により、地域特産物を含め「ふくいの食」をPRします。 (越のルビー、里いも、らっきょう、とみつ金時、福井梅等)	(8)成長・雇用)
7	「ふくいの食」の輸出拡大 県内事業者の輸出を拡大するため、営業代行の設置や商談会の開催により、 アジア諸国を中心に福井の食や食文化を発信し、新たな販路を開拓します。	(⑧成長・雇用)

【施策5-3】農山漁村の魅力創出・交流人口の拡大

大型直売所などの拠点施設(ふるさと農の駅)を中心に、農山漁村の風景やくらし、 食文化、観光等を結びつけるプラットフォーム(総合基盤)を形成することにより、 地域内外の人との交流を促進し、にぎわいのある農山漁村を創出します。

No.	主な取組み	SDGs
1	農山漁村を満喫する「農遊地域」づくりで交流人口を倍増 観光農園や農家漁家レストラン・民宿、伝統野菜や旬の野菜・果物・山菜等 が並ぶ魅力的な直売所などの整備を促進し、観光地や体験メニュー等のコンテ ンツをつなげ、農山漁村を回遊する仕組みにより、交流人口の増加を促します。	(8)成長・雇用)
2	「知る」、「つくる」、「買う」による食育・地産地消の推進 直売所や量販店等において、旬の地域食材を利用した料理方法や伝統野菜、 郷土の食文化について情報発信するほか、家族や職場仲間が気軽に学べる食育 クッキング教室や地場産食材購入促進キャンペーンを開催するなど、食育・地 産地消を推進します。	(⑧成長・雇用)
3	小規模農家等の生産意欲の向上とチャレンジ活動を応援 農村に暮らす女性や高齢者等が新たにチャレンジする直売所向けの珍しい野菜・果樹の生産や加工品開発のほか、中山間地域の小規模な集落営農組織等が意欲をもって営農を継続する活動を支援し、様々な人々が活躍する農村の地域力を向上させます。	(②飢餓・食料)
4	農業で魅力のある田園風景を維持 ひまわりやコスモス等の景観植物の植栽、若狭牛の放牧などにより、魅力のある田園風景を維持し、都市と農村の交流を促進します。	(⑪まちづくり) 11 12 13 14 15 15 16 16 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18
5	鳥獣害に負けない体制づくりの強化 農作物の鳥獣被害を減らすとともに、高齢化や人口減少が著しい地域においては、侵入防止柵の設置や維持管理について、複数集落が連携して取り組む地域をモデル地区とするなど、共助による集落を越える広域的な取組みを推進・拡大します。	(⑪まちづくり)

【施策5-4】県産材の需要・供給の拡大と林業の活性化

利用可能な森林資源が増えている中、県産材の需要と供給を拡大し、林業の活性化を図ります。

No.	主な取組み	SDGs
1	間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進 森林のゾーニング(資源循環の森、環境保全の森)を行い、航空レーザ計測 等の新技術を活用した計画的な間伐を進めるとともに、主伐による森林資源の 活用や再造林による森林の若返りを促進し、持続可能な林業経営を目指します。	15 ****** 15 ***** \$\frac{1}{2} \tag{2} \tag
2	新たな手法の導入による施業集約化の促進 集落単位での施業集約化(コミュニティ林業)を拡大するとともに、小規模・分散的な山の所有地の構造を改善し、交換分合等により林地の集積を促進します。 あわせて、プロセッサなどの高性能林業機械を活用し、生産性を向上します。	((5)陸上資源) 15 %%****
3	森林経営・管理を担う人材育成 林業カレッジにおける早期就業希望者向けの短期コースの新設、機械化や安全装備の充実による生産性向上と労働環境の改善により、若者や女性が活躍できる環境を整備し、人材および林業事業体を育成します。	(②教育)
4	県産材の利用拡大 県内における B 材の需要拡大に向けた大規模工場の誘致を進めるとともに、 新たに国内外への販路を開拓することにより、県産材の需要を拡大します。 また、『みんなでつかおう「ふくいの木」促進条例』に基づく機運醸成や民間・ 公共施設の木質化により、ふくいの木の利用を促進します。	(8)成長・雇用) 8
(5)	森林の多様な活用による山村の活性化 福井の美しく豊かな森林を活用するトレイルや森林ヨガなどの森林体験を県内に広め、国内外からの誘客を促進します。 また、県産ブランドきのこの「香福茸」や新たに開発する極上マイタケについて、生産・販売を拡大します。	(③成長・雇用) 8
6	緑と花の県民運動を推進 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けて、県民が主体となって森林や木、花に関わる「緑と花の県民運動」を推進し、主要駅や観光地周辺を花で彩る運動の定着を目指します。	(⑪まちづくり)

【施策5-5】ふくいの水産業のステップアップ

新技術を活かした養殖業による生産拡大と地魚の戦略的な販売促進により、ふくいの水産業を持続的に成長させ、豊かな浜のくらしを実現します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	養殖業の拡大と販路開拓 ふくい水産振興センターを中心に産学官が連携し、IoTを活用した自動給 餌システムなど新たな養殖技術を確立するとともに、嶺南の養殖魚を嶺北へ販 売する体制を整備し、県産種苗でのマハタやふくいサーモン、サバなどの生産・ 販売を拡大します。	(印海洋資源)
2	漁船漁業の効率化と地魚の戦略的販売 定置網の入網把握システムや底曳網のデジタル操業日誌など新技術を活用し 漁船漁業の効率化を図るとともに、「越前がに」の稚ガニを保護します。 また、「越前がに極」に相当するプレミアムブランドを「若狭ぐじ」や「越前 がれい」にも創出するなど、本県水産物の認知度向上と販路の拡大を進めます。	(低海洋資源) 14
3	ふくいの海を担う人材育成 水産カレッジにおいて、漁業の基礎的技術・知識を習得するほか、船舶や無線などの免許取得の支援を行い、次代を担う漁業者の育成と自立を促進します。 また、県立大学や若狭高校と連携し、ふくい水産振興センターにおいて学生 や民間企業向けの研修を行い、即戦力となる水産技術者を育成します。	(④教育)
4	漁村の活性化 地曳網等の漁業体験、海辺や川床で地魚料理が楽しめるレストランなどの体 験型観光を充実するとともに、市場のセリを間近で見学できるような施設や受 入環境の整備を促進することにより、漁村への交流人口を増加させ、漁村を活 性化します。	(⑧成長・雇用)

【施策5-6】農山漁村地域の基盤づくり

農林水産業の生産力を高める基盤の整備を進めるとともに、老朽化する既存インフラへの長寿命化対策や自然災害による被害防止対策など、農山漁村地域の防災・減災対策を推進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	農林水産業の生産力を高める基盤整備 スマート農業の効果を最大限発揮する圃場の大区画化や用排水路・暗渠排水 等の整備、林業の施業効率化に必要な林道等の整備、水産資源の回復や持続的 利用のための藻場造成・海底作澪など、各分野の基盤整備を推進し、生産力の 向上につなげます。	(②前銀・食料)
2	災害から農山漁村のくらしを守る基盤整備 老朽化した農業水利施設、治山施設、海岸・漁港施設などの機能強化や長寿 命化対策に加え、事前防災・減災に向けた効果的な予防対策を推進し、災害に 強い生産基盤をつくるとともに、農山漁村の生活の安全・安心を確保します。	(①まちづくり)
3	被害防止につながる地域活動の継続 中山間地域等直接支払制度や多面的支払交付金等を活用した地域の共同活動 に継続して取り組むことにより、耕作放棄地の増加の抑制や農地の適切な保全 管理に基づく水田貯留機能の維持による洪水防止など、農業・農村の有する多 面的機能の維持・発揮を図ります。	(⑪まちづくり)

[政策目標]

- 〇最新のスマート技術の活用や都市と農村の交流により産出額が増加し、若者 に魅力のある稼げる農林水産業にレベルアップしていること
- 〇小規模な農林漁家や農山漁村に暮らす女性·高齢者も活き活きと活躍していること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
米・園芸産出額(福井県調べ)	490 億円 (2018)	550 億円 (2024)	(⑧成長・雇用)
林業産出額 (福井県調べ)	23 億円 (2018)	30 億円 (2024)	(3)成長・雇用)
漁業産出額 (福井県調べ)	100 億円 (2018)	110 億円 (2024)	(⑧成長·雇用) 8
直売所販売額 (福井県調べ)	36 億円 (2018)	46 億円 (2024)	(⑧成長・雇用)
	(農業) 413 人	600 人	(④教育)
新規就農・就業者数(※) (福井県調べ)	(林業) 73 人	100人	W i
(IED) I NOW!	(水産) 94 人	100 人	- 8 - 8

^(※) 現状は 2014~2018 年度の 5 年間累計、目標は 2020~2024 年度 5 年間累計

[関連する主な計画等]

新ふくいの農業基本計画、第3次ふくいの食育・地産地消推進計画 第2次いちほまれブランド戦略、ふくいの森林・林業基本計画 ふくいの水産業基本計画、福井県国土強靱化地域計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○身近で採れる旬の食材を積極的に購入し、福井の農林漁家を応援
- ○「ふくいの食」や農山漁村の魅力を全国に伝える
- ○鳥獣の餌となる生ごみなどを庭先に放置せず、収穫しない柿の実は撤去するなど、 鳥獣害対策に取り組む
- ○森林・木工体験への参加、木製品の購入等を通じて、「ふくいの木」を利用
- ○家庭や地域で木や花を育て、美しい緑の空間を創出

創業や事業承継など地域内経済循環の新たな仕組みづくり、デザインの力による地域産業の発展、人を幸せにする働き方改革の推進などにより、安定した社会を支えてきた地域経済の基盤を強固にし、次世代産業へと飛躍させます。

















【重点施策】

お金・人・技術の地域内循環・拡大プロジェクト

官民協働でのスタートアップ企業**への支援、意欲ある後継人材のマッチングなど、成長が期待できる有望ベンチャーの創出や事業創継等を推進し、地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する「福井型エコシステム」を構築します。

※スタートアップ企業:新しい事業モデルをつくり、短期間での成長を目指す企業

〇スタートアップ企業の発掘・有望ベンチャーの育成

- ・投資型クラウドファンディング等の活用を支援し、創業や新商品開発の資金調達を促進
- ・先輩起業家やベンチャー創出支援機関との協働による助言、人脈形成、投資等の集中的な サポートにより、短期間での成長を支援
- ・ふくい未来企業支援ファンドによる有望ベンチャーへの投資
- ・民間のインキュベーション施設[※]整備を支援し、県内外の多彩な人材が出会う交流拠点を 創出

※インキュベーション施設:創業間もない企業や起業家に対し、低賃料スペース提供、マーケティング支援などの 経営ノウハウを提供し、その成長を促進させることを目的とした施設

〇挑戦的な事業承継の推進

- ・後継者不在の小規模事業者の後継人材を全国から公募し、マッチング
- ・第三者への承継の際に必要な先代経営者からの技術承継等の支援
- ・企業の後継者による新分野展開や県外・国外への事業拡大、新会社設立等のステップ アップを目指す「後継ぎベンチャー」の支援



ベンチャー企業の投資家向けプレゼンテーション



第三者への事業承継

【施策6-1】「福井型エコシステム」の構築

創業・新分野進出や有望ベンチャーの創出、事業創継等を推進し、地域内でお金・ 人・技術等の経営資源が循環する「福井型エコシステム」を構築します。

No.	主な取組み	SDGs
1	クラウドファンディング等の活用促進 「ふるさと企業育成ファンド」による助成に加え、投資型クラウドファンディング等の活用により、スタートアップ企業等の資金調達を支援し、創業や新商品開発を促進します。	(③成長・雇用)
2	起業家・ベンチャー企業の発掘・育成 学生・若者の起業家育成や、投資家への事業提案「福井ベンチャーピッチ」 による投資家や協力事業者の獲得に加え、先輩起業家やベンチャー創出支援 機関との協働による集中的な支援により、成長を支援します。	(⑧成長・雇用)
3	有望ベンチャー企業への投資 県内金融機関等とともに組成した「ふくい未来企業支援ファンド」を活用 し、有望ベンチャーへの投資を行い、将来の上場に向けた支援を行います。	(⑧成長・雇用)
4	民間インキュベーション施設の整備促進 民間インキュベーション施設整備の支援により県内外の多彩な人材が出会う交流拠点を創出します。	(8)成長・雇用)
5	次世代の経営者への円滑な事業承継 親族への円滑な承継に加え、後継者の全国公募や、起業を希望する若者とのマッチング、産地内の企業同士の統合の支援など、親族以外の第三者への承継支援を強化するとともに、第三者への承継の際に必要な先代経営者からの技術承継等を支援します。	(③成長·雇用) 8
6	後継ぎベンチャーの推進 企業の後継者による新分野展開や県外・国外への事業拡大、新会社設立等 のステップアップを目指す「後継ぎベンチャー」を支援します。	(⑧成長・雇用)

【施策6-2】デザインの力で魅力あるものづくり産地を創出

デザインの力によりものづくり産地の魅力を向上し、国内外からの取引・就業・観光を促進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	デザインを活かした産地ブランディングの強化 デザインセンターふくいを核に、県内デザイナーのデータベース化に加え、 ブランディングの段階や企業規模等に応じた支援など、「作りたいモノ」でな く「売れるモノ」を生み出すための支援を拡充します。	(③成長・雇用)
2	繊維・眼鏡産業や伝統工芸の振興 他産地との連携による商品開発や新素材の開発、海外販路拡大などに加え、 デザイン力の強化により、福井の誇るものづくりの持続的な発展を図ります。	(⑧成長・雇用)
3	産業観光の拡大 RENEW、千年未来工藝祭など若手職人やデザイナーが中心となり開催 するものづくりイベントを応援するほか、見学、販売、体験等を一度に楽し める直営店の整備や外国人のニーズに沿う体験プログラムの開発等を支援 し、産地の仕事やくらしの魅力を国内外に発信します。	(⑧成長・雇用)
4	人材育成の強化 産地の後継者を確保するため「伝統工芸職人塾」の充実を図るほか、企業 での実習等を通じて学生などが繊維や眼鏡産業等を学ぶ機会を拡大し、全国 からの産地への就労を促進します。	(①教育) 4 #AEE ### 4 #AEE ###

【施策6-3】くらしに根差した小さな企業の応援

和菓子店や酒蔵、伝統工芸など、県民の豊かなくらしを支える小規模企業の持続的発展を、商工会・商工会議所等の支援機関と一体となって支援します。

No.	主な取組み	SDGs
1	プッシュ型の課題掘起しの強化 商工会・商工会議所や産業支援センターと協力し、窓口等での待ちの相談 対応から、企業訪問による積極的な課題の掘起しを重点化します。	(③成長・雇用)
2	課題解決のための支援充実 A · o T 導入や働き方改革、事業承継、経営の多角化等、小規模企業が抱える様々な課題解決を応援する支援制度の充実を図ります。 また、小規模企業支援の中心的な役割を担う商工会・商工会議所の体制を 強化します。	(⑧成長・雇用)
3	支援機関の横断的ネットワークによる支援 商工会・商工会議所、中小企業団体中央会、産業支援センター、金融機関、 士業等が横断的なネットワークを構築し、一体となって、小規模企業の経営 革新に向けた支援を行います。	(8)成長・雇用)

【施策6-4】地域企業の生産性向上・人材確保

A I・I o T等の新技術による生産性の向上のほか、各産業における人材確保を支援します。

No.	主な取組み	SDGs
1	A I・I o T等の新技術導入による生産性の向上 ITコーディネーターなどの専門家による相談対応や現場への派遣などの 導入支援を強化するとともに、県内製造業において、IoTによる企業間連 携モデルの実証・構築を推進します。	(③成長・雇用)
2	T人材の確保・育成	(⑧成長・雇用)
3	多様な人材が活躍できる就業環境の整備 年齢や性別、障がいの有無、国籍等に関わらず多様な人材がそれぞれの特性を活かし、働くことができる就業環境の整備を支援し、企業の人材確保を促進します。	(⑧成長・雇用)

4	就職氷河期世代への就職支援 就職支援窓口の対象年齢上限を拡大し、人材マッチングの促進やアウトリーチ [※] 型相談・支援体制を構築するなど、非正規労働者の正社員化や無業者の就労を推進します。 ※アウトリーチ:支援等を必要とする人のもとに出向く方式	(③成長・雇用)
(5)	企業が求める産業人材の育成 企業の生産性をさらに向上させるため、生産現場で業務改善を進める高度 人材を養成・活用するとともに、中小企業産業大学校に「リカレント教育総 合支援センター」を開設するなどリカレント教育体制を強化します。	(④教育)

【施策6-5】働く人のための「しあわせ働き方改革」を実行

幸せと生産性を両立する働き方改革や勤務条件の改善を進め、日本一社員を大事にする県を目指します。

No.	主な取組み	SDGs
1	社員ファースト企業の拡大 働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を支援するとともに、実際に働き方改革を進め成果を上げている企業を認定するなど好事例として広く発信し、「社員ファースト企業」を拡大します。	(⑧成長・雇用)
2	柔軟な働き方の促進 長時間労働の是正やテレワーク、テレビ会議の導入促進など、労働者のワークライフバランスの向上や多様な働き方の確保を推進します。	(③成長·雇用)
3	仕事と妊娠・出産の両立支援の推進(再掲) 男性の育児休業や育児短時間勤務、不妊治療のための休暇制度等の取得を 支援するなど、働きながら安心して妊娠・出産できる職場環境づくりに取り 組む県内企業を拡大します。	(59±24) 5

3

政策6 地域経済のイノベーション

[政策目標]

- 〇地域内のお金·人·技術等の経営資源が循環する「福井型エコシステム」が 構築されていること
- 〇デザインや経営革新により地域産業の稼ぐ力が向上するとともに、誰もが活躍できる就業環境が整備されること
- ○持続的に地域産業が発展し、県民生活が向上していること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
1 人当たり県民所得 (福井県民経済計算)	316 万円 (2016)	356 万円 (2024)	(⑧成長・雇用)
製造品出荷額(工業統計)	2 兆 1,062 億円 (2017)	2 兆 2,800 億円 (2024)	(⑧成長・雇用)
創業者数 (福井県調べ)	405 人 (2015~2018 計)	600 人 (2020~2024 計)	(⑧成長・雇用)
小規模企業支援による売上 向上 (福井県調べ)		支援した企業全体で 3%増加 (2024)	(⑧成長・雇用)
loT導入率 (福井県調べ)	8.2% (2018)	27% (2024)	(⑧成長・雇用)
就職氷河期世代の正規雇用 者 (就業構造基本調査から県推計)	_	2,000 人増加 (2020~2024 計)	(⑧成長・雇用) 8

[関連する主な計画等]

福井経済新戦略

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○地元の商店街やお店に出かける機会を増やし、お薦めのお店はSNS等でPR
- ○県内企業が行う新事業への挑戦に注目し、クラウドファンディングなどで応援
- ○幸せに働ける職場をつくるため、従業員の意見をよく聞き、働き方を見直し
- ○職場において新たな技術やデザインを積極的に導入

高いものづくり技術を活かした成長産業への進出、新技術を活かした高付加価値産 業への転換、企業誘致による新たな分野の企業創出など、様々な可能性への挑戦を地 域全体で応援し、魅力ある仕事を創出します。















【重点施策】

ものづくり産業の新市場挑戦プロジェクト

これまで培った繊維の加工技術(世界最薄の炭素繊維シート製造技術)や眼鏡の加 工技術(チタン加工技術、金属3D成型技術)などを応用し、今後需要の増加が見込 まれる航空・宇宙産業やヘルスケア産業などの分野で世界をリードする技術・製品開 発を進め、県内産業の多様化や規模拡大を実現します。

〇宇宙産業の拠点化

・県民衛星「すいせん」の製造、超小型人工衛星の生産・データ利活用の拡大、県内への 宇宙産業人材の集積などを通じ、衛星ビジネスの国内拠点を形成

など

など

〇航空機産業への参入支援

- ・工業技術センターの支援体制を強化し、県内企業の高いものづくり技術を活かした 航空機産業への新規参入を促進
- ・航空機産業に携わる県内企業の認知度を向上させ、優秀な人材の県内流入を促進

〇ヘルスケア産業の育成

・生活の質の向上につながる、アスリートのトレーニングから高齢者の筋力維持まで活用 できるスポーツロボット、介護ロボットの開発 など

〇持続可能な社会を支える分散電源化と新素材の開発

- ・産業用から個人用まで幅広く社会を支える、次世代電池など未来型エネルギー技術の開発
- ・持続可能な資源有効利用に向けた、自然界で分解する新素材やリサイクル素材の開発

など









航空機エンジン、ボディの部材

【施策7-1】成長産業へのチャレンジ応援

これまで培ったものづくり技術などを応用し、今後需要の増加が見込まれる航空・ 宇宙産業やヘルスケア産業などの成長分野への進出を応援します。

No.	主な取組み	SDGs
1	宇宙産業の拠点化 県民衛星「すいせん」の製造、超小型人工衛星の生産拡大や衛星データ利 活用ソフトウェアの販売促進、県内への宇宙産業人材の集積、国内外の市場 開拓等を通じ、新たな宇宙ビジネスの国内拠点を形成します。	(®イノベーション) 9
2	航空機産業への参入促進 工業技術センターの支援体制を強化し、県内企業の高いものづくり技術を 活かした航空機産業への新規参入を促進します。	(®イノベーション) 9
3	航空・宇宙産業の人材育成拠点化 東京大学、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、民間企業から高度人材を誘致するほか、県内大学において宇宙工学を学べる機会の提供、新興国等からの研修生受入れなど、国内外の人材育成を県内大学・研究機関等で実施します。	(②教育)
4	ヘルスケア産業の育成 生活の質の向上につながる製品(アスリートのトレーニングから高齢者の 筋力維持まで活用できるスポーツロボット、介護ロボット、医療機材等)や 地域資源を活かした健康プログラムなどの開発・販路拡大を支援し、成長が 見込まれるヘルスケア分野で稼ぐ企業を育てます。	(\$4.7×-2×)
(5)	持続可能な社会に向けた技術開発の促進 産業用から個人用まで幅広く社会を支える次世代電池など未来型エネルギー技術の開発、持続可能な資源有効利用に向けた自然界で分解する新素材やリサイクル素材の開発など、社会の持続可能性を高める技術開発を推進します。	(91/ベーション) 9
6	オープンイノベーションによる稼ぐ力の強化 産学官金からなる「ふくいオープンイノベーション推進機構」のネットワークを活かし、共同研究プロジェクトを拡大するとともに、その開発成果の製品化や知的財産の保護・活用を推進し、県内企業の稼ぐ力を高めます。	(01/4-7-10) (01/4-7-10) (01/4-7-10)
7	観光の産業化促進 北陸新幹線福井・敦賀開業等による交流人口の拡大をチャンスに、高級ホテルの誘致や宿泊施設、飲食店、体験工房等の整備、まちなか商店街の活性化などを進めることにより県内消費を増やし、観光の産業化を進めます。	(⑧成長・雇用)

【施策 7-2 】 A Ⅰ·Ⅰo Tなど技術革新を活かした新サービスの創出

 $A \mid \cdot \mid o \mid T$ などの技術革新を踏まえ、産業の高付加価値化や関連ビジネスの集積を図ります。

No.	主な取組み	SDGs
1	企業の課題を解決するシステムの研究・開発 「ふくいAIビジネス・オープンラボ」において、企業の課題解決のためのシステム開発研究会を設置するほか、IoTによる企業間連携のモデルを実証・構築するなど、ビジネス化を推進します。	(94/ベーション) 9 (第4/ベーション) (第4) (第4)
2	Society 5.0 関連ビジネスの集積促進 電子・デバイス産業などのAI・IoT・ロボット等に関係するビジネス 拡大や企業誘致により、Society 5.0 関連ビジネスの集積を促進します。	(®イノベーション) 9
3	A 時代に対応できる人材の育成 子どもたちがプログラミングやものづくりに親しむ場を創出し、未来技術 に対応できる将来の産業人材を育成します。 また、「ふくい A ビジネス・オープンラボ」や「リカレント教育総合支援 センター」等において即戦力となる人材を育成します。	(④教育)
4	未来技術の活用促進 5 Gを活用した I T環境整備によるテレワークの拡大、自動運転、遠隔診療など、地域課題解決に大きな可能性を持つ未来技術の活用(シビックテック)を推進します。	(947×->=>)

【施策7-3】多様な企業誘致の推進

対話型トップセールスにより、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能など多様な企業の県内立地を促進し、若者や女性を惹きつけるまちやしごとをつくります。

No.	主な取組み	SDGs
1	対話型トップセールスの推進 年間1千件の企業訪問を行うとともに、東京、大阪、名古屋で開催する企業立地セミナーでは、知事自らが企業の役員に、向上する立地環境や全国トップレベルの優遇制度を説明し本県への立地を働きかけます。	(⑧成長・雇用)
2	人と企業のセット誘致 地域の新たな雇用創出を強めるとともに、県外に進学した若者や女性のU ターンを促すことができるよう、企業進出にあわせ住環境や働きやすい職 場環境の整備を支援するなど、人と企業のセット誘致を推進します。	(⑧成長・雇用)
3	産業団地の整備促進 テクノポート福井での産業用地の造成を新たに進めるほか、意欲のある市町の行う産業団地の造成事業を支援し、企業立地の受け皿となる産業用地の全県下への配置を進めます。	(③イノベーション) 9
4	多様な業種の企業誘致 北陸新幹線や中部縦貫自動車道の開通効果を最大限活かすことができるよう、製造業に加え、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能、データセンター、植物工場など、誘致対象とする業種を拡大するほか、サプライチェーンの国内回帰を進める企業の誘致など、多様な企業の県内立地を推進します。	(⑧成長·雇用)

【施策7-4】嶺南Eコーストの実現

スマートエリアの整備、廃炉関連産業の育成、試験研究炉を核とした研究・人材育成拠点の形成やイノベーションの創出を進め、人・企業・技術・資金が集まるエリアの形成を目指します。

No.	主な取組み	SDGs
1	スマートエリアの整備や農林水産業のスマート化 太陽光発電・蓄電池・HEMS [※] を搭載したスマートハウスが集まる住宅団地の開発や嶺南地域においてエネルギーを効率的に利用する仕組み(VPP [※])の構築、ICT等を活用した農林水産業のスマート化などを促進します。 ※HEMS(Home Energy Management System): 家庭内のエネルギー使用状況を見える化し、エネルギー使用を制御して省エネ化するシステム ※VPP(バーチャルパワープラント:仮想発電所): 多数の小規模な発電所や電力の需要抑制システムをまとめて制御すること。一つ一つは小規模なリソースでも、IT技術を活用・連動することで需給バランスを最適化できる。	(⑦エネルギー)
2	デコミッショニング(廃炉) ビジネスの育成 県内外の工事参入を目指して、地元企業による連合体の結成を支援するほか、元請企業との情報交換会や電力事業者との共同研究等を充実し、廃炉ビジネスに関する県内企業の技術力を向上します。	(94/ベーション) 9
3	新たな試験研究炉の利活用促進 県内外の企業が参画する利用推進協議会の設立、県内外の大学等のネット ワークの形成、既存の試験研究炉を活用して研究開発を行う県内企業への支 援などにより、新たに整備される試験研究炉の利活用を促進します。	(94/ベーション) 9

〔政策目標〕

- ○A I・I o T などの新技術の導入が進むとともに、新市場を見据えた高付加価値なビジネスが多く生まれていること
- 〇県内外の若者や女性からも注目される、魅力的で多様な産業が集積する地域 となっていること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
製造業の1人当たり付加価 値額 (工業統計から県推計)	1,020 万円/人 (2017)	1,173 万円/人 (2024)	(91/ベーション) 9
宇宙産業における県内企業の売上額 (福井県調べ)	2 億円 (2018)	23 億円 (2024)	(91/ベーション)
ヘルスケア産業売上額 (福井県調べ)	111 億円 (2018)	155 億円 (2024)	(91/ベーション)
県内企業による o T·A 等を活用したサービス提供数(福井県調べ)	6件 (2018)	50件 (2020~2024計)	((() 1 / × - > 3
本社機能移転・拡充件数(福井県調べ)	Ī	5件 (2020~2024計)	(⑧成長・雇用)
嶺南地域においてVPPに 参加する箇所数 (福井県調べ)	_	100 箇所 (2024)	(⑦エネルギー) 〇
廃止措置工事への県内企業 参入割合 (福井県調べ)	約 4 割 (2018)	5 割 (2024)	(9イ/ベーション) 9

〔関連する主な計画等〕

福井経済新戦略、嶺南Eコースト計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○家族みんなで福井の産業を紹介するイベントに参加し、優れた企業や技術を学ぶ
- ○職場において、積極的に大学や研究機関と連携し、新しい技術や製品を開発
- ○子どもたちに県内企業の魅力を伝え、県内就職への選択肢を広げる
- ○県内に進出した企業やその社員と職場や地域活動において積極的に交流

政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ

成長する地域や分野など世界市場の動向を見極め、県内企業の新たな海外展開に向けた支援を強化します。また、食や伝統工芸など本物の魅力を海外に売り込むなど、世界市場の拡大を本県の成長につなげます。









【重点施策】

世界市場チャレンジプロジェクト

県海外事務所(上海・バンコク)を拠点に、環日本海諸国やアジアでのビジネス展開をさらに強化するとともに、世界市場において、テーマとターゲット地域、具体的な目標を定め、各種セールス活動を展開する拠点(ミッション型海外事務所)を設置すること等により、県産品の輸出や外国人客の消費拡大など、世界市場の拡大を本県経済の成長につなげます。

〇「ミッション型海外事務所」の設置

・販路開拓など県民・企業のニーズに即した海外の特定地域にミッション型海外事務所を 設置

[設置候補] フランスに県産品等の販路拡大を目的とした事務所を設置 アメリカにクルーズ客船誘致を目的とした事務所を設置 など

〇県産品の輸出拡大

- ・中国向け越境ECサイトに設置した「福井館」への参加促進、他国への設置拡大検討
- ・営業代行の設置や商談会の開催により福井の食や食文化を発信

など

○港を活かした貿易の拡大、海外クルーズ客船の誘致

- ・新規航路の開拓等による環日本海・アジアを結ぶ物流ネットワークの構築や、災害時の危機管理に対応するための利用の促進など、敦賀港・福井港の貿易を拡大
- ・クルーズ展示会出展などプロモーション活動の継続・強化により、欧州の豪華客船や中国 発着の超大型客船など、多様なクルーズ客船を段階的に誘致
- ・クルーズターミナル機能の強化に必要なハード整備を検討

など

〇インバウンドの拡大

- ・キャッシュレス、Wi-Fi、免税店や案内標識の多言語化など受け入れ環境の充実
- ・新規市場を含め国・地域ごとのニーズに応じたSNS等によるプロモーションや外国人向 けの体験プログラムの開発を促進 など



海外での商談会



海外クルーズ客船へのおもてなし

政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ

【施策8-1】海外ネットワークの新展開

県海外事務所に加え、「ミッション型海外事務所」の設置やジェトロ等との連携により、世界市場につながる本県の海外ネットワークを充実・強化します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	アジア・環日本海諸国でのビジネス展開の強化 本県と経済的な結び付きの強いアジア・環日本海諸国において、経済交流 をさらに発展させるため、県海外事務所(上海・バンコク)を拠点に、新分 野での進出支援、農産物の販路開拓、インバウンド誘客、定期航路の誘致、 人材の確保など、多方面でのビジネス展開を推進します。	(⑧成長・雇用)
2	「ミッション型海外事務所」の設置 販路開拓など県民・企業のニーズに即した海外の特定地域に、テーマとターゲット地域、具体的な目標を定め、各種セールス活動を展開する拠点「ミッション型海外事務所」を設置します。	(⑧成長・雇用)
3	海外ネットワークの活用 県内企業の海外ビジネス相談窓口「ふくいグローバルビジネスプラザ」を 核として、県海外事務所、日本貿易振興機構(JETRO)等の海外ネット ワークを活用し、東南アジア、インド、アフリカなど、今後、市場としての 成長が見込まれる新興国の最新の現地情報を収集、県内企業に提供します。	(8)成長・雇用)

【施策8-2】福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化

食や伝統工芸など福井の本物の魅力を発信することにより、県内企業の販路開拓やインバウンド誘客を促進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	越境ECの活用 中国向け越境ECサイトの福井県プラットフォーム「福井館」に加え、中国以外のサイトの状況を調査し、さらなる立ち上げを検討するなど、越境ECを通して、世界の様々な国で県産品を販売します。	(③成長・雇用)
2	海外展開の支援強化 現地販売拠点の設置や国内外の展示会への出展、商談会の開催など、海外との接点を充実し、伝統工芸・繊維・眼鏡など県産品の販路開拓や県内企業の海外進出等を推進します。	(③成長・雇用)
3	「ふくいの食」の輸出拡大(再掲) 県内事業者の輸出を拡大するため、営業代行の設置や商談会の開催により、 アジア諸国を中心に福井の食や食文化を発信し、新たな販路を開拓します。	(⑧成長・雇用)

4	港を活かした貿易拡大 日本海側の中心にある地理的優位性を最大限活かし、新規航路の開拓等による環日本海・アジアを結ぶ物流ネットワークの構築や、災害時の危機管理に対応するための利用促進などを進め、敦賀港・福井港を活かした貿易を拡大します。	(③成長·雇用) 8
5	海外クルーズ客船の誘致 クルーズ展示会出展などプロモーション活動の継続・強化やクルーズターミナル機能の強化に必要なハード整備の検討を進め、豪華客船や超大型客船など、多様なクルーズ客船を段階的に誘致します。	(③成長・雇用)
6	インバウンドの拡大 WiーFi、キャッシュレス、多言語化など受入れ環境を充実するとともに、国・地域ごとのニーズに応じたSNS等によるプロモーションや外国人向け体験プログラムの開発などを促進し、インバウンドを拡大します。	(③成長・雇用)
7	東京オリ・パラ等を活かした発信 東京や関西の観光団体等と連携したPRを実施することにより、東京オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスターズゲームズ、大阪・関西 万博などで増加するインバウンドを本県に誘客します。	(③成長・雇用)

【施策8-3】国際交流の推進

歴史的につながりの深い環日本海諸国や経済交流が進む東南アジア諸国、欧米諸国等と、地域や民間レベルでの交流を進め、グローバル化に対応した国際人材の育成等を図るとともに、交流の基盤を企業の海外展開や誘客に活かします。

No.	主な取組み	SDGs
1	青少年交流や地域間交流の推進 これまで交流を行ってきた中国浙江省、ドイツハールブルク郡ヴィンゼン市、 米国フィンドレー市など各地域において、国や自治体国際化協会(CLAIR) の事業も活用し、次代を担う青少年の相互派遣や研修生の受入れなど人的交 流や経済・教育・文化分野等における地域間交流を推進します。	(1)7/>yy7) 17 (1)3/13/13/13
2	留学生や県内企業に勤務する外国人等を通じた交流推進 海外からの留学生や県内企業に勤務する外国人、海外在住経験を持つ県民 に、その知識、経験等を各分野における交流の拡大に活かしてもらうととも に、帰国後もつながりを継続し、互いのメリットとなる交流を推進します。	(BK-k+->yy7) 17 ######
3	国際協力の推進 観光や食など、分野を絞った海外からの研修生の受入れや、国際協力機構 (JICA)と連携した中小企業のアジア等開発途上国への進出支援など、経 済交流を見据えた国際貢献・海外展開を推進します。	(@K-k7->yy7) 17

政策8 拡大する世界市場をふくいの成長へ

[政策目標]

- 〇世界市場につながるネットワークが充実・強化され、海外との人・物・情報 の往来が活発化していること
- 〇様々な分野でグローバル化に対応した国際人材が活躍して海外からの注目 を集め、世界市場を取り込んでいること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
県輸出額 (福井県の貿易)	1,861 億円 (2017)	2,000 億円 (2024)	(⑧成長・雇用)
新規輸出件数 (福井県調べ)	50 件 (2014~2018 平均)	80 件 (2024)	(⑧成長・雇用)
越境ECサイトへの出店企業 (福井県調べ)	<u> </u>	60 社 (2024)	(⑧成長·雇用)
海外機関等との交流や協力 関係の構築 (福井県の国際化の現状)	253 件 (2018)	360 件 (2024)	(®パートナーシップ) 17
アジアへの農林水産物・食 品輸出額 (福井県調べ)	8 億円 (2017)	22 億円 (2024)	(⑧成長·雇用)
クルーズ客船寄港回数 (福井県調べ)	5回 (2018)	1 0 回 (2024)	(③成長・雇用)

[関連する主な計画等]

福井経済新戦略、新ふくいの農業基本計画、ふくい観光ビジョン FIRST291~北陸新幹線開業プラン~

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○自社の県産品の海外への売り込みに積極的にチャレンジ
- ○海外クルーズ客船の乗船客など海外旅行者に対する心のこもったおもてなし
- ○国際交流関連イベントや在住外国人との交流活動に積極的に参加

Ⅲ 楽しみを広げる(創造力)

~多彩な魅力で交流拡大。交通新時代の活力の創出~

北陸新幹線の福井・敦賀開業とその後に続く大阪までの全線開業は、100年に 一度のチャンスです。

高速交通網の整備やまちづくりなど交流基盤の整備を進めるとともに、都市圏でのプロモーションや観光地の磨き上げなど福井・敦賀開業に向けた準備を全力で実行します。

また、文化・スポーツを仕掛けとした交流拡大など、楽しくおもしろい、新時代のまちづくりを進めるとともに、「攻め」の移住政策への転換や「関係人口」を増やす新たな仕組みをつくり、移住・定住を拡大します。

[実行する政策]

政策9 100年に一度のまちづくり

- 【施策9-1】北陸新幹線など高速交通網の整備促進
- 【施策9-2】新幹線駅周辺のまちづくり
- 【施策9-3】地域の新交通システムの構築
- 【施策9-4】飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用
- 【施策9-5】「WAKASAリフレッシュエリア」の形成

政策10 北陸新幹線開業効果を最大化

- 【施策 10-1】観光客の心をつかむ魅力づくり
- 【施策 10-2】ふくいブームの創出
- 【施策 10-3】世界を魅了するインバウンド強化
- 【施策 10-4】すべての人が満足できる観光環境づくり
- 【施策 10-5】観光産業化の基盤づくり

政策11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略

- 【施策 11-1】産学官連携による学生の県内就職の促進
- 【施策 11-2】都市部への「攻め」の移住政策
- 【施策 11-3】関係人口の創出・拡大

政策12 文化・スポーツがふくいの活力

- 【施策 12-1 】歴史ミュージアムふくいの発信
- 【施策 12-2】デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり
- 【施策 12-3】スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

北陸新幹線などの高速交通網の整備にあわせ、新幹線駅周辺のまちづくりや二次交通の整備を進めます。また、県内外との交流を拡大する県境フロンティア政策を推進します。













【重点施策】

新幹線ゲートウェイ開発プロジェクト

北陸新幹線福井・敦賀開業とその後の大阪までの全線開業は100年に一度のチャンス。福井・敦賀開業にあたって県内に4つの駅(福井駅、芦原温泉駅、南越(仮称)駅、敦賀駅)ができる機会を活かし、市町とともに人・モノ・資金が集まり活力にあふれるまちをつくります。

〇芦原温泉駅

- ・東尋坊、あわら温泉など県北部の主要観光地等への二次交通の充実
- ・西口駅前広場にホール、広場、観光案内・魅力体感施設を整備し、にぎわいを創出
- ・西口立体駐車場を整備し、周辺地域からの駅利用者や駅前広場でのイベント参加者等の 利便性を向上 など

○福井駅

- ・駅西側の再開発を推進するとともに、福井市や経済界等と協働し、駅周辺のにぎわいを創出
- ・福井城址公園について県庁舎も含め将来のあり方を検討
- ・一乗谷朝倉氏遺跡など主要観光地等への二次交通を充実
- ・県内全域を対象とする観光案内所、カフェ・展示・交流スペース、レンタサイクル等からなる東口拡張施設を整備し「誰もが憩えるおもてなしの空間」を創出 など

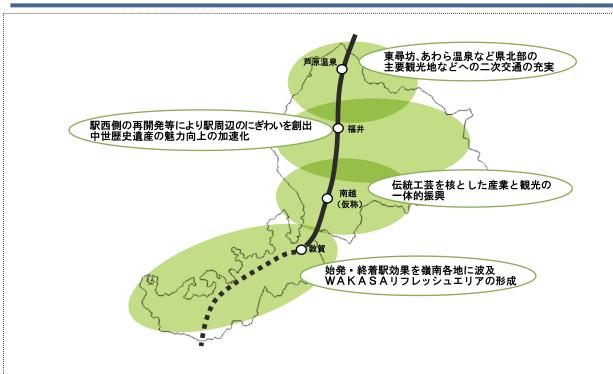
〇南越 (仮称) 駅

- ・伝統工芸を核とした産業と観光の一体的振興、観光地・周辺市町との交通ネットワーク を整備
- ・北陸自動車道武生インターチェンジや国道8号に近接した立地特性を活かし、広域的な 交通拠点、交流起点となるよう、「道の駅」や多目的広場、アクセス道路などを整備 など

○敦賀駅

- ・JR小浜線と主要観光地を結ぶバスの運行などにより、北陸新幹線の始発・終着駅効果を 嶺南各地に波及
- ・関西至近の地の利を活かし、週末居住や微住を楽しむ「WAKASAリフレッシュエリア」 を形成
- ・駅西地区に知育・啓発機能をはじめ、宿泊、飲食・物販、広場、子育て支援などの機能を 導入した施設を官民連携により整備
- ・新幹線駅前広場に加え、緑化空間など快適な空間を整備

など



〇県内公共交通機関の利便性向上

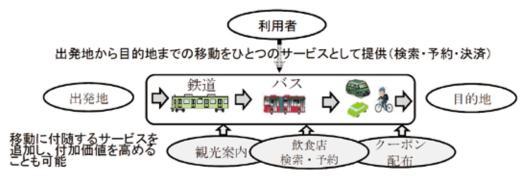
- ・新幹線開業に向け、地域の鉄道ダイヤを充実させるとともに、路線バスに加え、 コミュニティバスやタクシーを活用し、交通網を充実
- ・JR北陸本線は地域に密着した県民鉄道へと一新し、生活や交流の基点としてサービス を提供
- ・公共交通機関のダイヤやルート等をオープンデータ化し、県外からも経路を検索できる 環境を整備
- ・ICカードやQRコードなどによるキャッシュレス化を推進

など

OMaaSによる主要交通拠点と観光地のネットワーク化

・県外からの観光客に対して、鉄道やバスなど観光地までのルート検索、予約・決済のほか、 観光施設、宿泊施設など地域と連携したサービスを一体的に提供する観光型MaaS[※] を構築 など

※MaaS(Mobility as a Service):一人ひとりの移動ニーズに応じて、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを 最適に組み合わせ、検索・予約・決済等を一括で行うことを可能とするサービス



出典:国土交通省資料

【施策9-1】北陸新幹線など高速交通網の整備促進

北陸新幹線や中部縦貫自動車道など、高速交通網の整備を促進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	北陸新幹線の整備促進 2022(令和4)年度末までの北陸新幹線福井・敦賀開業の確実な実現と、 切れ目ない敦賀・新大阪間の工事着手による早期全線開業を、関西をはじめ 沿線自治体と一体となって政府・与党に強く要請します。	(印まちづくり)
2	福井・敦賀開業時の利便性確保 全線開業までの間、敦賀駅において新幹線と特急との乗換えが生じること から、敦賀駅発着のすべての新幹線と乗り継げる特急の確保などによる利用 者の利便性確保を政府・与党、JR等に強く要請します。	(⑪まちづくり)
3	高規格幹線道路の整備促進 北陸新幹線福井・敦賀開業と同時期に、中部縦貫自動車道大野油坂道路の 開通が実現できるよう整備を促進します。 また、舞鶴若狭自動車道(舞鶴東〜小浜西間)の付加車線整備を促進しま す。	(⑪まちづくり) 11

【施策9-2】新幹線駅周辺のまちづくり

福井駅をはじめとする新幹線駅周辺のまちづくりを市町等と協働し推進します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	県都のまちづくり 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた県都の玄関口に必要な都市機能の集積 や、まちなか居住の推進、商業施設の充実等を図る民間主導の再開発を支援 するとともに、福井城址公園の将来のあり方や駅周辺のにぎわい創出に向け た方策を福井市や経済界などとともに検討します。	(⑪まちづくり)
2	新幹線駅周辺の整備 バスやタクシーなど二次交通の出発拠点となる交通広場や駐車場などの整備に加え、各地域の特長を活かしたにぎわい空間の整備を進めます。(芦原温泉駅、南越(仮称)駅、敦賀駅) 北陸新幹線大阪延伸に伴う新駅設置を見据え、まちづくりの構想や計画を策定します。(小浜市(東小浜)附近駅)	(①まちづくり)
3	新幹線駅のアクセス道路を整備 新たな新幹線駅へつながる道路整備を市町と連携して推進し、円滑な駅へ のアクセスを確保します。 【芦原温泉駅】芦原温泉停車場北野線、芦原温泉停車場線 【南越(仮称)駅】南越駅線、武生インター線 【敦賀駅】敦賀駅東線	(⑪まちづくり)

【施策9-3】地域の新交通システムの構築

二次交通を充実し、北陸新幹線福井・敦賀開業により訪れる人を県内全域に招き入れるとともに、拡大する人の流れを地域交通の維持・確保に活かします。

No.	主な取組み	SDGs
1)	主要交通拠点からの二次交通の充実 多言語案内標識など環境整備を進めるとともに、新幹線駅などと観光地をネットワーク化し、利便性向上を図ります。 また、鉄道、バス、レンタサイクルなどの様々な移動サービスを一体的に 提供する観光型MaaSを構築します。	(⑪まちづくり)
2	持続可能な交通ネットワークの構築 路線バスやコミュニティバスに加え、地域住民が自ら行う独自のバス運行 等をきめ細かく支援し、地域住民の移動手段の確保と来県者の利用を促進し ます。また、永平寺「参ろーど」における自動走行の早期実用化と安定した 運行を支援するほか、シェアサイクルや「自転車の駅」など自転車利用の環 境整備を進めます。	(⑪まちづくり)
3	地域鉄道の運行への支援 地域鉄道事業者(福井鉄道・えちぜん鉄道)が実施する安全・安定運行に 必要な設備更新や増強等について支援します。	(⑪まちづくり)
4	並行在来線の開業・運営 2023(令和5)年春の開業に向け、安全・安定運行を確保するための体制 や運営会社の経営を支えるスキームを構築します。開業後は、通勤・通学に 配慮したダイヤ編成や新駅の設置など利便性を高め、地域に密着した県民鉄 道へと一新するとともに、観光・イベント列車の運行などにより来県者の県 内周遊を促します。	(ms55(y))
(5)	並行在来線会社と地域鉄道の連携 並行在来線会社と地域鉄道事業者(福井鉄道・えちぜん鉄道)が連携し、 経営の効率化や利便性の向上に取り組みます。	(⑪まちづくり)
6	□ R小浜線・越美北線の利便性を向上 沿線市町やJR西日本とともに、小浜線・越美北線の利便性向上策を検討、 実施し、持続可能性を高めるとともに新幹線の二次交通としての利用を促進 します。	(⑪まちづくり) 11 ***********************************

3

政策9 100年に一度のまちづくり

【施策9-4】飛躍するふくいを支える基盤の整備・活用

大交流化時代の産業基盤を確固にし、くらしの質を高め、活力に満ちた地域をつくるため、幹線道路の整備や港湾機能の強化など社会インフラの構築とその活用を図ります。

No.	主な取組み	SDGs
1	主要幹線道路ネットワークの構築 国道8号や福井港丸岡インター連絡道路、国道417号冠山峠道路をはじめとする地域高規格道路や県境を越える国道など、産業経済活動や県内外の交流拡大につながる広域的な幹線道路ネットワークの整備を推進します。	(⑪まちづくり) 11
2	地域をきずく道づくりの推進 観光・物流・産業等の交流拡大や地域間の連携促進のため、福井森田丸岡線(新九頭竜橋)や国道365号梅浦バイパス等の地域生活に直結する道路整備を推進し、物流・交流拠点へのアクセス機能を強化します。	(⑪まちづくり)
3	道の駅等の整備促進 観光リゾートエリアの玄関口となり、周遊・滞在および情報発信の拠点となる「恐竜渓谷かつやま」、「越前おおの 荒島の郷」、「南越(仮称)駅」等の道の駅や、南条サービスエリアにおける地域振興施設の整備を促進します。	(⑧成長・雇用)
4	港湾機能の強化による物流・人流の活性化 敦賀港の鞠山南国際物流ターミナルの拡張や、福井港の北防砂堤の延伸等 により港湾機能を強化するとともに、新たな企業進出の促進や新規航路の開 拓、海外クルーズ客船の誘致を進め、物流・人流の拡大を図ります。	(⑪まちづくり)
(5)	港のにぎわい創出 地域や観光地ににぎわいをもたらすため、地元市町や関係団体と協力し、 海外クルーズ客船の受入れ環境整備やレクリエーション・イベント等での港 湾施設の利活用を推進し、域内消費・交流人口の増加を目指します。	(印まちづくり)
6	福井空港の活用 警察本部や防災航空隊、ドクターヘリの活動拠点としての利用に加え、宇宙航空研究開発機構(JAXA)等の航空技術の実証実験場としての活用を進めます。	(mst5づくり)
7	小松空港の利用促進 石川県と連携して、国際線の利用促進と新規需要の開拓を行うとともに、 県民向けプロモーションを実施するなど県民の利用を促進し「福井の空の玄 関口」である小松空港の利便性向上を図ります。	(⑪まちづくり)
8	コンパクトな都市づくりの推進 人口減少下でも快適な生活や持続可能な都市機能を確保するため、県都市計画マスタープランを改定するとともに、関係市町と協働し、実状に応じた都市機能の集約や居住の誘導により、都市のコンパクト化を促進します。	(⑪まちづくり)
9	高速通信による超スマート社会の実現 誰もが等しく高速通信網を利用できるようにするため、光ファイバーなど の通信エリア拡大を通信事業者等に働き掛けるほか、県内における次世代通 信の実証実験を行うなど、高速通信網を導入・活用できる環境を整備します。	(⑪まちづくり)

別

政

策

100年に一度のまちづくり 政策9

[施策9-4-12関連(中長期的な道路の姿)] 交通新時代の道路ネットワークの構築

北陸新幹線福井・敦賀開業による立地条件の向上にあわせ、産業経済活動の 基盤となる道路の整備を推進し、物流、産業、観光等を拡大・活性化します。

○県土の骨格を形成する幹線道路ネットワークの構築

- ・中部縦貫自動車道の整備促進
- ・舞鶴若狭自動車道の全線4車線化
- ・福井港丸岡インター連絡道路などの地域高規格道路の整備促進
- ・国道8号など直轄国道や国道417号冠山峠道路など県境を越える広域道路 の整備促進 など

〇地域間の拠点をつなぐ幹線道路や身近な生活道路の整備推進

- ・新幹線駅や港湾、主要観光地等へのアクセス道路の整備
- ・企業立地や立地企業の規模拡大による交通需要の拡大に対応する道路など、 産業経済活動を支援する道路整備
- ・市街地の幹線道路の渋滞緩和につながる道路整備
- ・代表的観光地等を結び周遊・滞在型観光を促進する道路整備

など

県土の骨格を形成する幹線道路ネットワークの整備



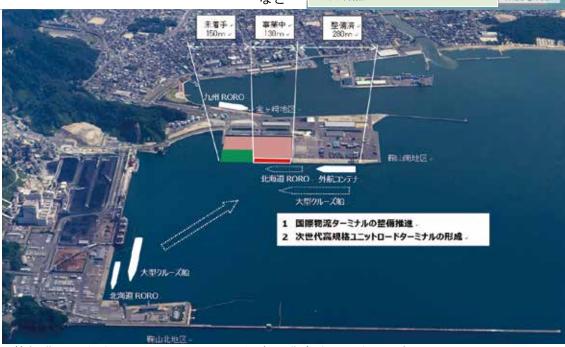
※道路整備に係る計画については、2020年度に道路の将来ビジョンの改定および道路整備 プログラムの策定を予定

[施策9-4-④⑤関連(中長期的な港湾の姿)] 産業基盤を支える港湾機能の強化

玄関口である港の整備により、新たな企業進出や交流拡大を生み出し、地域経済の活性化と好循環を実現します。

〇【敦賀港】先端技術を導入した高効率な次世代の日本海側ターミナル港へ

- ・鞠山南国際物流ターミナルを拡張し、港湾機能 を強化
- ・次世代型高規格ユニットロードターミナル化
- ・新規航路の開拓や海外クルーズ客船の誘致



※敦賀港の将来計画については、2021年度に港湾計画を改訂予定

〇【福井港】中京圏とのアクセス向上を活かした地域経済の活力を生み出す拠点港へ

- ・大型船に対応できる航路の幅、水深の確保
- ・将来の港湾用地や産業用地の造成に浚渫砂を活用
- ・新たな企業進出の促進、防波堤等の多目的利用による誘客



【施策9-5】「WAKASAリフレッシュエリア」の形成

将来の北陸新幹線大阪開業に向け、関西への近接性を活かして、まちづくりや産業のプレイヤーを呼び込み、文化的・健康的に暮らせる生活エリアの形成を目指します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	都市との近接性を活かしたライフスタイル先進地の形成 移住・定住や二地域居住に向けたスマートエリアづくりを進めるなど、関 西に通勤し、または嶺南で創造的に働きながら、文化的・健康的に暮らせる 生活エリアをつくります。	(⑪まちづくり)
2	まちづくりや産業のプレイヤーの育成・誘致 住まいと仕事をセットにした移住支援、チャレンジショップやシェアオフィス棟の整備、学生の長期滞在型キャンプの開催など、地域・住民とともに、新しい地域づくりやビジネスにチャレンジする人を育成・呼び込みます。	(印まちづくり)
3	リフレッシュコンテンツの充実 海湖や歴史等のWAKASAの魅力を楽しみ、リフレッシュできる施設・ 体験プログラムを充実します。	(印まちづくり) 11 11 11 11 12 13 13 14 15 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18
4	玄関口の形成と地域交通ネットワークの強化 北陸新幹線の新大阪までの早期整備、MaaSや自動運転バスなど先端技術を活用した二次交通の導入検討など、より短時間で近畿圏から往来・エリア内を移動できるインフラの整備を推進します。	(⑪まちづくり)

[政策目標]

- 〇北陸新幹線福井·敦賀開業や中部縦貫自動車道の開通などにあわせ、新幹線 駅周辺のまちづくりや道の駅等の交流拠点が整備されていること
- ○観光型MaaSや並行在来線など地域の新交通システムが整備されている こと
- ○国内外からの交流が増加し、にぎわいにあふれるまちがつくられていること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
公共交通機関利用者数	2,038 万人	2,119 万人	(⑪まちづくり)
(福井県調べ)	(2018)	(2024)	
道路改良済延長(県管理)	1,505 km	1,524 km	(⑪まちづくり)
(福井県調べ)	(2018)	(2024)	
敦賀港の取扱貨物量	15,523 千トン	17,000 千トン	(⑧成長・雇用)
(港湾統計)	(2014~2018 平均)	(2024)	

[関連する主な計画等]

県都デザイン戦略、福井県高速交通開通アクション・プログラム 嶺南地域公共交通網形成計画、福井県自転車活用推進計画 道路の将来ビジョン、福井県都市計画マスタープラン 敦賀港港湾計画、福井港港湾計画 福井経済新戦略

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○通勤・通学など外出の際には、クルマをできるだけ使わず電車やバスなどの公共 交通機関や自転車を利用
- ○移動に困っている近所の高齢者を病院やスーパーまで送迎
- ○中部縦貫自動車道や舞鶴若狭自動車道など高速道路を積極的に利用
- ○玄関口となる新幹線駅周辺をきれいにし、来県者をおもてなし
- ○道路の美化に協力するとともに、異変を見つけたら行政に速やかに連絡

北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道の県内全線開通に向け、誘客プロモーションによるふくいブームの創出や観光地の磨き上げ、インバウンド誘客などを集中的に実行し、新幹線開業効果を最大化します。











【重点施策】

観光リゾートエリア形成プロジェクト

国内外から多くの観光客を呼び込むため、恐竜、自然、食、伝統工芸など、本県の唯一無二の地域資源を磨き上げ、北陸新幹線の各駅や中部縦貫自動車道の各インターを玄関口としたリゾートエリアを形成します。

<u>〇恐竜博物館、東尋坊、丹南伝統的工芸品産地、三方五湖、若狭湾など、</u> 人を惹きつける観光地をさらにスケールアップ

- ・恐竜博物館をオールシーズン体験可能な施設にフルモデルチェンジし、映像やライブ ショーなど体感型の機能を強化
- ・長尾山総合公園内や県内・市内の観光地・体験施設との周遊券を設定
- ・恐竜ホテルや恐竜列車など恐竜を素材とした宿泊施設・二次交通の充実等
- ・東尋坊周辺において、絶景を楽しむ仕掛けやアクティビティの導入、エグゼクティブ層 向けのリゾートホテルや厳選食材が楽しめるオーベルジュを誘致するなど、宿泊・滞在 を促進
- ・丹南伝統的工芸品産地において、体感型マーケットや伝統工芸士による解説など、本物の 伝統工芸を体験できるメニューを整備
- ・三方五湖周辺において、五湖を巡る遊覧船の整備、サイクルツーリズムの推進、民宿の おもてなし向上など、観光客の周遊・滞在を促進
- ・若狭湾沿岸において、海辺の体験プログラムの充実、飲食・宿泊施設等の受入環境の整備 を進め、海や港に親しむリゾート空間を形成 など



恐竜博物館



東尋坊商店往

【施策 10-1】観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成など本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や観光列車の運行などを推進し、誘客を拡大します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	恐竜博物館のフルモデルチェンジ	(③成長·雇用) 8
2	東尋坊周辺のスケールアップ 絶景を楽しむ仕掛けや体験プログラムの導入、富裕層向けのリゾートホテルや厳選食材が楽しめるオーベルジュ [※] の誘致など、東尋坊周辺のスケールアップを図ります。 ※オーベルジュ:宿泊設備を備えたレストラン	(3)成長・雇用)
3	丹南伝統的工芸品産地の誘客拡大 5つの伝統的工芸品産地や眼鏡・繊維といった地場産業が集積する全国屈指のものづくり集積地の特徴を活かし、産業観光イベントの開催や本物の伝統工芸を体験できるメニューの充実を図るなど、クラフトツーリズムを拡大します。	(⑧成長·雇用) 8
4	三方五湖周辺など嶺南地域の魅力拡大 三方五湖周辺において、五湖を巡る遊覧船の整備、サイクルツーリズムの 推進など観光客の周遊・滞在を促進するほか、若狭湾沿岸において、海辺の 体験プログラムの充実、飲食・宿泊施設等の受入環境の整備を進めるなど、 嶺南地域の魅力を高めます。	(⑧成長·雇用)
(5)	世界に通用する福井の食・食文化による誘客拡大 一流料理人等による地元食材を活かした質の高い食の提供、ターゲット層 のニーズにあわせたメニューの充実、本県の食・食文化の奥深さを伝える体 験プログラムの造成など、食を目的とする観光を推進します。	(③成長·雇用)
(9)	移動を楽しむコンテンツの開発 「恐竜」、「戦国」、「食」などをテーマとした観光列車や観光バスの導入、 景勝地を通るサイクリングコースの整備、車窓から眺める里山里海湖等の景 観整備など、移動が楽しくなるコンテンツづくりを進めます。	(®成長·羅用)
7	観光を楽しむ・滞在したくなる仕掛けづくり 戦国武将や伝統工芸、食等をテーマにしたストーリー性のある県内周遊ルートの提案、自然等を活かした本県ならではの体験メニューの充実などにより、周遊・滞在を促進します。また、宿泊につながる「イルミネーションエリア」の創出や、自然を活かした体験プログラムの導入によるスキー場の通年活用など、ニーズに合った新たな取組みを進めます。	(③成長·雇用) 8
8	MICE [※] 、教育旅行の目的地としての魅力向上 会議と観光のパッケージ提案や、他では経験できない伝統工芸や自然と触れ合う体験プログラムの提供などにより、MICE、教育旅行の誘致を推進します。 ※MICE: Meeting(会議)、Incentive Tour(招待旅行)、Convention(学会)、Exhibition(展示会)の略	(③成長·雇用) 8

9	開業・開通効果を高める記念イベントの開催 新幹線開業時の「ウエルカムイベント」、中部縦貫自動車道開通時の記念誘客イベント、恐竜博物館のフルモデルチェンジや一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)の開館を記念する特別展など、大型イベントを開催し、開業・開通効果を高めます。	(③成長·雇用)
100	福井を舞台とした映画・ドラマ等の誘致 本県を舞台とするNHK大河ドラマ・朝ドラ等の実現に向けて誘致活動を 強化するとともに、フィルムコミッションを設立し、話題性のある映画やド ラマ等を誘致し、本県の知名度向上や誘客拡大を推進します。	(®成長·雇用)
11)	多様な宿泊形態の充実 あわら温泉の魅力向上、世界的な高級ホテルや地域の食材を提供するオーベルジュの誘致、ホテルにおける恐竜や伝統工芸をテーマにした客室やロビーの改修、自然や食を体験できる農家・漁家民宿の充実など、観光客のニーズに沿った多様な宿泊環境を整備し、県内での宿泊旅行を促進します。	(③成長·雇用)

【施策 10-2】ふくいブームの創出

北陸新幹線福井·敦賀開業に向けた集中的なプロモーションやブランド力の強化などにより、ふくいブームを創出します。

	より、ふくいノームを創出します。	
No.	主な取組み	SDGs
1	新幹線開業に向けた情報発信の強化 新幹線開業をアピールするキャッチコピー・ロゴを新たに作成し、オール ふくいで統一的にアピールするほか、ふくいブランドを活用して、「本物」に 触れるイベントを核に各種メディアで情報を拡散するプロモーションを展開 するなど、ふくいファンを拡大するため、徹底的な情報発信を行います。	(③成長·雇用)
2	個々の資源の付加価値・ブランド力の向上 県民参加型プロジェクトの実施などを通じ、恐竜や永平寺、鯖街道などの 地域資源一つ一つについて、知的好奇心を刺激するストーリーを発掘・発信 します。	(⑧成長·雇用)
3	デジタル情報の発信・拡散 ウェブサイト上の観光情報の充実などデジタル化を推進するとともに、県 民や事業者、観光客等の多様な主体によるユーチューブやインスタグラム等 での情報発信・拡散を強化します。	(③成長·雇用)
4	ターゲットを捉えた情報発信 インスタグラマーを活用し写真映えする観光素材を首都圏若年層向けに発 信するなど、観光客の居住地や年齢による本県への認識、距離感の違いなど を踏まえながら、戦略的なプロモーションを展開します。	(③成長・雇用) 8
5	アンテナショップの機能充実 首都圏において、県内の魅力的な個々の特産品のPRを進めるとともに、 本県全体の産業・観光・文化の魅力についても積極的に発信します。	(③成長・雇用) 8

【施策 10-3】世界を魅了するインバウンド強化

国・地域などターゲットに応じた情報発信やコンテンツの充実、キャッシュレスの 促進など外国人目線の受入れ環境の整備を推進し、インバウンドを拡大します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	国・地域に応じた情報発信 台湾からの教育旅行の誘致や小松空港を玄関口とした香港向け誘客、「ZEN」ブランドによる欧米向けプロモーションなど、国・地域の特徴に応じたデジタルマーケティングに基づく情報発信を展開します。	(③成長·雇用)
2	近隣府県等からの誘客強化 京都事務所の新設や関西、東京などの観光団体と連携したプロモーション、 広域観光ルートの構築、本県ゆかりの飲食店等を拠点とした情報発信などに より、東京オリンピック・パラリンピックなどで増加するインバウンドを本 県に呼び込みます。	(⑧成長・雇用)
3	インバウンド向け観光コンテンツの充実 外国人専門家や在住外国人等の意見を取り入れながら、福井でしか体験できない職人の直接指導による伝統工芸体験プログラムなど、外国人観光客が求める観光コンテンツを充実します。	(③成長·雇用)
4	世界基準の外国人受入れ環境の整備 外国人観光客を積極的に誘致する重点エリアを設定し、WiーFi、キャッシュレス、多言語化、免税店の増加など、外国人目線に立った受入れ環境の整備や、事業者の受入れ意識醸成等を推進します。	(®)成長・雇用)

【施策 10-4】すべての人が満足できる観光環境づくり

すべての観光客が快適で満足した旅行ができ、滞在・リピートしたくなる環境づくりを促進します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	おもてなし環境の整備 県民・事業者・行政が一体となった「おもてなし県民運動」の展開や観光 関連事業者のサービスレベルの向上、地域特産品を幅広く活用した土産品の 開発を促進し、観光客の受入れ態勢を強化します。	(③成長·雇用)
2	滞在・リピートしたくなる旅行インフラ整備 観光地のトイレ洋式化などのインフラ整備や飲食業・宿泊業等の店舗改修・設備導入、公共交通機関のキャッシュレス化、共通フリー切符の開発を進めるとともに、観光型MaaSの構築など二次交通の利便性向上を促進します。	(⑧成長・雇用)
3	観光の「見える化」の推進 県民への意識調査や意見交換等を通じて、観光が地域に及ぼす影響の「見える化」や観光に対する理解等を促進し、観光客に対しては、福井の文化や自然環境等の環境を保つためのルール・マナーの順守を促すなど、県民自身の快適なくらしにつながる持続可能な観光施策を展開します。	(⑧成長・雇用)

【施策 10-5】観光産業化の基盤づくり

福井県版DMOを中心に地域の観光プレイヤーを発掘・育成し、宿泊・飲食など観光客に気持ちよい消費を促すことにより、地域の観光収入の増加を図ります。

No.	主な取組み	SDGs
1	頑張る民間事業者の活動支援 新たに立ち上げる福井県版 D M O が観光地域づくりの舵取り役となり、観 光プレイヤーの発掘・支援やマーケティングデータ分析による観光商品の開 発など、地域の稼ぐ力を引き出す取組みを展開します。	(③成長・雇用)
2	観光のイノベーションを起こす人づくり 地域の観光をリードし次世代の観光を担う人材を育成するため、観光ビジネス講座の新設等による福井県観光アカデミーの充実など、観光を学ぶ機会の充実を図ります。	(④教育)

〔政策目標〕

- 〇県民一人ひとりが観光の将来性、自らが果たすべき役割等に対する理解を深め、観光客目線の情報発信やおもてなし等に取り組むこと
- ○誰もが福井に魅力を感じて来県し満足する、ふくいブームが創出され、持続 的に発展していること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
観光客入込数 (福井県観光客入込数(推計))	1,697 万人 (2018)	2,000 万人 (2024)	(⑧成長・雇用)
観光消費額 (福井県観光客入込数(推計))	1,313 億円 (2018)	1,700 億円 (2024)	(⑧成長·雇用)
延べ宿泊者数 (宿泊旅行統計調査)	406 万人 (2018)	510 万人 (2024)	(③成長・雇用)
外国人延べ宿泊者数 (宿泊旅行統計調査)	7.6 万人 (2018)	40 万人 (2024)	(⑧成長・雇用)
来訪者満足度(福井県調べ)	46% (2019)	60% (2024)	(⑧成長・雇用)

[関連する主な計画等]

ふくい観光ビジョン、FIRST291~北陸新幹線開業プラン~ 福井経済新戦略

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○SNS等を活用して県内の観光地などを情報発信
- ○観光を学ぶ講座などへ参加、地元の観光資源の知識を習得し、その魅力を友人に 紹介
- ○海外MICE開催時などの外国人へのおもてなしに協力
- ○道案内やあいさつなど観光客に積極的に声掛けを行う

U | ターン支援体制を強化するなど「待ち」から「攻め」の移住政策に転換するとともに、 交流人口の拡大や多様な福井との「関わり」から移住・定住につなげる新たな仕組みをつくります。









【重点施策】

関係人口拡大プロジェクト

学生の地域滞在や社会人のリモートワークなど、外から人を呼び込むローカルプロジェクトを実行し、「福井がおもしろい」を合言葉に若者・よそ者が集まる「ローカルチャレンジ先進地」を実現します。

〇学生等の地域滞在を促進

- ・県外の学生が地域に長期滞在し、住民と交流しながら創作活動を行う「河和田アートキャンプ」、「竹田 T キャンプ」の活動を拡大するとともに、嶺南地域などに新たな活動地域を開拓
- ・県外の大学と連携し、県内の地域や企業等へのフィールドワークを通じて、福井について 理解を深める「福井研修プログラム」を開発 など

〇「テレワーク」、「ワーケーション」の実践

- ・都市部企業等と協定を締結して、県内のサテライトオフィス等において「テレワーク」や 「ワーケーション」を実践する仕組みを構築
- ・都市圏の「テレワーカー」、「二地域居住」希望者を対象とした交流会を開催し、希望者を開拓 など

〇地方兼業・副業の推進

- ・市町や企業等と連携して「地方兼業・副業プロジェクト」を開発し、都市人材を 地域活性化の担い手として県内に呼び込み
- ・すべての市町で、都市人材が微住しながら地域や県内企業において活躍 など



ワーケーションの体験風景



越廼サテライトオフィス

【施策 11-1】産学官連携による学生の県内就職の促進

産業界と教育機関、県や市町が一体となって、地域に根差した教育や県内外の学生 と県内企業との接点を拡大するなど、学生の県内進学・就職を促進します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	魅力的な大学づくりによる県内進学促進 地方の若者の人口流出を抑制するため、都市部の大学定員を削減し、地方 の定員を拡大するよう、大学定員の偏在是正を国に働きかけます。また、県 内大学に、福井の特色を生かした新学部・学科を創設し、各大学の強みを磨 き上げるとともに、「FAA ふくいアカデミックアライアンス」を中核とし て、県内大学と高校等との連携を強化するなど、県内進学を促進します。	(④教育)
2	地域に根差した教育の推進 県内大学における産業界・市町と協働したPBL※・共同研究や地元定着につながるリカレント教育、県内職業系高校における地元企業の技術者を招き最先端技術を学ぶ授業など、地域や社会を担う人材育成に向けた教育を推進します。 ※PBL(Project-Based Learning): 学生が地域や企業に関わる課題解決型学習	(④教育)
3	県内外の大学と県内企業等とのつながり強化による県内就職促進 企業現場での大学生の実習機会や県外大学との就職支援協定の拡大、協定 校でのUターン就職イベントの開催など、大学生に県内企業の魅力を伝える 機会を拡大します。	(⑪まちづくり)
4	県外学生による福井応援 福井出身の県外学生の組織化やネットワークの拡大、県内企業の魅力発信など福井を応援する学生の活動を応援、県外進学者が福井との関係構築に主体的に関わる仕掛けをつくり、将来的なUターンを促進します。	(⑪まちづくり)
(5)	理系人材のU ターン促進 県外大学等で理系の専門分野を履修した学生等が県内就職した場合の奨学 金返還支援制度を拡充します。 また、理系の県外学生に対して、県内企業の優れた技術や製品についての 理解を促進する学内セミナーなどを開催し、学生 ターンを拡大します。	(⑪まちづくり)

【施策 11-2】都市部への「攻め」の移住政策

関西(京都、大阪)からの移住促進体制を強化するとともに、都市部の地方転職希望者等に対し、県内企業への就職をはじめ、就農や事業承継など、多様な就業とのマッチングを促進し、移住を拡大します。

No.	主な取組み	SDGs
1	「ふるさと福井移住定住促進機構」の体制強化 京都にUターンセンターを新設するほか、大阪Uターンセンターに新たに 人材開拓員を配置するなど、関西圏の移住希望者の開拓やスカウト業務を強 化するとともに、中京圏からのUIターン拡大に向けた体制強化を検討しま す。	(⑪まちづくり)
2	U ターン移住就職等支援の強化 都市圏でのセミナーの開催やU ターン就職サイトの運用により、移住希望者や学生と県内企業のマッチングを強化するとともに、東京圏からの移住就職・起業等に対して移住支援金を支給するなど、移住定住を促進します。	(⑪まちづくり)
3	福井の産業力を活かした移住促進 「園芸・林業・水産カレッジ」、「伝統工芸職人塾」など福井の特色ある産業を学ぶ場を拡充し、移住を促進します。 また、都市部の学生、若者に対し、県内企業や地場産業の工房などを見学、体験実習する機会を提供し、県内就職への関心を高めます。	(⑪まちづくり)
4	産業人材の呼び込み 人と企業のセット誘致や事業承継のための後継者の全国公募、高度人材の UIターン就職促進、働きやすい職場環境づくりなどを推進し、外から人を 呼び込み地域経済を活性化します。また、地方に従業員を配置することが企 業のメリットとなるような税制改正等を国に求めます。	(⑪まちづくり)
(5)	市町・企業と連携した移住の促進 市町や企業とともに、「仕事」・「住まい」・「定着支援」を組み合わせた「移 住応援パック」を開発し、都市部人材とのマッチングを推進するなど、 タ ーンを促進します。	(①まちづくり)
6	移住者のネットワークづくり 交流会の開催など移住者のネットワークづくりを応援し、新たな移住者が 福井になじめるよう支援するとともに、外から見た福井の魅力を発信するな ど、人が人を呼ぶ戦略を実行します。	(⑪まちづくり)

【施策 11-3】関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向けて、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化やUIターンにつなげます。

No.	主な取組み	SDGs
1)	学生の地域滞在型キャンプの拡大 県外から学生を呼び込む案内所機能を京都に開設し、県外の学生や若者が 地域に滞在して、住民と交流しながら地域活動を行う「河和田アートキャン プ」、「竹田Tキャンプ」の活動を支援するとともに、嶺南地域などの新規地 域におけるプロジェクトを展開します。	(①まちづくり)
2	県外大学の学生を対象とした「福井研修プログラム」の開発 県外大学と連携して、県内の地域や企業等へのフィールドワークを通して、 福井について理解を深める「福井研修プログラム」を開発し、学生の参加を 促進します。	(⑪まちづくり)
3	「テレワーク」、「ワーケーション」の実践 都市部企業等と協定を締結して、県内のサテライトオフィス等において「テレワーク」や「ワーケーション」を実践する仕組みを構築するとともに、都市圏の「テレワーカー」、「二地域居住」希望者を対象とした交流会を開催し、希望者を開拓します。	(印まちづくり) 11
4	「地方兼業・副業」の推進 「地方兼業・副業」により都市人材の高度な知識・知見を県政に活用するとともに、市町や企業等と連携して「地方兼業・副業プロジェクト」を開発するなど、都市人材を地域活性化の担い手として県内に呼び込みます。	(①まちづくり)
(5)	市町と連携した「微住」の促進 「地域のしごと」・「宿泊」・「滞在支援」を組み合わせた「微住応援パック」 を市町とともに開発するなど、国内外から福井を訪れ短期滞在する「微住」 を通した地域との関わりづくりを促進します。	(印まちづくり) 日本
6	移住者による地域との関わりづくりの推進 県外在住者と県内各地との関わりづくりを促進するため、福井へ移住した 若者等に、地域の魅力を伝えるコーディネーターとなってもらい、県外からの 人の招致や関係人口の拡大を推進します。	(⑪まちづくり)
7	ふるさと納税を活用した交流人口の拡大 使途を明示したプロジェクト応援型の推進などにより、ふるさと納税を拡 大するとともに、納税者に県内の企画会社や旅行会社等と協力して造成した 着地型ツアーや体験プログラムを提供、寄付者の来県を促進し、交流人口を 拡大します。	(⑪まちづくり)

[政策目標]

- 〇都市部の社会人や学生など、多様な形で福井と関わる人が増え、県内各地で にぎわいや活力が生まれていること
- ○福井への移住や県内定着が増加し、社会増が実現すること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
社会増減	△2,159 人	社会増	(⑪まちづくり)
(住民基本台帳人口移動報告)	(2018)	(2024)	
新ふくい人(社会人U タ ーン者) (福井県調べ)	719 人 (2018)	1,200 人 (2024)	(⑪まちづくり)
学生Uターン率	32.1%	35%	(⑪まちづくり)
(福井県調べ)	(2018)	(2024)	11
県内学生(理工系)の県内 就職者数 (福井県調べ)	176 人 (2018)	200 人 (2024)	(⑪まちづくり)
関係人口プロジェクト(福井県調べ)	172 件	210 件	(⑪まちづくり)
	(2018)	(2024)	11

〔関連する主な計画等〕

ふくい創生・人口減少対策戦略、福井県立大学第3期中期計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○県外の大学等に進学した家族に、福井の企業の魅力や暮らしやすさを発信
- ○高い技術など自社の魅力を県内外の学生や社会人に広くPR
- ○県外出身の学生をサークル活動に誘うなど、進学等で福井に移り住んでいる人と 積極的に交流
- ○移住者や来県者との交流会や体験活動などに積極的に参加
- ○県外在住の家族や知人に、福井への帰省・旅行時の体験活動への参加を勧める
- ○県外の学生や若者が地域で活動する場や機会の提供に協力

政策12 文化・スポーツがふくいの活力

長い歴史・生活が培った文化力や芸術文化への関心の高まり、福井国体・障スポ等 を通して高まったスポーツ熱を活力に、デザイン・アートの充実やフェスの開催など 若者に魅力あるイベントを拡充し、楽しみにあふれるまちづくりを進めます。









【重点施策】

文化・スポーツによる「エンタメ福井」実現プロジェクト

まちなかにおける文化芸術を活かしたにぎわいの創出、地域スポーツコミッション (県スポーツまちづくり推進機構)による全国大会・イベントの誘致、国内外から人 を呼び込む世界大会の開催など、文化芸術やスポーツ、エンターテインメント等を活 かした交流を拡大し、訪れる人も県民も楽しみ合える「エンタメ福井」を実現し、県 民生活に「楽しみ」をプラスします。

〇「県スポーツまちづくり推進機構」による交流拡大

・県、市町、スポーツ団体、経済団体等が一体となった「県スポーツまちづくり推進機構」 により、スポーツを通じ新たな観光客を呼び込み、交流人口を拡大 など

〇「フルマラソン」の開催

・北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた「フルマラソン」の開催を検討

など

〇ワクワクする大規模スポーツ大会・イベントの誘致・開催

・有名選手が参加する「アスリートナイトゲームズ」など、国内外から多くの観戦者を呼び 込めるような魅力あるスポーツ大会・イベントを誘致・開催 など

〇ドキドキする参加型スポーツイベントの企画・開催

・「三方五湖一周サイクリング大会」など、県内外から多くの参加者を呼び込めるよう、 福井の自然を活かしたスポーツイベントの企画・開催 など

〇県内スポーツチームをみんなで応援

・県内スポーツチームがプロにステップアップする等、県民が一体となって応援するチーム となるよう、地域活動への参加やチームのPRなどの広報活動を推進 など



(2019. 8. 17)



サイクリング大会(イメージ)

〇デザインやアートに親しむ機会の充実

- ・駅の待合室などに誰もが自由に弾ける「まちかど幸福ピアノ」を設置するなど、 まちなかに交流の場を作り、にぎわいを創出
- ・地域において、出張美術館や音楽イベント等を開催するほか、地域文化を発信する 美術・伝統工芸の展示等を開催 など



まちかど幸福ピアノ



出張美術館 (イメージ)

〇「若者・よそ者」が集まるまちづくり

- ・野外フェスティバルの開催など、福井城址等を活用した「にぎわい」を創出する まちなかイベントの拡大
- ・学生が制作したアート作品を商店街の営業店舗などに展示する「まちかどヤングアート カレッジ」を開催
- ・同人誌販売会の開催、e スポーツ大会の開催など、サブカルチャーやポップカルチャーなどの若者文化を応援
- ·「国際音楽祭」のほか「アートフェスティバル」の開催などを支援し、国際交流を推進
- ・「インターナショナル小倉百人一首かるたフェスティバル」の開催など福井の文化を通した 国際大会を拡大 など



ワンパークフェスティバル 2019



競技かるたの全国大会

政策 12 文化・スポーツがふくいの活力

【施策 12-1】歴史ミュージアムふくいの発信

千年を超える歴史・文化遺産等を大切に保存・継承するとともに、それらをネットワーク化し発信するなど、本県の歴史・文化を活かし地域の活力を高めます。

No.	主な取組み	SDGs
1	様々な博物館等のネットワーク・ストーリー化による発信強化 県内各地の質の高い博物館・美術館について、各館の特徴や見どころを活かし、周辺情報等とともに、魅力あるストーリーなどでまとめて発信し、博物館・美術館を核とする県内周遊を促進します。	(⑧成長・雇用)
2	博物館・美術館の魅力向上 県内博物館・美術館において、学芸員同士の交流や、県内外の各館所蔵資料の相互貸借を促進することにより、話題性のある展覧会を実施するなど、本県の歴史や文化を学べる施設としての魅力をより一層向上します。	(⑧成長・雇用)
3	一乗谷ミュージアムの発信戦国期の城下町跡がそのまま残る他に類例のない特別史跡「一乗谷朝倉氏遺跡」の価値や魅力を全国に発信するとともに、中世の歴史を楽しみながら学べる施設として、一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)を整備します。	(明まちづくり)
4	歴史遺産の活用 一乗谷朝倉氏遺跡とともに日本遺産に認定された「白山平泉寺」や国の重要文化財に指定されている「大本山永平寺」、「丸岡城」のほか、「越前大野城」、「大安禅寺」、「金ケ崎宮」、「国吉城」など歴史・文化遺産をつなげ周遊観光ルートを構築します。	(⑧成長・雇用)
(5)	文化財の保存・継承 文化財保護を図るため国指定等を推進し、観光振興・地域づくりに活用するとともに、文化財の修理・整備や価値を伝える講座の開催等により、適正な維持管理や県民の文化財保護への意識醸成を促進します。	(⑪まちづくり)

政策12 文化・スポーツがふくいの活力

【施策 12-2】デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

デザインやアートに親しむ機会を充実するほか、フェス等のにぎわいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふれる、おもしろいまちづくりを推進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	デザインやアートに親しむ機会の充実 駅の待合室などへの誰もが自由に弾ける「まちかど幸福ピアノ」の設置や 地域における出張美術館や音楽イベント等の開催など、気軽に楽しみ親しむ ことができる多様な芸術文化活動を支援し、交流を拡大します。	(印まちづくり) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2	サブカルチャーやポップカルチャーを含め多様な芸術文化活動を応援 「野外フェスティバル」や「同人誌販売会」、「e スポーツ大会」など、サブカルチャーやポップカルチャーを含めた若者・よそ者が集まる芸術文化活動を応援し、交流人口拡大、まちなかの活性化につなげます。	(⑪まちづくり)
3	国際音楽祭等による国際交流を推進 各国からアーティストを招いた国際音楽祭やアートフェスティバルのほか、かるたなど福井の文化を通した国際大会の開催を支援し、身近に優れた芸術文化に触れる機会を創出することにより、まちの活性化を推進します。	(印まちづくり)
4	地域におけるアート活動の拡大 学生のアート作品を商店街の店舗などに展示する「まちかどヤングアートカレッジ」の開催や、国内外のアーティストが県内各地に滞在して行う創作活動への支援など、地域に密着したアート活動を拡大します。	(massac)
(5)	デザインとものづくりの融合 デザインセンターふくいによるブランディング支援のほか、若手職人やデザイナーが中心となり開催するものづくりイベントの開催や体験プログラムの開発等を支援し、ものづくりを核とした交流を拡大します。	(⑧成長・雇用)
6	まちなか商店街の活性化 ネット社会の中で「買い物」本来の楽しさを提供する人が集まる魅力的な リアル店舗づくりを応援し、まちなかの商店街の活性化を推進します。	(⑧成長・雇用)

政策 12 文化・スポーツがふくいの活力

【施策 12-3】スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツ をまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

No.	主な取組み	SDGs
1	国体・障スポレガシーを活かしたスポーツイベントの持続的な開催 県、市町、スポーツ団体、経済団体等が一体となった「県スポーツまちづくり推進機構」により、国内外から人を呼び込む全国大会・世界大会やスポーツイベントを持続的に開催し、交流人口の拡大を図ります。	(③成長・雇用)
2	「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」の福井県開催 「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」の競技大会を県内市町で開催 し、その成果を交流人口の増加につなげるなど、世界大会等を契機にスポー ツを活かしたまちづくりを進めます。	(③成長・雇用)
3	スポーツツーリズムの推進 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた「フルマラソン」の開催検討や「三方 五湖一周サイクリング大会」の開催など、福井の自然を活かしたスポーツツ ーリズムを推進します。	(⑧成長・雇用)
4	県内トップスポーツチーム・選手を県民一体でサポート・応援県内スポーツチームのプロへのステップアップや、県民が一体となって応援するチームとなるよう、「県スポーツまちづくり推進機構」が中心となって、スポーツ教室の開催や地域活動への参加等をサポート・応援します。	(⑧成長・雇用)
(5)	1 県民1スポーツの推進 県民の誰もが自分に合ったスポーツに親しみ、健康で生きがいのある生活 を送ることができるよう、スポーツ体験会や参加型イベントの開催、クラブ や指導者の育成など、環境づくりを進めます。	(③健康·福祉) 3 ## (
6	トップアスリートの養成 小・中学生の競技特性に沿った体験会による有望選手発掘やオリンピックに挑戦する選手の雇用支援、地域に根差したお家芸競技の育成など、トップアスリートの養成を通じ本県のスポーツ熱を高めます。	(④教育)

政策12 文化・スポーツがふくいの活力

[政策目標]

- ○感動とにぎわいが生まれる文化・スポーツのイベント・大会が持続的に開催 されること
- ○国内外から多くの参加者が福井を訪れ県民と交流するとともに、日頃から 文化芸術やスポーツを楽しむ県民が増えていること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
成人のスポーツ実施率 (週1回以上スポーツを実施) (全国体力・運動能力調査)	54.1% (2018)	65% (2024)	(③健康・福祉) 3 *******
総合型地域スポーツクラブ 会員数 (福井県調べ)	6,619 人 (2018)	7,500 人 (2024)	(③健康・福祉) 3 ******
文化活動を行う若者グルー プ (福井県調べ)	_	30 グループ (2024)	(⑪まちづくり)
若者の大規模文化活動の数(福井県調べ)		5回 (2024)	(⑪まちづくり)
文化国際交流イベントの数(福井県調べ)	3回 (2018)	10 回 (2024)	(①まちづくり)

[関連する主な計画等]

福井県スポーツ推進計画、福井県文化財保存活用大綱、福井経済新戦略

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○スポーツイベントや県民交流イベントに参加
- ○スポーツ大会開催時におけるボランティア、応援に参加
- ○日ごろからスポーツ・運動に取り組む
- ○文化施設を定期的に観覧するほか、文化・芸術イベントへ参加
- ○サブカルチャー、ポップカルチャーなど若者文化へ関心を持ち体験する

Ⅳ 安心を高める(地域力)

~人生100年時代をリードする「健康文化」の創造。くらしを守る安全・安心~

長寿命化時代に向け、生涯にわたり、健康に安心して暮らせる福井を未来へつな ぐ必要があります。

くらしの中で、世代に応じて健康づくりをし、高齢者観を変える「健康文化」を 創造するとともに、医療・介護・福祉の融合を進めるなど、誰もが安心して暮らせ る環境を整備します。

また、地域コミュニティの活力維持や地域防災・防犯対策、県土の強靱化、自然環境の保全・活用、安全最優先の原子力政策など、県民の安全安心を地域全体で守ります。

[実行する政策]

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル

【施策 13-1】 100歳までの「健活力」の向上

【施策 13-2】日常生活の中に仕掛ける健康づくりを促進

【施策 13-3】地域の健康づくりに専門家を活用し住民サポートを強化

政策14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉

【施策 14-1】「地域完結型」の医療体制の確立

【施策 14-2】「スマート医療」の推進

【施策 14-3】「次世代包括ケアシステム」の推進

【施策 14-4 】包括的な福祉相談体制の構築

政策15 ふるさとの暮らしと風景の維持

【施策 15-1】「住みやすさ改革」による豊かな地域コミュニティづくり

【施策 15-2】美しい景観の保全・形成

【施策 15-3】里山里海湖の保全・活用

【施策 15-4】エネルギーと資源の循環型社会の構築

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

【施策 16-1】人と技術による地域防災力の向上

【施策 16-2】災害に強く、安心して暮らせる福井の基盤を構築

【施策 16-3】県民を守る犯罪・事故等の対策

【施策 16-4】県民の安全最優先の原子力政策

【施策 16-5】 拉致問題への対応

政策13 人生100年時代の健康ライフスタイル

一定の年齢をもって"支えられる"存在とする考え方を見直し、何歳になっても元気なうちは社会を"支える"役割を担うという新しい高齢者観を共有します。人生100年を健康に過ごすための「ふくい型健幸サポートシステム」を構築し、世界の範となる福井発の「健康文化」を創造します。















【重点施策】

ふくい発「健康文化」創造プロジェクト

長寿命化社会の福井において、県民が100歳まで幸せに生きることを目標とする新しい「健康文化」を創造するため、子どもから働く世代、高齢者まで全世代にわたる疾病予防や就労促進など社会の仕組みを人生100年時代型に転換していきます。

〇社会の支え手として活躍できる「いきがい寿命」の延長

・高齢者に対する短時間勤務や人生経験を活かした就労「ハイシルバーワーク」の促進、 有償ボランティアによる社会参加の仕組みづくりなど、活躍する機会を拡充 など

○80~90歳代のための疾病・介護予防体制

・一滴がん検診の導入や「オーラル(口腔)フレイル」を加えたフレイル予防の新展開などにより、高齢者の疾病・要介護化を防止 など

〇現役世代からの健康づくり

・スニーカービズなど"プラス 1000 歩"を目指した歩く県民運動、福井の食文化を活かした「ふくい100彩ごはん」による食生活の改善など、県民の生活習慣を改善など

〇健康リテラシー教育の実践

・100歳まで生きる力を学ぶための「ふくい型健康リテラシープログラム」を開発、 全世代に対して保険者等を通した健康リテラシー教育を実践 など



介護現場での高齢者の短時間勤務



がん出前講座

【施策 13-1】 100歳までの「健活力」の向上

「いきがい寿命」の延伸に向け、一滴がん検診の導入やフレイル予防等の促進により、疾病・要介護化を徹底防止するとともに、元気な高齢者の社会参加を通じて、県 民みんなが100歳まで健康に活躍できる社会をめざします。

No.	主な取組み	SDGs
1	一滴がん検診の導入 特定健診時に採取した血液や尿でがん検診を行う一滴がん検診により、検 診に対する高齢者の身体的負担を軽減し、受診促進と疾病の早期発見・治療 を進めます。	(③健康·福祉) 3 ####################################
2	フレイル予防・認知症予防の強化 「通いの場」を拠点としたフレイル予防・認知症予防の地域への浸透を図るとともに、フレイルチェックの結果分析を通じ、地域ごとの特性を反映した予防活動を展開します。	(③健康·福祉) 3 ************************************
3	オーラルフレイル予防の拡大 高齢者に対する訪問歯科健診や通いの場等における口腔体操の実施に加え、歯科医師会と連携した口腔機能チェックなどにより、「食べる力・話す力」 を維持・向上させるオーラルフレイル予防を拡大します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
4	社会の支え手として活躍できる環境の整備 短時間勤務や就労「ハイシルバーワーク」など多様な働き方を普及するとともに、有償ボランティアによる生活支援や子育て支援など社会参加を促す仕組みを整えるなど、高齢者が活躍できる環境を整備します。	(⑪平等)

【施策 13-2】日常生活の中に仕掛ける健康づくりを促進

通勤や買い物での歩く習慣づくり、健康的な食生活など、日常生活の中で健康に配慮した活動が実践できる環境整備を進め、県民の健康づくりを促進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	歩く県民運動を推進 スニーカービズ、ショッピングセンターウォーキングや企業等での歩数チャレンジ大会など"プラス1000歩"を目指し、歩く県民運動を推進します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
2	1県民1スポーツの推進(再掲) 県民の誰もが自分に合ったスポーツに親しみ、健康で生きがいのある生活を送ることができるよう、スポーツ体験会や参加型イベントの開催、クラブや指導者の育成など、環境づくりを進めます。	(③健康・福祉) 3
3	「ふくい100彩(さい)ごはん」を開発・普及 食品事業者等と連携したメタボ対策やフレイル予防のメニュー認証に加え、本県の食文化を活かした健康長寿食メニューを「ふくい100彩ごはん」として外食から家庭料理まですべてを通じ県民の食生活改善を促進します。	(③健康·福祉)
4	健康リテラシー教育の実践 100歳まで生きる力を学ぶための「ふくい型健康リテラシープログラム」 を開発、全世代に対して保険者等を通した健康リテラシー教育を実践します。	(②教育)
(5)	たばこ対策の強化 未成年者の喫煙防止に加え、禁煙外来や禁煙サポート薬局と連携した禁煙 支援を推進するとともに、公共施設等における受動喫煙対策を強化します。	(3)健康・福祉) 3 ************************************
6	職域における生活習慣病の予防促進 特定健診等の受診促進、健康づくり実践事業所の拡大、禁煙外来の受診促 進、食生活改善推進員による減塩等の普及など、働く世代の生活習慣病予防 を促進します。	(③健康・福祉) 3
7	健康改善の見える化 市町の健康づくり活動において、地域住民の健康改善の効果を「見える化」 する取組みを支援するとともに、わがまち健康推進員の活動を強化して健康 無関心層の参加を促進します。	(③健康・福祉)

【施策 13-3】地域の健康づくりに専門家を活用し住民サポートを強化

わがまち健康推進員やフレイルサポーターの活動を強化するとともに、専門家と連携して健康コミュニティを形成し、地域住民の健康をきめ細やかにサポートします。

No.	主な取組み	SDGs
1	健康づくりの担い手の育成強化 各地域の健康づくりの担い手であるわがまち健康推進員やフレイルサポーター等に対して研修会や情報共有の場を提供するなど、さらなる資質の向上や地域活動を強化します。	(金教育) 4 ************************************
2	専門人材との連携強化 保健師や管理栄養士等の専門職が退職後も地域において活躍できるよう、 OBを登録する人材バンク制度をつくり、わがまち健康推進員等と連携して 地域住民の健康づくり活動をサポートする体制を強化します。	(③健康・福祉) 3 ************************************

[政策目標]

- ○県民が100歳まで幸せに生きることを目標とした「ふくい型健幸サポート システム」に基づき、健康リテラシー教育の実践や健康づくり、運動習慣等 に関する県民行動が改善されること
- ○何歳になっても支え手として活躍できる社会の実現に向けた第一歩が踏み 出せていること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
生活習慣病(脳血管疾患、心疾 患、悪性新生物)による死亡数 (人口 10 万人当たり) (人口動態調査)	185.8 人 (2017)	162.0 人 (2024)	(③健康・福祉) 3 ************************************
歩数の増加(20〜64 歳) (県民健康・栄養調査)	男性 7,703 歩 女性 6,805 歩 (2016)	男性 9,000 歩 女性 8,000 歩 (2024)	(③健康・福祉)
食塩摂取量 (県民健康・栄養調査)	男性 10.5 g 女性 9.1 g (2016)	男性 7.5 g 未満 女性 6.5 g 未満 (2024)	(③健康・福祉) 3
成人喫煙率 (県民健康・栄養調査)	20.9% (2016)	12.0% (2024)	(③健康・福祉) 3 ************************************
特定健診受診率(福井県調べ)	54.0% (2018)	70% (2024)	(③健康・福祉)
フレイルチェック参加者数(福井県調べ)	延べ 498 人 (2018)	延べ 2,000 人 (2024)	(③健康・福祉)

[関連する主な計画等]

第4次元気な福井の健康づくり応援計画、第7次福井県医療計画 第3次福井県医療費適正化計画、第3次福井県がん対策推進計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○スニーカービズの実践や公共交通機関を利用するなど、移動の際には歩くことを 心掛ける
- ○塩分控え目や野菜をたっぷり摂るなどバランスの良い食事に努める
- ○年1回、特定健診やがん検診、歯科健診を受診
- ○体操教室や健康づくり教室、趣味や娯楽などの集まりに積極的に参加

医療、介護、予防、生活支援がトータルで提供される「次世代包括ケアシステム」 を展開するとともに、ICTやAI等の先端技術を活用した遠隔医療の導入などを進 め、誰もが住み慣れた地域で安心して医療や介護、福祉サービスを受けられる環境を つくります。

















【重点施策】

次世代包括ケアシステム推進プロジェクト

本県が先進的に進めてきた医療と介護の融合による在宅ケア体制の整備をさらに 進め、フレイル予防や生活支援など、医療や介護の必要がない高齢者へのアプローチ も含めて、高齢者が状態に応じた適切な支援を受けながら住み慣れた地域で暮らすこ とのできる「次世代包括ケアシステム」を作り上げます。

○東大との「ジェロントロジー4.0」共同研究の展開

・東京大学と進めてきたジェロントロジー共同研究について、高齢者がより安心して 暮らせる社会づくりに向け、第4期となる新たな研究を始動 など

〇回復型フレイルの導入

- ・フレイル状態の高齢者を早期に発見し、重点的な保健指導を通じて健康な状態への回復 を図る「回復型」フレイル予防を新たに導入
- ・フレイル予防活動の拡大をツールとして、公民館などの身近な「通いの場」に多くの 高齢者が集う地域づくりを推進 など

〇医療・介護に生活支援を融合

- ・有償ボランティアの仕組みやフレイルチェックの運営を担うフレイルサポーターを活用し、 簡易な生活支援を地域で受けられる体制を整備
- ・在字等での療養生活を安心して選択できるよう、在宅で受けられる医療・介護サービス をわかりやすく周知
- ・人生の最終段階で自身が望むケアについて、家族や専門職と前もって話し合う「ACP」 (アドバンス・ケア・プランニング) の普及啓発を推進 など



「通いの場」でのフレイル予防活動



在宅での医療

【施策 14-1】「地域完結型」の医療体制の確立

急性期医療からリハビリ、在宅医療まで、症状に応じた医療サービスを県内どの地域においても安心して受けられる医療体制を整備します。

No.	主な取組み	SDGs
1	医師の偏在是正 U ターン医師等を登録し地域の医療機関とマッチングするほか、県が医師を採用して派遣するドクタープール制度などにより、医師の地域・診療科偏在を是正します。	(③健康·福祉) 3 ************************************
2	ドクターへリの単独運航 ドクターへリの単独運航や近隣県との相互応援運航を実現し、現場での早 期治療と迅速な患者搬送により、県全体の救急医療体制を強化します。	(③健康・福祉)
3	医療ニーズに応じた体制づくり 医療機関の役割分担と連携を進め、救急医療を担う中核病院の施設・設備 の充実やリハビリを行う回復期病床の整備等により、地域ごとの医療ニーズ に応じた診療体制や病床配置を実現します。また、検査・医療体制の充実や 予防策の徹底など、新たな感染症への対策を強化します。	(③健康·福祉) 3 ************************************
4	医療人材の確保・育成 医師や看護職員、薬剤師等の医療人材を、県内外での病院合同説明会の開催やインターンシップの実施等により確保するとともに、研修会の開催や出張指導等により資質向上を図ります。	(③健康・福祉)

【施策 14-2】「スマート医療」の推進

ICTやAI、ロボット等の先端技術を活用した「スマート医療」を推進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	ICTやAI等による医療水準の向上 専門医による診断を遠隔でも行えるシステムの整備やAI等による診療支援のほか、診療・健診情報を共有するネットワークの拡大等を進めることにより、医療の質を向上します。	(③健康・福祉)
2	一滴がん検診の導入(再掲) 特定健診時に採取した血液や尿でがん検診を行う一滴がん検診により、検 診に対する高齢者の身体的負担を軽減し、受診促進と疾病の早期発見・治療 を進めます。	(③健康·福祉) 3 ##5####

【施策 14-3】「次世代包括ケアシステム」の推進

医療と介護の融合のみならず、フレイル予防、生活支援も含め、高齢者が状態に応じた適切な支援を受けながら住み慣れた地域で暮らすことのできる体制を構築するとともに、それを支える医療や介護、福祉に従事する人材を確保します。

No.	主な取組み	SDGs
1	東京大学とのジェロントロジー共同研究 東京大学と進めてきたジェロントロジー共同研究について、高齢者がより 安心して暮らせる社会づくりに向け第4期となる新たな研究を始動します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
2	回復型フレイルの導入 フレイル状態の高齢者を早期に発見し、健康な状態への回復を図る「回復型」フレイル予防を新たに導入するとともに、その活動の場となる公民館などの身近な場所に多くの高齢者が集う地域づくりを推進します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
3	生活支援体制の整備 買い物やゴミ出しなどの生活支援を地域の有償ボランティアやフレイルサポーターから受けられる体制を整備します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
4	在宅ケア提供体制の充実 在宅医や訪問看護師等の人材の確保・育成や在宅ケアにおいて中心的な役割を担う訪問看護の提供体制の充実を図るとともに、療養生活を安心して選択できるよう、在宅で受けられる医療・介護サービスを分かりやすく周知します。	(③健康·福祉) 3 ************************************
(5)	「ACP」の普及啓発 人生の最終段階で自身が望むケアについて、家族や専門職と前もって話し合う「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング)の普及啓発を推進します。	(③健康・福祉) 3 ************************************
6	外国人介護人材の活用促進 海外の機関と提携し、本県に受け入れる介護人材を現地で育成するととも に、外国人介護留学生や技能実習生等が福井で安心して学習・実習できるよ う、受入れ環境の整備を進めます。	(3)健康·福祉)
7	介護職の魅力向上 高校生や教員等を対象に、出前授業、現場見学を通じた介護の魅力発信を 行います。また、介護事業所への介護ロボット・ICT等の導入や高齢者の 「ちょこっと就労」の促進等による負担軽減を図るとともに、賃金をはじめ とした処遇改善を進め、介護職が選ばれる環境づくりを進めます。	(③健康・福祉) 3 ***********************************
8	地域のニーズに応える介護施設の整備 一人暮らしで重度の要介護者や認知症の人等、在宅での介護が困難な高齢 者を支えるため、地域密着型を中心とした介護施設を計画的に整備します。	(③健康・福祉)

【施策 14-4】包括的な福祉相談体制の構築

県民や世帯が抱える複合化した課題をワンストップで受け止める福祉相談体制を構築するなど各種支援機関と連携して、自立した生活の実現とくらしの安心を確保します。

No.	主な取組み	SDGs
1	包括的な支援体制の整備 8050問題**や育児と介護のダブルケアなど、複合的な課題を抱える世帯への支援や制度の狭間にある課題への対応のため、市町におけるワンストップの相談窓口を整備するとともに、相談支援包括化推進員を育成します。 ※8050問題:50代の引きこもりの子を80代の親が養っている状態	(③健康・福祉)
2	困難事例への対応強化 貧困や虐待、DV、ひきこもり、自殺対策など、高い専門的スキルが必要 な事例や環境の変化への対応のため、県が設置している各相談所や一時保護 所の機能を強化するなど、様々な課題への対策を充実します。	(③健康·福祉) 3 ************************************
3	医療的ケア体制の充実 学校等への看護職員の配置、医療的ケアを必要とする障がい者や介護者への支援、難病へのきめ細やかな対策など、安心して生活できる環境を整備します。	(③健康・福祉)

[政策目標]

- ○施設や地域における医療、介護等を担う人材が確保されていること
- 〇「次世代包括ケアシステム」が構築され、症状や本人の希望に応じた医療・ 介護サービス等を県内どこでも受けられる体制が整備されていること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
在宅で医療・介護を受ける人の 数(訪問看護の利用者数) (福井県調べ)	5,820 人 (2018)	6,150 人 (2024)	(③健康・福祉) 3
ドクタープール制度等を活用して県が医療機関へ派遣 した医師数 (福井県調べ)	49 人 (2019 年 4 月)	81 人 (2024)	(③健康·福祉) 3 —/√◆
介護従事者数 (福井県調べ)	11,184 人 (2018)	12,400 人 (2024)	(3)健康・福祉) 3
「ちょこっと就労」の新規 参加者数 (福井県調べ)	48 人 (2018)	550 人 (2020~2024 計)	(3)健康·福祉) 3
地域住民による生活支援実 施市町数 (福井県調べ)	3 市町 (2018)	17 市町 (2024)	(③健康·福祉) 3

[関連する主な計画等]

第7次福井県医療計画、第7期福井県老人福祉計画および介護保険事業支援計画 福井県地域福祉支援計画

配偶者暴力防止および被害者保護のための福井県基本計画(第3次改定版)

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○普段の健康管理を任せる身近な「かかりつけ医」を決め、体調が悪くなった時、 まずはかかりつけ医を受診
- ○買い物やゴミ出しなど日常生活で困っている高齢者を、近所ぐるみで支え合う
- ○困ったことがあったら、個人や家族だけで抱え込まず、地域の民生委員や市町の 窓口に相談

人口減少・高齢化が進む中、新たな技術や有償ボランティアなどの新たな共助の仕組みを活用し、いつまでも安心して暮らすことができる地域をつくります。また、豊かな自然環境を保全し、自然とともに生きる福井を引き継いでいきます。





















【重点施策】

持続可能な次世代コミュニティ創出プロジェクト

人口減少、高齢化集落の増加、集落機能の低下が懸念される中、少ない人員でも持続可能な地域運営を実現するため、新たな技術、民間サービス等の活用や有償ボランティア等の新たな共助の仕組みを導入し、次世代コミュニティを創出します。

特に人口減少や高齢化が著しい地域では、将来にわたって暮らし続けていくことが危ぶまれるため、生活に必要なサービスを備えた集落生活圏の形成を目指します。

〇安心して暮らせる集落生活圏の形成

- ・地域住民自らによる主体的な地域の将来プランの策定を支援し、地域課題の解決に向けた 取組みを持続的に行う地域運営組織の形成を促進
- ・商店、診療所等の日常生活のサービス機能を一定のエリア内に集約して、周辺集落と コミュニティバス等の交通ネットワークでつなぐ集落生活圏の形成
- ・子育て世帯等による空き家の取得やリフォーム・旧耐震住宅の建替え等への支援により、 空き家の活用や既存の生活圏への誘導を促進 など

〇地域の力を最大活用

- ・地域に根差した民間のサービスや乗り合いタクシー事業と連携した地域の見守り活動や 配食・配達の仕組みづくり
- ・農作業や除雪等に、地域外の方の力を借りる有償ボランティアの仕組みを構築
- ・地域住民が民間サービスのラストワンマイル*配送を請け負うなど、新たな地域ビジネスの創出

※ラストワンマイル:地区内の拠点施設から自宅までの道のり

<u>〇新技術の活用による課題解決</u>

- ・ライドシェアによる移動手段の確保などICTやスマホを使ったシェアサービス等の活用
- ・人口減少などの地域課題解決に5Gを活用し、自動走行による地域住民の移動手段の確保、 除雪車の遠隔運行支援等を検討 など

モデル地区における実施成果をもとにノウハウを構築し、課題解決の仕組みとして他地域に展開



【施策 15-1】「住みやすさ改革」による豊かな地域コミュニティづくり

集落機能の維持・活性化に対する支援や I C T の活用や民間サービスとの連携による新たな共助の仕組みづくりなどを進め、地域社会の活力を維持します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	将来にわたる集落機能の維持・活性化 地域住民自らによる将来プランの策定を支援し、地域課題の解決に向けた 取組みを持続的に行う地域運営組織の形成を促進します。 また、市町が「集落活性化計画」に基づき実施する、複数集落による防災・ 除雪・祭事等の活動や集落支援員の設置などの施策を支援します。	(①まちづくり)
2	安心して暮らせる集落生活圏の形成 商店、診療所等の日常生活のサービス機能を一定のエリア内に集約して、 周辺集落とコミュニティバス等の交通ネットワークでつなぐ集落生活圏を形成します。集落機能の維持・活性化に必要となる市街化調整区域などの土地 利用については、市町と協働し地域の実情に応じた取組みを進めます。	(印まちづくり)
3	小さな拠点による「つながり力」の強化 空き家等を活用し、地域の住民が寄り合う拠点「ふるさと茶屋」の整備や 住民協同で実施するコミュニティ・ビジネス等の活動経費を支援し、地域の 「つながり力」を強化します。	(⑪まちづくり)
4	空き家の活用や取り壊しの促進 地域の住環境を持続的に維持していくため、子育て世帯等による空き家の 取得やリフォーム・旧耐震住宅の建替え等への支援による空き家の活用や既 存の生活圏への誘導に加え、老朽空き家やその予備軍の取り壊しを市町と連 携して促進します。	(⑪まちづくり)
5	人口減少時代に対応した仕組みづくり 民間の配送サービスや乗り合いタクシー事業と連携した高齢者等の見守り 活動、通院・買い物支援、配食・配達などのサービスや、農作業や除雪など 有償ボランティアによる生活支援など、新たな仕組みづくりを進めます。	(⑪まちづくり)
6	次世代型コミュニティの実現 ICTを活用したシェアサービスや5Gなどの新技術、地域に根差した民間サービス、有償ボランティア等を組み合わせた、地域住民による持続可能な次世代型コミュニティ活動を行うモデル事業を実施し、ノウハウを構築して他の地域に展開していきます。	(印まちづくり)
7	快適なくらしを支えるインフラ施設の構築 これまでの車中心から歩行者を中心とした道路空間への再整備や、河川の 親水空間としての維持・保全、汚水処理施設の整備・維持等、快適な生活基 盤を整備します。	(⑪まちづくり)
8	鳥獣害に負けない体制づくりの強化(再掲) 農作物の鳥獣被害を減らすとともに、高齢化や人口減少が著しい地域においては、侵入防止柵の設置や維持管理について、複数集落が連携して取り組む地域をモデル地区とするなど、共助による集落を越える広域的な取組みを推進・拡大します。	(⑪まちづくり)

【施策 15-2】美しい景観の保全・形成

歴史的まちなみや優れた自然景観など、美しい福井の風景を保全・形成します。

No.	主な取組み	SDGs
1	景観の保全・活用 越前海岸の水仙畑など重要文化的景観の選定を目指す地域の景観づくり、 「福井ふるさと百景」や伝統的民家の保全・活用など様々な団体と連携した 地域活動等を市町とともに支援します。	(印まちづくり) 11 11 11 CO
2	広域景観の形成 北陸新幹線沿線や若狭里山里海湖など6の広域景観軸について、視点場整備や植樹・植栽等を支援し、魅力ある景観を創出します。	(印まちづくり)
3	美しい田園や森林風景の維持 ひまわりやコスモス等の景観植物の植栽、若狭牛の放牧などにより魅力の ある田園風景を維持するとともに、山ぎわでの計画的な間伐のほか、里山へ の花木等の広葉樹の植栽などにより美しい森林を保全します。	(B陸上貨票) 15 *50****5
4	緑と花の県民運動を推進(再掲) 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けて、県民が主体となって森林や木、花に 関わる「緑と花の県民運動」を推進し、主要駅や観光地周辺を花で彩る運動 の定着を目指します。	(⑪まちづくり)
(5)	クリーンアップふくいの推進 美しい海岸や河川、まちなみなどを守るため、地域住民や企業、団体、行政が協働して清掃活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施し、環境美化活動とともに海洋プラスチックごみの流出防止を進めます。	(②生産・消費) 12 ************************************
6	環境保全対策の推進 身近な水辺や清流を保全するため、河川、湖沼、海などの水質監視を行う とともに、事業者等への指導を徹底します。	(⑥水・衛生)

【施策 15-3】里山里海湖の保全・活用

くらしの中で守られてきた豊かな自然環境を保全し、その魅力をまちづくりや交流人口の拡大に活用します。

No.	主な取組み	SDGs
1	自然再生の推進 三方五湖、北潟湖の自然再生事業を、漁業者、農業者、地域の団体等と協働して進めます。また、里山の保全、外来生物対策、希少な動植物の保全などに取り組む県内各地の団体を支援します。	(⑪まちづくり) 11 55 €
2	自然体験拠点の形成 ふくいの自然を体験する機会を充実させるため、日本一の星空を持つ六呂 師高原の自然保護センターなど自然公園内の自然体験施設の再整備を進めま す。	(⑪まちづくり)
3	年縞博物館の魅力充実 年縞博物館において、里山里海湖研究所と立命館大学等による世界トップレベルの共同研究を進めるとともに、特別企画展の開催や縄文博物館と連携したPRなど誘客を促進します。	(のまちづくり)
4	コウノトリが生息できる自然環境の創出 コウノトリの舞う豊かな自然環境を保全・再生し、県内での定着を進める ため、水田などで環境配慮型農業に取り組む農業者や、巣塔の設置を希望す る地域を支援します。	(頂陸上資源) 15 %5456 第二
(5)	自然と触れ合う機会の充実 自然保護センター、海浜自然センターにおいて自然観察会を開催するなど、 自然を体験する機会を提供するとともに、「学びの森」などの里山で自然体験 を提供する活動を支援します。	(印まちづくり) 11 11 15 15 15

【施策 15-4】エネルギーと資源の循環型社会の構築

2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指して、再生可能エネルギーの導入等を進めるとともに、食品廃棄物やプラスチックごみ削減などの環境対策を推進します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	未来を守るストップ温暖化 温暖化対策の重要性への理解を深め、県民や事業者の自主的な省エネ行動を促す「エコチャレの日」を実践するとともに、省エネ性能の高い住宅や水素ステーションの整備等による次世代自動車の普及など、地球温暖化の防止につながる取組みを進めます。	(珍気候変動) 13 ####################################
2	企業の省エネ対策の推進 省エネに向けた業種ごとのガイドライン策定による中小企業の省エネ対策 への支援など、企業における地球温暖化対策を強化します。	(1) 気候変動) 13 ※5章に 13 ※6章に
3	再生可能エネルギーの導入拡大 温室効果ガスの削減や災害時のエネルギー確保を図るため、小水力発電や 風力発電など地域資源を活かした再生可能エネルギーについて、県民・事業 者の理解を得ながら導入拡大を進めます。	(⑦エネルギー) 7
4	 嶺南スマートエリアの整備 嶺南地域において、太陽光発電・蓄電池・HEMS※を搭載したスマートハウスが集まる住宅団地の開発やエネルギーを効率的に利用する仕組み(VPP*)の構築を推進します。 ※HEMS(Home Energy Management System): 家庭内のエネルギー使用状況を見える化し、エネルギー使用を制御して省エネ化するシステム※VPP(バーチャルパワープラント:仮想発電所): 多数の小規模な発電所や電力の需要抑制システムをまとめて制御すること。一つ一つは小規模なリソースでも、IT技術を活用・連動することで需給バランスを最適化できる。 	(⑦エネルギー) 7
5	循環型社会の推進 環境への負荷をできるだけ低減し、限りある資源の有効活用を進めるため、 プラスチックごみの削減や、おいしいふくい食べきり運動、雑がみの分別回 収強化などにより、ごみの減量化とリサイクルを推進します。	(⑫生産・消費) 12

〔政策目標〕

- 〇都市部との交流の増加やシェアサービス、有償ボランティア等の新たな共助の 仕組みの構築などにより、地域コミュニティが持続して運営されていること
- 〇県民一人ひとりの環境を守り、活かす行動が進み、豊かな自然環境や美しい 景観が磨かれていること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
地域運営組織の数 (地域課題解決に向けた取組 みを持続的に行う住民組織) (福井県調べ)	46 組織 (2018)	60 組織 (2024)	(⑪まちづくり)
次世代コミュニティ創出モ デルの取組地区数・導入サ ービス件数 (福井県調べ)		3 地区 6 サービス (2024)	(①まちづくり) 11
汚水処理人口普及率 (福井県調べ)	96.1% (2018)	98% (2024)	(高水・衛生)
自然再生取組地域数 (福井県調べ)	9 地域 (2018)	14 地域 (2024)	(⑥水・衛生)
温暖化対策を意識し節電等 に積極的に取り組む県民の 割合 (福井県調べ)	29% (2016)	50% (2022)	((3気候変動)) 13 ***(13 ***) ***(
県内中小企業の省エネを推 進するためのガイドライン 策定業種数(福井県調べ)	_	14 業種 (2024)	(B気候変動) 13 *##### 13 *####################################

[関連する主な計画等]

福井県環境基本計画、福井県廃棄物処理計画、新ふくいの農業基本計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○地域の行事や祭り、自治会活動に積極的に参加
- ○地域外からの人材をおもてなしの心で積極的に受け入れ
- ○マイボトルの活用によるプラスチックごみの削減や、食べきりによる食品ロスの 削減などに取り組む
- ○エコマーク付き商品など環境に配慮した商品を積極的に購入する
- ○学びの森などで自然体験活動に参加し、自然と触れ合う機会を増やす
- ○植樹ますなど道路空間での花の植栽や清掃などの美化を行う道守活動に参加
- ○河川の清掃、草刈などを行う川守活動に積極的に参加
- ○家庭における節電や公共交通機関の利用など手軽にできる省エネ活動「エコチャレふくい」に取り組む

防災・治安先進県ふくいの実現 政策 16

頻発・激甚化する自然災害に対し、県土強靭化の推進や地域防災力の向上により備 えを万全にするとともに、子どもや女性、高齢者などが犯罪等に巻き込まれない安心 して暮らせる社会を実現します。





















【重点施策】

安心の防災基盤強化プロジェクト

様々な自然災害から県民の生命や財産を守るため、地域の住民、企業などが一体と なって災害に備える体制を整えるとともに、情報通信技術の活用、治水対策やインフ ラ老朽化対策を進め、ソフト・ハード両面から災害に強い基盤を形成します。

〇地域一体で進める防災力の強化

- ・大規模災害時に情報収集、避難誘導・安否確認、避難所運営などを行う大規模災害団員の 確保支援
- ・地域と防災協定を締結した企業に対する防災資機材購入の支援
- ・住民参加による地域防災マップの作成、マップを使用した防災訓練の支援
- ・防災士の養成や防災意識の醸成に向けた防災教育の充実

など

〇情報通信技術を活かした災害対応の充実

- ・県災害情報システムを見直し、災害時の情報収集・伝達手段を多重化、多言語化
- ・IT機器を活用した避難所運営支援

など

〇県土強靭化の推進

- ・河川やダムの整備、農地の適切な保全管理による水田貯留機能の維持等の治水対策、 砂防堰堤等の整備による土砂災害対策の推進
- ・生活・社会基盤の耐震化や雪に強いみちづくりの推進
- ・「予防保全」の考え方に基づき、橋梁やトンネル、ダム、下水道等のインフラを計画的 に補修 など



防災訓練



河川拡幅工事 (天王川)

政策 16 防災・治安先進県ふくいの実現

【施策 16-1】人と技術による地域防災力の向上

県と市町の連携・協力の強化のほか、地域の自助・共助による防災力と新技術の力を融合し、自然災害などへの対応力を向上します。

No.	主な取組み	SDGs
1	地域の防災力を多面的に強化 地域と連携して防災活動を行う企業の支援、大規模災害団員の確保、地域 防災マップやタイムラインの作成・訓練への支援、外国人の防災訓練への参 加などを総合的に実施し、地域における共助の力を高めます。	(印まちづくり)
2	「自分の命は自分で守る」防災意識の醸成 若者対象の防災キャンプ、現役世代対象の企業内での防災研修など、世代 ごとに切れ目なく防災教育を実施し、一人ひとりの防災意識の変革を促すと ともに、各地域において防災士の養成を進めます。	(②教育)
3	行政による防災対応・支援機能の強化 道路や河川への監視カメラの設置や県民衛星などのデータ等により防災情報提供を充実し、行政の防災対応力を強化します。 また、県災害情報インターネットシステムの見直しにより、情報伝達手段を多重化・多言語化するとともに、市町の避難情報発令やIT機器を活用した避難所運営などを支援します。	(⑪まちづくり)
4	行政の連携による防災体制強化 県、市町、消防職員の人事交流を進め、職員の災害対応力を強化します。 また、国・県・市町による減災対策協議会において水害対策を一体的に進 めるとともに、市町の洪水ハザードマップ作成を支援します。	(印まちづくり)
(5)	企業の防災・減災対応力を強化 企業の事業継続計画(BCP)の策定を支援し、災害や感染症の発生等の緊 急時における県内企業の被害の最小化および早期復旧の体制を構築します。 また、商工会・商工会議所が市町と共同して小規模な企業の事業継続力強 化を支援する取組みを後押しします。	(①まちづくり)
6	新たな感染症への対応強化 感染症の発生に備え検査・医療体制を充実させるとともに、手洗い、マスク着用等の予防策の徹底を図るなど、感染拡大を防ぐための対策を局面に応じ適切に講じます。また、災害時の避難所運営における感染症対策を徹底します。	(③健康・福祉) 3

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

【施策 16-2】災害に強く、安心して暮らせる福井の基盤を構築

自然災害による被害を最小限に抑え、県民の命や財産を守るため、県土の強靱化を 推進するとともに、地域防災力維持のため、建設産業の担い手確保に取り組み、将来 にわたり誰もが安心して暮らせるための基盤を構築します。

No.	主な取組み	SDGs
1	事前防災対策による「県土強靭化」の推進 自然災害に対し、人命を守り、救命・救急活動を迅速に行い、生活・経済 活動を早期に回復させるため、橋梁・下水道施設等の耐震化、治水・土砂災 害防止施設の整備、総合治水の推進、道路斜面対策、道路雪対策、住宅の耐 震化などの事前防災対策を強化し、県土の強靭化を推進します。	(印まちづくり)
2	予防保全に基づいた老朽化対策によるインフラ施設の安全確保 予防保全の考え方による計画的な補修を行い、橋梁等の公共インフラ施設 の老朽化に対応するとともに、県・市町で共有したインフラ管理システムを 運用し、効率的な維持管理によるコスト縮減、予算の平準化および施設の長 寿命化を図ります。	(①まちづくり)
3	誰もが安心して暮らせるための環境・基盤づくり 無電柱化やブロック塀の安全対策等を実施し、災害時における通行空間の 確保や電力・情報通信ネットワークの安全性・信頼性を確保します。 また、空き家の取得・リフォームへの支援等による活用や老朽空き家等の 除却を進め、安全・安心な暮らしの確保を進めます。	(①まちづくり)
4	建設産業の担い手確保による地域防災力の維持 地域防災力を維持するためには、建設産業の担い手確保が必要不可欠であ ることから、建設産業への関心を高め、イメージアップを図るとともに、建 設産業における働き方改革や就業環境の改善、多様な人材活用を推進します。	(⑪まちづくり)
(5)	災害から農山漁村のくらしを守る基盤整備(再掲) 老朽化した農業水利施設、治山施設、海岸・漁港施設などの機能強化や長 寿命化対策に加え、事前防災・減災に向けた効果的な予防対策を推進し、災 害に強い生産基盤をつくるとともに、農山漁村の生活の安全・安心を確保し ます。	(①まちづくり) 11 11 11 11 11 11 11 11 11
6	被害防止につながる地域活動の継続(再掲) 中山間地域等直接支払制度や多面的支払交付金等を活用した地域の共同活動に継続して取り組むことにより、耕作放棄地の増加の抑制や農地の適切な保全管理に基づく水田貯留機能の維持による洪水防止など、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図ります。	(①まちづくり) 11 ***********************************
7	国土強靱化地域計画の策定支援 大規模災害が発生した際の被害を最小化するため、市町による国土強靱化 地域計画の早期策定を支援します。	(①まちづくり) 11 ***********************************

3

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

[施策 16-2-①関連(中長期的な河川の姿)]

「県土強靱化」を推進し、安全・安心を確保

頻発化・激甚化する水害に対する治水安全度の向上を図るため、河川改修やダム等の事前防災対策を重点的に実施し、県民の命と財産を守ります。

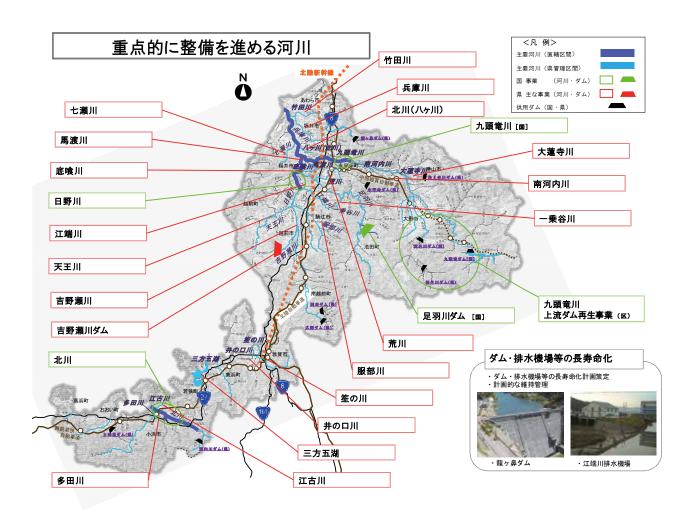
〇過去に家屋浸水被害の発生した河川、想定氾濫区域に資産が集中する河川の着実 な整備

- ・九頭竜川、日野川、北川の河道掘削、堤防強化の促進
- ・底喰川、竹田川、兵庫川、大蓮寺川、笙の川、三方五湖の整備推進など

〇洪水被害の軽減のため、ダム建設事業・ダム再生事業の推進

- ・足羽川ダムの整備促進
- ・九頭竜川上流ダム再生事業の整備促進
- ・吉野瀬川ダムの整備推進

など



政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

【施策 16-3】県民を守る犯罪・事故等の対策

子ども、女性、高齢者をはじめ県民を犯罪や事故から守る対策を推進し、治安の維持・向上を図ります。

No.	主な取組み	SDGs
1	子ども、女性、高齢者を守る対策の推進 ICTを活用した子どもの見守り強化、女性向けの防犯研修の実施、青少年のインターネット被害や高齢者の消費者トラブルの未然防止対策を進め、 声掛け・児童虐待、ストーカー・DV、特殊詐欺等の犯罪から子ども、女性、 高齢者を守るとともに、犯罪被害者等への支援を強化します。	(億平和・公正) 16
2	犯罪の起きにくい社会づくり 地域安全情報を提供するなど、地域みんなで力を合わせて犯罪の起きにく い社会づくりを推進します。また、刑務所出所者等をサポートする総合窓口 への支援や就労支援を行い、再犯の防止に取り組むなど、安全安心な地域づ くりを進めます。	(修平和・公正) 16
3	犯罪の取締り強化 殺人・強盗等の重要犯罪や県民が身近に不安を感じる窃盗犯罪の取締り、 特殊詐欺や暴力団等反社会的勢力の壊滅に向けた組織犯罪等の取締りを強化 します。	(6平和·公正) 16
4	交通事故防止対策の推進 歩道整備や路面カラー化、横断歩道の安全対策など道路の安全性を確保します。また、高齢歩行者の反射材着用や高齢運転者の限定運転促進等の高齢者安全対策、シートベルト全席着用徹底等の安全意識向上、飲酒・あおり運転等の悪質・危険運転者の取締りなど、総合的な対策を進めます。	(3健康・福祉) 3
(5)	テロ・大規模災害対策の推進 原子力関連施設をはじめとする重要施設等に対する警戒警備を強化すると ともに、大規模災害に的確に対処するための危機管理体制を構築し、テロ、 大規模災害等から県民を守ります。	(億平和·公正) 16
6	治安基盤の強化 治安環境の変化に的確に対応し、現場執行力の強化や警察施設・装備の充 実整備を進め、治安基盤の強化を図ります。	(修平和·公正) 16

政策 16 防災・治安先進県ふくいの実現

【施策 16-4】県民の安全最優先の原子力政策

廃炉、40年超運転、使用済燃料の中間貯蔵など、原子力の様々な課題に対して、 県民の安全を最優先し対応します。

No.	主な取組み	SDGs
1	責任ある原子力・エネルギー政策の実行を国に要請 原子力の将来像を明確にするとともに、廃炉、40年超運転、使用済み燃料の中間貯蔵、放射性廃棄物の処分、核燃料サイクルなど、原子力の様々な課題について、責任ある政策の実行を国に求めていきます。	(⑦エネルギー) 7 0 0 0
2	原子力発電所の運転、もんじゅをはじめとする廃炉作業等を安全最優先で対応 原子力発電所の運転や廃炉作業等の安全性については、県原子力安全専門 委員会の審議を通じて厳正に確認し、県民の安全最優先で対応します。	(⑪まちづくり)
3	原子力防災対策の充実・強化 市町と協力して原子力防災対策を強化し、地域住民や関係機関とともに実 践的な原子力防災訓練などを継続的に実施します。	(①まちづくり) 11 13 13 13 13 14 14 15 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18
4	嶺南地域への自衛隊誘致 地域住民の安全・安心を確保するため、嶺南地域への自衛隊の配備を国に 求めます。	(⑪まちづくり)

【施策 16-5】拉致問題への対応

北朝鮮による拉致問題の解決のため的確に対応します。

No.	主な取組み	SDGs
1	拉致問題の啓発と国への要請 北朝鮮による拉致問題を風化させないよう、市町や関係団体と連携し啓発 に努めるとともに、国に対し、あらゆる機会を捉え、解決に向けた取組みを 要請します。	(億平和・公正)

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

〔政策目標〕

- ○災害から県民を守るための施設や情報基盤が整備されていること
- 〇日ごろから県民が災害に備える意識を持ち、地域で対応する力を高めて、 万一の災害に対し総合力により被害を最小限にする体制が構築されている こと
- ○犯罪や事故が減少し、安心して暮らせる社会が実現していること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
防災士数 (日本防災士機構調べ)	3,150 人 (2019)	4,150 人 (2024)	(⑪まちづくり)
想定最大規模の降雨に対応 したハザードマップを作成 する市町数 (福井県調べ)	_	17 市町 (2024)	(①まちづくり) 11 13 13 13 13
緊急輸送道路における道路 斜面対策率 (福井県調べ)	29.7% (2018)	41.0% (2024)	(①まちづくり)
河川の整備延長(県管理) (福井県調べ)	55.0 km (2018)	59.6 km (2024)	(①まちづくり)
土砂災害対策施設の整備 (福井県調べ)	988 箇所 (2018)	1,019 箇所 (2024)	(①まちづくり) 11
防犯カメラ設置支援地区数 (地域全体で犯罪抑止に取り組む ためカメラを設置する地区) (福井県調べ)	_	50 地区 (2024)	(修平和·公正) 16

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

[関連する主な計画等]

福井県地域防災計画、福井県国土強靱化地域計画、河川整備基本方針河川整備計画、福井県総合雪対策計画、道路雪対策基本計画福井県住宅・宅地マスタープラン第10次福井県交通安全計画、福井県消費者教育推進計画福井県再犯防止推進計画

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○災害に備え、日頃から3日分の飲料水、食料等を備蓄
- ○家族みんなで地域の防災訓練へ積極的に参加
- ○住宅の耐震化、危険なブロック塀の除去、家具の固定を進める
- ○地域住民に声かけし、ともに地域防災マップを作成
- ○災害に備えBCPを策定するとともに、定期的に社内で防災研修を実施
- ○夜間に出かける際には反射材グッズを身に着ける

V ともに進める(総合力)

~協働による県民主役の県政。外に開き連携強化~

目指す将来像を実現するためには、県民・企業・団体・市町が力を合わせ、「チームふくい」一丸となり、行動することが必要です。

そのため、徹底現場主義の考え方のもと、広報広聴機能の強化や県民参加の機会を増やすなど県民の皆さんの声を県政に反映させるとともに、市町とのコミュニケーションを充実させ、新たな協働関係を構築します。

また、県境を越えた周辺の関係自治体との広域連携を強化し、人・モノ・情報の 活発な交流を促し、より効果的な施策の展開や共通の課題の解決につなげます。

[実行する政策]

政策17 「チームふくい」の行政運営

【施策 17-1】県民主役の県政推進

【施策 17-2】市町との協働強化

【施策 17-3】未来をデザインする政策イノベーション

【施策 17-4】仕事の進め方改革と人材の育成

【施策 17-5】健全財政の堅持

政策18 広域パートナーシップの強化

【施策 18-1】広域連携による高速交通網の整備促進

【施策 18-2】広域連携による交流の拡大

【施策 18-3】広域連携による防災・医療体制の強化

【施策 18-4】自治体ネットワークによる政策立案と提言

3

政策17 「チームふくい」の行政運営

徹底現場主義の考え方に基づき、県民・企業・団体・市町との協働を進めるとともに、新たな政策形成システムの構築や安定した行財政運営など、将来像の実現に向けた県民主役の県政を推進します。 1788888















【重点施策】

市町協働による行政サービス向上プロジェクト

人口減少や地域ごとの課題に対応するため、県と市町が協働で課題解決に取り組み、 新時代における住民サービスの向上と行財政運営の効率化を実現します。

〇協働による課題解決

・行政システムや公共施設管理など県・市町共通の課題に関し、県・市町協働の課題解決 チームにより解決

[テーマ]

- ・財務会計システムなどの行政システムの共同化、物品・役務の共同調達による運営 コスト削減
- ・県・市町共通の図書館カードとして利用できるようにするなど、マイナンバーカードの活用による住民の利便性向上
- ・水道の広域連携、下水道等汚水処理の共同化や庁舎など公共施設管理の適正化
- ・RPA[※]業務の市町への展開による業務負担の軽減・効率化 など ※RPA (Robotic Process Automation) : ロボット等による業務の自動化

〇市町職員の確保支援、県・市町の人事交流促進

- ・市町において確保が難しくなっている土木、建築、保健師等の技術職員について、県の 採用に上乗せし、確保・育成して市町に派遣
- ・消防や災害対応の経験がある市町の消防・防災担当職員等と県の危機対策・防災部局との 人事交流を促進
- ・災害発生時に、土木職、保健師等の専門チームや必要な人員を派遣する体制を強化

など

○予算編成の協働

- ・県・市町若手職員による施策立案チームにより、市町の提案を反映した施策を立案
- ・知事と市町長との政策ディスカッションを予算編成前に実施し、事業の方向性を等しく することにより事業効果を増大 など



市町長との意見交換会



課題解決チームによる検討

【施策 17-1】県民主役の県政推進

職員の行動規範となる「クレド」を策定し、職員の自主的な行動を促進するとともに、県民参加により既存事業をゼロベースで見直すなど、県民の声を県政に反映させます。

No.	主な取組み	SDGs
1	クレド(行動規範)の策定・活用 職員の行動規範となるクレドを、職員が仕事を進めていくうえで、共通の 価値観や考えを持つツールとし、職員の自主的な行動を促進することにより、 県民主役の県政を推進します。	(B/K-ht->yyt)
2	徹底現場主義による県政推進 既存事業について、現場目線での効果を再確認するとともに、「県民会議」 の開催など、県民参加により、ゼロベースで見直しを行います。また、県民 と県政をつなぐ広報広聴、県外情報発信を強化します。	(®バートナーシップ) 17
3	現場機能の強化・効率化 嶺南振興局長の判断で執行できる枠予算を設定するなど嶺南振興局の機能 強化や、道路整備による交通利便性の向上や利用状況の変化、庁舎の老朽化 等を踏まえた小規模出先機関の再編などを進めます。	(①パートナーシップ) 17

【施策 17-2】市町との協働強化

人口減少や地域ごとの課題に対応するため、県と市町が協働して課題解決に取り組み、住民サービスの向上と行財政運営の効率化を目指します。

No.	主な取組み	SDGs
1	県・市町の共通課題への協働対応 財務会計システムなどの行政システムの共同化や公共施設管理の適正化な ど県・市町共通の課題に関し、県・市町協働の課題解決チームにより解決を 進めます。	(®パートナーシップ) 17 (())
2	市町職員の確保支援 市町において確保が難しくなっている土木、建築、保健師等の技術職員について、県の採用に上乗せし、確保・育成して市町に派遣します。	(予バートナーシップ) 17 minutes
3	防災力の強化 県・市町の防災力強化に向け、消防や災害対応の経験がある市町の消防・ 防災担当職員等と県の危機対策・防災部局との人事交流を促進します。	(⑪まちづくり) 11 13 13 13 13 14 14 15 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18
4	県と市町の行政サービスの一元化推進 県・市町共通の図書館カードとして利用できるようにするなどマイナンバーカードの活用による住民の利便性向上や、電子入札など県・市町の行政システムの共同化を検討します。	(®バートナーシップ) 17
(5)	予算編成の協働 県・市町若手職員による施策立案チームにより市町の提案を反映した施策を立案するとともに、知事と市町長との政策ディスカッションを予算編成前に実施し、事業の方向性を等しくすることにより事業効果を増大します。	(®バートナーシップ) 17 ************************************

【施策 17-3】未来をデザインする政策イノベーション

SDGsの理念に基づく県政運営や、「デザイン思考」による「課題解決型」から「価値創造型」への政策のモデルチェンジなど、新たな政策形成システムを構築します。

No.	主な取組み	SDGs
1)	SDGsの推進 SDGsの目標に沿って県政を推進するとともに、SDGsの理念を普及させるためのセミナー・フォーラムの開催、行政・企業等のネットワーク構築による先進事例や導入効果の周知など、あらゆる機関や県民のSDGs達成に向けた取組みを促進します。	(1)//- トナーシップ) 17 (1)
2	デザイナーのアイデアを政策に反映する仕組みの構築 県政における重要課題に対し、県内デザイナー等からこれまでとは異なる 発想や新たなアイデアを得る相談会をワークショップ形式で実施し、創造的 な政策の立案につなげます。	(D/S-67-2-2-97) 17 (D/S-67-2-2-97)
3	デザインの視点を浸透 デザイン思考の考え方を習得する職員研修により、職員のレベルアップを 図るとともに、国内トップクラスのデザイナーやコピーライター等を招聘し たセミナーを開催し、デザイン思考やデザイナー活用の県内普及に努めます。	(④教育) 4 #AAE
4	○○DAループによる政策形成 徹底現場主義による課題の発見(Observe)から、県民の皆さんと問題意識 を共有(Orient)し、迅速に政策の方向性を決め(Decide)、実行(Act)する ○○DAループによる政策形成を推進し、社会環境の変化に柔軟かつ迅速に 対応します。	(1) //- トナーシップ) 17 ((1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1

【施策 17-4】仕事の進め方改革と人材の育成

業務の効率化や多様な働き方を推進し、現場に出向き県民の声を聴く機会を生み出すとともに、職員の能力や意欲を高めるため、人事制度の見直しなどを進めます。

No.	主な取組み	SDGs
1)	A 等の積極活用 会議録作成等の定型業務や県民等からの問合せ対応の自動化、ペーパーレス会議やWeb会議の導入による情報共有など、A ・RPA*等の新技術を積極的に活用し、事務処理を効率化します。 ※RPA (Robotic Process Automation):ロボット等による業務の自動化	(3)成長・雇用)
2	効率的な働き方・多様な働き方の推進 超過勤務の上限時間の適正管理や従来の行政事務・ルールの見直し、テレワークやフレックスタイム制の検討などにより、効率的・多様な働き方を推進します。	(⑧成長・雇用)
3	手続におけるオンライン化の推進 電子決裁やキャッシュレスの導入を推進するとともに、電子申請の拡大、 マイナンバーカードの多機能化を進めます。	(3)成長・雇用)
4	適正な人員配置と能力・多様性の向上 全国最少水準の職員数を基本としつつ、新幹線開業対策などの重点分野等 に必要な人員を配置するとともに、県内中小企業との人事交流や地域のプレ イヤーとして活躍するための兼業の推奨、職員の意欲を高める人事制度の見 直しなどを進め、職員の能力・多様性を向上します。	(①教育)
(5)	女性職員の活躍推進 仕事と家庭が両立できる環境づくり、管理職を担う人材の育成、意欲と能力に応じた適材適所への配置など、女性職員が一層活躍できる職場づくりを進め、女性管理職の割合を引き上げます。	(35±74)
6	グローバル人材の育成・活躍推進 海外機関等に職員を派遣し、インバウンド拡大や食の輸出促進等の業務に 活かすとともに、留学生等の外国人材による福井の魅力の海外発信等を推進 します。	(④教育) 4

【施策 17-5】健全財政の堅持

北陸新幹線など大型プロジェクトの財源を安定して確保するとともに、歳出の合理 化・重点化を進め、健全な財政運営を行います。

No.	主な取組み	SDGs
1)	歳入の確保 北陸新幹線等の整備財源を安定して確保するため、超長期債の発行等による公債費の平準化や県債管理基金の債券運用の拡大等を進めます。	(B/K-h7-5-97) 17 intractor (B/K-h7-5-97)
2	歳出の合理化・重点化 北陸新幹線福井・敦賀開業の効果を最大化させるための事業を重点的に実施するとともに、部局長権限で執行できる「政策トライアル枠予算」により、 試行結果をもとに機動的に新規事業を立案します。	(B/1-67-297) 17 ####################################
3	県有資産のマネジメント強化 県有資産の長寿命化や国土強靱化に向けて、公共施設の維持管理、修繕、 更新等を計画的に行うことにより予算を平準化するとともに、国交付金を十 分活用し、長期的な財政負担の軽減を図ります。	(のまちづくり)
4	収支見通しに基づく健全な財政運営 予算編成とあわせて今後10年間の財政収支見通しを毎年度策定・公表するとともに、財政調整基金残高の確保、県債残高の適正管理に努め、健全財政を堅持します。	(B/4-67-297)

[政策目標]

- 〇職員一人ひとりがクレドに基づき自らの判断で責任を持って行動し、徹底 現場主義による県民主役の県政が推進されていること
- ○健全財政が堅持されていること

[KPI(重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
市町との協働により新たに 課題解決できた数 (福井県調べ)	ĺ	7件 (2020~2023計)	(①パートナーシップ) 17 ************************************
職員一人あたりの 年間超過勤務時間 (福井県調べ)	177 時間 (2018)	125 時間 (2023)	(⑧成長・雇用)
県職員の女性管理職割合 (福井県調べ)	14.7% (2019)	20.0% (2023)	(⑤ジェンダー) 5 (⑥ジェンダー)
財政調整基金残高 (福井県調べ)	147 億円 (2018)	100 億円以上 (2023)	(①パートナーシップ) 17 ************************************
将来負担比率 (福井県調べ)	169.7% (2018)	200%未満 (2023)	(®パートナーシップ) 17
県債残高(福井県調べ)	4,792 億円 (2018)	6,000 億円未満 (2023)	(B/1-6+->y)

^(※) 行財政改革アクションプランの計画期間である 2023 年度までの目標とする。

[関連する主な計画等]

行財政改革アクションプラン

しあわせアクション ~目標達成への小さな行動(例)~

- ○県政に関心を持ち、県の広報誌等により県政に関する情報を収集
- ○広聴の機会等を通じ、県政に対して積極的に意見
- ○マイナンバーカードを積極的に活用
- ○これまで紙により申請していた行政手続を電子申請により実施

北陸新幹線や中部縦貫自動車道などの高速交通網の整備に伴い、増大が見込まれる 人・モノ・情報の活発な交流を促進するとともに、大規模化する災害等に迅速かつ的 確に対応するため、県境を越えた連携体制を構築します。













【重点施策】

地方連携による基盤整備・交流拡大プロジェクト

広域連携の強化により、北陸新幹線や中部縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道などの 高速交通網や県境道路を着実に整備し、より近くなる沿線自治体との相互交流を活発 化します。

〇北陸新幹線、中部縦貫自動車道など高速交通網の整備促進

- ・2022(令和4)年度末までの北陸新幹線福井・敦賀開業の確実な実現と、切れ目ない敦賀・ 新大阪間の工事着手による早期全線開業を、関西をはじめ沿線自治体と一体となって政 府・与党に強く要請
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業と同時期に、中部縦貫自動車道大野油坂道路や国道 417 号冠山 峠道路の開通が実現できるよう、沿線自治体と一体となって政府・与党に強く要請
- ・舞鶴若狭自動車道の早期全線4車線化や国道8号石川県境部の整備などを促進するため、 県境を越えた沿線自治体と一体となって政府・与党に強く要請 など

〇「県境フロンティア」観光の推進

- ・首都圏から、北陸・甲信越・東海を巡る「ぐるっと一周コース」を確立し、沿線自治体が 一体となって誘客促進
- ・中部縦貫自動車道の開通により、奥越地域と中京圏を結ぶ「越美線」沿線の観光地や 「道の駅」をつなぐモデルコースの提案
- ・冠山峠道路の整備により、池田町の森林体験や丹南地域のものづくりを活かした新たな 観光ルートの構築
- ・ワールドマスターズゲームズ 2021 関西や大阪・関西万博を契機とした、関西の DMO 等 との連携によるインバウンド呼び込みの強化
- ・兵庫や京都との連携による外国人向けの観光素材の磨き上げと北近畿の周遊ツアーの開発 など



関西、北陸の自治体や経済団体が交流



(九頭竜川橋梁)

【施策 18-1】広域連携による高速交通網の整備促進

関西・中部・北陸の各府県と足並みを揃えた国への要請等により、県境フロンティア政策の基盤となる北陸新幹線や中部縦貫自動車道といった高速交通網の整備を促進します。

No.	主な取組み	SDGs
1	北陸新幹線の整備促進(再掲) 2022(令和4)年度末までの北陸新幹線福井・敦賀開業の確実な実現と、 切れ目ない敦賀・新大阪間の工事着手による早期全線開業を、関西をはじめ 沿線自治体と一体となって政府・与党に強く要請します。	(印まちづくり)
2	中部縦貫自動車道の整備促進 北陸新幹線福井・敦賀開業と同時期に、中部縦貫自動車道大野油坂道路の 開通が実現できるよう、沿線自治体との連携を強化し一体となって政府・与 党に強く要請します。	(①まちづくり)
3	県際道路の整備促進 広域ネットワークの基盤となる県際道路について、隣接府県と連携した建 設や政府・与党への要請により、未開通区間の早期整備を促進します。	(印まちづくり)

【施策 18-2】広域連携による交流の拡大

高速交通網の整備により近くなる近隣都府県との連携を強化し、人・モノ・情報 の交流を拡大します。

No.	主な取組み	SDGs
1	国内外からの広域観光 文化、自然、食に共通点のある北陸地域や中部圏が連携し、都市圏や海外に対して観光情報の発信を行います。 また、北陸新幹線や県際道路沿線の観光地・道の駅をつなぐモデルコースにより、広域圏全体の人の交流を活発化させます。	(8成長・雇用)
2	インバウンドの拡大 他県との連携による海外旅行展示会への共同出展、学校交流を伴う海外からの教育旅行やアジア企業の報奨旅行の誘致などにより、インバウンドをさらに拡大します。 また、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西や大阪・関西万博を契機とした、関西の DMO 等との連携によるインバウンド呼び込みを強化します。	(3)成長・雇用)
3	港湾の利活用 近隣府県と連携し、大規模災害発生時の海上ルートの確保というBCPの 観点から関西・中京圏企業の利用拡大を図り、敦賀港の物流を拡大します。 また、海外クルーズ船社に対する広域観光ルートの提案を強化し、海外ク ルーズ客船をさらに誘致します。	(⑧成長・雇用)
4	小松空港の利活用 石川県とともに小松空港の羽田便や上海便など既存路線のさらなる利用促進、新規需要の開拓を行います。	(⑧成長・雇用)

【施策 18-3】広域連携による防災・医療体制の強化

自然災害や疾病等に備えた情報共有や広域的な訓練、災害発生時の迅速な対応に向け、広域連携を強化します。

No.	主な取組み	SDGs
1	行政の連携による防災体制強化 地震や水害、大雪などの大規模な自然災害への備えとして、広域防災訓練 の実施や、近隣県と応援手順や資機材等の情報の共有を行います。	(①まちづくり)
2	災害からの復旧・復興 災害対応により一時期に業務量が増え、人員確保が困難となる土木、建築、 保健師等の技術職員や行政職員について、被災地自治体の要望により派遣を 行うとともに、速やかな住民生活の復旧のため、災害ボランティアを派遣し ます。	(⑪まちづくり) □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
3	家畜の疾病対策 近隣県や関係県が連携し、速やかな情報共有と県を跨いだ対策により、CSF (豚熱) や ASF (アフリカ豚熱)、口蹄疫、鳥インフルエンザなどの家畜の 疾病の感染拡大を防止します。	(②飢餓・食料)
4	広域医療体制の整備 2021(令和3)年度に予定している本県単独のドクターへリ導入にあわせ、 隣接県と連携した新たな運航体制を構築します。	(③健康・福祉)

【施策 18-4】自治体ネットワークによる政策立案と提言

全国規模で共通の課題を持つ関係自治体が連携し、地域の実情を踏まえた施策を立案するほか、国等に対しても提言を行います。

No.	主な取組み	SDGs
1	都道府県連携の推進 全国知事会、ブロック知事会、近隣県知事との懇談会を通じ、地方発の課題を共有し、解決のための先進的な施策を集約して、国へ提言します。	(B/K-h+->yy7)
2	共通意識をもつ自治体の広域連携 将来世代応援知事同盟などの共通課題を持つ自治体との連携や、ふるさと 納税の健全な発展を目指す自治体連合などの全国ネットワークにより、新た な地方自治モデルを立案・実施するとともに、国へ提言します。	(BK-17-27)

〔政策目標〕

- 〇ブロック知事会等を通じた国への要望など近隣県との連携により、北陸 新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網の整備が促進されること
- 〇人・モノ・情報の活発な県際交流が拡大していること

[KPI (重要業績評価指標)]

指標	現状	目標	SDGs
他都府県等と新たに連携して実施するプロジェクト数	10	15	(⑪パートナーシップ)
	(2015~2019 計)	(2020~2024 計)	17

[関連する主な計画等]

福井県高速交通開通アクション・プログラム、道路の将来ビジョン ふくい観光ビジョン、FIRST291~北陸新幹線開業プラン~ 福井経済新戦略

参考

[目指す姿および将来イメージ (第1部 2040年の将来構想) と分野ごとの政策との関係]

		サポイスーン(第1部 2040年の将来構			す姿				ドイメ		
分野		政策	自信と誇りのふくい	誰もが主役のふくい	飛躍するふくい	国土強化の新ネットワーク	ともに楽しむ千年文化	全世代の快適人生	WAKASA リフレッシュエリア	夢がかなう農林水産業	感動につなぐ価値づくり産業
	1	夢と希望を持ち、 ふくいを愛する子どもの育成	0	0	0		0	0		0	\circ
学びを伸ばす	2	ふくいの産業・社会を支える 人づくり		0	0		0			0	0
(人材力)	3	多様な価値観を認め合う 「共生社会」の実現		0			0	0			
	4	希望が叶う 「結婚・出産・子育て」応援		0				0			
	5	農林水産業の力で ふくいをブランドアップ	0		0		0		0	0	0
成長を創る	6	地域経済のイノベーション	0		0		0		0		0
(産業力)	7	Society5.0 時代の新産業創出			0				0	0	0
	8	拡大する世界市場を ふくいの成長へ			0	0	0			0	0
	9	100 年に一度のまちづくり	0		0	0	0	0	0		
楽しみを 広げる	10	北陸新幹線開業効果を最大化	0		0		0		0	0	
(創造力)	11	人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略	0	0	0		0	0	0	0	
	12	文化・スポーツがふくいの活力	0	0	0		0		0		0
	13	人生 100 年時代の 健康ライフスタイル		0				0	\circ		
安心を高める	14	いつでもどこでも 安心の医療・介護・福祉		0				0			
(地域力)	15	ふるさとの暮らしと風景の維持	0				0	0	0	0	
	16	防災・治安先進県ふくいの実現		0		0		0			
ともに進める	17	「チームふくい」の行政運営	0	0	0	0	0	0	0	0	
(総合力)	18	広域パートナーシップの強化	0	0	0	0	0	0			

4 SDGsの各ゴールに向けた主な取組みとKPI

(貧困) 主な取組み(4) KPI (2) ¶ 東国寺 まくそう 家庭環境や地域に左右されない教育環境の確保〔1-2-⑦〕 ひとり親家庭等の児童向け学習支援 ・ひとり親家庭等が自立して暮らすことができる環境づく 箇所数 60 箇所 (2024) U [4-4-⑤] 就職氷河期世代の正規雇用者 ・就職氷河期世代への就職支援〔6-4-④〕 2,000 人増加(2020~2024 計) ・困難事例への対応強化〔14-4-②〕 あらゆる場所のあ らゆる形態の貧困 を終わらせる (飢餓・食料) 主な取組み(30) KPI(4)・地域産業を担う人材の育成〔2-2-④〕 ・地域の子育てを応援する高齢者や ・子育てにやさしい地域づくり〔4-4-③〕 シニア世代の養成数 2,000 人 ・水田経営の大規模法人の育成 〔5-1-①〕 (2020~2024 計) ・大規模水田園芸の推進〔5-1-②〕 ·米·園芸産出額 550 億円 (2024) ・次世代の農業を担う人材育成 [5-1-⑥] · 直売所販売額 46 億円 (2024) 飢餓を終わらせ、 · 「知る」、「つくる」、「買う」による食育 · 地産地消の推進 〔5-3-②〕 ・アジアへの農林水産物・食品輸出額 食料安全保障及び 22 億円 (2024) ・小規模農家等の生産意欲の向上とチャレンジ活動を応援 栄養改善を実現 し、持続可能な農 ・農林水産業の生産力を高める基盤整備 〔5-6-①〕 業を促進する ・「ふくい100彩(さい)ごはん」を開発・普及[13-2-3] ・家畜の疾病対策〔18-3-③〕 (健康・福祉) 主な取組み(62) KPI (18) 若い世代のニーズに合った婚活サポートの充実〔4-1-②〕 合計特殊出生率 1.80 (2030) 人の手によるあたたかな出会いのサポート [4-1-④] ・成人のスポーツ実施率 ・2人目からの経済的支援〔4-2-④〕 65% (2024) 一滴がん検診の導入 [13-1-①] ・歩数の増加(20~64歳) ·フレイル予防·認知症予防の強化〔13-1-②〕 男性 9,000 歩 あらゆる年齢のす ・歩く県民運動を推進〔13-2-①〕 8,000 歩 女性 べての人々の健康 (2024)・医師の偏在是正 〔14-1-①〕 的な生活を確保 ・医療ニーズに応じた体制づくり〔14-1-③〕 ·特定健診受診率 70% (2024) し、福祉を促進す ・回復型フレイルの導入〔14-3-②〕 ・フレイルチェック参加者数 る ・新たな感染症への対応強化〔16-1-⑥〕 延べ 2,000 人(2024) · 交通事故防止対策の推進〔16-3-④〕 12.400 人 (2024) · 介護従事者数 (教育) KPI (15) 主な取組み(72) ・確かな学力の育成〔1-1-①〕 ・課題の解決に向け、自分で考え、自 ・魅力ある県立学校づくりの推進〔1-1-②〕 分から取り組む児童生徒の割合 小学生 85.0% ・幼児教育の推進〔1-1-③〕 中学生 80.0% ・たくましく健やかな体を育む教育の推進〔1-2-②〕 ・特別支援教育の推進〔1-2-④〕 (2024)すべての人に包摂 ・外国人児童生徒等に対する教育環境の整備〔1-2-⑥〕 ・地域や社会をよくするために何をす 的かつ公正な質の ・私立高校の授業料無償化〔1-5-②〕 べきかを考えることがある小学生の 高い教育を確保し、 ·県立大学にシンクタンク機能を整備 [2-1-3] 割合 60.0% (2024) 生涯学習の機会を ・リカレント教育の充実〔2-3-②〕 ·PBL·学生が参加する共同研究数 促進する ・児童の健全育成〔4-4-⑥〕 100件(2024) ・県内大学の学部・学科・コースの見直し 7件(2020~2024) · Fスクエアにおける社会人受講者数 150人(2024)

(ジェンダー) 主な取組み(14) KPI (3) 5 グニンダーデキタ 光源しよう ・有業者における男女の家事・育児 ・お互いを尊重し豊かな心を育む教育の推進〔1-2-①〕 ・「共家事(トモカジ)」の促進[3-1-①] 時間の差 2時間(2021) ・働く女性の活躍支援〔3-1-②〕 ・企業における女性管理職の割合 ・女性のキャリアアップ支援〔3-1-③〕 20.0% (2024) ・女性が福井で多様な夢を実現できる環境づくり〔3-1-④〕 ・県職員の女性管理職割合 ジェンダー平等を ・人権意識の啓発〔3-4-⑧〕 20% (2023) 達成し、すべての女 ・仕事と妊娠・出産の両立支援の推進〔4-2-①〕 性及び女児の能力 ・不妊検査・治療への支援〔4-2-②〕 強化を行う ・妊娠期から子育で期までの切れ目ない支援体制の強化 [4-2-3]・育児での男性活躍社会〔4-4-①〕 ___ (水・衛生) 主な取組み(2) KPI (2) 6 異金な水とトイル ませぬまた ・快適なくらしを支えるインフラ施設の構築〔15-1-⑦〕 · 汚水処理人口普及率 98% (2024) ・環境保全対策の推進〔15-2-⑥〕 ·自然再生取組地域数 14 地域 (2024) すべての人々の水 と衛生の利用可能 性と持続可能な管 理を確保する (エネルギー) KPI (3) 主な取組み(10) ・持続可能な社会に向けた技術開発の促進〔7-1-⑤〕 ・嶺南地域において VPP に参加する ・スマートエリアの整備や農林水産業のスマート化 〔7-4-①〕 筒所数 100 筒所 (2024) ・新たな試験研究炉の利活用促進 〔7-4-③〕 ・温暖化対策を意識し節電等に積極的 ・都市との近接性を活かしたライフスタイル先進地の形成 に取り組む県民の割合 50% (2022) (9-5-1)・県内中小企業の省エネを推進するた すべての人々の、 ·未来を守るストップ温暖化 [15-4-①] めのガイドライン策定業種数 安価かつ信頼でき ・企業の省エネ対策の推進〔15-4-②〕 14 業種 (2024) る持続可能な近代 ・再生可能エネルギーの導入拡大〔15-4-③〕 的エネルギーへの ・嶺南スマートエリアの整備〔15-4-④〕 アクセスを確保す ・責任ある原子力・エネルギー政策の実行を国に要請 (16-4-1)(成長・雇用) 主な取組み(176) KPI (46) ・儲かる畜産経営の展開 [5-1-④] ・1人当たり県民所得 356 万円 ·起業家・ベンチャー企業の発掘・育成〔6-1-②〕 (2024)・次世代の経営者への円滑な事業承継〔6-1-⑤〕 ・製造品出荷額 2 兆 2,800 億円 (2024)・デザインを活かした産地ブランディングの強化〔6-2-①〕 ・繊維・眼鏡産業や伝統工芸の振興〔6-2-②〕 · 創業者数 600 人 (2020~2024 計) 包摂的かつ持続可 ・プッシュ型の課題掘起しの強化〔6-3-①〕 · 県輸出額 2,000 億円 (2024) 能な経済成長及び · I T 人材の確保·育成〔6-4-②〕 ・クルーズ客船寄港回数 10回(2024) すべての人々の完 ・社員ファースト企業の拡大〔6-5-①〕 · 観光客入込数 2,000 万人 (2024) 全かつ生産的な雇 ・観光を楽しむ・滞在したくなる仕掛けづくり〔10-1-⑦〕 用と働きがいのあ ・まちなか商店街の活性化〔12-2-⑥〕 る人間らしい雇用 (ディーセント・ワ 一ク)を促進する

(イノベーション) 主な取組み(87) KPI (27) 9 声名人が存在する 基準をつくらう ・大規模施設園芸の全県展開〔5-1-③〕 · I o T導入率 27% (2024) ・植物工場の拡大 [5-1-⑤] ・製造業の1人当たり付加価値額 ・生産・販売の拡大を目指した試験研究の推進〔5-1-⑦〕 1,173 万円/人(2024) ・宇宙産業の拠点化〔7-1-①〕 ・宇宙産業における県内企業の売上額 ・航空・宇宙産業の人材育成拠点化〔7-1-③〕 23 億円 (2024) 強靭(レジリエン ・ヘルスケア産業の育成〔7-1-④〕 ・ヘルスケア産業売上額 ト)なインフラ構 ・オープンイノベーションによる稼ぐ力の強化〔7-1-⑥〕 155 億円(2024) 築、包摂的かつ持 ・未来技術の活用促進〔7-2-④〕 ・県内企業による | o T · A | 等を 続可能な産業化の · 産業団地の整備促進〔7-3-3〕 活用したサービス提供数 50件 促進及びイノベー ・デコミッショニング(廃炉)ビジネスの育成[7-4-②] (2020~2024 計) ションの推進を図 ・新たな試験研究炉の利活用促進(再掲) [7-4-3] ・廃止措置工事への県内企業参入割合 5割(2024) (不平等) 主な取組み(40) KPI (11) 10 A9回の不平等 Admit # 3 若者の交流拡大〔3-2-①〕 ・地域活性化に取り組む若者グループ数 ・社会参加を通じた「生涯活躍」の推進 [3-2-5] 160 グループ (2024) ・シニア人材活躍支援センターによる就業促進〔3-2-⑥〕 働く意欲のある高齢者の有業率 全国 1 位 (2022) ・障がい者スポーツ・アートの推進〔3-4-③〕 ・外国人が安心して快適に暮らし、働くことができる環境 ・障がい者雇用率 2.50% (2024) 各国内及び各国間 の構築〔3-4-④〕 ・カーポートパーキングの整備箇所数 の不平等を是正す ·認知症フレンドリー社会の実現〔3-5-①〕 100 箇所 (2024) る ・がん患者の社会活躍を応援〔3-5-④〕 ・外国人コミュニティリーダーの設置人数 ・多様な人材が活躍できる就業環境の整備〔6-4-③〕 60人(2024) ・就職氷河期世代への就職支援〔6-4-④〕 ・企業・職域型の認知症サポーター ・社会の支え手として活躍できる環境の整備〔13-1-④〕 養成数 34,000 人 (2024) (まちづくり) 主な取組み(120) KPI (22) ・農業で魅力のある田園風景を維持〔5-3-④〕 ·公共交通機関利用者数 2,119 万人 ·鳥獣害に負けない体制づくりの強化 [5-3-5] (2024)・観光の産業化促進〔7-1-⑦〕 · 道路改良済延長(県管理) 1,524km (2024)・北陸新幹線の整備促進〔9-1-①〕 ・県都のまちづくり [9-2-①] ・新ふくい人 (社会人U | ターン者) 包摂的で安全かつ 1,200 人 (2024) ・主要交通拠点からの二次交通の充実 [9-3-1] 強靱(レジリエン · 主要幹線道路ネットワークの構築 〔9-4-①〕 ・関係人口プロジェクト 210 件 ト)で持続可能な ・玄関口の形成と地域交通ネットワークの強化〔9-5-④〕 (2024)都市及び人間居住 ・福井の産業力を活かした移住促進〔11-2-③〕 ・文化活動を行う若者グループ を実現する ・将来にわたる集落機能の維持・活性化〔15-1-①〕 30 グループ (2024) ·地域運営組織の数 60 組織 (2024) (生産・消費) KPI (7) 主な取組み(35) ・いちほまれを全国トップのブランドに確立〔5-2-①〕 ・米・園芸産出額(再掲)550 億円 ・「ふくいそば」のブランド確立〔5-2-②〕 ・ふくいの畜産ブランドの確立〔5-2-⑤〕 · 林業産出額 30 億円 (2024) ・美味しい「ふくいの食」の認知度向上で販売拡大〔5-2-⑥〕 · 漁業産出額 110 億円 (2024) ・「ふくいの食」の輸出拡大 [5-2-⑦] · 直売所販売額(再掲)46億円 持続可能な生産消 ・小規模農家等の生産意欲の向上とチャレンジ活動を応援 (2024)(再掲) [5-3-③] · 新規就農 · 就業者数 (農業) 費形態を確保する ・養殖業の拡大と販路開拓 [5-5-①] 600人(2020~2024計) ・持続可能な社会に向けた技術開発の促進(再掲) [7-1-⑤] ・温暖化対策を意識し節電等に積極的 ・クリーンアップふくいの推進〔15-2-⑤〕 に取り組む県民の割合(再掲) ・循環型社会の推進〔15-4-⑤〕 50% (2022)

(気候変動) 主な取組み(30) KPI (7) 13 aktesijas ・温暖化対策を意識し節電等に積極的 ・災害から農山漁村のくらしを守る基盤整備〔5-6-②〕 ・被害防止につながる地域活動の継続 [5-6-3] に取り組む県民の割合(再掲) ・未来を守るストップ温暖化(再掲) [15-4-①] 50% (2022) ・企業の省エネ対策の推進(再掲) [15-4-②] ·防災士数 4,150 人 (2024) ・再生可能エネルギーの導入拡大(再掲) [15-4-3] ・想定最大規模の降雨に対応したハザ 気候変動及びその ・循環型社会の推進(再掲) [15-4-⑤] -ドマップを作成する市町数 影響を軽減するた ・「自分の命は自分で守る」防災意識の醸成〔16-1-②〕 17 市町 (2024) めの緊急対策を講 ・事前防災対策による「県土強靭化」の推進〔16-2-①〕 ・緊急輸送道路における道路斜面対策 じる ・予防保全に基づいた老朽化対策によるインフラ施設の安全 41.0% (2024) 確保〔16-2-②〕 ・河川の整備延長(県管理) ・災害からの復旧・復興〔18-3-②〕 59.6 km (2024) ・土砂災害対策施設の整備 1,019 箇所(2024) (海洋資源) 主な取組み(12) KPI (3) 14 \$0±804 ・地魚の戦略的販売 [5-2-3] · 漁業産出額(再掲) 110 億円(2024) ・養殖業の拡大と販路開拓(再掲) [5-5-①] · 汚水処理人口普及率(再掲) ・漁船漁業の効率化と地魚の戦略的販売〔5-5-②〕 98% (2024) ·ふくいの海を担う人材育成 〔5-5-③〕 · 自然再生取組地域数(再掲) ・漁村の活性化〔5-5-4〕 14 地域 (2024) 持続可能な開発の ・クリーンアップふくいの推進(再掲)〔15-2-⑤〕 ために海洋・海洋 ・環境保全対策の推進(再掲)〔15-2-⑥〕 資源を保全し、持 ・自然再生の推進〔15-3-①〕 続可能な形で利用 ・自然体験拠点の形成〔15-3-②〕 する ・自然と触れ合う機会の充実〔15-3-⑤〕 (陸上資源) 主な取組み(17) KPI (2) 15 MMEMAN ・間伐の加速化と主伐の促進による循環型林業経営を推進 ·林業産出額(再掲) 30 億円(2024) · 自然再生取組地域数(再掲) [5-4-1]14 地域 (2024) ・新たな手法の導入による施業集約化の促進〔5-4-②〕 ・森林経営・管理を担う人材育成 〔5-4-③〕 · 県産材の利用拡大 [5-4-4] 陸域生態系の保護、 ・森林の多様な活用による山村の活性化 [5-4-⑤] ・緑と花の県民運動を推進 [5-4-⑥] 回復、持続可能な利 ・クリーンアップふくいの推進 (再掲) [15-2-⑤] 用の推進、持続可能 ・自然体験拠点の形成(再掲) [15-3-2] な森林の経営、砂漠 ・コウノトリが生息できる自然環境の創出〔15-3-④〕 化への対処ならびに ・自然と触れ合う機会の充実(再掲) [15-3-⑤] 土地の劣化の阻止・ 回復及び生物多様性 の損失を阻止する (平和・公正) KPI(5)主な取組み(21) ・いじめ・不登校対策の充実〔1-2-⑤〕 ・障がい者雇用率(再掲) ・外国人児童生徒等に対する教育環境の整備(再掲) [1-2-⑥] 2.50% (2024) ・カーポートパーキングの整備箇所数 ・県民の共生社会への意識の醸成〔3-4-①〕 ・障がい者の就労支援〔3-4-②〕 (再掲) 100 箇所 (2024) ・認知症サポーターの養成促進〔3-5-②〕 ・外国人コミュニティリーダーの 持続可能な開発の 設置人数(再掲) 60人(2024) ・困難な環境にある子どもへの支援〔4-4-④〕 ための平和で包摂 ・子ども、女性、高齢者を守る対策の推進 〔16-3-①〕 ・企業・職域型の認知症サポーター 的な社会を促進 ・犯罪の起きにくい社会づくり〔16-3-②〕 養成数(再掲) 34,000人(2024) し、すべての人々 ・犯罪の取締り強化〔16-3-③〕 ・防犯カメラ設置支援地区数 ・テロ・大規模災害対策の推進〔16-3-⑤〕 50 地区 (2024) に司法へのアクセ ・治安基盤の強化〔16-3-⑥〕 スを提供し、あら ・拉致問題の啓発と国への要請〔16-5-①〕 ゆるレベルにおい て効果的で説明責 任のある包摂的な 制度を構築する

(パートナーシップ)



持続可能な開発の ための実施手段を 強化し、グローバ ル・パートナーシ ップを活性化する

主な取組み(86)

- ・若者の主体的な活動を応援〔3-2-③〕
- ・社会貢献活動に参加しやすい環境づくり〔3-3-①〕
- ・留学生や県内企業に勤務する外国人等を通じた交流推進
 - [8-3-2]
- ・徹底現場主義による県政推進〔17-1-②〕
- ・県・市町の共通課題への協働対応〔17-2-①〕
- · S D Gs の推進〔17-3-①〕
- ・デザイナーのアイデアを政策に反映する仕組みの構築

[17-3-②]

- ・〇〇DAループによる政策形成〔17-3-④〕
- ・歳出の合理化・重点化 〔17-5-②〕
- ・共通意識をもつ自治体の広域連携 〔18-4-②〕

KPI (11)

- 海外機関等との交流や協力関係の 構築 360件(2024)
- ・市町との協働により新たに課題解決できた数 7件(2020~2023計)
- ·財政調整基金残高 100 億円以上
- · 将来負担比率 200%未満 (2023)
- · 県債残高 6,000 億円未満 (2023)
- ・他都府県等と新たに連携して実施 するプロジェクト数

15件(2020~2024計)

第3部 地域プラン

1 基本的な考え方

福井県内の各地域は、自然や歴史文化、産業など様々な分野において、異なる特性を持っています。

「越山若水」の言葉に象徴されるように、越前は風格ある山並みを配し、若狭は変化に富んだ海湖を擁しています。また、それぞれの地域が、先人たちの培った歴史遺産や伝統文化を守り、受け継いでいます。

産業面においても、各地域が気候や地形などその土地にあった農業・林業・水産業を発展させています。伝統的工芸品や眼鏡などのものづくり産業は、長い年月をかけて技術を集積させた卓越した産地を形成しています。

各地域が個性を伸ばすことは、県全体として、多様性ある魅力的な圏域を形成することにつながります。それぞれの地域が独自の機能や特徴を持ち、あわせて地域を結ぶ交通体系を整備することにより、地域の資源や強みを活かした連携につなげ、県全体としてのビジョンを実現していくことが重要だと考えます。

こうした考えのもと、第3部では、地域ごとの発展構想をまとめます。第1部で示した将来イメージの実現に向け、特色を活かしたまちづくりや観光、産業などの今後5年間の施策の方向性を示します。

【 地域プランと福井県高速交通開通アクション・プログラム 】

北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道県内全線開通など、高速交通の開通効果を高め、県内全域に浸透させるため、平成28年3月に「福井県高速交通開通アクション・プログラム」を作成しました。

アクション・プログラムでは、県内各地域において実行する具体的なプロジェクトを、広く県民が認識・共有できるよう、その実施主体や場所、事業内容などをエリア別プロジェクト集としてまとめ、地図や工程表により分かりやすく図解しています。

第3部「地域プラン」では、各地域において今後5年間で進められる施策について、アクション・プログラムに記載のあるものだけでなく、まちづくり、観光、産業、インフラ整備・防災の観点から、各地域の特色を活かした施策について、市町が行うものも含め記載しています。

【地域区分】

地域区分については、くらしや経済活動などの分野に応じて多様な捉え方がありますが、地域プランにおいては、自然的・社会的条件から一体性を有し、これまでも広域的な視点から行政が進められてきた4つの地域を設定します。

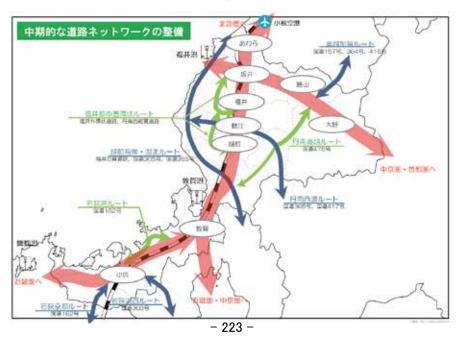
なお、産業政策や観光誘客など、それぞれの地域を越えた市町間の連携について も積極的に進めていきます。



【 地域を結ぶ交通ネットワーク 】

各地域における資源や強みを活かし連携していくためには、人流・物流の観点から、特に道路が果たす役割が重要です。

平成29年7月に中部縦貫自動車道が大野 | Cまで開通したことにより、県内の主要都市が高速道路で結ばれました。今後も、各地域の生活、産業、観光などを支える基盤となる道路ネットワークの整備を進めていきます。



2 各地域の方向性

l 福井坂井地域

- 1 将来イメージ (2040年頃)
 - 〇歴史を活かした県都のまちづくりが進捗。永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡や三国 湊、丸岡城などの歴史遺産、東尋坊、あわら温泉など、福井を代表する観光 資源が集積する**歴史と自然が調和したにぎわいエリア**
 - 〇繊維や化学、機械などの企業、産業支援機関、大学などがオープンイノベーションの推進により、**革新的な技術や製品を生む未来産業創造エリア**
 - 〇県立大学や園芸カレッジ等による人材育成と、スマート農業、園芸導入による 複合経営、食のブランド化により新たな価値を生み出す食と農のプラット フォーム*エリア

※プラットフォーム:総合基盤

○自動運転やMaaS、オンデマンド交通^{*}など、県民や観光客にとって<u>新たな</u>移動手段が実現する先端交通エリア

※オンデマンド交通:利用者の予約に応じて運行される交通システム

〇構成市町

ſ	福井市
Ī	あわら市
I	坂井市
ſ	永平寺町

○主要データ

項	目	データ(県全体に占める割	合)
面	積	957.49 km² (22.6%)	 2019
人		404,796 人 (51.5%)	 2015
農業産	出額	2,421 千万円 (51.3%)	 2017
森林	面積	50,600ha (16.2%)	 2018
製造品は	出荷額	93,257 千万円 (44.3%)	 2017
商品販	売 額	136,071 千万円 (70.0%)	※ 2017
観光客	入込数	12,279 千人 (37.9%)	 2018



スマート農業の実証 (一人で2台を操作)



にぎわいを生む県都のまちづくり (福井市中央公園)

2 施策の方向性 (2020~2024年度)



(1) 新幹線開業に向けたまちづくり

〇福井駅周辺

福井駅西口広場の整備やえちぜん鉄道の高架化などに続き、福井駅東口拡張施設の整備や駅西側の再開発などにより、県都のにぎわいづくりを推進します。

- ・福井駅東口拡張施設の整備(福井市)
- ・福井駅西側の再開発への支援(県、福井市)
- ・福井城址周辺道路等の整備(福井市)
- ・福井城址公園のあり方の検討(県、福井市、民間)
- ・官民連携による県都のまちづくりの推進(県、福井市、民間)

○芦原温泉駅周辺

本県の北の玄関口にふさわしい駅となるよう、にぎわい空間等を整備するとともに、東西広場やアクセス道路の整備、二次交通の充実により、地域交通の拠点化を進めます。

- ・駅周辺にぎわい空間、西口、東口広場、東西自由通路等の整備(あわら市)
- ・西口および東口アクセス道路の整備(県、あわら市)
- ・西口立体駐車場の整備(あわら市)

○新たな移動サービスの実現

これまで実証試験が進められてきた自動運転技術の実用化、日常の移動も 視野に入れた観光型MaaSなど、新技術や新たな手法を活かした移動サー ビスを実現します。

- ・レベル3の自動運転技術を住民や観光客の移動手段として実用化(永平寺町)
- ・交通機関の検索・予約・決済や観光施設等と連携したサービスを一体的に提供 する観光型MaaSの実現(県、市町、民間)



福井駅 (イメージ) <提供:鉄道・運輸機構>



芦原温泉駅 (イメージ) <提供:鉄道・運輸機構>



自動運転技術の実証



芦原温泉駅西口駅前広場 (イメージ)

(2) 観光拠点の磨き上げ

〇一乗谷ミュージアム化の推進

日本最大の戦国城下町の跡がそのまま残る一乗谷朝倉氏遺跡を、誘客の核として磨き上げるとともに、将来にわたり遺跡を保存・活用していくための調査・研究を進めます。

- ・遺跡の価値や魅力を楽しみながら学べる一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)の整備(県)
- ・戦国時代の生活や文化を、よりリアルに、より楽しく体感できる体験メニュー の充実(県、福井市)
- ・遺跡の保存技術の確立に向けた(独)国立文化財機構奈良文化財研究所との連携研究の実施(県)
- 特別名勝庭園朝倉氏庭園の保存・活用(県、福井市)

○観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設等の整備を進めます。

- ・東尋坊再整備基本計画に基づく魅力向上(県、坂井市)
- ・エリア内の二次交通が乗降自由となる周遊パス付ガイドブックの発行(福井 市・永平寺町)
- ・芦原温泉駅西口にぎわい施設整備(あわら市)
- ・三国湊、吉崎御坊、丸岡城等の歴史文化スポットをつなぐ体験プログラムの 作成(あわら市、坂井市)
- ・みくに龍翔館のリニューアル(坂井市)
- ・丸岡城の国宝指定を目指すとともに、周辺のにぎわいを創出(坂井市)
- ・越前海岸水仙群の重要文化的景観選定、保存・活用の推進(福井市、南越前 町、越前町)



一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)(イメージ)



丸岡バスターミナルのにぎわい交流施設

〇おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備し、おもてなしの力を向上します。

- ・新幹線を利用する客の消費拡大に向けた駅周辺の飲食店等の改装などを支援 (県)
- ・東尋坊、永平寺、一乗谷朝倉氏遺跡等におけるオリジナルの土産品等の開発を 支援(県)

(3)産業の活力創造

○食と農のプラットフォーム形成

九頭竜川下流域パイプラインが整備された水田や、高品質の園芸作物を産出する坂井北部丘陵地・三里浜砂丘地、農業試験場・畜産試験場・食品加工研究所などの試験研究機関、県立大学や園芸カレッジ等の人材育成機関が集積する立地環境を活かし、食と農が連携して地域の発展を目指す「食と農のプラットフォーム(総合基盤)」を形成し、食と農の魅力を高めていきます。

- ・ I C T 等を活用したスマート農業の推進(県)
- ・農地の集積・集約、スマート農業の効果を最大限発揮する基盤整備の推進(県)
- ・排水性の良い畑作地帯のフル活用と機械化による特産園芸や水田園芸の推進 (県)
- ・県内最大の若狭牛生産地の生産体制強化を支援(県)
- ・農業試験場や畜産試験場において、優良品種の開発や種子の生産、省力・低コスト技術や飼養技術の研究開発を推進(県)
- ・食品加工研究所等の支援による、新商品の開発促進、農商工連携による6次産 業化の推進(県)
- ・県立大学創造農学科や園芸カレッジ等において農業人材を育成(県)
- ·「越前がれい」に新たなプレミアムブランドを創出(県)

〇林業・水産業の活性化

<林業>

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主 伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

- 集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進(県、民間)
- ・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進(県、市町)
- ・総合グリーンセンターにおける新製品や特用林産物の優良系統の開発、林業カレッジにおける人材育成(県)

<水産業>

新技術を活かした養殖生産の拡大や天然資源の持続的利用、若手漁業者の確保・育成、安定した県産稚アユの供給による遊漁者の拡大等を進めます。

- ・漁港の未利用エリアを活用し、新たにイワガキやウニを増養殖(県)
- ・「越前がに」の稚ガニが多い海域の情報を漁業者がリアルタイムに共有するシステム(デジタル操業日誌)を構築し、稚ガニを保護(県)
- ・アワビやサザエ等の磯根資源を回復するための種苗放流や藻場造成(県、市町)
- 内水面総合センターにおける稚アユの安定生産(県)

福井坂井地域

〇未来に向けた新ビジネスの創出

A | や | o T の活用、企業や試験研究機関、大学等の技術やアイデアを組 み合わせ、新たなビジネスを生み出します。

- ふくいA | ビジネス・オープンラボを活用した新技術開発、ビジネス化(県)
- ・オープンイノベーションによる研究開発・事業化の推進(県)
- ・工業技術センターが中心となり、超小型人工衛星や炭素繊維などの研究開発を 進め、航空・宇宙産業クラスターを形成(県)
- ・ふくい産業支援センターや商工会・商工会議所等と協力し、創業や人材育成、 新商品開発、販路開拓などを支援(県)

〇産業団地の整備、企業誘致

テクノポート福井の産業用地を拡充し、新たな企業を誘致します。

・新たな用地を段階的に造成。福井港、工業用水、公共下水などの充実したイン フラや、グリーンベルトをアピールして企業誘致を推進(県、福井市、坂井市)



福井県立大学あわらキャンパス



ふくいAIビジネス・オープンラボ

(4) 地域産業とくらしの安全を支える基盤整備

○福井港の整備、利用拡大

嶺北の産業と安心を支え、地域経済の活力を生み出す拠点港として、港湾 機能の強化を図るとともに、利用拡大を進めます。

- ・北防砂堤延伸工事の推進(県)
- ・岸壁や護岸等、港湾施設の長寿命化と耐震化を推進(県)
- ・防波堤等の多目的利用による誘客(県、民間)
- ・福井港を新規に利用する荷主や取扱貨物量が増加した継続利用荷主に対し助成 (県)

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するた めの道路整備を推進します。福井港へのアクセス向上や地域間の交通円滑化 のため、東西および南北の道路交通ネットワークの強化を進めます。また、 地域鉄道の安全・安定運行への支援や利用促進を図ります。

- ・国道8号福井・石川県境部の4車線化促進(国)
- ・福井港丸岡インター連絡道路の整備推進(県)
- ・県道福井森田丸岡線((仮称)新九頭竜橋)の整備推進(県)
- ・福井鉄道やえちぜん鉄道の安全・安定運行への支援、利用促進(県、沿線市町、 民間)
- ・JR越美北線の利用促進(県、沿線市、民間)

○県土強靱化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安 全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

- ・足羽川ダムの建設促進(国)
- ・九頭竜川上流ダムの再生(国)
- ・九頭竜川、日野川の河道掘削、堤防強化の促進(国)
- ・底喰川、竹田川など河川改修、伐木や浚渫の推進(県)
- ・龍ケ鼻ダム、永平寺ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進(県)
- ・九頭竜川流域下水道の老朽化対策や耐震化の推進(県)
- ・田ノ谷川(福井市田ノ谷町)などでの砂防堰堤等の整備(県)
- ・福井市薬師町などでの治山ダム等の整備(県)
- ・県道福井金津線などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進(県)



福井港北防砂堤延伸工事



竹田川の改修 (築堤)

|| 奥越地域

- 1 将来イメージ (2040年頃)
 - 〇日本一の星空にも選ばれた六呂師高原や刈込池の雄大な自然と野外活動、 天然記念物に指定された恐竜化石や発掘現場など、**ほんものの大自然を** 体感するエリア
 - 〇福井と中京を結ぶ「東西交流軸」の拠点として、産業団地や道の駅を中心に 新たに人や企業が集まり交流する新産業集積エリア
 - 〇中世宗教都市の歴史を感じる白山平泉寺、越前大野城やその城下町など、 奥越前の歴史遺産ブランドエリア
 - 〇農地・森林を保全し、その豊かな農山村の資源を活かした農林水産業の振興と6次産業化による、**にぎわいと活力の里地里山ビジネスエリア**

〇構成市町

1137-201131-3	
大野市	
勝山市	

○主要データ

項	目	データ(県全体に占める割	合)
面	積	1,126.31 km² (26.9%)	% 2019
人	П	57,234 人(7.3%)	※ 2015
農業産	出額	707 千万円(15.0%)	% 2017
森林	面積	95,997ha (30.8%)	 2018
製造品	出荷額	12,073 千万円 (5.7%)	※ 2017
商品販	売 額	5,541 千万円(2.8%)	% 2017
観光客.	入込数	4,095 千人(12.6%)	% 2018

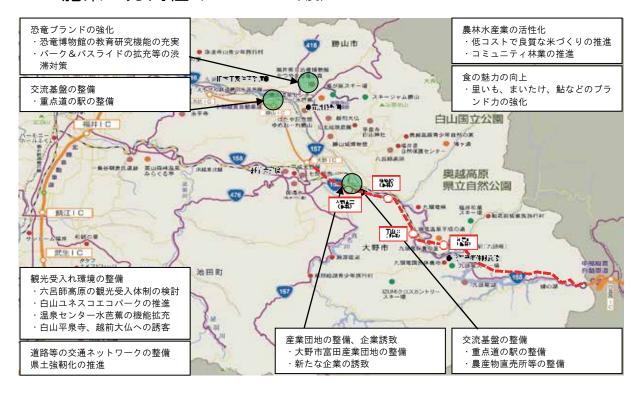


六呂師高原



白山平泉寺

2 施策の方向性 (2020~2024年度)



(1) 中部縦貫自動車道を活かすまちづくり

○東の玄関口となる交流基盤の整備

中京・東海エリアとの交流のフロンティアとして、交流の基盤となる重点 道の駅の整備・活用を進めます。

・重点道の駅の整備(「越前おおの 荒島の郷」、「恐竜渓谷かつやま」)(県、大野市、勝山市)



重点道の駅「越前おおの 荒島の郷」 (イメージ)



重点道の駅「恐竜渓谷かつやま」

(2) 観光拠点の磨き上げ

○恐竜ブランドの強化

世界に誇る恐竜化石の研究および情報発信の拠点として、恐竜博物館の機 能強化を進めます。さらに、「福井といえば恐竜」とのイメージづくりを強 化します。

- ·「オールシーズン体験可能な博物館にフルモデルチェンジ」をコンセプトに、 収蔵庫増設や恐竜研究体験など恐竜博物館を機能強化(県)
- ・パーク&バスライドの拡充や混雑・渋滞情報発信の強化等、渋滞対策の推進(県)
- ・恐竜列車・バスの運行やホテルにおける恐竜ルーム・ロビーの改修を支援(県)
- ・福井駅前などでの恐竜モニュメントによる恐竜ブランドの強化(県)
- ・恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進(勝山市)

○観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設等の整備を進めます。

- ・自然体験の充実など、六呂師高原の観光受入体制の検討(県、大野市)
- ・COCONOアートプレイスを拠点とした文化・芸術の発信等(大野市)
- ・白山ユネスコエコパークの推進(大野市、勝山市)
- ・道の駅を訪れた観光客を周辺観光地に誘客する周遊ルート・マップの作成(大 野市、勝山市、永平寺町)
- ・周遊観光案内サービスを提供できる観光コンシェルジュの育成(大野市、勝山 市、永平寺町)
- ・温泉センター水芭蕉の機能拡充(勝山市)
- ・法恩寺山リゾートの整備(勝山市)
- ・白山平泉寺、越前大仏への誘客イベント等の実施(勝山市)



県立恐竜博物館



COCONOアートプレイス

〇おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備 し、おもてなしの力を向上します。

- ・歴史あるまちなみにあわせた飲食店の改装などを支援(県)
- ・恐竜博物館、越前大野城、スキー場などにおけるオリジナルの土産品等の開発 を支援(県)

(3)産業の活力創造

〇農業・林業の活性化

<農業>

平坦地、中山間地それぞれの土地や気候条件に応じて育まれてきた農業の 生産力をさらに高め、農家所得の向上につなげていきます。

- ・農地の集積・集約、新技術の推進により、低コストで良質な米づくりを推進(県)
- ・上庄大井地区(大野市)等において、水田の基盤整備を推進(県)
- ・農作業の機械化により省力化を進め、規模拡大や水田園芸を推進(県、市、民間)

<林業>

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主 伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

- ・集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進(県、民間)
- ・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進(県、市)

〇食の魅力の向上

里いも、キクなど消費者が求める農産物の生産・販売を促進し、地域特産物のブランド力を強化するとともに、地域食材を使用した料理メニューや商品の開発・提供により、食の魅力で地域のにぎわいと活力を創出します。

- ・里いも、まいたけ、鮎など、地域の風土に育まれた農林水産物のブランド力の 強化(県、市町)
- ・共同選果場の活用により、高品質で統一規格の農産物を安定供給・販売し、ブランド力を向上(県、市町)
- ・道の駅を核とした直売所・農家レストランなどの施設整備や里山里海湖ビジネスの人材育成を支援し、地域食材を使用した料理メニューや商品の開発・提供により6次産業化を推進(県、市町)
- ・本県最大の酪農地帯において、美味しい生乳の加工品の開発を推進(県、民間)

〇産業団地の整備、企業誘致

中部縦貫自動車道の大野東 I C (仮称) 附近に産業団地を整備し、新たな企業を誘致します。

・大野市富田産業団地を整備。本県の東の玄関口としての立地環境を活かし、 中京方面からの企業誘致を推進(県、大野市)



列状間伐施業地



大野市富田産業団地

(4) 地域産業とくらしの安全を支える基盤整備

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するための道路整備を推進します。中京と福井を結ぶ東西軸の新たな玄関口となり、交流人口増加、企業立地促進、安全・安心の確保に重要な役割を担う中部縦貫自動車道の整備を進めます。また、地域鉄道の安全・安定運行への支援や利用促進を図ります。

- ・中部縦貫自動車道の整備促進(国)
- ・県道皿谷大野線の整備推進(県)
- ・えちぜん鉄道の安全・安定運行への支援、利用促進(県、沿線市、民間)
- ・JR越美北線の利用促進(県、沿線市、民間)

○県土強靱化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

- ・九頭竜川上流ダムの再生(国)
- ・真名川砂防事業の推進(国)
- ・大蓮寺川などの河川改修、九頭竜川などの伐木や浚渫の推進(県)
- ・笹生川ダム、浄土寺川ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進(県)
- ・サギ谷川(大野市蕨生)などでの砂防堰堤等の整備(県)
- ・大野市上黒谷などでの治山ダム等の整備(県)
- ・国道157号などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進(県)



中部縦貫自動車道 九頭竜川橋(仮称)



大蓮寺川河川改修(放水路整備)

Ш 丹南地域

将来イメージ (2040年頃) 1

- ○越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前箪笥の5つの伝統工芸や 眼鏡・繊維など長い歴史を有する地場産業と電子・化学等ハイテク産業が 集積し、**伝統と革新が融合する最先端のものづくりエリア**
- 〇高い技術を有する地場産業や先端技術産業、豊かな自然を活かした農林水産 共業などに魅力を感じて集まった移住者、女性、外国人など様々な人たちが 生しチャレンジするエリア
- ○越前海岸における越前水仙などの景観、生き物に配慮した環境保全型農業の 水田地帯、北国街道の今庄宿や鉄道遺産など、行き交う歴史や自然が魅力の 街道新交流エリア
- ○伝統的民家や農家民宿などに滞在し、伝統工芸・クラフト体験や農業体験 など地域の営みを楽しむ**新たな「しごととくらし」の観光エリア**

〇構成市町

	鯖江市
,	越前市
,	池田町
	南越前町
	越前町

○主要データ

項目	データ(県全体に占める割合)
面積	1,006.78 km² (24.0%) ×2019
人口	184,783 人(23.5%) ※2015
農業産出額	972 千万円(20.6%) ※2017
森林面積	78,019ha (25.0%) ×2018
製造品出荷額	84,511 千万円(40.1%) ※2017
商品販売額	27,825 千万円(14.3%) ※2017
観光客入込数	7,330 千人(22.6%) ※2018



越前古窯博物館



越前水仙(越前町梨子ヶ平)

2 施策の方向性 (2020~2024年度)



(1) 新幹線開業に向けたまちづくり

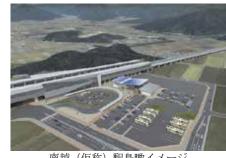
○南越(仮称)駅周辺

新駅となる南越(仮称)駅を整備するとともに、駅前広場や道の駅、アク セス道路などを整備します。

- ・駅前広場、道の駅の整備(県、越前市)
- ・国道8号や武生インターチェンジと駅を結ぶアクセス道路の整備(県)
- ・駅からの二次交通の充実(県、越前市)



南越(仮称)駅(イメージ) <提供:鉄道・運輸機構>



南越(仮称)駅鳥瞰イメー

(2)観光拠点の磨き上げ

○観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設等の整備を進めます。

- ・ラポーゼかわだの機能強化(鯖江市)
- ・北府駅鉄道ミュージアムの整備(越前市)
- ・紫式部公園・藤波亭の再整備(越前市)
- ・ツリーピクニックアドベンチャーいけだの拡充(池田町)
- ・木工体験施設「ウッドラボ」の移転・拡充(池田町)
- ・物販施設や観光案内施設を備えた南条SA周辺地域振興施設の整備(南越前町)
- ・越前海岸から日本海の眺望を楽しむ視点場の整備(越前町)
- ・伝統工芸を活かした体験商品の造成、情報発信の強化(鯖江市、越前市、越前 町)
- ・越前海岸水仙群の重要文化的景観選定の推進(福井市、南越前町、越前町)
- ・今庄宿の重要伝統的建造物群保存地区選定の推進(南越前町)



南条SA周辺地域振興施設(イメージ)



ツリーピクニックアドベンチャーいけだ

〇おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備し、おもてなしの力を向上します。

- ・南越(仮称)駅周辺や歴史あるまちなみにあわせた飲食店等の改装などを支援(県)
- ・伝統工芸品等を活用した土産品等の開発を支援(県)

(3)産業の活力創造

○ものづくり産地の活性化

越前和紙、越前漆器、越前打刃物、越前焼、越前箪笥の5つの伝統的工芸品産地の集積を活かした新たなものづくり産地を目指します。

- ・伝統工芸職人塾による後継者育成、デザイン支援、産地ガイドツアーなど販路 開拓等の強化(県)
- ・体験・見学機能を備えた工房併設型ショップの開設支援による産業観光の充実 (県)
- ·RENEWや千年未来工藝祭など、若者の力を活かした産地活性化の支援(県、 鯖江市、越前市、越前町)
- ・ものづくりキャンパスにおけるデザイン相談や講座の開催、試作品の開発支援 など、企業のニーズに応えるデザイン支援を充実(県)
- ・めがね会館へのSDGS推進プラットフォーム(仮称)の整備(鯖江市)

○地域産業の魅力拡大

| T関連企業のサテライトオフィス誘致などを進め、魅力ある仕事や働き方を生み出していきます。

·空き家などを活かしたサテライトオフィスの誘致、オフィス環境整備支援(県、 市町)



RENEW



デザインセンターふくい

○農林水産業の活性化

<農業>

平坦地、中山間地それぞれの土地や気候条件に応じて育まれてきた農業の 生産力をさらに高め、農家所得の向上につなげていきます。

- ・無農薬栽培等による環境にやさしい農業を支援(県、市町)
- ・農地の集積・集約、新技術の推進により、低コストで良質な米づくりを推進(県)
- ・漆原下野田地区(鯖江市)等において大区画農場の整備を推進(県)
- ・農作業の機械化により省力化を進め、規模拡大や水田園芸を推進(県、市町、 民間)

<林業>

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主 伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

- 集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進(県、民間)
- ・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進(県、市町)

<水産業>

新技術を活かした養殖生産の拡大や天然資源の持続的利用、若手漁業者の 確保・育成などを進めます。

- ・漁港の未利用エリアを活用し、新たにイワガキやウニを増養殖(県)
- ·「越前がに」の稚ガニが多い海域の情報を漁業者がリアルタイムに共有するシステム(デジタル操業日誌)を構築し、稚ガニを保護(県)
- ・アワビやサザエなどの磯根資源を回復するための種苗放流や藻場造成(県、市町)
- ・水産カレッジにより水産業に就業する人材を育成(県、市町)

〇食の魅力の向上

農産物直売所や農家レストラン等において、地域食材を使用した料理メニューや商品の開発・提供により、食の魅力で地域のにぎわいと活力を創出します。

- ・道の駅を核とした直売所や農家レストランなどの施設整備の支援(県、市町)
- ・ふくい農業ビジネスセンターを拠点として、農家民宿や農家レストラン等の里 山里海湖ビジネスを運営する人材を育成(県)
- ·「越前がれい」に新たなプレミアムブランドを創出(県)
- ・食品加工研究支援施設「食ラボ」を活用し、地域の食材や食文化などを活かし た商品化を支援(池田町)

(4) 地域産業とくらしの安全を支える基盤整備

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するための道路整備を推進します。新幹線新駅である南越(仮称)駅が地域交通の拠点となるとともに、各地域における観光・産業拠点をつなぐ道路ネットワークの強化を進めます。また、地域鉄道の安全・安定運行への支援や利用促進を図ります。

- ・国道417号冠山峠道路の整備促進(国)
- ・県道南越駅線、武生インター線の整備推進(県)
- ・国道365号梅浦バイパス、栃ノ木峠道路の整備推進(県)
- ・福井鉄道の安全・安定運行への支援、利用促進(県、沿線市、民間)

○県土強靱化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

- ・国道8号敦賀防災の整備促進(国)
- ・足羽川ダムの建設促進(国)
- ・ 吉野瀬川ダムの建設推進(県)
- ・天王川などの河川改修、伐木や浚渫の推進(県)
- ・広野ダム、桝谷ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進(県)
- ・番清水川(越前市東樫尾町)などでの砂防堰堤等の整備(県)
- ・南越前町板取などでの治山ダム等の整備(県)
- ・国道305号などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進(県)
- ・越前漁港の事業継続計画(BCP)に基づく対策の実施(県、越前町)



国道417号冠山峠道路の整備



吉野瀬川ダムの建設 (イメージ)

Ⅳ 嶺南地域

1 将来イメージ (2040年頃)

- ○京都・大阪との近接性、自然や歴史・文化・食の魅力、安心の子育で環境を活かし、嶺南から関西に通勤し、創造的に働きながら文化的・健康的に過ごせる**くらしの先進地「WAKASAリフレッシュエリア」**
- 〇スマートエリアの整備、デコミッショニング(廃炉)ビジネスの育成、新たな 試験研究炉を核とした研究・人材育成の拠点化や産業創出により、<u>人や企業が</u> 集まる嶺南Eコーストエリア
- 〇新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など**嶺南の自然と歴史を楽しむインバウンドリゾートエリア**
- 〇人々の手で守り継承されてきた伝統芸能・祭り、寺社仏閣、食文化などを 学び、交流する**伝統文化を学び体感するエリア**

○構成市町

	110111		
	敦賀市		
	小浜市		
	美浜町		
•	高浜町		
,	おおい町		
•	若狭町		

○主要データ

項目	データ(県全体に占める割合)
面積	1,099.95 km² (26.2%) ×2019
人口	139,927 人(17.8%) ※2015
農業産出額	622 千万円(13.2%) ※2017
森林面積	87,430ha (28.0%) ×2018
製造品出荷額	20,775 千万円 (9.9%) ※2017
商品販売額	25,080 千万円(12.9%) ※2017
観光客入込数	8,733 千人(26.9%) ※2018

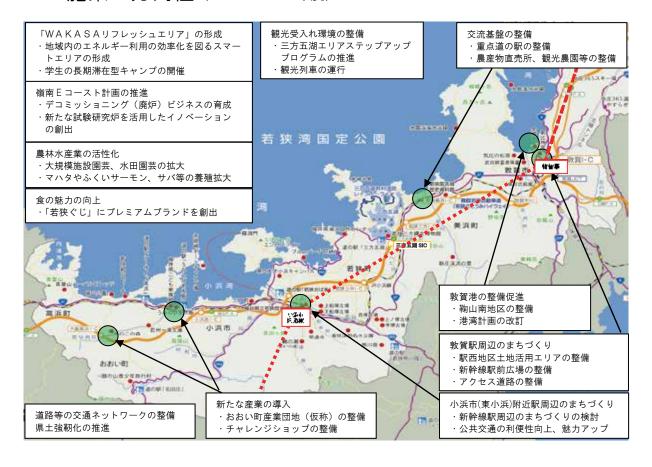


小浜西組重要伝統的建造物群保存地区



クルーズ客船の寄港

2 施策の方向性 (2020~2024年度)



(1) 新幹線開業に向けたまちづくり

○敦賀駅周辺

敦賀駅の始発・終着駅効果を嶺南全域の観光や産業の活性化につなげるため、新幹線駅前広場やアクセス道路の整備を進め、新幹線・JR・並行在来線のターミナル駅としての交通ハブ機能を強化します。

- ・敦賀駅西地区土地活用エリアへの官民連携施設の整備(敦賀市)
- ・アクセス道路の整備(県)
- 新幹線駅前広場等の整備(敦賀市)
- ・地域づくり拠点化施設(重点道の駅「美浜(仮称)」)の整備(国、美浜町)

〇小浜市(東小浜)附近駅周辺

新たな玄関口となる新幹線小浜市(東小浜)附近駅周辺のまちづくりについて、舞鶴若狭自動車道小浜 I C や道の駅、小浜駅周辺の市街地との関係・つながりを考慮し、検討を進めます。

新幹線駅周辺のまちづくりの検討(小浜市)

〇「WAKASAリフレッシュエリア」の形成

将来の北陸新幹線大阪開業に向け、関西との近接性を活かして、まちづくりや産業のプレイヤーを呼び込み、嶺南で文化的・健康的に生活できるエリアを形成します。

- <都市との近接性を活かしたライフスタイル先進地の形成> 関西に通勤し、または嶺南で創造的に働きながら、文化的・健康的に暮らせる生活エリアを形成
 - ・VPP技術により地域内のエネルギー利用の最適化を図る、スマートエリア形成を促進(県、市町、民間)
 - ・古民家や民宿を週末居住者向けのゲストハウス・シェアハウスに改修(市町、民間)
 - ・ I C T や 5 G 等を活用した共同利用サービス等、コミュニティビジネスを支援 (県、市町)
- <人と人とのつながりを活かした、まちづくりや産業のプレイヤー育成> 地域・住民とともに、新しい地域づくりやビジネスにチャレンジする人の 育成・呼び込み
 - ・ I C T を活用したスマート農業・水産業等、フード・コーストを担う人材の誘致・育成(県、市町)
 - ・学生などとのネットワークを活かした関西圏への情報発信強化(県)
 - ・関西学生と地域が多様に関わる長期滞在型キャンプの開催(県、市町)
- <豊かな自然や歴史・文化、食を活かしたリフレッシュコンテンツの充実> 海湖や歴史等のWAKASAの魅力を楽しみ、リフレッシュできる施設・アクティビティを充実
 - ・自然を活かしたアウトドアスポーツや歴史のまち歩き等、日常的に楽しめる WAKASAの体験プログラムを充実(県、市町)
 - ・寺社での外国語ガイドや地域の祭事への参加等、インバウンドもWAKASAを体験できる環境の整備(県、市町)
- <WAKASAの玄関口の形成と地域交通ネットワークの強化>
 - より短時間で近畿圏から往来・エリア内を移動できるインフラの整備
 - ・先端技術を活用したMaaSの導入検討やJR小浜線の利用促進、広域バスの 運行など二次交通を充実(県、市町)



| 教質駅 (イメーン) | <提供:鉄道・運輸機構>



都市部住民が地域課題解決にチャレンジ

(2) 観光拠点の磨き上げ

○観光受入れ環境の整備

地域の歴史や自然を活かした観光施設の整備等を進めます。

- ・年縞博物館の魅力向上(県)
- ・赤礁崎オートキャンプ場の魅力向上(県)
- ・里海湖の景色を堪能するサイクリングロード形成(県、市町)
- ・三方五湖エリアステップアッププログラムに基づく周遊ツアーや体験メニュー の充実、漁家民宿のレベルアップなどの推進(県、市町)
- ・人道の港敦賀ムゼウムのリニューアルオープン(敦賀市)
- ・名勝おくのほそ道の風景地 けいの明神(氣比神宮境内)の保存活用(敦賀市)
- ・史跡金ヶ崎城址の保存活用整備(敦賀市)
- ・小浜西組重要伝統的建造物群保存地区での歴史と伝統文化、生活の体験エリア 等の整備(小浜市)
- ・再生可能エネルギーを活用した電池推進船および関連施設の整備(美浜町)
- ・城山荘、城山公園の再整備(高浜町)
- ・高浜漁港に市場レストランや物販機能を備えた6次産業施設を整備(高浜町)
- ・西の鯖街道のトレッキングコース整備(高浜町)
- ・頭巾山青少年旅行村の再整備(おおい町)
- ・スポーツ・文化体験交流合宿受入れ施設の拡充(おおい町)
- ・熊川宿重要伝統的建造物群保存地区での古民家改修などの交流施設の整備(若 狭町)
- ・河内川ダムの周辺整備、若狭トレイルの整備(若狭町)
- ・熊川エリアおよび新庄エリアのトレイルコースの周遊や連携などの推進(美浜町、若狭町)
- ・海外クルーズ客船の誘致強化(県)
- 観光列車の運行(県、市町)



三方五湖



頭巾山青少年旅行村の再整備 (ホテル流星館)



城山公園



年縞博物館

〇おもてなし産業の魅力向上

地域の産業や景観、食材等の魅力を活かした観光客等の受入れ態勢を整備し、おもてなしの力を向上します。

- ・若狭の魅力ある食を活かしたメニュー等を提供する飲食店の改装などを支援 (県)
- ・地元食材にこだわった土産品等の開発支援(県)

(3) 産業の活力創造

○「嶺南Eコースト計画」の推進

多様なエネルギーを活用した産業活性化やまちづくりを目指し、人・企業・技術・資金が集まるエリアの形成を図ります。

- ・エネルギー利用の効率化を図るスマートエリアの形成に向けて、コンパクトなスマートタウン、シェアEV*等を整備するとともに、EV等の蓄電池を活用して電力需給を調整するVPPシステムの実証実験を実施(県、市町、民間)
- ・廃止措置工事への県内企業の参入や製品技術の研究開発を促進(県、民間)
- ・新たに整備される試験研究炉の利活用を促進し、イノベーション創出につなげる ために、県内企業のニーズ掘り起しに向けた周知活動や利用支援を実施(県) ※シェアEV:会員間でEV(電気自動車)を共同利用するしくみ

○農林水産業の活性化

<農業>

安価な電気料金を活かした大規模施設園芸の拡大、スマート農業の推進や 圃場の大区画化等による生産基盤整備などを進めます。

- ・イチゴやトマト等の周年栽培が可能な大規模施設園芸を拡大(県)
- ・ウメ、ナシ、ミカンの既存果樹産地の生産基盤を強化(県、市町)
- ・ICTを活用したスマート農業や敦賀西部地区(敦賀市)等での圃場整備の推進により、生産性を向上(県)
- ・農作業の機械化により省力化を進め、規模拡大や水田園芸を推進(県、市町、民間)
- ・園芸研究センターに少量多品目有機栽培園を設置し、有機志向農家の活動を支援(県)

<林業>

森林資源が充実していく中、資源を循環させる森、保全する森に分け、主 伐と再造林の促進による循環型林業経営を進めます。

- 集落単位で取り組むコミュニティ林業を推進(県、民間)
- ・低コストにつながる列状間伐の拡大を推進(県、市町)

<水産業>

新技術を活かした養殖生産の拡大や天然資源の持続的利用、若手漁業者の 確保・育成などを進めます。

- ・県産種苗によるマハタやふくいサーモン、サバなどの養殖拡大、ブランド化を 推進(県)
- ・環境にやさしい魚類とナマコとの複合養殖を推進(県)
- ・アワビやサザエなどの磯根資源を回復するための種苗放流や藻場造成(県、市 町)
- ・養殖への新魚種導入や技術開発などを学ぶ県立大学増養殖学科の開設(県)
- ・県立大学、地元高校、沿海11市町、民間等が相互に連携する「ふくい水産振興センター」において、共同研究や産業支援、人材育成を推進(県)
- ・水産カレッジにより水産業に就業する人材を育成(県、市町)

〇食の魅力の向上

農産物直売所や農家レストラン等において、地域食材を使用した料理メニューや商品を開発・提供するほか、園芸に関する体験学習を開催するなど、 食の魅力で地域のにぎわいと活力を創出します。

- ・農産物直売所や農家レストラン等の整備支援および地域食材を活かした料理提供を推進(県、市町)
- ・園芸体験施設「園芸LABOの丘」で、「学ぶ」、「楽しむ」、「食べる」の実体験 を通して、園芸を楽しみながら理解を深める体験学習を開催(県)
- ·「若狭ぐじ」に新たなプレミアムブランドを創出(県)

〇産業団地の整備、企業誘致

舞鶴若狭自動車道の大飯高浜 I C附近に産業団地を整備します。また、新たな企業の誘致を進めます。

- ・おおい町産業団地(仮称)の整備(おおい町)
- ・小浜市や若狭町に加え、敦賀市、美浜町、おおい町に新たに整備した団地に、 安価な電気代など地域特性を活かした企業誘致を推進(県、市町)
- 新規創業や新事業展開に挑戦するチャレンジショップの整備(おおい町)



若狭美浜インター産業団地



ふくいサーモンの養殖生簀

(4)地域産業とくらしの安全を支える基盤整備

○敦賀港の整備、利用拡大

新たな企業進出や交流拡大による地域経済の活性化のため、効率的な次世代の日本海側ターミナル港の実現に向け、港湾計画を改訂し港湾機能の強化を図るとともに、利用拡大を進めます。

- ・増大する貨物需要に対応する敦賀港鞠山南地区の整備(国、県)
- ・岸壁や護岸等、港湾施設の長寿命化と耐震化を推進(国、県)
- ・敦賀港を利用する荷主、物流事業者に対する支援(県)
- ・敦賀港に新たに定期航路を開設する運航船社に対する助成(県)

○道路等の交通ネットワークの整備

地域間の拠点をつなぎ、観光・物流・産業等の交流を拡大・活性化するための道路整備を推進します。関西圏からの玄関口であり、交流人口増加、企業立地促進、安全・安心の確保に重要な役割を担う舞鶴若狭自動車道の4車線化を進めます。また、JR小浜線を中心とした公共交通の利便性向上を図ります。

- ·舞鶴若狭自動車道4車線化の整備促進(民間)
- · 県道坂本高浜線の整備推進(県)
- ・JR小浜線を中心とした公共交通の利便性向上、魅力アップ(県、沿線市町、 民間)

○県土強靭化の推進

頻発・激甚化する自然災害から県民の生命や財産を守り、将来にわたり安全で活力のある地域をつくるため、災害に強い基盤整備を推進します。

- ・国道8号敦賀防災の整備促進(国)
- ・国道162号西津橋、城内橋、大手橋の整備推進(県)
- ・北川の河道掘削・堤防強化の促進(国)
- ・ 笙の川、多田川などの河川改修、伐木や浚渫の推進(県)
- ・大津呂ダム、河川管理施設などの老朽化対策の推進(県)
- ・井根谷川(小浜市東相生)などでの砂防堰堤等の整備(県)
- ・敦賀市杉箸などでの治山ダム等の整備(県)
- ・国道162号などの道路施設の老朽化対策、防災対策、雪対策等の推進(県)
- ・小浜漁港の事業継続計画(BCP)に基づく対策の実施(県、小浜市)



敦賀港鞠山南地区の整備



主要地方道坂本高浜線の整備

〈各市町の総合計画〉

長期ビジョンの実現に向け、市町との協働により各地域のプロジェクトを進めていきます。各市町の総合計画は次のとおりです。

地域	市町名	目指す将来像・基本理念	計画年次
	福井市	みんなが輝く 全国に誇れる ふくい	2017~21
	あわら市	暮らしやすくて 幸せを実感できるまち	2016~25
福井坂井	坂井市	輝く未来へ…みんなで創る希望のまち 〜子どもたちの夢を育む"ふるさと"を目指して〜	2020~29
	永平寺町	めぐる感動 心つながる清流のまち えいへいじ	2017~26
rtn +4	大野市	ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち	2011~20 【新計画策定中】
奥越	勝山市	小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちた ふるさと勝山「まるごとジオパーク」の魅力を活かした「ワクワクする ときめきに満ちたまち勝山」	2017~26
	鯖江市*	〜世界のめがねの聖地 SABAE の確立〜	2020~24
	越前市	国府の文化と匠の技、日野の山川に育まれひとづくり、ものづくり、まちづくりの活力みなぎる「元気な自立都市 越前」	2018~21
丹南	池田町*	~「豊国の農村」まち育て戦略~	2016~20 【新戦略策定中】
	南越前町	 海と緑と歴史の恵みに抱かれて、出会いから活力の花ひらく町 	2015~24
	越前町	人と技 海土里 織りなす 快適なまち 〜越前E-town brandのさらなる躍進〜	2016~25
	敦賀市	世界をつなぐ港まち みんなで拓く交流拠点都市 敦賀	2011~20 【新計画策定中】
	小浜市	「夢、無限大」感動おばま 〜自然と文化が織りなす地域力結集プラン〜	2011~20 【新計画策定中】
嶺南	美浜町	みんなで 創り 絆ぎ 集う 美し美浜	2016~25
	高浜町	美しい自然を舞台に、一人ひとりが主役になる 暮らしたい、働きたい、訪れたいまち 高浜町	2011~20 【新計画策定中】
	おおい町	輝く笑顔がうみだす希望 情熱よせ合うふるさと"おおい" ~みらいへの贈物 魅力創生をあなたとともに~	2017~26
	若狭町	新しい感動と笑顔がひろがるまち	2018~22

※鯖江市、池田町は総合計画を策定していないため、地方版総合戦略について記載

推進方針

1 ビジョンの推進方針

(1) 基本的な考え方

長期ビジョンを実現していくには、県民一人ひとりが「ふくいの将来像」を共有し、力を合わせて行動していくことが何より重要です。策定過程においては、 県民参加を最も重視し、市町別・世代別・分野別など様々な形で意見交換会やワークショップなどを実施してきました。

ビジョン策定後も、学校や企業などにおいて、県民自らが将来像の実現に向けた活動を考える出前講座やワークショップを開催するなど、県民の新たなアクションを生み出し、福井の可能性を拡げていきます。

さらに、県民・企業・団体・市町など様々な主体が連携して力を発揮するため、 それぞれの個性や特長に応じた役割を担いながら「チームふくい」でビジョンを 実現していきます。

(2) ビジョン推進の視点

[県民主役の県政]

県民の幸福実感につながる施策を実行していくため、積極的に現場に出向き、 県民の声を聴く「徹底現場主義」を重視します。

職員の行動規範(クレド)に基づき、スピード感を持って「現場を見て、理解し、行動する」というサイクル(OODAループ)を回しながら、県民主役の県政を進めていきます。

[市町との協働]

県と市町は、共通の県土を基盤とする地方自治体として、それぞれの役割を 担いながら行政サービスを提供しています。

人口減少や長寿命化、大交流化、技術革新などの環境変化に対応していくため、今後さらに市町とのコミュニケーションを進め、連携して地域の課題に対応していきます。

[SDGsの推進]

ビジョンに掲げる将来像の実現には、SDGsの理念「誰一人取り残さない、 多様性と包摂性のある持続可能な社会」に沿って政策を進めていくことが非常 に重要となります。

すべての県民が主役となって自分らしく輝くことができる「共生社会」を目指し、長期ビジョンをはじめとする県の計画や予算などにSDGsのゴールを示すなど積極的に推進していきます。

(3) ビジョン実現のための政策実行

2040年の将来像を示す「将来構想」、5年間の「実行プラン」に基づき、毎年度の主な施策を「未来をつくる実践目標」として公表・実行します。施策については、社会環境や経済情勢の変化にあわせ、柔軟に追加や見直しを行います。

また、各分野の有識者等で構成する「長期ビジョン推進懇話会」において、実行プランに盛り込んだ各施策の実施状況の検証、成果に基づく施策の充実を行い、 実効性を高めながら政策を実行していきます。

1 ビジョンの策定経過

○長期ビジョン推進懇話会

(長期ビジョンおよびふくい創生・人口減少対策戦略の策定にあたり、各界から 幅広く意見を聴取)

開催日	テーマ	
R1. 8. 5	福井県の目指す将来像およびその実現のために必要なこと	
10.24	「福井県長期ビジョン」および第2期「ふくい創生・人口減少 対策戦略」の骨子(素案)について	
R2. 1.15	「福井県長期ビジョン」および第2期「ふくい創生・人口減少対策戦略」の中間とりまとめ(案)について	
5. 25	「福井県長期ビジョン」および第2期「ふくい創生・人口減少対策戦略」(案)について(書面開催)	







〇福井県議会

(「福井県長期ビジョンに関する特別委員会」などにおいて、将来像等を議論)

議会	内容	
令和元年 6月議会	「福井県長期ビジョン」の策定について	
9月議会	「福井県長期ビジョン」骨子(素案)	
12月議会	「福井県長期ビジョン」中間とりまとめ(案)	
令和2年 2月議会	「福井県長期ビジョン」(素案)	
6月議会	「福井県長期ビジョン」(案) [令和2年7月10日 議決・承認]	

[令和2年7月13日 庁議決定]

○県民パブリックコメント

(県民からご意見を募集 募集期間:令和2年5月27日~6月10日 意見数:54件)

〇市町別意見交換会

(各市町において、住民・市町議員・職員と意見交換)

開催日	開催市町	参加人数
R1. 8. 7	高浜町	25名
8. 8	若狭町	24名
8. 19	敦賀市	15名
8. 19	鯖江市	3 7 名
8. 19	越前町	15名
8. 20	小浜市	24名
8. 21	福井市	22名
8. 21	南越前町	25名
8. 22	坂井市	21名
8. 23	美浜町	22名
8. 23	おおい町	27名
8. 27	大野市	23名
8. 27	越前市	22名
8. 29	勝山市	32名
8.30	あわら市	27名
9. 3	永平寺町	20名
9. 13	池田町	14名







〇ブロック別意見交換会

(各ブロックにおいて市町職員と意見交換)

開催日	開催地域
R1. 11. 26	福井坂井地域、嶺南地域
11.27	丹南地域、奥越地域

〇分野別意見交換会

(各分野の現場で活動している方々と意見交換)

開催時期	分野	開催回数
	産業・労働分野	5 1 回
	農林水産分野	84回
	まちづくり・観光・文化・交通分野	42回
R1. 7. 2~	結婚・子育て・県民活躍分野	9回
	医療・健康・介護・福祉分野	14回
	防災・環境分野	16回
	教育分野	15回

○県外在住者との意見交換会

(県外学生・社会人、福井へのUIターン者等と意見交換)

開催日			参加者数
R1. 9.	4	福井出身大学生サークル(県外学生)	4名
9.	5	河和田アートキャンプ、竹田Tキャンプ参加学生(県外学生)	21名
9.	5~	県内地域おこし協力隊	20名
9.	1 2	首都圏の福井に縁がある社会人(県外社会人)	22名
1 1.	1 2	関西福井マスコミ会、関西在住の福井出身大学生	24名

〇世代別意見交換会

(学生、若者、子育て世代の公募参加者によるワークショップ)

開催日		概要	参加者数
R1. 8.	. 10	地方創生を学ぶワークショップ	68名
8.	. 31	福井の将来像と実現のための方策について発表	88名







<各世代のワークショップ概要(グラフィックレコーディング)>

学 生 世 代:「夢にチャレンジできる福井」





子育て世代:「子どもと一緒にシアワセになる福井」



○長期ビジョンに関する講演会

(各分野の専門家等による公開セミナー)

開催日	テーマ、講師	参加者数
R1. 8. 5	世界文明と福井文化の共生 福井県立大学 学長 進士五十八 氏	111名
8. 6	A 技術で語る福井の未来 メディアスケッチ㈱ 代表取締役 伊本貴士 氏	89名
9. 5	創造基盤で未来をつくる ~Creative Infrastructure~ (株)応用芸術研究所 所長 片木孝治 氏	63名
10. 3	SDGsによる新たな価値の創造 一持続可能な経済・社会・環境モデルを目指して一 慶應義塾大学大学院 教授 蟹江憲史氏	126名
10. 4	人生100年時代の安心ライフ 一持続可能な医療・介護制度を考える一 国立社会保障・人口問題研究所 所長 遠藤久夫氏	67名
10.13	文化×エンターテイメント 福井をもっとおもしろく! 福井県立大学 学長 進士五十八 氏 ふくいブランド大使 パトリック・ハーラン 氏 文化庁地域文化創生本部 研究官 朝倉由希 氏	78名
11.20	A 技術で語る福井の未来 人材育成編 - A 時代に活躍できる人材と育成方法- メディアスケッチ(株) 代表取締役 伊本貴士 氏	61名
R2. 1.23	「地域の秘密」が未来をつくる 一鍵を握るKNT(小ネタ)理論とは一 東京大学社会科学研究所 教授 玄田有史 氏、教授 宇野重規 氏、教授 中村尚史 氏	202名







○出前ワークショップ(学校等におけるワークショップ)

開催日	団体名	参加者数
R1. 10. 2	越前市立南越中学校1年生	100名
10.16	福井市立酒生小学校5年生	30名
11.25	仁愛大学コミュニケーション学科	85名
1 2. 3	勝山市校長会	11名
R2. 1.11	東福考実行委員会	20名
1. 17	福井県民生活協同組合	40名
1. 17	鯖江ロータリークラブ	30名
1. 30	福井県立高志中学校1年生	90名
2. 15	福井県商工会議所青年部連合会	160名
2. 18	福井県立高志中学校 2 年生	88名
2. 26	福井市中央公民館	13名







OFUKUI未来トーク

(県民自身が、将来像実現に向けた「私のアクション」について考え、語る会)

テーマ:「2040年、福井をおもしろい県No. 1にするには」

開催日		グループ	参加者数
R2.	2. 19	子育て中の母親の同級生グループ	4名
	3. 5	坂井市でまちづくりに関わる若者グループ	5名
	3. 27	鯖江市で地域活性化に向け活動する学生グループ	7名
	6. 7	教育や父親の育児参加に関わる子育て世代グループ	4名
	6. 27	越前市で国際交流に関わる若者グループ	8名









<懇話会委員名簿>

・窓前云安貝石海グ 役職等	氏 名
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
文化庁地域文化創生本部研究官	朝倉 由希
(一社)福井県医師会会長	池端 幸彦
総合型地域スポーツクラブ福井県連絡協議会アドバイザー	石田、八州子
福井県経済団体連合会会長	伊東忠昭
メディアスケッチ(株)代表取締役	伊本 貴士
元地域おこし協力隊。カフェ irodori.Labo.経営	宇野早希
ふくい若者フォーラム会長	大嶋歩
福井県連合青年団団長	岡井 里紗
福井県私立学校連合会会長	荻原 昭人
アーチザン&パートナーズ代表	景山 直恵
(公社)福井県観光連盟会長	勝木 健俊
(株)アイピーアライアンス代表取締役社長	木嶋 豊
女性起業家グループ「ふくむすび会」初代会長	後藤 ひろみ
福井県社会福祉協議会会長	小藤 幸男
(一財)福井県老人クラブ連合会副会長・女性委員長	重久 博子
福井県立大学学長	進士 五十八 [座長]
福井県町村会会長	杉本 博文
大野商工会議所青年部前会長	杉本 和歌子
福井県私立幼稚園・認定こども園協会副会長	高木 薫子
ふくい女性ネット11期代表	田中 香苗
福井県高等学校長協会会長	田中 幸治
田中農園(株)代表取締役	田中 勇樹
(公財)ふくい女性財団理事長	田村 洋子
(一財)日本総合研究所会長	寺島 実郎
福井県農業協同組合中央会専務理事	永井 侯
福井県文化協議会会長	中嶋 茂男
ふくいブランド大使	パトリック・ハーラン
ふくい若者フォーラム副会長	林 昇平
(一社)福井県銀行協会会長	林 正博
福井県市長会会長	東村 新一
若狭路女将の会会長	藤原 秀美
ゲストハウスSAMMIE'Sオーナー	森岡 咲子
福井労働局 雇用環境・均等室長	山本 久恵
ユニフォームネクスト(株)代表取締役	横井 康孝
日本労働組合総連合会福井県連合会会長	横山 龍寛
(株)福井新聞社代表取締役社長	吉田 真士
(一社)福井県介護福祉士会会長	渡辺 かづ代
福井県小学校長会理事	渡辺 裕美
2	2 夕 (五十辛順) 勘称略

38名(五十音順)敬称略

付属資料

2 県民アンケート

Ι 調査の概要

1 調査目的

「福井県長期ビジョン」を策定するにあたり、有識者による懇話会や県民との地区別・世代別・分野別意見交換会とともに、アンケート調査を実施することによって、広く県民の意見を把握し、ビジョンにおける将来像や戦略に反映させる。

2 調香内容

(1) 県民の価値観

県民が抱く豊かさの定義や消費志向、大切にしている人のつながりなど、県民の価値観を把握し、過去の調査結果と比較を行うことにより、より県民の思いに近い福井県の将来の姿を示す。

(2) くらしの満足度

県民の福井県に対する現在の評価や県外との比較を行うことにより、ビジョンにおける具体的な政策・戦略の内容や優先順位を決定していく際の参考とする。

(3)県民の希望

県民の福井県の将来に対する希望(良くなってほしいと思うこと等)を把握することにより、ビジョンにおける政策・戦略の方向性を決定していく際の参考とする。

(4) 県民が必要と考える方策

福井県の現状をふまえ、県民が望ましいと思う将来像や実現のために必要と考える方策を把握することにより、戦略の方向性と具体的な内容を決定していく際の参考とする。

(5)分野ごとの充足度・将来の重要度についての県民の主観的指標 県民が考える現在の充足度や将来における重要度を分野ごとに細分化する ことにより「都道府県幸福度ランキング」における客観的指標データを補足する。

3 調查期間

令和元年8月29日~9月12日

4 調査方法

郵送による調査票配布、回収

5 調査対象

県内に居住する満18歳以上の5,000人 (住民基本台帳から年代別に無作為抽出)

6 回答者数

2,504人(回収率50.08%)

7 回答者の属性

〇居住地

〇冶丘地				
	送付数	回答数	回収率	割合
福井市	1,678	813	48.5%	32.5%
あわら市	187	94	50.3%	3.8%
坂井市	574	271	47.2%	10.8%
永平寺町	127	57	44.9%	2.3%
大野市	212	107	50.5%	4.3%
勝山市	153	72	47.1%	2.9%
鯖江市	440	196	44.5%	7.8%
越前市	525	243	46.3%	9.7%
越前町	135	65	48.1%	2.6%
池田町	17	7	41.2%	0.3%
南越前町	68	35	51.5%	1.4%
敦賀市	419	171	40.8%	6.8%
小浜市	188	102	54.3%	4.1%
美浜町	63	23	36.5%	0.9%
高浜町	68	28	41.2%	1.1%
おおい町	52	23	44.2%	0.9%
若狭町	94	56	59.6%	2.2%
未記入·無効等	-	141	-	5.6%
計	5,000	2,504	50.08%	100.0%

〇年齢

	送付数	回答数	回収率	割合
10代	121	25	20.7%	1.0%
20代	510	153	30.0%	6.1%
30代	621	237	38.2%	9.5%
40代	814	334	41.0%	13.3%
50代	744	358	48.1%	14.3%
60代	839	486	57.9%	19.4%
70代~	1,351	776	57.4%	31.0%
未記入·無効等	_	135		5.4%
計	5,000	2,504	50.08%	100.0%

〇性別

<u> </u>		
	回答数	割合
男	1,077	43.0%
女	1,277	51.0%
未記入·無効等	150	6.0%
計	2,504	100.0%

〇職業

<u></u> 〇職美		
	回答数	割合
自営業	212	8.5%
家族従事者	45	1.8%
会社役員·団体役員	92	3.7%
会社員·公務員	780	31.2%
パート・アルバイト	364	14.5%
学生	40	1.6%
専業主夫·主婦	267	10.7%
無職	476	19.0%
その他	85	3.4%
未記入·無効等	143	5.7%
計	2,504	100.0%

〇世帯構成

	回答数	割合
ひとり暮らし(単身赴任を含む)	78	3.1%
夫婦のみ	450	18.0%
2世代同居世帯(本人(夫婦を含む)と子ども)	780	31.2%
2世代同居世帯(本人(夫婦を含む)と親など)	278	11.1%
3世代同居世帯(本人と子どもと孫)	310	12.4%
3世代同居世帯(親と本人と子ども)	306	12.2%
3世代同居世帯(本人と親と祖父母など)	75	3.0%
その他	107	4.3%
未記入·無効等	120	4.8%
計	2,504	100.0%

〇配偶者の有無

	回答数	割合
有	1,873	74.8%
無	482	19.2%
未記入·無効等	149	6.0%
計	2,504	100.0%

〇共働き(配偶者がいる方のみ)

	回答数	割合
共働きである	988	52.7%
共働きではない	774	41.3%
未記入·無効等	111	5.9%
計	1,873	100.0%

〇小学生以下の子どもの有無

	回答数	割合
いる(未就学児)	239	9.2%
いる(小学生)	246	9.5%
いない	1,843	71.2%
未記入·無効等	261	10.1%
計	2,589	100.0%

*未就学児および小学生の子どもがいる回答者85名

○祖父母の家の範囲(小学生以下子どもがいる方のみ)

〇祖文母の家の範囲(小字主以下子ともがいる方のみ)		
	回答数	割合
同居	126	31.5%
同じ敷地内の別家屋	55	13.8%
車で15分未満の範囲	124	31.0%
車で15~30分以内の範囲	30	7.5%
車で30分を超える範囲	27	6.8%
その他	15	3.8%
未記入·無効等	23	5.8%
計	400	100.0%

Ⅱ 調査結果の概要

1 県民の価値観

<大切なこと> 問1関係

- ・日々の生活の中で、「家族との触れ合い」、「経済的な豊かさ」、「自分の好きなように生活」を大切に考えている。
- ・「福井県民の将来ビジョン」に関するアンケート調査(以下 2010 年調査という) との比較では、「経済的な豊かさ」(27.9%(3 位) \rightarrow 29.4%(2 位))、「自分の好きなよ うに生活」 (19.0%(5 位) \rightarrow 25.8%(3 位))の割合が増えた。

<豊かさの定義> 問2関係

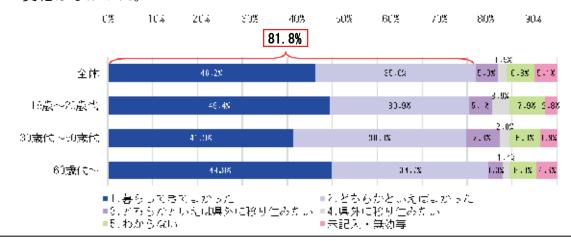
- ·「心身の健康」、「安定した家族関係」、「生きがいや目標を持った生活」を豊かさであると考えている。
- ・上位3項目については、2010年調査からの変化はなかった。

<消費の志向> 問3関係

- ・「健康・医療」、「食」、「趣味・レジャー」に積極的にお金を使いたいと考えている。
- ・2010年調査との比較では、「食」(31.5%(3位)→38.2%(2位))、「趣味・レジャー」(32.1%(2位)→37.6%(3位))の順位が入れ替わった。

2 暮らしの満足度 問 11、12 関係

- ・2010年調査に引き続き県民の8割以上が福井での暮らしに満足しているという結果になった。
- ・福井の良いところとして「豊かな自然環境」、「災害や犯罪が少なく安心」、 「温かい人間関係を大切にしている」が上位3項目を占め、2010年調査からの 変化はなかった。



3 県民の希望 問 18、19 関係

- ・将来の福井に、「道路や鉄道などの交通基盤の整備」、「福祉・医療サービスの充実」、 「災害や犯罪が少なく安心して暮らせること」を願っている。
- ・18 歳~20 歳代を見ると、「商業施設等の充実」、「娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる」を希望する割合が高くなっている。
- ・2010 年調査との比較では「道路や鉄道などの交通基盤の整備」(27.1%(5 位) →38.9 (1 位))の割合が増えた。
- ・一方で、「人口減少による集落の縮小」、「産業が衰退し、働く場が不足する」 「福祉や医療サービスの不足」について将来不安に感じており、特に「人口減少 による集落の縮小」について、2010年調査から大幅に割合が増えた (45.3%(2 位)→62.8%(1 位))。

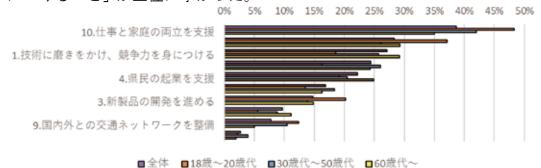
4 県民が必要と考える方策

<人材育成> 問 20 関係

・福井の将来に向けてどのような人を育成すべきかについて、「ふるさと福井に愛着 や誇りを持ち、地域に貢献する人」、「実践的な能力を身に着けた人」が9割を超えた。

<産業活性化> 問 21 関係

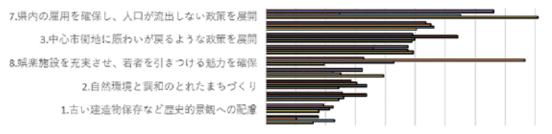
・産業活性化のための方策として、「働きやすい職場環境づくり」、「県内企業が新しい分野に積極的に進出」、「県内企業が持つ優れた技術に磨きをかけ、競争力を身につけること」が上位に挙がった。



<まちづくり> 問 22 関係

・将来に向けたまちづくりの方策として、「雇用の確保などによる人口流出への対応」、 「道路や公共交通機関の整備」、「中心市街地の賑わいづくり」が上位に挙がった。

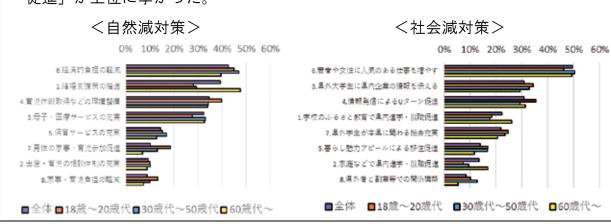




■全体 ■18歳~20歳代 ■30歳代~50歳代 ■60歳代~

5 人口減少対策として必要と考える方策 問 23、24 関係

- ・自然減対策としては「育児や教育にかかる経済的負担への支援」、「若者の出会いの場の提供などの結婚支援」、「産前・産後休暇や育児休業が取得しやすい職場環境の整備を支援」が上位に挙がった。
- ・社会減対策としては「若者や女性に人気のある仕事を増やすこと」、「県外大学との連携を強化し、県内企業の情報を学生に直接伝える仕組みを整備」、「県外に住む本県出身者に福井の情報を定期的に発信することにより、本県へのUターンを促進」が上位に挙がった。

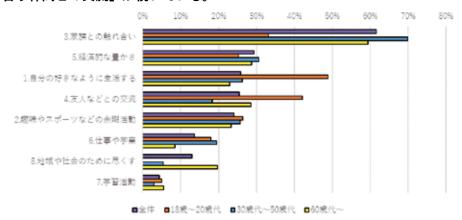


Ⅲ 項目別の調査結果

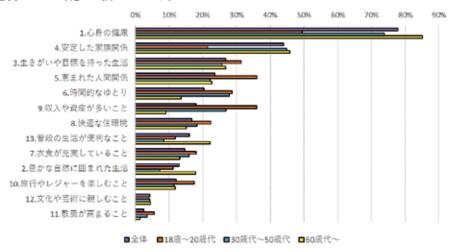
- 問1 あなたが、日々の生活の中で大切にしたいと思っていることはどのようなことですか。最も 当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 自分の好きなように生活すること(647) 2. 趣味やスポーツ、レジャーなどの余暇活動(602)
 - 3. 家族との触れ合い(1544) 4. 友人など気の合う仲間との交流(637)5. 経済的な豊かさ(735)
 - 6. 仕事や学業 (342) 7. 学習活動により自分の能力を高めること (109)
 - 8. 地域や社会のために尽くすこと (323)

※上記カッコ内は、各項目の回答者数(問2以降も同様) ※下記グラフの割合は、「各項目の回答者数/回答者総数」(問2以降も同様)

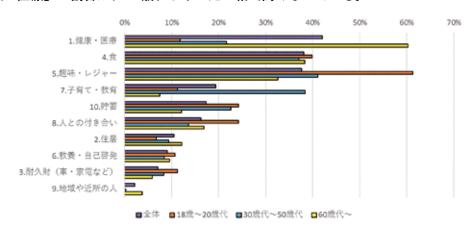
- ・「家族との触れ合い」の割合が 61.7%で群を抜いて高く、次いで「経済的な豊かさ」、「自分の好きなように生活する」と続いた。
- 18 歳~20 歳代では「自分の好きなように生活する」の割合が 48.9%で最も高く、次いで「友人など気の合う仲間との交流」が続いている。



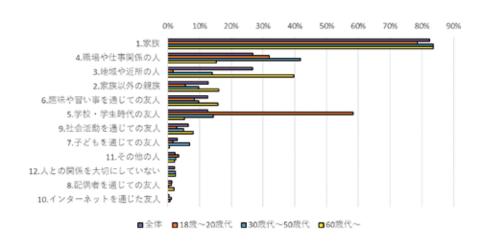
- 問2 あなたにとって「豊かさ」とはどのようなことですか。最も当てはまるものを<u>3つ</u>選んで〇をつけてください。
 - 答 1. 心身の健康(1947) 2. 豊かな自然に囲まれた生活(326)
 - 3. 生きがいや目標を持った生活(668) 4. 安定した家族関係(1101) 5. 恵まれた人間関係(590)
 - 6. 時間的なゆとり(509) 7. 衣食が充実していること(368) 8. 快適な住環境(422)
 - 9. 収入や資産が多いこと(449) 10. 旅行やレジャーを楽しむこと(302)
 - 11. 教養が高まること(63) 12. 文化や芸術に親しむこと(106)
 - 13. 交通や買い物など普段の生活が便利なこと(402)
 - •「心身の健康」の割合が 77.8%で群を抜いて高く、次いで、「安定した家族関係」、「生きがいや目標を持った生活」と続いている。



- 問3 あなたは日々の生活で、何に積極的にお金を使いたいと思っていますか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 健康・医療(1053) 2. 住居(262) 3. 耐久財(車・家電など)(178) 4. 食(954)
 - 5. 趣味・レジャー (942) 6. 教養・自己啓発 (226) 7. 子育て・教育 (486)
 - 8. 人との付き合い(405) 9. 地域や近所の人(54) 10. 貯蓄(434)
 - ・「健康・医療」の割合が42.1%で最も高く、次いで「食」、「趣味・レジャー」が続いた。
 - ・年代別にみると、50歳代以下は「趣味・レジャー」の割合が最も高く、60歳代以上では、「健康・医療」の割合が、50歳代以下に比べ相当高くなっている。



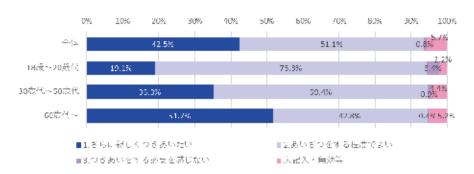
- 問4 あなたは日々の生活で、どのような人との関係を大切にしていますか。最も当てはまるものを20選んで \bigcirc をつけてください。
 - 答 1. 家族(2064) 2. 家族以外の親族(320) 3. 地域や近所の人(666)
 - 4. 職場や仕事関係の人(672) 5. 学校・学生時代の友人(314)
 - 6. 趣味や習い事を通じての友人(315) 7. 子どもを通じての友人(76)
 - 8. 配偶者を通じての友人(31) 9. 社会活動を通じての友人(161)
 - 10. インターネットを通じた知人(10) 11. その他の人(58)
 - 12. 人との関係を大切にしていない (55)
 - 「家族」の割合が82.4%で群を抜いて高く、2010調査結果(81.4%)と同水準の結果となった。
 - ・年代別にみると 18歳~20歳代では「学校・学生時代の友人」、30歳代~50歳代では「職場や仕事関係の人」、60歳代以上では「地域や近所の人」の割合が高くなっている。



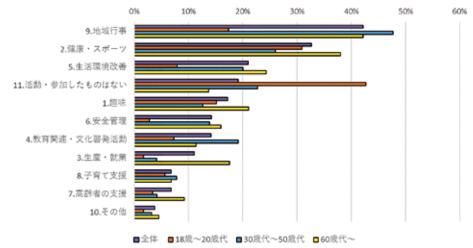
- 問5 あなたは、ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。最も当てはまるものを 1つ選んで○をつけてください。
 - 答
 - 1. 親しくつきあっている(852) 2. あいさつをする程度(1435)
 - 3. つきあいはほとんどない(95) 未記入・無効等(123)
 - 「親しくつきあっている」の割合が34.0%、「あいさつをする程度」の割合が57.3%で、91.3% が何らかの近所づきあいをしている。一方で、「つきあいはほとんどない」は 3.8%であった。 - 年代別にみると、60 歳代以上で「親しくつきあっている」の割合が 46.7%であるのに対し、18
 - 歳~20歳代では10.1%となっており、年代間で大きな差がみられた。



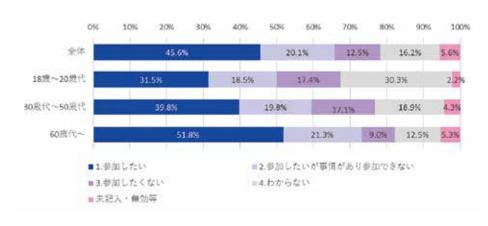
- ■1.親しくつきあっている ■2.あいさつをする程度 ■3.つきあいはほとんどない ■未記入・無効等
- 問6 近所の人とのつきあいについて、これからどうしていきたいとお考えですか。最も当てはま るものを1つ選んで○をつけてください。
 - 答
- 1. さらに親しくつきあいたい (1063) 2. あいさつをする程度でよい (1279)
- 3. これからもつきあいをする必要を感じない(20) 未記入・無効等(142)
- 「あいさつをする程度でよい」の割合が最も高く51.1%であり、「さらに親しくつきあいたい」が 42.5%、「つきあいをする必要を感じない」が 0.8%であった。
- 年代別にみると、60歳代以上の「さらに親しくつきあいたい」の割合が5割を超えており、18 歳~50歳代よりもかなり高くなっている。



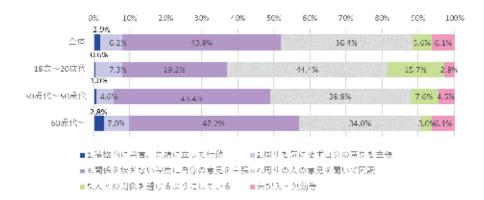
- 問7 あなたは、この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動を行った、または参加したことがありますか。この中から<u>いくつでも</u>選んで○をつけてください。
 - 答 1. 趣味(俳句,詩吟,陶芸等)(413) 2. 健康·スポーツ(体操,歩こう会,ゲートボール等)(818)
 - 3. 生産・就業(生きがいのための園芸・飼育,シルバー人材センター等)(276)
 - 4. 教育関連・文化啓発活動(学習会、子供会の育成、郷土芸能の伝承等)(353)
 - 5. 生活環境改善(環境美化,緑化推進,まちづくり等) (525)
 - 6. 安全管理(交通安全, 防犯·防災等) (355)
 - 7. 高齢者の支援(家事援助,移送等) (170)
 - 8. 子育て支援(保育への手伝い等) (171)
 - 9. 地域行事(祭りなどの地域の催しものの世話等) (1056)
 - 10. その他(94) 11. 活動・参加したものはない(479)
 - ・「地域行事」の割合が 42.2%で最も高く、次いで、「健康・スポーツ」、「生活環境改善」と続いた。 一方で、「活動・参加したものはない」が 19.1%であった。
 - ・年代別にみると、18歳から20歳代の「活動・参加したものはない」の割合が42.7%であり他の年代に比べ圧倒的に高くなっている。



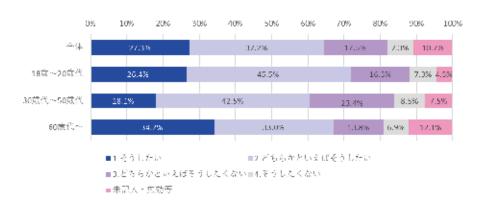
- 問8 あなたは、グループや団体で自主的に行われている活動(地域活動)に、今後とも(又は今後は)、 参加したいと思いますか。参加したくないと思いますか。最も当てはまるものを<u>1つ</u>選んで○ をつけてください。
 - 答 1.参加したい(1141) 2.参加したいが、事情があって参加できない(504)
 - 3. 参加したくない(314) 4. わからない(406) 未記入・無効等(139)
 - 「参加したい」の割合が45.6%で、2010年調査の結果(51.0%)を下回った。
 - 年代別にみると、60歳代以上の「参加したい」の割合が18歳~50歳代よりも高く5割を超えている。



- 問9 あなたは自分が住んでいる地域で、どのように行動していますか。最も当てはまるものを<u>1</u> つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 積極的に発言し、先頭に立って行動するようにしている。(48)
 - 2. 先頭に立つつもりはないが、周りの人のことを気にせず自分の意見を主張するようにしている。 (154)
 - 3. 周りの人との関係を壊さない程度に自分の意見を主張するようにしている。(1098)
 - 4. 自分の意見は主張せず、周りの人の意見を聞いて、正しいと思う意見や多数意見に同調するようにしている。(912)
 - 5. 人との関係をできるだけ避けるようにしている。(141)
 - •「関係を壊さない程度に自分の意見を主張」の割合が 40%以上を占め、次いで、「周りの人の 意見を聞いて同調」が続いた。
 - ・年代別にみると、18歳~50歳代の「周りの人の意見を聞いて、正しいと思う意見や多数意見に同調」の割合が60歳代以上よりも高くなっている。

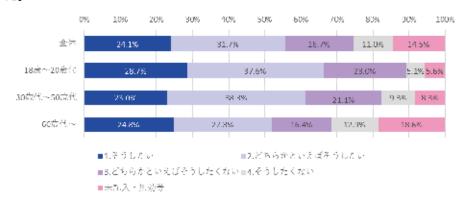


- 問 10 あなたは自分の老後をどのように過ごしたいと思っていますか。次のA~Gの項目の 1~4について、最も当てはまるものを<u>1つずつ</u>選んで○をつけてください。
- A. 子どもや孫と一緒に暮らす
 - 答 1. そうしたい(683) 2. どちらかといえばそうしたい(932)
 - 3. どちらかといえばそうしたくない(437) 4. そうしたくない(184)
 - 「そうしたい」の割合が 27.3%、「どちらかといえばそうしたい」が 37.2%で、両方を合わせた「老後は子どもや孫と一緒に暮らしたい(計)」が 64.5%となり、2010 年調査の結果(71.9%)を下回った。



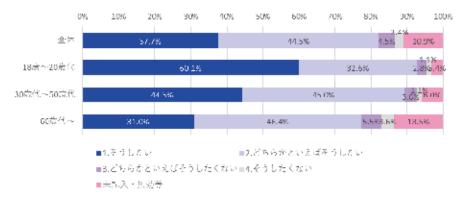
B. 夫婦2人きりで暮らす

- 答 1. そうしたい(604) 2. どちらかといえばそうしたい(794)
 - 3. どちらかといえばそうしたくない(468) 4. そうしたくない(275)
 - 「そうしたい」の割合が 24.1%、「どちらかといえばそうしたい」が 31.7%で、両方を合わせた「老後は夫婦2人きりで暮らしたい (計)」が 55.8%となり、2010 年調査の結果 (50.0%) を上回った。



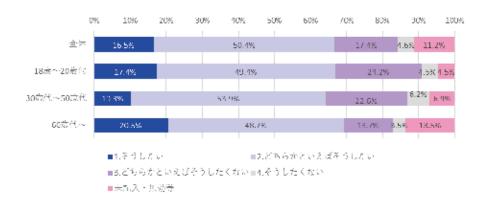
C. 自分の趣味に時間をかける

- 答 1. そうしたい(944) 2. どちらかといえばそうしたい(1115)
 - 3. どちらかといえばそうしたくない(113) 4. そうしたくない(60)
- ・「そうしたい」の割合が 37.7%、「どちらかといえばそうしたい」が 44.5%で、両方を合わせた「老後は自分の趣味に時間をかけたい(計)」が 82.2%となり、2010 年調査の結果(79.8%)を上回った。



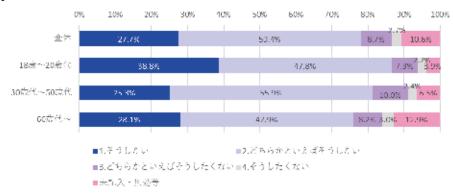
D. 地域の人と交流する

- 答 1. そうしたい(412) 2. どちらかといえばそうしたい(1261)
 - 3. どちらかといえばそうしたくない(436) 4. そうしたくない(115)
 - •「そうしたい」の割合が 16.5%、「どちらかといえばそうしたい」が 50.4%で、両方を合わせた「老後は地域の人と交流したい(計)」が 66.9%となり、2010 年調査の結果(70.3%)を下回った。



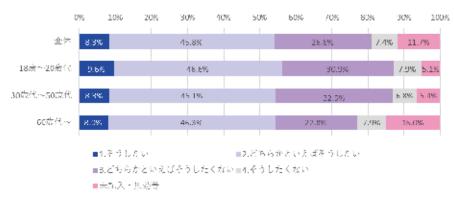
E. 同年代の仲間と交流する

- 答 1. そうしたい(693) 2. どちらかといえばそうしたい(1261)
 - 3. どちらかといえばそうしたくない(217) 4. そうしたくない(67)
 - 「そうしたい」の割合が 27.7%、「どちらかといえばそうしたい」が 50.4%で、両方を合わせた「老後は同年代の仲間と交流したい (計)」が 78.1%となり 2010 年調査の結果 (79.5%) を下回った。



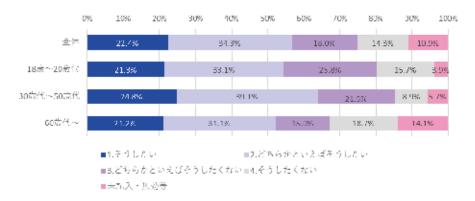
F. 若い人たちと交流する

- 答 1. そうしたい(207) 2. どちらかといえばそうしたい(1147)
 - 3. どちらかといえばそうしたくない(671) 4. そうしたくない(185)
- ・「そうしたい」の割合が 8.3%、「どちらかといえばそうしたい」が 45.8%で、両方を合わせた「老後は若い人たちと交流したい(計)」が 54.1%となり 2010 年調査の結果 (59.6%) を下回った。

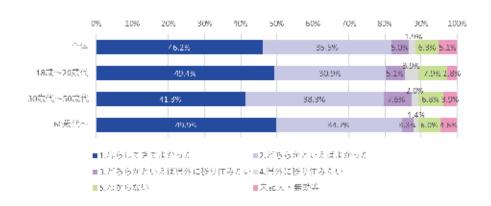


G. できるだけ働き続ける

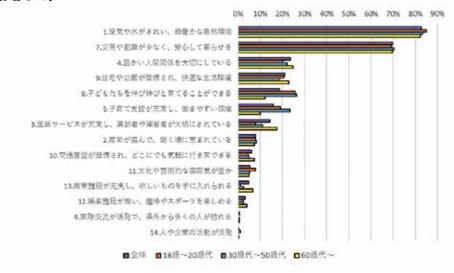
- 答 1. そうしたい(561) 2. どちらかといえばそうしたい(860)
 - 3. どちらかといえばそうしたくない(451) 4. そうしたくない(358)
 - ・「そうしたい」の割合が 22.4%、「どちらかといえばそうしたい」が 34.3%で、両方を合わせた「老後はできるだけ働き続けたい (計)」が 56.7%となり 2010 年調査の結果 (61.8%) を下回ったが、60 歳代以上では微増となった。



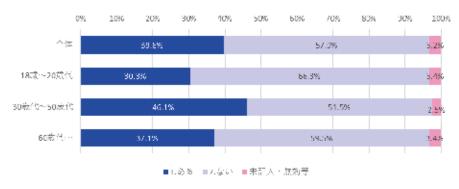
- 問 11 あなたは自分が福井県に暮らしてきて良かったと思っていますか。最も当てはまるものを<u>1</u> つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 暮らしてきてよかった(1156) 2. どちらかといえば暮らしてきてよかった(891)
 - 3. どちらかといえば県外に移り住みたい(125) 4. 県外に移り住みたい(47)
 - 5. わからない (158)
 - 「暮らしてきてよかった」が 46.2%、「どちらかといえば暮らしてきてよかった」が 35.6%で、 両方を合わせた「福井県に暮らしてきたことに満足(計)」の割合が 81.8%となり、2010 年調 査の結果(82.0%)に引き続き 8 割を超えた。



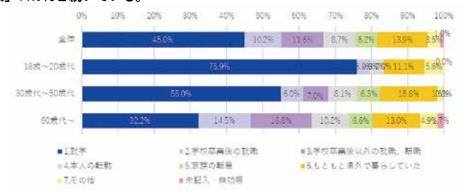
- 問 12 福井県の良いところはどこだと思いますか。最も当てはまるものを<u>3つ</u>選んで○をつけてください。
 - 答 1. 空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている(2072)
 - 2. 産業が盛んで、働く場に恵まれている(197)
 - 3. 福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障害を持つ人が大切にされている(356)
 - 4. 地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている(590)
 - 5. 子育て支援が充実し、働きやすい環境が整っている(399)
 - 6. 国際交流や地域間交流が活発で、県外から多くの人が訪れている(15)
 - 7. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる(1745)
 - 8. 学校の教育や施設等が充実し、子どもたちを伸び伸びと育てることができる(472)
 - 9. 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる(526)
 - 10. 道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる(152)
 - 11. 伝統芸能や創作活動が盛んで、文化や芸術的な雰囲気が豊かである(132)
 - 12. 娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる(81)
 - 13. 商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる(117)
 - 14. 人口が多く、人や企業の活動が活発である(5)
 - 「空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている」が 82.7%、「災害や犯罪が少なく、 安心して暮らすことができる」が 69.7%と、ともに半数を大きく上回った。
 - •「子育て支援が充実し、働きやすい環境が整っている」が15.9%となり、2010年調査の結果(7.3%)から倍増した。



- 問 13 あなたは過去に1年以上、福井県以外の地域で暮らしたことがありますか。当てはまるものを<u>1つ</u>選んで○をつけてください。
- 答 1. ある (996) 2. ない (1428)
 - •「過去に1年以上、福井県以外の地域で暮らしたことがある」の割合が 39.8%となり、2010 年 調査の結果(34.9%)から増加した。



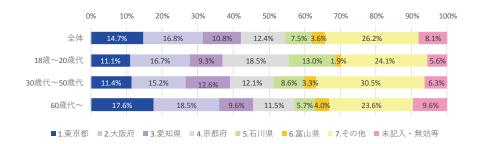
- 問 14 問 13 で 1 と答えた方のみお答えください。福井県以外の地域で暮らすことになった理由について、当てはまるものを<u>1つ</u>選んでください。複数ある場合には、初めて県外で暮らすことになった時のことについてお答えください。
 - 答 1. 就学(専門学校、大学、大学院)(451)
 - 2. 学校(高校、専門学校、大学、大学院)卒業後の就職(102)
 - 3. 2以外の就職、転職(116) 4. 本人の転勤(87) 5. 家族の転居(62)
 - 6. もともと県外で暮らしていた(139) 7. その他(35)
 - ・「就学」の割合が 45.0%で最も高く、次いで「もともと県外で暮らしていた」13.9%、「就職・ 転職」11.6%と続いている。



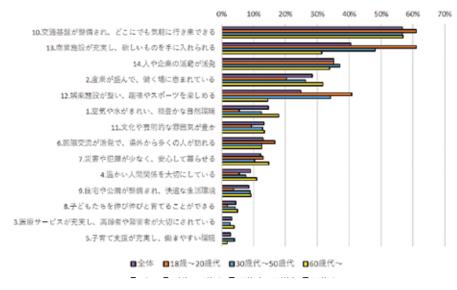
- 問 15 問 13 で 1 と答えた方のみお答えください。福井県以外の地域から福井県に戻る(来る)ことになった理由について、当てはまるものを<u>1つ</u>選んでください。複数ある場合には、初めて戻る(来る)ことになった時のことについてお答えください。
 - 答 1. 就学(専門学校、大学、大学院)(34)
 - 2. 学校(高校、専門学校、大学、大学院)卒業後の就職(294)
 - 3. 2以外の就職、転職(208) 4. 本人の転勤(112) 5. 家族の転居(89)
 - 6. 定年退職による帰郷(17) 7. その他(174)
 - ・「学校卒業後の就職」の割合が 29.5%で最も高く、次いで「就職・転職」20.8%、「本人の転勤」 11.2%と続いている。



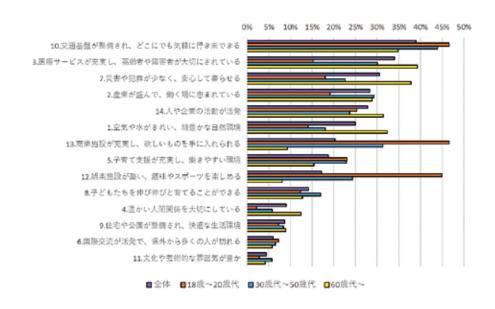
- 問 16 問 13 で 1 と答えた方のみお答えください。福井県以外で暮らしたことのある地域はどちらですか。当てはまるものを<u>1つ</u>選んでください。複数ある場合には、もっとも長く暮らした地域をお答えください。
 - **答** 1. 東京都(147) 2. 大阪府(168) 3. 愛知県(108) 4. 京都府(124)
 - 5. 石川県(75) 6. 富山県(36) 7. その他(263)
 - 「大阪府」の割合が 16.8%で最も高く、次いで、「東京都」14.7%、「京都府」12.4%と続いている。
 - 年代別にみると、18歳~20歳代で「京都府」の割合が最も高くなっている。



- 問 17 問 13 で 1 と答えた方のみお答えください。福井県以外の地域で暮らしてみて、福井県よりも 良かったと思うことは何ですか。最も当てはまるものを 3 つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている(146)
 - 2. 産業が盛んで、働く場に恵まれている(283)
 - 3. 福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている(31)
 - 4. 地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている(90)
 - 5. 子育て支援が充実し、働きやすい環境が整っている(28)
 - 6. 国際交流や地域間交流が活発で、県外から多くの人が訪れている(130)
 - 7. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる(121)
 - 8. 学校の教育や施設等が充実し、子どもたちを伸び伸びと育てることができる(44)
 - 9. 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる(84)
 - 10. 道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる(565)
 - 11. 伝統芸能や創作活動が盛んで、文化や芸術的な雰囲気が豊かである(132)
 - 12. 娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる(248)
 - 13. 商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる(404)
 - 14. 人口が多く、人や企業の活動が活発である(351)
 - 「道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる」が56.7%と半数を 上回り最も割合が高くなっている。次いで、「商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に 入れることができる」40.6%、「人口が多く、人や企業の活動が活発である」35.2%と続いている。

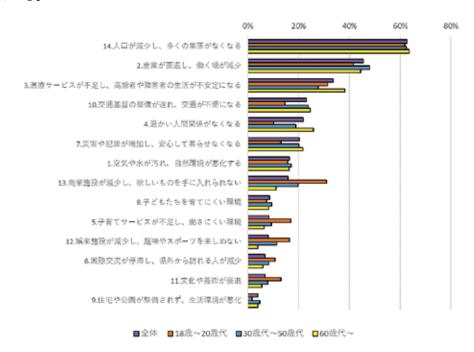


- 問 18 将来の福井県が今よりも良くなってほしいと思うところはどこですか。最も当てはまるものを3つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境が守られている(626)
 - 2. 産業が盛んで、働く場に恵まれている(709)
 - 3. 福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている(852)
 - 4. 地域コミュニティの結びつきが強く、温かい人間関係を大切にしている(226)
 - 5. 子育て支援が充実し、働きやすい環境が整っている(468)
 - 6. 国際交流や地域間交流が活発で、県外から多くの人が訪れている(151)
 - 7. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる(765)
 - 8. 学校の教育や施設等が充実し、子どもたちを伸び伸びと育てることができる(354)
 - 9. 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らすことができる(217)
 - 10. 道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる(975)
 - 11. 伝統芸能や創作活動が盛んで、文化や芸術的な雰囲気が豊かである(112)
 - 12. 娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる(429)
 - 13. 商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる(507)
 - 14. 人口が増加し、人や企業の活動が活発な地域になる(697)
 - •「道路や鉄道などの交通基盤が整備され、どこにでも気軽に行き来ができる」が38.9%と最も割合が高くなっている。次いで、「福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている」34.0%、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる」30.6%と続いている。
 - ・年代別にみると、18歳~20歳代では、「商業施設等が充実し、欲しいものをいつでも手に入れることができる」、「娯楽施設が整い、趣味やスポーツを楽しむことができる」の割合が高く、60歳代以上では、「福祉や医療サービスが充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている」、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる」の割合が高くなっている。

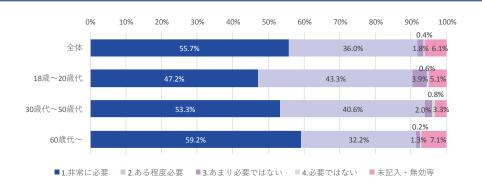


付属資料

- 問 19 将来の福井県が今よりも悪くなるのではないかと心配に思うところはどこですか。最も当てはまるものを3つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 空気や水が汚れ、緑が少なくなり自然環境が悪化する(408)
 - 2. 産業が衰退し、働く場が不足する(1140)
 - 3. 福祉や医療サービスが不足し、高齢者や障がいを持つ人の生活が不安定になる(841)
 - 4. 地域コミュニティの結びつきが希薄になり、温かい人間関係がなくなる(547)
 - 5. 子育てサービスが不足し、働きにくい環境になる(208)
 - 6. 国際交流や地域間交流が停滞し、県外から訪れる人が減少する(171)
 - 7. 災害や犯罪が増加し、安心して暮らすことができなくなる(507)
 - 8. 学校の教育や施設等の水準が低下し、子どもたちを育てにくい環境になる(214)
 - 9. 住宅や公園、下水道などが整備されず、生活環境が悪化する(101)
 - 10. 道路や鉄道などの交通基盤の整備が遅れ、交通が不便になる(580)
 - 11. 伝統芸能や創作活動が低迷し、文化や芸術が衰退する(171)
 - 12. 娯楽施設が減少し、趣味やスポーツを楽しむことができなくなる(199)
 - 13. 商業施設等が減少し、欲しいものをなかなか手に入れることができなくなる(398)
 - 14. 人口が減少し、多くの集落がなくなったり、なくなる恐れがある(1572)
 - ・「人口が減少し、多くの集落がなくなったり、なくなる恐れがある」が62.8%で最も高く、2010年調査の結果(45.3%)から大きく増加した。次いで、「産業が衰退し、働く場が不足する」45.5%、「福祉や医療サービスが不足し、高齢者や障がいを持つ人の生活が不安定になる」33.6%と続いている。



- 問 20 福井県の将来に向けて、どのような人を育てていくことが必要だと思いますか。次の A~Dの項目の1~4について、最も当てはまるものを<u>1つずつ</u>選んで○をつけてください。
- A. ふるさと福井に愛着や誇りを持ち、地域に貢献する人
 - 答 1. 非常に必要(1394) 2. ある程度必要(902) 3. あまり必要ではない(44)
 - 4. 必要ではない(11)
 - •「非常に必要」の割合が 55.7%、「ある程度必要」が 36.0%で、両方を合わせた「必要だと思う (計)」が 91.7%と 9 割を超えている。



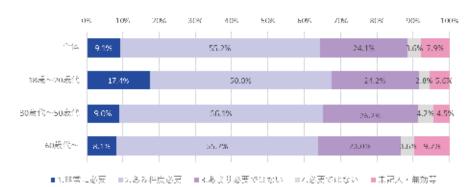
- B. 社会に出たときに必要とされる実践的な能力を身に付けた人
 - 1. 非常に必要(1222)2. ある程度必要(1052)3. あまり必要ではない(45)4. 必要ではない(11)
 - ・「非常に必要」の割合が 48.8%、「ある程度必要」が 42.0%で、両方を合わせた「必要だと思う (計)」が 90.8%と 9 割を超えている。



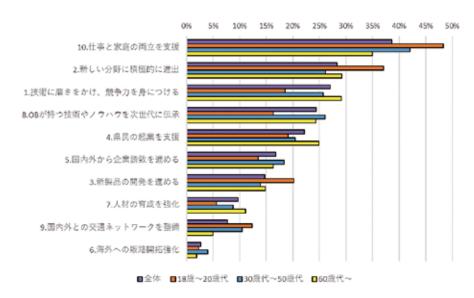
- C. 全国や世界で活躍する科学者やスポーツ選手のように特別な能力を持った人
 - 1. 非常に必要(362) 2. ある程度必要(1372) 3. あまり必要ではない(518)4. 必要ではない(51)
 - ・「非常に必要」の割合が 14.5%、「ある程度必要」が 54.8%で、両方を合わせた「必要だと思う (計)」が 69.3%となった。



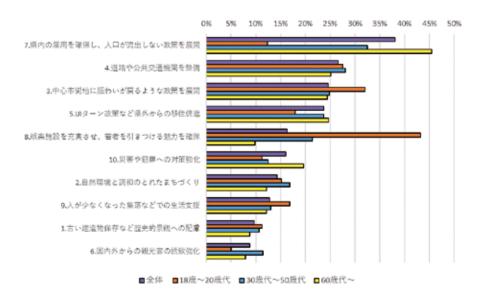
- D. 有名な高等教育機関(大学等)を卒業するような学力の高い人
 - 答 1. 非常に必要(229) 2. ある程度必要(1383) 3. あまり必要ではない(604)
 - 4. 必要ではない (90)
 - ・「非常に必要」の割合が 9.1%、「ある程度必要」が 55.2%で、両方を合わせた「必要だと思う (計)」が 64.3%となった。



- 問 21 福井県の産業を活性化していくためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。最 も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 県内企業が持つ優れた技術に磨きをかけ、競争力を身につけること(678)
 - 2. 県内企業が時代のニーズに応じた新しい分野に積極的に進出していくこと(709)
 - 3. 県内企業がAI、IOT、ロボットなどの新しい技術や新素材、新エネルギーなどの導入を進め、 新製品の開発を進めること(370)
 - 4. 新しい企業が県内から生まれるよう、県民の起業を支援していくこと(556)
 - 5. 国内外からの企業誘致を積極的に進めていくこと(422)
 - 6. 海外への販路開拓を強化していくこと(68)
 - 7. 国際競争を乗り切る力を持った人材の育成を強化していくこと(243)
 - 8. 退職した高年齢者などが持つ技術やノウハウを次世代に伝承していくこと(611)
 - 9. 商品の流通や人の交流を支える国内外との交通ネットワークを整備していくこと(194)
 - 10. 仕事と家庭の両立を支援するなど、誰もが働きやすい環境を整えること(967)
 - ・「仕事と家庭の両立を支援するなど、誰もが働きやすい環境を整えること」が38.6%と最も割合が高くなっている。次いで、「県内企業が時代のニーズに応じた新しい分野に積極的に進出していくこと」28.3%、「県内企業が持つ優れた技術に磨きをかけ、競争力を身につけること」27.1%と続いている。

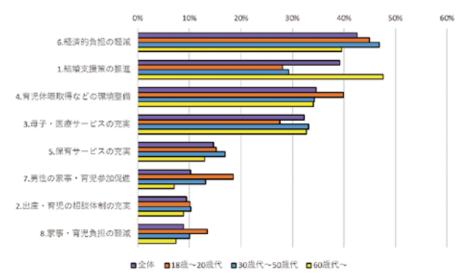


- 問 22 福井県の将来に向けたまちづくりに関して、今後、どのようなことが必要だと思いますか。 最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。
 - 答 1.古い建造物を保全するなど、歴史的な景観への配慮をしていくこと(243)
 - 2. 公園の整備や自然保護など、自然環境と調和のとれたまちづくりを行うこと(358)
 - 3. 中心市街地に賑わいが戻るような政策を展開していくこと(615)
 - 4. 地域内の移動が便利になるよう、道路や公共交通機関を整備していくこと(668)
 - 5. 都市に出た人を呼び戻すUIターン政策など、県外からの人の移住を進めること(594)
 - 6. 国内外からの観光客の誘致を強化するなど、人の交流が活発になること(220)
 - 7. 県内の雇用を確保するなど、人口が流出しない政策を展開していくこと (953)
 - 8. 娯楽施設や商業施設を充実するなど、若者を引きつける魅力を確保していくこと(409)
 - 9. 人が少なくなった集落などでの人々の生活を支援していくこと(321)
 - 10. 県民が安心して暮らせるよう、災害や犯罪への対策を強化すること(403)
 - 「県内の雇用を確保するなど、人口が流出しない政策を展開していくこと」が38.1%と最も割合が高くなっている。次いで、「地域内の移動が便利になるよう、道路や公共交通機関を整備していくこと」26.7%、「中心市街地に賑わいが戻るような政策を展開していくこと」24.6%と続いている。
 - 年代別にみると、18歳~20歳代の「娯楽施設や商業施設を充実するなど、若者を引きつける 魅力を確保していくこと」が43.3%となり、他の年代の数値を大きく上回った。

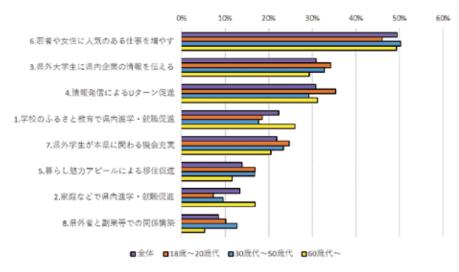


- 問 23 福井県の人口減少対策(主に自然減対策)に関して、今後、どのようなことが必要だと思いますか。最も当てはまるものを2つ選んで○をつけてください。
 - 答 1. 若者の出会いの場の提供などの結婚支援策を推進すること (982)
 - 2. 気軽に出産・育児の相談ができる体制を充実すること(236)
 - 3. 安心して出産・子育てができる母子・医療サービスを充実すること(809)
 - 4. 企業における産前・産後休暇や育児休業が取得しやすい職場環境の整備を支援すること(867)
 - 5. 保育所やこども園の保育サービスを充実すること(367)
 - 6. 育児や教育にかかる経済的負担を軽減するための支援を行うこと(1066)
 - 7. 男性の家事・育児への参加を促進すること(256)
 - 8. 家事代行サービスや、ベビーシッターなど家事・育児の負担を軽減するための支援を行うこと(221)
 - ・「育児や教育にかかる経済的負担を軽減するための支援を行うこと」が 42.6%と最も割合が高くなっている。次いで、「若者の出会いの場の提供などの結婚支援策を推進すること」 39.2%、「企業における産前・産後休暇や育児休業が取得しやすい職場環境の整備を支援すること」 34.6%と続いている。

年代別にみると、18歳~50歳代では、「育児や教育にかかる経済的負担を軽減するための支援を行うこと」の割合が高く、60歳代以上では、「若者の出会いの場の提供などの結婚支援策を推進すること」の割合が最も高くなっている。



- 問24 福井県の人口減少対策(主に社会減対策)に関して、今後、どのようなことが必要だと思いますか。最も当てはまるものを2つ選んで〇をつけてください。
 - 答
- 1. 学校でのふるさと教育を充実して県内での進学・就職を促すこと(558)
- 2. 家族などが子どもに対して県内での進学・就職を促すこと(337)
- 3. 県外大学との連携を強化し、県内企業の情報を学生に直接伝えるなどの仕組みを整備すること(774)
- 4. 県外に住む本県出身者に福井の情報を定期的に発信することにより、本県へのUターンを 促進すること(772)
- 5. 三大都市圏などで福井の暮らしの魅力をアピールして移住を促進すること(348)
- 6. 企業誘致などにより企画開発や研究部門等の若者や女性に人気のある仕事を増やすこと (1239)
- 7. 県外の学生や若者が本県に滞在し地域課題の解決に取り組むプロジェクトなど、本県に深く関わる機会を充実すること(546)
- 8. 県外者が兼業・副業等により、本県へ定期的に訪れる関係を構築すること(211)
- ・「企業誘致などにより企画開発や研究部門等の若者や女性に人気のある仕事を増やすこと」が49.5%と最も割合が高くなっている。次いで、「県外大学との連携を強化し、県内企業の情報を学生に直接伝えるなどの仕組みを整備すること」30.9%、「県外に住む本県出身者に福井の情報を定期的に発信することにより、本県へのUターンを促進すること」30.8%と続いている。



問 25 本県の暮らしの「現在の充足度」と「将来の重要度」についてお聞きします。あなたは次の 25 の項目について現在どの程度充足されていると考えますか。また、将来の福井県において、 どの程度重要であると考えますか。最も当てはまるものを<u>1つずつ</u>選んで○をつけてください。 ※得点の算出方法

「充足されている」=4点から「充足されていない」=0点までの得点を付与し項目ごとに無回答を除く回答者数で加重平均し指標化

<現在の充足度>

	◇現住の允定度>							
区分		充足さ	どちら	どちら	どちら	充足さ	無回答	得点
		れてい る	かとい えば充	ともい えない	かとい えば充	れてい ない		
	項 目		足され	7.74.0	足され	73.01		
			ている		ていな			
		504	1001	404	(1)		100	0.7
	1. 医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	504	1061	491	239	86	123	2.7
健	2. 日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	208	786	870	355	127	158	2.3
康	3. 毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	232	878	915	250	78	151	2.4
	4. 元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	233	1023	850	188	40	170	2.5
	5. 福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	160	682	1135	291	77	159	2.2
	小計	1337	4430	4261	1323	408	761	12.1
	6. 美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	218	709	809	413	191	164	2.2
文	7. 趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	187	772	891	370	119	165	2.2
化	8. 美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	315	1090	714	168	44	173	2.6
10	9. 伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	271	1065	778	172	49	169	2.6
	10 国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	55	268	1139	587	268	187	1.7
	小計	1046	3904	4331	1710	671	858	11.3
	11. 安定した産業基盤が維持されている	68	507	1202	392	155	180	2.0
仕	12. 起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	29	225	1284	538	230	198	1.7
	13. 働く場所と機会が確保されている	91	591	1045	423	180	174	2.0
事	14. 働きたいと思える魅力的な職場がある	56	231	1157	570	298	192	1.6
	15. 仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	85	534	1104	421	181	179	2.0
	小計	329	2088	5792	2344	1044	923	9.3
	16. 家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	209	1044	914	131	30	176	2.6
生	17. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	491	1322	462	46	19	164	2.9
	18. 住宅や公園などの生活環境が充実している	226	947	895	200	59	177	2.5
活	19. 道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	122	527	818	553	300	184	1.8
	20. 空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	732	1172	350	60	19	171	3.1
	小計	1780	5012	3439	990	427	872	12.9
教育	21. 学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	343	1214	648	86	29	184	2.8
	22. 地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	284	1201	730	75	23	191	2.7
	23. 高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	87	548	1325	260	85	199	2.1
	24. 社会人を対象者とした学びの機会が充実している	56	388	1259	457	143	201	1.9
	25. 保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	211	903	962	169	54	205	2.5
小計			4254	4924	1047	334	980	12.0
合 計			19688	22747	7414	2884	4394	57.6

付属資料

- ・区分別では、「生活」の充足度が 12.9 ポイントで最も高く、次いで、「健康」、「教育」が 12 ポイント台で続いた。一方、「仕事」の充足度が最も低く 9.3 ポイントとなった。
- 「健康」の各項目では、いずれも充足度が2ポイント台と高く、特に「医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる」(2.7ポイント)、「元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している」(2.5ポイント)の充足度が高くなっている。
- 「文化」の各項目では、「美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている」、「伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている」(いずれも2.6 ポイント)の充足度が高い一方、「国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある」(1.7 ポイント)の充足度が低くなっている。
- 「仕事」の各項目では、「安定した産業基盤が維持されている」、「働く場所と機会が確保されている」、「仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている」(いずれも2.0 ポイント)の充足度が高い一方、「働きたいと思える魅力的な職場がある」(1.6 ポイント)、「起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている」(1.7 ポイント)の充足度が低くなっている。
- ・「生活」の各項目では、「空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている」が 3.1 ポイントで全 25 項目の中で最も高く、次いで「災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる」(2.9 ポイント)、「家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている」(2.6 ポイント)、「住宅や公園などの生活環境が充実している」(2.5 ポイント)と続いている。一方で、「道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている」(1.8 ポイント)の充足度が低くなっている。
- 「教育」の各項目では、「学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる」(2.8 ポイント)、「地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている」(2.7 ポイント)、「保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる」(2.5 ポイント)と高い水準で続いている。一方で、「社会人を対象者とした学びの機会が充実している」(1.9 ポイント)の充足度が低くなっている。

<将来の重要度>

※得点の算出方法

「重要」=4点から「重要ではない」=0点までの得点を付与し項目ごとに 無回答を除く回答者数で加重平均し指標化

		重要	どちら	どちら	どちら	重要で	無回答	得点
区分	項目		かとい	ともい	かとい	はない		
	現 日		えば重 要	えない	えば重要では			
					ない			
	1. 医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	1636	571	65	13	6	213	3.7
健	2. 日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	679	1189	351	40	5	240	3.1
康	3. 毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	901	1037	300	19	5	242	3.2
	4. 元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	731	1063	397	46	19	248	3.1
	5. 福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	964	931	324	27	10	248	3.2
	小計	4911	4791	1437	145	45	1191	16.3
	6. 美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	374	1024	721	98	33	254	2.7
文	7. 趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	526	1188	496	35	11	248	3.0
化	8. 美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	774	1113	334	25	8	250	3.2
	9. 伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	612	1083	487	63	12	247	3.0
	10. 国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	372	902	803	109	56	262	2.6
	小計	2658	5310	2841	330	120	1261	14.5
	11. 安定した産業基盤が維持されている	1023	926	268	15	8	264	3.3
仕	12. 起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	721	1009	459	26	16	273	3.1
事	13. 働く場所と機会が確保されている	1045	896	276	23	9	255	3.3
Ŧ	14. 働きたいと思える魅力的な職場がある	1086	821	295	27	13	262	3.3
	15. 仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	1160	818	242	21	10	253	3.4
	小計	5035	4470	1540	112	56	1307	16.4
	16. 家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	797	1103	310	26	6	262	3.2
生	17. 災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	1438	695	116	6	3	246	3.6
活	18. 住宅や公園などの生活環境が充実している	805	1112	309	14	11	253	3.2
/[19. 道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	1132	887	194	17	14	260	3.4
	20. 空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	1300	806	133	12	7	246	3.5
	小計	5472	4603	1062	75	41	1267	16.9
教育	21. 学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	1338	760	135	8	4	259	3.5
	22. 地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	1161	891	172	13	5	262	3.4
	23. 高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	945	954	310	17	5	273	3.3
	24. 社会人を対象者とした学びの機会が充実している	658	1033	486	39	15	273	3.0
	25. 保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	1174	844	200	12	3	271	3.4
小計		5276	4482	1303	89	32	1338	16.6
	合 計	23352	23656	8183	751	294	6364	80.7

付属資料

- ・区分別では、「生活」の重要度が 16.9 ポイントで最も高く、次いで、「教育」、「仕事」、「健康」 が 16 ポイント台で続いた。一方、「文化」の重要度が最も低く 14.5 ポイントとなった。
- •「健康」の各項目では、「医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる」が 3.7 ポイントで全 25 項目の中で最も高く、その他の項目も全て 3 ポイント台で高い数値となった。
- 「文化」の各項目では、「美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている」(3.2 ポイント)、「趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる」(3.0 ポイント)、「伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている」(3.0 ポイント)の重要度が高い一方、「国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある」(2.6 ポイント)、「美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる」(2.7 ポイント)の重要度が低くなっている。
- •「仕事」の各項目では、「仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている」が 3.4 ポイント で最も高く、その他の項目も全て3ポイント台で高い数値となった。
- ・「生活」の各項目では、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる」が 3.6 ポイントで最も高く、「空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている」(3.5 ポイント)、「道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている」(3.4 ポイント)が続いた。
- ・「教育」の各項目では、「学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる」が 3.5 ポイントで最も高く、その他の項目も全て3ポイント台で高い数値となった。

<現在の充足度と将来の重要度の差>

- •「仕事」に関する5項目について、全体で最も高い数値となった「働きたいと思える魅力的な職場がある」をはじめ、いずれの項目でも高い数値となった。
- その他では、「道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている」、「高校や大学等において、 地域・社会を担う人材の育成が行われている」、「社会人を対象者とした学びの機会が充実している」の数値が高くなった。

問 26 あなたは、問 25 の 25 の項目について将来不安を感じていることはありますか。当てはまるものについて5 つまで選択し、以下に番号を記入してください。

答

【健康】

1.医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる	775
2.日常的に運動する機会があり、身体の健康を保つことができる	138
3.毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる	345
4.元気な高齢者が多く、地域や職場において活躍している	227
5.福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている	659

【文化】

6.美術館や博物館に気軽に訪れ、芸術に親しむことができる	102
7.趣味やスポーツなど、余暇時間を楽しむことができる	153
8.美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている	268
9.伝統工芸や建造物、祭りなど古くからの歴史が引き継がれている	220
10.国際交流や外国人観光客の訪問など、海外とのつながりがある	155

【仕事】

11.安定した産業基盤が維持されている	538
12.起業など新しい事業にチャレンジできる環境が整っている	166
13.働く場所と機会が確保されている	633
14.働きたいと思える魅力的な職場がある	674
15.仕事と家庭の両立など働きやすい環境が整っている	478

【生活】

16.家族や地域コミュニティなど、人のつながりが大切にされている	270
17.災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる	575
18.住宅や公園などの生活環境が充実している	81
19.道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている	743
20.空気や水がきれいであり、緑豊かな自然環境が守られている	277

【教育】

21.学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる	332
22.地域と学校が協力し、子どもたちを健やかに育てている	210
23.高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている	321
24.社会人を対象者とした学びの機会が充実している	210
25.保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる	399

- •「健康」では、「医療機関が整備され、必要な診療や治療を受けることができる」が 31.0%で最も高く、次いで「福祉が充実し、高齢者や障がいを持つ人が大切にされている」 26.3%、「毎日の生活や人間関係に悩みが少なく、健やかに生活を送ることができる」 13.8%が続いた。
- •「文化」では、「美しいまちなみや豊かな里山里海湖が守られている」が 10.7%で最も高く、その他の項目は 10%以下となった。
- •「仕事」では、「働きたいと思える魅力的な職場がある」が26.9%で最も高く、次いで、「働く場所と機会が確保されている」25.3%、「安定した産業基盤が維持されている」21.5%と続いた。
- ・「生活」では「道路・鉄道などの交通・生活基盤が整備されている」が29.7%で最も高く、次いで、「災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができる」23.0%が続いた。
- ・「教育」では、「保育施設やサービスなどが充実し、安心して子育てをすることができる」が 15.9%ポイントで最も高く、「学校教育が充実し、子どもたちが伸び伸び育つことができる」 13.3%、「高校や大学等において、地域・社会を担う人材の育成が行われている」12.8%が続いた。

福井県長期ビジョン

定:令和2年7月

行:福井県(地域戦略部未来戦略課)

〒910-8580

福井県福井市大手3丁目17番1号 0776-20-0225 TEL FAX0776 - 20 - 0623

Eメール mirai-senryaku@pref.fukui.lg.jp



URLhttps://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seiki/index.html

福井県長期ビジョン 検索

Facebook https://www.facebook.com/fukuivision/

https://note.com/fukuivision/ note







